

テ其山頂ニ達ス、標高千七百九尺、
古所山 (別稱**白山**、**白髮山**) 筑前國朝倉郡
 穂ノ二郡ニ跨ル、朝倉郡秋月町大字野鳥字本
 谷ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千
 八百四十五尺、

〔名勝〕 中腹に秋月氏の古城址あり、又嶺上に白山神社あり、
 神社を距る數町にして、巨岩の屹然として挺立するものあり、
 之を圓見岩といふ、此岩に登れば、南は郡内諸村の人煙を隔
 て、筑後川の清流を下瞰し、北は群峰の間より遙かに響灘
 を望み、眺観頗る快當なり、圓見岩を下りたる處に御手洗と
 いへる清泉あり、其水清冽、炎天の時と雖も潤るゝこと無し
 と云ふ、又山中に黃楊樹多く、晩春には綠樹の間に杜鵑花の
 風發せるを見るべく、晴天此山に登臨すれば、眺望頗ること
 を知らずと云ふ、〔筑風〕野鳥村の五町上に鳥居あり、凡此に
 登るに道二筋有、野鳥村より直に谷川にそひて木道を登れば、
 其間道さがしく水石多く、艱難甚し、野鳥村より白山の社に
 至て二十八町有、又北ノ方より廻り登る道あり、道ははしから
 ずして降り易し、是を鹿廻りと云、一里餘あり、又秋月
 府君の館より直に古所山に登る道あり、山の尾を登る、最下
 なる山を節尾と云、館の正上なり、其上三段許に昔の宅址あ

り、秋月氏の城址は権現の社より四ノ方一町許下にあり、城
 の後に大成る岩あり、其石に觸れ多く付り、城址の下一町許
 に出泉あり、甚清冽にして、大壺にも漏れず、里人の既、
 一日一夜に千人を養へしと云、是城ありし時の用水なり、古
 所山四ノ方十餘町下に僧坊の址多し、其處(圓見岩)より東方
 に下る事五町許の間、岩石重疊して、其道艱難也、岩木によ
 ちより下る、甚危險にして候るべし、其石の形大に奇異に
 して長苔多し、上には樹木多くして、登月といへども陰涼し、
 其中大岩の間に、身を倒て入る所一間許あり、其下にも大
 岩あり、又其下に石窟あり、是を奥の院と云、山伏の修練す
 る所にして符札多し、其所を出て又其下に入る事十四五間に
 大石二あり、各高七八間も有べし、其間間縫に身を容べし、
 横に深く入事八間許あり、上には石なし、其奥右に風曲する
 事三間許に石穴あり、白日といへども暗し、燭を燃して入る、
 其奥せばくして入へからず、

馬見山 筑前國嘉穂・朝倉ノ二郡ニ跨ル、嘉穂
 郡足白村大字馬見字宮小路ヨリ一里二十五町
 ニシテ其山頂達ス、標高三千五十八尺、
 〔筑風〕 此山甚廣大にして、竹木繁茂せり、山上に馬見大明
 神の社あり、白馬大明神とも云、いかなる神を祭るといふ事

を知らず、太山なればおのづから其神靈などかなからざらん
 や、此神靈の馬をいみ給ふ、故に此里に飼はざるのみにあ
 らず、他所より來るをも村中にとめ置ず、

三取合山 筑前國朝倉郡ノ北東方ニアリ、小
 石原村大字小石原字荒子ヨリ十五町ニシテ其
 山頂ニ達ス、

荒平山 筑前國朝倉郡ノ北方ニアリ、上秋月
 村大字江川字下戸河内ヨリ一里五町ニシテ其
 山頂ニ達ス、

鳥屋山 (別稱**鳩山**) 筑前國朝倉郡ノ東方ニ
 アリ、高木村大字佐田字清水ヨリ一里ニシテ
 其山頂ニ達ス、標高二千六百八十八尺、

牛鼻山 筑前國朝倉郡ノ中央ニアリ、三奈木
 村大字荷原字鬼城ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ
 達ス

水繩山塊

鷹取峰 筑後國浮羽・八女ノ二郡ニ跨ル、浮羽
 郡水繩村大字森部ヨリ三十二町ニシテ其山頂
 ニ達ス、標高三千百十九尺、
 〔提要〕 耳納山中ノ最高峰ナリ、
耳納山 (別稱**篋尾山**、**深尾山**、**水繩山**、
三野山、**屏風山**、**足白山**、**足代山**) 筑後國
 三井・浮羽・八女ノ三郡ニ跨ル、三井郡山川
 村大字山川字阿志岐ナル追分ヨリ凡十五町、
 草野村大字紅桃林ヨリ凡三十町ニシテ其山頂
 〔二郡界カ〕ニ達ス、標高二千四百二尺、
 〔地誌〕 東置取峰より高良山に至り横嶺の總名とす、連亘四
 里、屏障に似たり、故に屏風山とも曰ふ、水繩は耳納又は三
 野に作る、孰れか正に孰れか偽なる、近時九十九峰の目あり、
 〔地名〕高良山の東に連接せる一帯の山脈にして、浮羽郡の四
 南隅に亘る、(山中諸嶺草ヲ産ス)

高良山 (別稱**不瀟山**、**高牟禮山**) 筑後國三
 井郡ノ南方ニアリ、御井町字加輪ヨリ十八町



高良山 山尾巖イ 社垂玉ロ 縣中府ハ

ニシテ其山頂ニ達ス、標高千三十一尺、

〔名勝〕高良神社。高良山の嶽に在り、國幣中社にして高良玉垂命を祭る、(創建年月未詳カナラズ)境内坪數二萬四千八百四十七坪、老樹蒼鬱として四方に繁茂し、山腹には櫻樹枝を交へ、山嶽には杜鵑花多し、社背に神籠石なるものあり、周圍十餘町、石段を回らず、其構造の嚴然たること神代の山陵に類似す、山上の眺望甚だ開豁にして、西北に肥・筑の諸山を望み、西南には柳河の人家を隔て、筑紫湯を觀るべく、風景眞に愛すべし、現在の社殿は正殿・渡殿・拜殿・神門・樂殿・社務所等にして、正殿は萬治三年の改築に係ると云ふ、寶物は多く燒亡、(今傳はるものは、古文書三四通刀劍二三口に過ぎず)山腹に豐姬神社(縣社にして豐玉姬命を祭る)あり、地辭「形狀屹然たり、(地名)一丘陵なるも本國の名山にして、一帶の連山其東に亘る、之を屏風山と云ふ、又西南北の三面は筑・肥の山川原野に臨み峻要の地たり、古昔より英雄豪傑多く之に據る、」

高良山通雨

細川十洲

風吹杉雨線模糊、倦脚脚踏路好、無是掛神懸變姿、不瀟山上客衣瀟、

佐々碩水

躑躅添紅映旅裝、杜鵑啼處絕人腸、山如凸字亭々變、路學巴字曲々長、一派清流分國界、千年奇木壓城蒼、登臨別有

無選惑、萬里三韓付夕陽、

山鹿山塊

鳶形山 筑後國八女郡ノ西方ニアリ、光友村

大字山崎字城山ヨリ一里、北山村字大倉谷ヨ

リ一里、白木村ヨリ凡三十八町ニシテ其山頂

ニ達ス、標高千四百八十五尺、

高天山 (別稱搖嶽)肥後國鹿本郡ノ中央ニ

アリ、三嶽村大字寺島ヨリ一里ニシテ其山頂

ニ達ス、標高千三百七十四尺、

木葉山 (別稱靈雨山)肥後國玉名郡ノ東方

ニアリ、木葉村大字木葉町ヨリ十八町(或云

十二町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高九百四十二

尺、

〔名勝〕山嶽よりの眺望は極めて佳なり、(地辭)山中石灰を産す、

九州 筑紫山系

背振山塊

基山 肥前國三養基郡筑前國筑紫郡ニ跨ル、

三養基郡基山村大字小倉字城戸ヨリ十五町ニ

シテ其山頂ニ達ス、標高千三百六十七尺、

天拜山 (別稱古名天判山)筑前國筑紫郡ノ

南方ニアリ、二日市村大字武藏ヨリ二十町、

山口村大字古賀ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高八百五十一尺、

〔名勝〕山上に天滿神社ありて菅公の靈を祭れり、延喜式神名帳に、荒魂神社とあるものは是れ乎、俗傳へて曰く、菅公此山に登りて冤を天に訴へ給ひしかば、天帝より天滿自在天神の尊號を下し給ひぬ、此時公の坐せし磐石を天拜石と號し、今猶ほ神社の傍らに在りと、去れど此説は妄誕にして信ずるに足らず、想ふに公或は武藏温泉に浴し給へる序、此山に登臨して風景を賞し給へる事ありしやも知る可からず、然れども院本小説の傳ふるが如く、罪なきを天に訴へ給ひし事、正史に見えず、其妄知るべきのみ、山の中腹に小瀑布(龍王トイフ)あり、傍らに巨石の屹立するありて、之れを衣懸石と云

ふ、管公付て此瀑に打たれ衣を懸けたまひし處なりと傳ふ、傍らに碑あり、大僧都信聰「天牛峰頭仰彼蒼、願心成滿放威光、御衣漸石變成塔、五百年來流水香、」の詩を刻す、又一古松あり、其根分れて二株と爲る、一は雌一は雄、俗之を呼んで相生の松と云ふ、(地辭)山甚だ高からずと雖、北方は御笠川の大野なれば眼界最廣し、山頂に大岩相倚り、小洞を其中に置く、(藻鑑)草に、歇名所ありまは筑前と曰へり、即天拜山の古名なん、(筑風)此山昔は滿山世のみ生て木なかりしが、長政公の密臣小河内藏允此郡を司り、此所を領せし時、國用軍用の爲、諸木の種子をまき苗を植て其功を用ひ、木を伐事を堅く制しける故、年を経て衆木長して茂山となれり、あま山のあしたの雲は打つげに 讀人不知 曇てのみぞ見え渡りける

密府路上登天拜山 河野秀野 華表千年老龜懸、神仙消息有誰知、行人無限常鄉思、古木 奕山丞相祠、
九千部山 筑前國筑紫郡肥前國三養基郡ニ跨ル、筑紫郡南畑村大字市瀬字大谷ヨリ一里五町、大字五山字桑野河内ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百九十七尺、

〔提要〕高尾・三國ノ兩峰アリ、(筑風)此山肥前・筑後の方よりみれば甚廣大にして高く、筑前よりみるに異なり、甚壯委父兩郡に近くそのめり、村民の祝、昔性空上人法華經を一萬部讀誦せんとこゝろさし、九千部よみ、其しるしに此山に塔を立たる故に名づく、今此山上に其しるしの三重の石塔有、其高サ二尺許、其下に風穴とて穴あり、残り千部は筑後久留米の町内經の隈と云所にて讀終りて、彼地に經埋めりと云、九千部山の北のふもとに谷川有、一ノ瀬の上に流出る、一ノ瀬の上より五ヶ山の方へゆかすして左の方へゆき、谷川をつたひ上り行ば、九千部山の北のふもとに至る、其間に近年民家少出來たり、大谷黒木などいふ所有り、寺社などはなし、九千部山高峻にして材木多し、此所にて昔は綱をはりて鷹を取し也、是より肥前田代に越る道あり、

登九千部山 笠 法 雲 溪渡水聲細、山險雲意寡、路如亂絲懸、左折又右旋、此龍 躍笠上、老木橫欲頽、熊虎蹲杖底、崑石欲欲齧、神疲者在 後、脚健者在前、前顧而呼後、聲々落半天、天風來簸我、忽然到絕頂、明瞻隱衰表、或疑身是仙、笑酌瓢之酒、又吹 管之烟、 上山如喘牛、下山如健馬、夕陽猶惜別、遙在四峰坐、松杉 檜楓椒、蒼綠間丹精、秋山勝春山、驚手恐難寫、奇癖似郭 父、決旬而遊也、一日程所經、我賞豈謂寡、峰巒入清鏡、

林泉含間雅、遊山必此時、作詩告同社、

龜尾山 筑前國筑紫・早良ノ二郡ニ跨ル、筑紫郡南畑村大字市瀬字猿山御所ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百二十七尺、
前嶺山 筑前國筑紫郡ノ南西方ニアリ、南畑村字尾添打越ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千五百五十五尺、
一嶽 筑前國筑紫・早良ノ二郡ニ跨ル、筑紫郡南畑村大字成竹字上原ヨリ一里十町、字猿山ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百二十四尺、
東油山 筑前國早良郡ノ東方ニアリ、樋井川村大字東油山字駄原ヨリ一里十町、字瀬戸口ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百五十五尺、

〔提要〕西ニ四油山アリ、(筑風)山上に登臨すれば、登岐・對

馬其外の遺所迄よくみゆ、福岡より山下の東油山村迄一里半許、山下より巔迄二十町許有、麓より東にまわりて路あり、聖武帝の御宇にや、清賀といへる僧此山に住し、胡麻を多く作り油を搾りて怡土郡諸寺に遺しける、是に依て油山と云、此山のみもと東西に村あり、西油山・東油山と號す、其間一里あり、むかしは此兩山ともに僧坊多かりしと云、西油山村には大石多し、(筑菴)東油山ニモ龍樹權現社アリ、祭神神功皇后、志賀三神也、寺ヲ泉福寺ト號ス、開山ハ平田慈均和尚ト云、聖一國師四代ノ法孫ナリ、是モ僧坊三百六十區有キト云フ、イツノ時ニカ滅セシニカ、昔ノ本尊觀音(清賀ノ作)ノミ殘リテ草堂アリ、僧坊ハ一字モナカリシテ、元祿七年、正覺寺ト云ヘル臨濟小刹ヲ建タリ、此處入里遠ク俗塵ヲ離レテ閑寂ノ地也、殊ニ北方ヲ遙ニ望メハ、海島マテ眼下ニアザヤカニ見エテ、風景勝レタリ、遊觀シテ樂ムベシ、

脊振山 (別稱**金龍山**、**白字津山**、**書寫山**、**立拜山**、**國見嶽**、**上宮嶽**) 筑前國早良郡肥前國神埼郡ニ跨ル、早良郡脇山村大字推原字荒谷ヨリ一里十七町、神埼郡東背振村大字松隈ヨリ二里三十町餘ニシテ其山頂ニ達

ス、標高三千四百八十二尺、

〔提要〕 絶頂ヲ國見嶽ト云、筑前界ニアルナ上宮嶽ト云、筑風山ノ尤高キ所に神社有、肥前の方に下宮ある故に、これに對して此山を上宮嶽と稱す、此山に登るに、板屋村より原野を十二三町許登り行けば林木あり、又淵水あり、板川と云、上宮へ參詣する人爰にて祓除す、いにしへ上宮へ參詣する人多き時より用ひ來るなるべし、其淵水ある所より山上に登るに十町ばかり、峻路なり、老幼尪弱なる者は、前なる人の帶にとりつき、後なる者に腰をおされてのぼる、板屋より上宮まで二十二三町許あり、山上より四方を窺ひ臨めば、甚廣遠なり、秋の比天氣晴明にして烟靄なき時は、朝鮮國見ゆ、春月霞多き時といへともくもらざる時は、登岐・對馬迄よく見ゆ、對馬は是より百里あり、山上より北に顧れば、筑前まのあたりに見ゆ、南に望めば、肥前・筑後兩國共に眼下に俯してうかがふ、又肥後・薩摩・日向・豊前の諸山も連綴して見ゆ、豊前の彦山高しといへ共、此山に肩を比へ難し、此國御笠郡の龜門山夜須郡の古所山など皆高しといへども、此山上より見れば猶眼下に有り、此郡の油山は此山に近くして又高しといへども、此山より見れば部婁の如にしてひきし、いはんや其餘の小山は只平地のごとくみゆ、凡此山に登臨すれば、遠き事眼力の及ぶ所を極め、下よりあふけば、高き事諸山の上にもびへたり、杜氏美が泰山を詠む詩に、合當凌絶頂、一覽衆

山小、といへるもかゝる山なるべし、毎年三月まで雪あり、山上甚風寒くして、極暑といへども衣薄くしては忍び難し、山上の御社は神功皇后三韓を攻め玉ひし時、祈願の爲に是を立て祭り玉ひしと云、神功皇后此國に七社を創立し玉ふ、背振の社も其隨一也、三代實錄に、清和天皇貞觀十二年五月二十九日庚辰、詔して筑前國正六位上背布利神に從五位下を授け給ふとしるせり、然れば朝廷より殊に崇めさせ玉ひし御神なるべし、足利尊氏九州下向の時、白旗をさし上げて祈願有し事侍へり、此御神を世に辨才天と稱す、神功皇后の御時、佛法いまだ吾國に渡らざれば、辨才天の名なし、但其神號は秘して書傳にしるさず、〔筑菴〕祭神宗像大神ナリ、元明天皇ノ御宇、和銅元年、天皇御願アリ、當山ノ湛譽ト云僧ヲ召シテ加持セシメラシメテ事アリ、性空上人日向霧島山ヨリ筑前背振山來往セシト云、朝野群載・元亨釋書・味相記・入證隱逸傳等ニ、筑前國背振山トノセタリ、一山ノ寺號ヲ極樂東門寺ト云フ、僧舍千坊有リキト云、此山ハ中古ヨリ只管佛地トナレリ、傳教・弘法・慈覺・慈惠・智證等渡唐ノ時モ、皆此山ニ入テ祈願セシ事、古記ニ誌セリ、建仁寺ノ開山千光國師渡來シ、歸朝ノ時、彼國ノ茶ノ實ヲ持來リテ、筑前國背振山ニ之ヲ植岩上茶ト號スル由、モノニ見エタリ、此後梅尾・宇治ニモ茶ヲ植タル由云ヘリ、是リ先キ内園ニ茶ヲ植ラシ事ハ久シケレドモ、諸州ニ廣ク植シ事ハ是ヲ始トスル由云傳ヘタリ、

酒盛山

今ニ於テ板屋邊階村ニ茶園多ク、(參考書・筑前國風土記) 別稱唐人舞山筑前國早良郡肥前國神埼郡ニ跨ル、早良郡脇山村大字推原字下原ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百二十七尺、

鬼鼻山

(別稱中野山)筑前國早良郡肥前國神埼郡ニ跨ル、早良郡脇山村大字推原字やはす峠ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四十九尺、

飯場山

筑前國早良郡肥前國神埼郡ニ跨ル、早良郡内野村大字飯場字口原ヨリ一里四町、字野河内ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

金立山

肥前國佐賀郡ノ北方ニアリ、金立村大字金立ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百七十七尺、

合子山

筑前國早良郡ノ南西方ニアリ、内野村大字石釜ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、

王丸山

筑前國糸島郡ノ東方ニアリ、怡土村大字王丸字山口ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

井原山

(別稱瑞梅寺山)筑前國糸島郡肥前國小城郡ニ跨ル、糸島郡怡土村大字瑞梅寺字ささくヨリ一里十七町ニシテ其山頂ニ達ス、

ス、標高二千八百七十一尺、

〔筑風〕 此山中谷々多くして甚廣き故に、凶年饑饉には、怡土・志摩兩郡の貧民饑死をまぬかれんが爲、正月より此山に入り、其・蔭の根をほりたまきて水飛し、其粉をとり餅とし、朝夕之を食する事、春三月に至る、遠村の民は此山中に小屋をかけ妻子家累をたつさへ來りて、あたかも市中の如くにしてむらがりあつまる事、幾百軒と云事を知らず、三月を過て山を出づ、近村の民は我家より日々に爰に來つて廻り、斯の如くする者幾千百人と云数を知らず、他郡に山多けれども、其利養是に及ばず、然れば此山は兩郡そくばくの人民の命をつぐるなれば、珠玉多きより猶まさりて、眞の寶の山といひつべし、

雷山 (別稱層々岐山) 筑前國糸島郡肥前國小城郡ニ跨ル、糸島郡雷山村大字雷山字高野ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千五百五十三尺、

〔名勝〕 仲哀天皇の九年三月、神功皇后は羽黑熊鷹を討伐したまはんとて、春日宮より藤門山の下なる松峽宮に移り、兵を此地に擧げて終に羽黑熊鷹を滅し給ふ、雷山は其の故跡にして、山上及び山尾層々岐野に皇後の遺趾多し、古へ山嶽に

小祠ありて、水火雷電の神を祭る、新に雷山とは呼べり、聖武天皇の御宇、清賀上人茲に錫を留め、社傍に佛刹を建立して留音寺と號し、上人自ら千手千眼の觀音を刻して木尊となせしが、今は佛殿頽廢して僅かに一字を存す、又山中に楓樹多く、晩秋の遊賞に適す、(參考書、筑前國嶽風土記) 世の末をいかん思はん鳴神の 足利直冬

獅子舞嶽 (別稱破金嶽) 筑前國糸島郡肥前國東松浦郡小城ノ二郡ニ跨ル、糸島郡長糸村大字川付ヨリ一里十八町、大字小藏字上屋敷ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百八十五尺、

〔提要〕 肥前ニテ破金嶽ト云、 深江山 (別稱二重嶽) 筑前國糸島郡ノ南西方ニアリ、一貴山村大字一貴山ヨリ一里、深江村大字深江字越道ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百五十九尺、

〔地辭〕 山上城址あり、草野氏の墟也、

浮嶽 (別稱筑紫富士、吉井嶽) 筑前國糸島郡肥前國東松浦郡ニ跨ル、糸島郡福吉村大字吉井字久安寺ヨリ二十六町(或云一里)ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百五十七尺、

〔地名〕 其山容圓錐形なせり、 天山 肥前國小城・松浦ノ二郡ニ跨ル、小城郡晴田村大字晴氣ヨリ一里十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百五十二尺、

〔地辭〕 峰嶽重疊し、山谷尤廣し、山中に清水流あり、高三十五丈冠岡川の水源なり、

阿蘇多良火山帶

阿蘇火山群

兩子山 (別稱二子山、足曳山) 豊後國東國東郡ノ西方ニアリ、西武藏村大字兩子ヨリ二十町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百四

十五尺、

〔名勝〕 奇峰嶮然群山を凌ぎ、山勢嵯峨雲霧を摩せんとして、山頂に登れば四望廣潤、眼界を遮るものなく、南西海豊後水道の水は眼下に見、遠望く四國・中國の山を望むを得べし、寶曆年間、三浦安貞此山に窟居し、夜は天象を研究して、終に地動説を立つるに至りしと云ふ、〔地辭〕 峰嶽四方に降下し山谷の形狀整正なり、山中に總持院あり、

馬上峰 (別稱馬城山、御許山、古名厩峰) 豊前國宇佐郡ノ北東方ニアリ、宇佐町字宇佐ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百二十四尺、

〔地辭〕 後世八幡宮三所を此所に祭る、各石體なり、山上に巨石三あり、宇佐縁起によれば、此石高一丈五尺廣一丈五尺なるを大とし、二は之より小なり、之を以て三大神の神體とあがめたり、又嶮なる磐石の内に水あり、廣五寸深一寸五分、大雨にも増えず、大旱にも減らず、大寒にも凍らず、汲みて盡きずと云ふ、

雲嶽 豊後國速見郡豊前國宇佐郡ニ跨ル、速見郡山浦村大字山浦ヨリ十八町ニシテ其山頂

ニ達ス、標高二千三百五十三尺、

立石山

豊前國宇佐郡豊後國速見郡ニ跨ル、

宇佐郡明治村大字寒水ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千九百八十三尺、

鳥帽子山

豊前國宇佐郡ノ南東方ニアリ、津房村大字板場ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

由布嶽

(別稱湯布嶽、湯嶽、筑紫富士、豊後富士) 豊後國速見郡ノ南方ニアリ、北由布村大字川上字温湯ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千六百六十三尺、

〔名勝〕 鶴見嶽の西に在り、同一の火山脈に屬せる雄火山にして、此山亦峰頭二個に岐れ、海面を抜くと四千八百尺、山勢峻々として雲霄に變へ、山嶽の白雲四時消ゆることなし。

其狀恰も芙蓉に似たるを以て豊後富士と云ふ、此附近の地往古より温泉の湧出するもの極めて多きは兩山(鶴見・由布)の火山作用より地殻の破裂縦横に存して、爲めに地熱に熱せらるゝに因るものなり、〔摘譯〕地方人ハ湯ヶ嶽ト稱ス、川上温泉場ヨリ登ルチ可トス、然レドモ住民此山ニ登レバ暴風雨アリト傳信シ案内ニ應ゼズ、夏時早スレバ喜ンテ之ニ應ズ、長ク急峻ナル登山ナシ一高嶽ニ達ス、即チ山嶽ナリ、其右方ノ眺望ハ山嶽重疊シ、各々奇巒ノ狀ナシ、極メテ壯大ナリ、〔豊國〕 山嶽高峻、周圍三里餘、自麓至嶺又三里許、斷崖峭拔、多深谷、峻岩巒々、一怪石名鬼頭、下臨則巨石如盤、日觀音岩、絶頂ニ峰秀出、屹立相對、四日四嶽、東曰東嶽、其間相距數百丈、屏嶽雙立數百餘仞、餘瀝開豁、俗名龜氏、風土肥所謂此峰頂有石室、其深一十餘丈、高八丈四尺、廣二丈、常有水漿、遇夏不解、或聞有金石絲竹之音、蓋遊仙之境也、此峰半腹稍平、有池潤百步許、呼曰池城、蓋廢祭也、歲旱尋祭、採池中菰蒲蕒、祝曰、沼雨潤可復也、如此則有靈現、不崇朝而雨、其西南群山連亘不盡、東嶽之前則、鶴見山、南有日向嶽、四乃和歌山湯山、又有小山曰馬、皆羅列蟠束于其下、遠望此山、則三峰如削尖起雲表、誠曰筑紫富士、實此郡之鎮也、

油布山

宿霧嶺晴油布分、北風空翠落粉々、路過半腹無青草、天近

廣瀬 淡 志

鶴見嶽

豊後國速見郡ノ南方ニアリ、立石村大字立石ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千五百五十四尺、

〔風景〕 鶴見嶽、由布嶽共に別府温泉より登り得、鶴見嶽に登るの溪路は林樹蒼翠滴れんとす、嶽に薪火口あり、薪火口あり硫氣噴孔三個あり、活火山にして之れを探討せば奇觀多し、況んや由布嶽と同じく絶頂より下瞰せば、前に諸崎灣(火山作用に因り土地陥没して此灣を生出す)の海光を望み、別府の市街、温泉場の屋背海岸に隱見し、右に大分町南の連山を望み、左に國東郡の火山半島を眺め、雙子の煙火山半島上に秀絶するを觀る、二山共に風光の快潤なること、九州東岸に冠たり、〔名勝〕 峰頭二つに岐る、山勢秀拔海面を抜くと三千四百二十尺、由布嶽と共に郡中の高嶽にして、往時噴火の餘勢また全く消滅せずして、山頂より今猶硫氣を噴く、〔豊國〕 嶺嶽崎嶇、東方曠野、四對由布、秀拔不相讓、兩山接羅之處日道途、由布西北茂林中、自十月至三月、群鶴集栖數百、遠望之則白日翔翺如飛雪、或名取之、山上有神祠及三池、注于神祠下、故祠之址、老杉數株凌霄矗立、其前山有巨石、大

四極山

(別稱高崎山) 豊後國大分郡ノ北方ニアリ、八幡村大字神崎字田浦ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百二十七尺、

城嶽

豊後國速見郡大分ノ二郡ニ跨ル、速見郡南由布村ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百十四尺、

鉾塔山

豊後國大分・速見ノ二郡ニ跨ル、大分郡西庄内村大字中ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百八十九尺、

人見嶽

豊前國宇佐郡豊後國玖珠郡ニ跨ル、宇佐郡南院内村大字羽馬禮ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六尺、

鹿嵐山

豊前國宇佐郡下毛ノ二郡ニ跨ル、宇佐

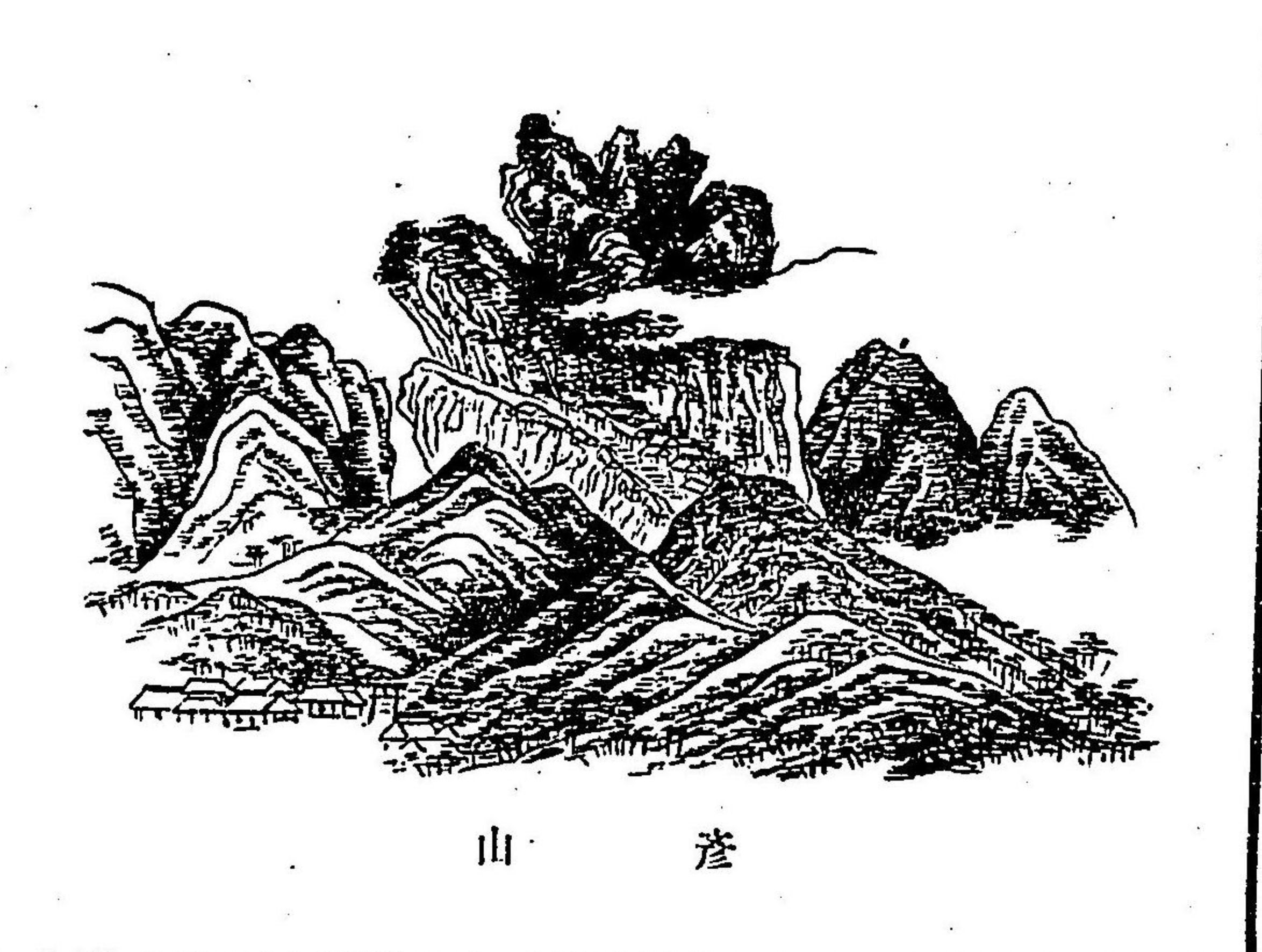
層標有白雲、未下色從周海見、(周洋舟中望油山最似富士) 不孤名與富山開、同邦每恨佳緣少、傾蓋今朝始遇君、

九尺許、名隴石、其上數十丈、聲遠聞一里餘、相謂爲風雨之兆、蓋零陵石燕之類也、多產硫黃礬石、山常有火、自古山崩泉溢之災、徂々國史所紀、

郡高並村大字小野河内ヨリ一里四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百五十五尺、
 八面山 (別稱箭山、屋山) 豊前國下毛郡ノ北方ニアリ、山口村大字田口ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百一尺、
 菌嶽 (別稱木子山) 豊前國下毛郡ノ東方ニアリ、城井村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七十九尺、
 鹿熊嶽 豊前國下毛郡ノ南方ニアリ、下郷村大字大島字島ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十八尺、
 長野山 豊後國日田郡豊前國田川郡筑前國朝倉郡ニ跨ル、日田郡小野村字小竹ヨリ一里餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百七十五尺、
 五狩倉山 筑前國朝倉郡豊前國田川郡ニ跨

ル、朝倉郡寶珠山村大字寶珠山字屋椎ヨリ三十五町(或云一里二十町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百七十六尺、
 十石山 筑前國朝倉郡豊前國田川郡ニ跨ル、朝倉郡寶珠山村大字寶珠山字竹ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、
 彦山 (別稱比古山、日子山、英彦山) 豊前國田川・下毛ノ二郡ニ跨ル、田川郡彦山村大字落合字ひかしヨリ二里、津野村字七石ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千九百五十九尺、
 (風景) 小倉町の南十四里中、太宰府町の東十三里二十三町(福岡ヨリ十九里餘、門司ヨリ十五里餘)にあり、海拔一七〇米突、直下に耶馬溪あり、彦山に登るに數途あり、(一)豊前小倉町、行橋町若くは筑前蘆屋町よりするもの、(二)豊前中津町若くは豊後別府温泉大分町よりするもの、(三)筑前福岡市より太宰府町を經若くは筑後久留米市よりするもの、

(一)の道途を取らんか、小倉・蘆屋よりは南行し、行橋よりは西行して、豊前の香春に出て、増田川の支流に沿ひて愈々南行し添田に到り、添田より流の右岸を派行して増田に至り、徑路漸く崎嶇、石階を登り彦山神社の銅製鳥居に達す、鳥居より登る四十二町、彦山神社に詣る、社前よりは福知山・大山・馬見山を眺望し、眼界壯麗、(名勝)英彦山神社。本國第一の高山なる英彦山上に鎮座せる著名の神社にして、所謂彦山権現是なり、社格は官幣中社とす、創立は最古くして年月を知るに由なし、祭神は天忍尊・相殿伊弉册尊・伊弉諾尊なり、中世僧院の盛なりし頃は、三千六百坊ありしと云ふ、天正年間、大友の兵木山に押寄せ、一山の山伏其勢三千餘を討拂ひ、寺坊殘らず燬盡したることあり、初め此山を日子山と云ひしが、嵯峨天皇の命に依り彦山と改め、後又享保十四年、靈元天皇英彦山と稱すべき旨詔勅ありて廢廟の扁額を賜へり、山中名勝遺跡數多あり、(動志)朝に夕に雲起りて天上に聳へ、されば山上高千穂の嶺には二神降臨の地、なほ次第次第に高神等の止り賜ふ嶺にして、世に隠れなき名山なり、(陰日)九段線路の油須原驛より歩行三里、溪流に沿ふて上れば山腹に彦山村あり、一市街を爲せり、往時の盛を見るべからざるも尙ほ二百餘の戸數あり、夏時避暑探勝の客多し、つくしの彦山にこもりて祈けるついでに



彦山

すます心をまたはげがまし
とおもひつゝけてまところみける夢につげさせ玉ひける御
かへし
いさよき彦の高嶺の池水に
すまは心のすまさらめやは

彦の緑や色なき風もけさの秋
彦山 三 千 風
霧 瀬 淡 窓

彦山高處望嵐風、木末樓臺晴始分、日暮天壇人去盡、香煙
散作數峰雲、
飯田 復軒

登彦山

比古真雄上、中途力已疲、烟生疑鬼霧、鶴去訝仙飛、後嶺
開過雨、前峰見落暉、杜鵑似憐我、幾告不如歸、
調 瑣 溪
月夜登彦山

欲踏彦山頂、夜行攀危巖、峰高孤月小、霜白萬星微、風洞
仙螺響、雲門天狗飛、當投何處宿、羽客鎖岩扉、
馬場 桂 窓

鐵鎖攀來欲斷魂、行人魚貫自岩根、滴衣空翠夏猶冷、纏步
幽雲盡亦昏、半腹無時起雷雨、層巒有處小乾坤、法螺忽爾
何邊響、吹上中峰月一痕、
村上 仰山

登彦山

法螺吹起一聲長、道士導我攀羊腸、上宮儼在最高頂、危欄
縱眸眺八方、是山是水都不辨、四國九州皆茫茫、斯時神氣

自軒學、欲把我詩問彼蒼、高聲唱出兩三句、驚殺天狗天際
翔、萬巖松杉忽震動、怪風捲雨奔雲忙、須臾雨晴雲亦散、
秋爽三千八百房、

大嶽 豐前國築上・下毛ノ二郡ニ跨ル、筑上郡
岩屋村大字求菩提字ニ渡ヨリ二里十八町、大
字鳥井畑ヨリ一里三十町ニシテ其山頂ニ達
ス、標高四千九十九尺、

〔豐志〕 豐前にて二三を争ふ大山也、大木茂り深山なり、山
の九合目計りに湖水あり、大洞あり、求菩提山伏の行場也、
同補恒諸子、登狗嶽、狗嶽一名終南、 遠 帆

終南何嶽峯、千嶽冥冥々々、危坂捷心過、哀猿掩耳聽、谷深
風氣黑、松合日光背、若遇朝仙侶、相携斬茯苓、

岩嶽山 (別稱蜘蛛手山、古名求菩提山)
豐前國築上郡ノ南西方ニアリ、岩屋村大字鳥
井畑字榎川ヨリ二十四町ニシテ其山頂ニ達
ス、標高三千四百五十二尺、

〔地辭〕 求菩提の絶頂を岩嶽と曰ふ、又此の山の名を求菩提
と云ふ事は、菜碗を覆せたる狀に山の容の類たれば成るべし、

我も下化衆生の爲めに分入れば
上求菩提と名のる山かな

道 輿

樋桶山 豐前國下毛郡ノ西方ニアリ、下郷村
大字樋桶山路ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達
ス、標高二千八百九十一尺、

松尾山 豐前國築上・下毛ノ二郡ニ跨ル、築上
郡友枝村大字西友枝字横川ヨリ二十四町ニシ
テ其山頂ニ達ス、
〔地辭〕 山中杉・檜森々たり、

鷹股山 豐前國築上・下毛ノ二郡ニ跨ル、築上
郡友枝村大字西友枝字大入ヨリ二十五町ニシ
テ其山頂ニ達ス、標高二千六百九十尺、

檜原山 豐前國下毛郡ノ北西方ニアリ、登路
〔式按スルニ、津民村カ〕二十五町、標高二千六
百十七尺、

三俣山 豐後國玖珠・直入ノ二郡ニ跨ル、玖珠

那飯田村ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達
ス、標高五千七百三十九尺、

九重山 (別稱久住嶽) 豐後國直入郡ノ北西
方ニアリ、都野村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達
ス、標高六千四百四十八尺、

〔提要〕 又三俣嶽ト云、大船山ノ西ニアリ、直立二千二百二
十六尺、南ニ天狗嶽・久住山アリ、其西屬鼻山アリ、肥後ニ跨
ル、黑嶽以下三山(黑嶽・大船山・九重山)俗稱シテ朽網(クツ
ミ)山ト云、〔式按スルニ、豐後國直入・玖珠ノ二郡及ビ肥後國
阿蘇郡界ノ連山ヲ九重山ト總稱ス、其中高峰十數、何山ノ九
重山タルヲ知ラズ、提要ニ據レバ、三俣山ナルガ如ク、地名
大辭典ニ據レバ、九重山・三俣山・久住山皆別山ナルガ如シ、風
景論ニ久住嶽一名九重山トアリ、且ツ九重・久住音相通ズルヲ
以テ、暫ク風景論ニ據リ以テ後考ヲ待ツ〕〔豐國〕在大船西、
高興大船相伯仲、廣大三四倍之、其足周圍六七里、高峰八九
日空地、無水、深三百仞、一日猪鹿嶽寺、深々如湖、不知其
深、神異常多、衆皆懼之、岸側有磐石、面平坦、可坐十數人、
蓋拜神之處、杖錫鳴子平等最峻坂、其後峰有祠、祭 櫻崎天
皇爲此山神、延暦以降祭之、有僧房三四區、皆修驗道士、當

前嶽之後曰三又山、其西北曰硫黃山、常有火、其傍巖屋峭壁、數百丈、其上可座、名羽客游息岩、自此北下一峰、則玖珠郡界、其坂甚峻、其四曰天狗嶽、南面第二三峰並幽僻、不可狀、其下一山名饅頭、形似覆盂、濃碧蒼澗、其下有水曰赤川、水色丹泥石皆染、流下西向肥州去、

九重山

細川十洲

峻嶺重々上掃天、果知靈境有靈泉、不須禱請成霖雨、終古奔流浸稻田(山中有大池、池水流至山下、灌溉之利甚廣)

九重嶽

粗山 賜

山脈東北來、隱然如巨防、豐肥其左右、連山割封疆、蘇隸尤隆起、散漫餘勢長、地高無草木、彌望唯黃茅、居民食蜀黍、行客避封疆、名曰九重嶽、風力四時狂、吾來秋之際、北風驟欲颯、譬如上龍背、冷然凌天荒、久客連山右、如在天一方、今日踰而左、中原覽可望、下瞰濛々際、如見一髮若、風狂還可喜、猶來自故鄉、

大船山

(別稱大仙山、九重前嶽) 豐後國直入郡ノ北西方ニアリ、都野村大字有氏字嶽麓寺ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千四十二尺、

〔豐國〕形如覆船、故名、山勢西北麓肩、東南踈足、披兩山

ス、標高五千六十九尺、

〔風景〕 涌山(一名涌蓋山)巖嶽、久住嶽(一名九重山)皆な完全なる蕪火口あり、猛烈なる硫氣噴孔あり、炭酸瓦斯を密積せる「殺生石」あり、「千町無田」なる平野あり、「寒ノ地獄」なる硫黄冷泉あり、

萬年山

豐後國玖珠郡ノ西方ニアリ、萬年村大字小田ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千八百二尺、

〔豐國〕 高二里許、周廻八里餘、四面絶壁如截、上平衍一里餘、有池魚多、隱隱湧山、其株皆矮短莖、葉細花色鮮紅、百步徘徊如鋪、花卉桂木藥草多産、峰上有泉、最清冽可飲、山中洞穴多、凡四十餘處、常吐納靈霧、其中腹北向一窟、洞方五六尺、常生風、近之夏日寒慄、其下一窟、徑三尺許、內稍廣、其深不可測、人戲昇巨石投之無數、其聲往視之、悉吐出千窟外、以爲神異、蓋此山郡之鎮也、

斷株山

豐後國玖珠郡ノ西方ニアリ、萬年村大字山田字中山田ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百四十四尺、

〔地名〕 山容宛然斷株の如きを以て此名ありと云ふ、

崛起于前、故又名前嶽、自麓至巔、三里而近、連亘又三里許、巔有池潤二百步、其水清冽常潤、池側奇石怪岩列立嶺鬼、中有石洞、稱大船山明神、繞洞至池畔、池畔有石楠藤躑躅多生、皆矮偃、花時如鋪錦、燕子花蝴蝶花最嬌小、可愛、山北一峰屹立名觀國、半平如砥、壯觀四顧有小管之想、相傳風土記所云大拒燎之基即此、下峰一里名石表嶺、有昔時石表趾、其傍有岡府主宅兆、深樹鬱茂、其南有望月岩、登之則直入大野兩郡之域、一目盡之、麓有一大石名殺生、昆虫觸之即死、

黑嶽

豐後國直入郡ノ北西方ニアリ、長湯村字社家ヨリ一里四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千四百五十八尺、

〔豐國〕 西接大仙、東與花半嶽巖秀、四面絶壁、括柏香蔚、遠望常黑、故名、高不比肩於大船、然神山無人能攀之、適有躑者、必迷途不還、或遇神、聞之府主山城守久清嘗嘗善到絕頂者、命舉火、皆曰、我善到、試之、每峰在山半腹、中有神獸偶觀之、形如發現、大友氏之時、有鬼島爲民害、即此山、

涌蓋山

(別稱涌出山、湧蓋山) 肥後國阿蘇郡豐後國玖珠郡ニ跨ル、阿蘇郡北小國村大字北里字山川ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達

龜房石山

(別稱龜石山) 豐後國日田郡肥後國阿蘇郡ニ跨ル、日田郡五馬村大字出口ヨリ十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百六十四尺、

〔名勝〕 極めて峻峻なり、

尾嶽

肥後國阿蘇郡豐後國日田郡ニ跨ル、肥後國菊地郡水源村字永山ヨリ一里二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百三十四尺、

〔名勝〕 極めて峻峻なり、

鞍嶽

肥後國菊地・阿蘇ノ二郡ニ跨ル、菊地郡北合志村大字麓字高柳ヨリ一里二十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百九十一尺、

〔名勝〕 平野の中の一峻峰として、恰も阿蘇郡の阿蘇山の前驅を爲せるに似たり、(地誌)北嶺を深葉山とし、南嶺を矢蔵山とす、馬鞍に似たり、(參考書) 震災豫防調査會報告第三十三號

鞍嶽は銀鞍輪かけの聲 菊地 武光
あられ梨子地にみゆる山形

二重山 肥後國阿蘇・菊地ノ二郡ニ跨ル、阿蘇郡永水村大字車蹄字坂下ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百八十八尺、

雨中越二重嶺已而回顧群峰皆雲 細川十洲 一路空濛無所觀、只言身過自雲端、苦非春雨雜春雪、雲狀不應如許矣、

過二重嶺

類山 鴨

奇山歷々多巖面、匪徒二肥遊已倦、欲別如今宿關情、植筍嶺頂意戀々、茶北海開鏡半函、憶昔南遊兩掛帆、

鈴深尾山 豊後國日田郡ノ南西方アリ、中津江村ヨリ一里二十六町ニシテ其山頂ニ達ス、

三國嶽 肥後國鹿本郡豊後國日田郡筑後國八女郡ニ跨ル、鹿本郡嶽間村大字多久ヨリ一里、

日田郡中津江村大字合瀬字梅野ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百八十尺、

八方嶽 (別稱笠嶽) 肥後國菊地・鹿本ノ二郡ニ跨ル、菊地郡龍門村字上虎口ヨリ二十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百七十一尺、

〔地誌〕 山勢最峻、此山一に笠嶽とも呼び、菊地郡の鎮山とす、八面一様の容をなし、頂に瀾池あり、山中天狗栖むと云、つくしなる八方が嶽の麓にぞ 詠人不知 鬼とりひしく武士はすめ

黒塚山 筑後國八女郡豊後國日田郡ニ跨ル、八女郡矢部村大字北矢部字上御側ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

地藏嶽 豊後國日田郡筑後國八女郡ニ跨ル、日田郡前津江村ヨリ一里三十町ニシテ其山頂ニ達ス、

釋迦嶽 豊後國日田郡筑後國八女郡ニ跨ル、日田郡前津江村ヨリ一里三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千六十二尺、

渡神嶽 豊後國日田郡ノ南方ニアリ、中津江

村大字合瀬字中西ヨリ一里餘(或云二里十九町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百九十六尺、

〔助國〕 喰峻蒼翠可掬、

烏宿山 豊後國日田郡ノ中央ニアリ、大山村大字西大山字萬々金小切島ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百五十七尺、

御前嶽 (權現嶽) 田代山筑後國八女郡豊後國日田郡ニ跨ル、八女郡矢部村大字北矢部字上御側ヨリ三十三町、(或云一里十四町)日田郡前津江村大字大野字内代ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三百九十六尺、

〔提要〕 本州第一ノ高山ナリ、豊後ニテ權現嶽ト云、(助國)其峰尖銳如削、高出雲表、絕頂有祠、半腹窟中亦有祠、並祀木花開姫命、稱田代權現、故名、崎巖盤回登七十餘町、頂上四顧、則豐筑肥六州、宛在掌上、此郡之鎮也、山下有飛泉、其潭不甚潤、深不可測、筑後志曰、筑人呼此嶽曰御前山、所謂前山是也、

平野山 (別稱麻生嶽) 筑後國八女郡ノ東方ニアリ、大淵村大字北大淵字平野ヨリ二十町(或云十八町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百七尺、

日向神岩山 (別稱日向神山) 筑後國八女郡ノ東方ニアリ、黒木町ヨリ凡四里、笠原村字鹿子尾ヨリ凡二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百五十尺、

〔名勝〕 兩内ノ一大勝處にして、其ノ風色豊前ノ耶馬溪に劣らざるも、彼地は頼山陽の筆に由りて世に紹介せられ、此地は未だ一文士の景を叙する者なきが爲めに其名大だ著はれず、名區も知己を得ると得ざるとに因り、此の如く幸不幸ある乎、唯だ青山延壽翁自著の大八洲遊記中に此地の事を記するも、足跡の及ぶ所僅かに一小部分に過ぎずして其の全景を知るを得ず、亦た遺憾ならずや、此地に遊ばんとする者は、羽犬塚停車場にて瀛車を下り、福島町を経て東行四里半黒木

町に達し、更に東する二里半にして大淵村に至る、茲より矢部川の岸に沿ひ、尙ほ東に向へば道漸く峻しく、行くこと三十町、路傍に小瀑布あり、數峰突起して之を挟む、又行くこと三十町にして元立百仞、三分以下は岩骨を露はし、其下は土を戴き草木雜茂す、是れ山中第一番目の奇岩にして、俗に黒岩と呼ぶ、並より溪澗を遊のぼるに従ひ、山容異狀を呈し、河北に不動・金加羅・淵曳・獅子口等の岩石羅列し、河中には男徳・女徳・馬蹄・法螺貝・矢楛・弓掛・破風・鏡天戸等の諸岩あり、又東數町にして正面・巖破の二岩屹然として編蝠谷の南に峙ち、巖破の中央には岩窟ありて、孔中より遙かに天雲を望むを得べし、正面岩は岩壁削るが如く、石理平滑紫褐色を帯ぶ、此邊は山中奇景の集まる所にして、背後を真日向神と稱し、大月屋・小月屋・花立・烏帽子等の奇石多し、皆是れ神巧鬼鑿、一々名狀すべからず、

日向神岩

樺島石梁

型立衝天不少欬、停節仰望嶽峰思、欲驅雲霧探雄筆、正面當中畫一詩、少壯東西好遠遊、宇中名勝半周流、始憐故國佳山水、問弄風光悅老眸、

熊渡山

(別稱熊戸山、熊門山) 筑後國八女郡豊後國日田郡ニ跨ル、八女郡星野村字仁原ヨリ二里、字浦名ナル瀧脇ヨリ二十町、日

田郡前津江村大字柚木ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千百六十九尺、

龍河内山

筑後國八女・浮羽ノ二郡ニ跨ル、八女郡星野村字十箇ナル合原ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百二十六尺、

無漏山

筑後國八女郡ノ北方ニアリ、星野村字十箇ナル迫ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百八十七尺、

高井嶺

肥後國浮羽郡豊後國日田郡ニ跨ル、浮羽郡姫治村大字小鹽ヨリ一里、日田郡五和村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千三百七尺、

阿蘇嶽

肥後國阿蘇郡ノ中央ニアリ、黒川村字坊中ヨリ一里三十二町ニシテ其山頂(高嶽別稱雲生山、赤膚山)ニ達ス、標高五千五百



阿蘇山

七十七尺、

根子嶽

(阿蘇嶽ノ一峰) 肥後國阿蘇郡ノ中

央ニアリ、坂梨村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千六百九十九尺、

〔提要〕其最高ヲ高嶽ト云、一名養生山又赤膚山ト稱ス、噴火山ノ東脈ヲ根子嶽ト云、西脈御嶽・檜尾嶽・黒川村ニ屬ス、其最四ヲ在生嶽ト云、高嶽ニ亞ク、狩尾村ニ屬ス、此ヲ阿蘇五嶽ト稱ス、〔風景〕熊本市ノ東十一里阿蘇火山帯中ニ杵島嶽、烏帽子嶽中嶽、高嶽、根子嶽、是れを阿蘇の「五嶽」と稱す、熊本市ヨリ人力車を驅リ大分(御後)街道に賴リ、白川ノ右畔に沿ひて平田の間を東々北行シ大津町に到リ、粗山陽の所謂大津平々底不如、熊城東去越背嶽、老杉夾路無他樹、缺處時々見阿蘇、とは此間の景物を咏じて餘蘊なきもの、大津町ヨリ道路ニ條に別る、即ち(一)愈々東々北行して黒川に沿ひ、阿蘇山ノ北麓に出テ、登るもの、(二)東行して白川に沿ひ、阿蘇山ノ南麓に出テ、登るもの、是れなり、試に(一)の道路を取らんか、大津町ヨリ東々北行シ、緩慢なる峠を登リ最高點(二重嶽)に達するや、阿蘇山ヨリ人眼前に峭絶なる懸崖を看、自から其上に立ち居ることを、是れ阿蘇火山ノ外輪に達したるが故のみ、乃ち風曲線前道路を経て此の懸崖(高サ凡二百

米突)を下リ、阿蘇嶽火口の盆地に入り、漸く山の北麓坊中村に出て、此所より山帯中阿蘇山の中嶽に登る、登りて四望せんか、右に火山帯中の杵島嶽・烏帽子嶽長揖し來り、左に高嶽・根子嶽を仰望し、火口よりは硫氣・水蒸氣天を衝きて直上し、眞に雄大を極盡す、而かも山上の最奇觀は、阿蘇の諸火口を變降の中に收むる所に在リ、即ち諸火口の外輪は、北は長倉嶽一帯の山嶽を以て、東は惣後境上の連山を以て、南は大矢山・冠嶽を以て、西は後山・二重嶽を以て之れを限り、黒川の一水外輪の北より四を繞リ、白川の上流輪の東より南を限り、今の阿蘇山は實に新火口發して輪の中央に聳立するもの、輪の直徑七里、中に一町十四村あり、無慮四萬の生靈を衣食せしむ、此の如き火口の絶大なるもの、實に全世界第一と稱す、夫れより杵島嶽頂下の湯谷に下リ、精泥熱湯の噴出泉を看、南下して垂玉・地獄の二温泉場を経、愈々南下し遂に(二)の道路に出て熊本市に返らんとして、四行して瀧ノ木新湯に浴し、白川に沿ひ白川・黒川合流する所を經、數處流ノ瀧白糸ノ瀧を遊覽し、立野峠を下リ、白川に沿ひて西下し遂に市に返り得、當師文人風懷の高士たる者必らず登臨せん哉、〔名勝〕まことに阿蘇山は九州第一の名勝にして、その中部の噴火口のこときは直徑七里短徑四里、かくのごとく絶大なる噴火口は、全世界曾てその比を見ずといふ、現今阿蘇五嶽高嶽・根子嶽・烏帽子嶽・中嶽・杵島嶽は古代の外輪山なりしが今は

此に集中して盛に噴火しつゝあり、中嶽よりは硫氣・水蒸氣を蒸上し、をりく土俗の所謂煙を降し、その雄大慘愴たる殆ど言語に絶す、ことに天の明けんとする比山上より諸噴火口を望めば、淡濃黄白の煙霞美しく山々を彩りて、その美觀



阿蘇山

ふるものなし、遊客の必ず一登臨すべきの地なり、〔熊案〕高嶽の東に一低所を隔て孤立し、其巔錮の如く犬牙錯出するものを根子嶽とす、阿蘇御池・神靈池又は神池と稱するは、中嶽の頂常に煙を噴き熱水を溢ゆる噴火口の謂なり、孔は南北

九州 阿蘇多良火山帯

の二方に廣くして中に狭く、其形まさに曲玉に似たり、孔内は絶壁削立し、僅に四方の岩崖より孔底に降るを得、底の北部に大小の噴孔あり、熱水沸然としてたへ、蒸氣轟然として昇る、之に伴ふて發する諸種の瓦斯は、互に相混化して硫黄・明礬の類常に生ず、此地昔は神聖にして浸す可らずとせしむ、明治の世となり此禁とけ、所在の住民こゝに堆積する硫黄を採りて硫黄製造の原料に供せり、又孔底の南部に古池と稱し熱水を溜滞する所あり、數年前迄は其量多く、土民舟を泛べて池邊に堆積せる硫黄を採りしことありしが、今は大に其水量を減せりと云ふ、歴史の語る所によれば延暦十五年より明治十七年に至るまで千〇八十八年間、蘇山の噴裂すること五十九回にして、各噴裂の年限相同じからずと雖ども、之を平均するに十八年毎に二回の異變あるに似たり、〔參考書〕地學雜誌第四卷「九州の一大噴火山」第百四十八卷第百五十五卷第百五十六卷第百五十九卷第百六十卷「阿蘇火山」、地質學雜誌第九號「明治二十七年阿蘇山噴出に就て」第百四號「阿蘇登山の記」第九十六號「阿蘇火山の火口」、震災豫

防園會報告第三十三號

あそ山の中より出づる白川の
 申務卿皇子
 いかで知らせん深きこゝろを
 宇佐使にて下りける時あそ社の社にまうて、
 いまはとてしものはふりこいとまあれや
 基 長
 あそのみ山の雲もつもれる
 阿蘇に参る月の供助とは我事也
 三 千 風
 高砂のゆかりや松の下納涼
 支 考
 朝起淑蘇山
 蔽 孤 山
 比日愁雲霧、斯及忽快晴、一峰如湧出、百里見鮮明、拄笏
 仙風入、雲霧道骨輕、名山有餘韻、入我襟襟鳴、
 登阿蘇山
 藤澤 東 岐
 削成萬丈倚天高、步步與多忘足勞、罔石自驚隨虎去、蹊雲
 忽訝驚鷗翔、此時消盡豐肥嶺、何處現來吳越濤、寒火雲鳴
 無底穴、古今蒸出幾英豪、
 過坂梨嶺望阿蘇山
 賴 山 陽
 路繞阿蘇腰不見阿蘇首、今朝雨霽雲又開、日照三峰觀翠嶽、
 一峰尊嚴是丈人、一峰眉隨在其右、別有一峰似鑿牙、竦立
 其左爭雄秀、榮然要我爲快觀、唯恨一笑願背走、岐路高低
 頗回看、登勢出沒猶在後、
 阿蘇山歌贈井大年
 僧 海 景
 阿蘇山上白雲翔、白雲山色共渺茫、白雲無心日飄散、山色

不改常若々、山與白雲遊異態、靜兮忙兮互相忘、嗟乎阿蘇
 山上雲、見雲望山且思君、君是南肥隱君子、經術醫業獨出
 群、君心既如山色靜、君形又似雲紛々、旦夕相思不易接、
 獨坐面首對斜暎、

祖母嶽 (別稱鵜羽嶽、姬嶽、豐後國直入)

大野ノ二郡日向國西白杵郡ニ跨ル、直入郡姫
 嶽村大字神原字井手上ヨリ一里三十町、西白
 杵郡田原村大字五箇所字嶽ナル鳥居元ヨリ一
 里十町ニシテ其山頂ニ達ス、高標六千五百五
 十一尺、
 (風景) 九州第一の高山嶽、山頂に一小石祠及び鳥居を安置
 せり、(一)日向延岡町より西北十八里半河内村(日向肥後豊
 後の境上)より登り得、(二)肥後熊本より阿蘇山南麓の高嶽
 町に到り、町より日向の境に入り河内村に出て登り得、河内
 村より山頂まで徑路殊に峻峻、而かも奔湍銀の如く、秋間滿
 降皆な紅楓、溢も及ばず、頂より眺観せば、萬嶽千峰層端に
 集り、東北海峽を隔て遙に四國の山色を看、壯絶(名勝) 滿
 山古樹蒼蒼、無數の良材を産す、岩體常に雲霧を離れず、(摘
 譯) 瀨ノ木新湯(熊本市ヨリ阿蘇山ニ登ル途中ニアリ)ヨリ容
 易ニ登リ得、瀨ノ木新湯ヨリ五里ナル高嶽ヲ經、半時間ニシ

テ一嶽海拔二九五〇尺ヲ越エ始メテ此山ヲ望ム、夫レヨリ
 道路ハ始終上下シ、景色甚ダ佳ナリ、殊ニ高嶽ヨリ二里半ナル
 かわばしリト稱スル狭谷最モ絶勝ニシテ、此谷ノ對面ニハ老
 杉林立シ、高サ二百尺ニ至ルモノアリ、高嶽ヨリ四里半ニシテ
 河内村(海拔一五〇〇尺)ニ至ル、此處ニ宿セントスレバ宿シ、
 或ハ尙ホ少許ヲ行キ上野村ニ宿スモ可ナリ、此處ヨリ道路ハ
 みいの峠海拔二八〇〇尺ヲ越エ、河内ヨリ一時間半ニシテ五
 ク所村ニ至ル、又行ク四十五分間ニシテ激流ニ出ヅ、是レ眞
 ノ登山口ナリ、登路ハ急峻ニシテ峻悪、最後ノ一千尺ハ絶難
 ナリ、頂上ニ鳥居及び石造ノ小神社アリ、眺望山嶽重疊、山
 脈駢列、大分ノ海濱ヲ下瞰シハノラマノ觀アリ、快晴ニハ四
 國ヲ望ミ得、健脚者ハ休憩時ヲ加ヘ上リ五ク所ヨリ二時間半、
 河内ヨリ五時間、蹄路河内ニ下ル四時間半ヲ要ス、夫レヨリ
 實ニ美シキすいづららんとノ風光ニ似タル徑路ヲ過ケル三
 里半ニシテ延岡ヨリ來ル本街道ニ合ス、(豐國)又名祖母、蓋山
 配祀豐玉姬命、以 神武帝、爲皇祖母故也、其山嶽峻極、峙立
 雲表、上有小石祠、土俗所謂姬嶽上宮是也、其東南崖下名御花
 園、有一怪石兀然竦立、奇樹異草繁植鬱茂、蓋仙樵之境也、其足
 跨千豐日肥三國、三分之則豐居其二、衆山如兒孫環列隱隱、
 肥日二洲諸嶽踞其西南、福原倉木鳥嶽尾平丸嶽拱其東南、爭
 嶽競秀、擅美千大野郡、觀國峰離山美女嶽原山優其東北、嵐
 嶽巒其西、由留木高城山接續映帶、實以豐之鎮護也、

細川十洲

去跡來龍勢露門、三峰相向翠螺巖、阿蘇久住皆能說、獨怪
 人造祖母山、

蘇母山 肥後國阿蘇郡日向國西白杵郡ニ跨

ル、阿蘇郡野尻村大字野尻ヨリ一里ニシテ其
 山頂ニ達ス、

鏡山 肥後國阿蘇郡日向國西白杵郡ニ跨ル、

阿蘇郡馬見原町大字馬見原ヨリ一里ニシテ其
 山頂ニ達ス、標高二千七百七十五尺、

大矢山 肥後國上益城・阿蘇ノ二郡ニ跨ル、上

益城郡名連川村大字御所字上名連石ヨリ一里
 ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千四十六尺、

冠嶽 肥後國上益城・阿蘇ノ二郡ニ跨ル、上益

城郡中島村大字北中島ヨリ二里十八町ニシテ
 其山頂ニ達ス、標高三千八百九尺、

雁回山 (別稱木原山) 肥後國下益城・宇土

ノ二郡ニ跨ル、下益城郡守富村大字木原ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千三百八尺、(名勝) 木原城跡。木原山の上ありて、四方眺望の絶勝なり、往昔鎮西八郎爲朝この城に在城して飛雁を射落す事に妙を得たれば、この峰上には飛雁亂行するが故に、一名山の名を雁回山ともいふ、又山中爲朝の礎に投げたりといふ大石ありといふ、城は始め矢橋庄司宗親の居る所なりしを、地勢要害なるを以て爲朝移つてこゝに住めり、城跡は山の中腹にありて、今猶その形を存したり、又城跡の後の谷に岩穴あり、こは爲朝在城の日兵衛を蓄へし處なりといふ、麓に六段大明神宮ありて、小松内府重盛の祈願所なりと傳ふ、如何にや、(地辭) 熊本・緑川の方面より之を望む、形狀最秀拔なり、頂に海上庵と呼ぶ草堂址あり、

三角嶽 肥後國宇土郡ノ西方ニアリ、三角村

大字三角浦ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百五十五尺、(地名) 葦北・八代・飽田・玉名の諸郡及び肥前島原の地方(天草諸島眼下ニアリ)一目に屬し、風光の美佳なる本州第一に居

金峰山 (別稱朝出山、一嶽、飽田山、飽託山) 肥後國飽託郡ノ北西方ニアリ、芳野村

大字嶽ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百九十七尺、(風景) 熊本市の西に元立す、三ノ嶽・熊野嶽・小嶽・平山嶽等は金峰山の外輪にして、輪の長徑一里半短徑一里、熊本市より三時間弱にして登り得、即ち熊本西城の北側に沿ひ平田の間を西行し、漸く高く漸く登り、左折して一大島居の下を過ぎ、行々遂に絶頂に達す、頂より四望せんか、西に有明洋、島原半島の温泉嶽を眺め、西南は天草諸島瑠璃一帯の上に浮び、南に薩摩の連山長嶺し來り、正東に阿蘇の噴煙二條を仰ぎ看、北に豊筑の群嶽を認む、景物眞に壯宏、而かも頂上の壯觀は、熊本の平野を下瞰する所に在り、熊本の城塞接近して五層樓閣の中に露はれ、白河の長江一帯銀の如く其下を環抱するを觀る、二時間にして熊木に下り返り得、(肥國) 郡中ノ鎮山ナリ、上古地震シテ此山湧出ス、故ニ朝出山ト稱ス、後ニ飽田山ト云、(中尾) 三ノ嶽ニハ西ノ名ニアリ飽田山筑紫ノ富士ト御覽セヨトアリ、往昔菊池肥後守武重、和州金峰山ニ象トリ山ノ名ヲ定メ神社ヲ建ツト云、活所遺稿曰、隈城ノ四一

あり、參詣者は大概八時間にて諸勝地を巡覽するを例となせども、健脚者は五時間にして遊覽し得、長崎市若くは島原町より登り得、試みに長崎市より頂に登り了りて島原町に下らんか、長崎市より東の方日見峠を越え島原半島の對岸なる網場に出て、此所にて舟を賃し島原半島の西岸小湊温泉場の上陸し、夫れより東行し二里半札ノ原を經るや、山嶽中の最高點豐賢嶽(標高四千八百七十七尺)及び次高點妙見嶽眼前に迫り來る、漸く進みて右折し半里小地嶽・大地嶽の硫氣噴孔を看、温泉村に達す、村(海拔凡七百七十三米突)は古來硫黃温泉を以て名あり、硫氣噴孔四周に吹出す、其高サ二尺乃至五尺、時に一丈に及ぶことあり、頗る壯觀、温泉村より山嶽中の諸嶽に皆な登り得べし、即ち最高點たる豐賢嶽に登らんか、豐賢嶽に登らんとせば、案内者を賃し密樹の間なる徑を取り一時間半にして絶頂に達す、頂に垂直線狀なる岩柱あり、高サ八間餘、其の北面は日光より隱蔽せられ、十一月早く氷柱の懸るを見る、頂より四望せんか、北には筑紫海を隔て、筑後川の平原、肥前の群嶽雙峰の内に入り來り、東には熊本平原、阿蘇の火山を眺め、東南に霧島火山を看、南は眼下に天草の群島瑠璃一碧上に點綴し、西に長崎の諸海角を隔て、遂に五島列島を認め、眼界常達にして山海を掌上に弄して九州半面の景象躍然として眉端に集る、其の觀光無限、妙見嶽に登らんとせば、豐賢嶽より二時間にして達し得、即ち雜

多良火山群

温泉嶽 肥前國南高來郡ノ中央ニアリ、島原

町ヨリ三里ニシテ其山頂(普賢嶽カ)ニ達ス、標高四千四百八十七尺、(風景) 普賢嶽及び妙見嶽を中心とし、烏帽子嶽・吾妻嶽・宇嶽・舞臺嶽・榎木山・前山・岩上山・岩床山・野嶽・大崩山・矢嶽・高岩山・衣笠山・高嶽之れを四圍す、此嶽は日本にて未だ他所に認めざる岩石即ち角閃安山岩より組成し、花崗岩の如き外観

九州 阿蘇多良火山帯

あり、參詣者は大概八時間にて諸勝地を巡覽するを例となせども、健脚者は五時間にして遊覽し得、長崎市若くは島原町より登り得、試みに長崎市より頂に登り了りて島原町に下らんか、長崎市より東の方日見峠を越え島原半島の對岸なる網場に出て、此所にて舟を賃し島原半島の西岸小湊温泉場の上陸し、夫れより東行し二里半札ノ原を經るや、山嶽中の最高點豐賢嶽(標高四千八百七十七尺)及び次高點妙見嶽眼前に迫り來る、漸く進みて右折し半里小地嶽・大地嶽の硫氣噴孔を看、温泉村に達す、村(海拔凡七百七十三米突)は古來硫黃温泉を以て名あり、硫氣噴孔四周に吹出す、其高サ二尺乃至五尺、時に一丈に及ぶことあり、頗る壯觀、温泉村より山嶽中の諸嶽に皆な登り得べし、即ち最高點たる豐賢嶽に登らんか、豐賢嶽に登らんとせば、案内者を賃し密樹の間なる徑を取り一時間半にして絶頂に達す、頂に垂直線狀なる岩柱あり、高サ八間餘、其の北面は日光より隱蔽せられ、十一月早く氷柱の懸るを見る、頂より四望せんか、北には筑紫海を隔て、筑後川の平原、肥前の群嶽雙峰の内に入り來り、東には熊本平原、阿蘇の火山を眺め、東南に霧島火山を看、南は眼下に天草の群島瑠璃一碧上に點綴し、西に長崎の諸海角を隔て、遂に五島列島を認め、眼界常達にして山海を掌上に弄して九州半面の景象躍然として眉端に集る、其の觀光無限、妙見嶽に登らんとせば、豐賢嶽より二時間にして達し得、即ち雜

樹の間なる徑路を取り、若火口に入り大塊なる火山岩を踏み
 夫れより徑路其だ嶮峻、遂に絶頂に達す、頂よりの壯觀は皆
 賢嶽に譲らず、島原町に下らんとせば、左は温泉嶽右に高嶽
 の間なる窪地を過ぎ、空地なる火口湖を見、溪間に下り、又
 た登り、又た下りて前山の崎絶奇絶なる火口壁を見、平地に
 下り、遂に島原藩城下の市街に達す、(名勝) その温秀なる
 姿は九州に旅行するもの、皆瞻仰する所なり、高く雲表に聳
 え、下筑紫海に枕み、懸崖壁立、人これを攀づる事能はざり
 しを往年火發し崖崩れて海に入り、肥後の海溢れ瀝り、死す
 る者殆ど數を知らず、しかもこれが爲めに崖下に真港を築く
 ことを得るやうになれりと傳ふ、山嶽には曾てそこより絶大
 の噴火を爲したる噴火口ありて、其形恰も漏斗狀を爲せり、
 西麓處々に温泉涌出し、中にはその噴出數間の高さに出づる
 ものあり、(参考書)地學雜誌第三十卷、島原温泉嶽の記、地質
 學雜誌第三號「温泉嶽紀行、寛政四年噴出之熔岩流」
 温泉や湯女塚に立女郎花 三 千 風
 温嶽積雪 梅 外
 天外三峰秀、峻嶺積雪晴、翠杯迎緑色、掌上白盃々、
 温嶽晴露 佐藤子老
 嶽雪晴來寒曉光、塵煙仍向碧空颺、上清疑是群仙會、整出
 銀爐一炷香、



温 泉 嶽

豊仙屹立海中央、霧帯烟雲霞爲雲、前有蟬眉容嶽嶺、宛如
 季女侍阿環、湖山草木何若蔚、千古自鍾神秀氣、谷壑層氷
 夏亦凝、泉瀾飄沓冬猶沸、肥筑幽村與不少、三句一夢隨空
 杏、獨喜雲仙若故人、馬上升中常目眺、今日解纜天章津、
 一髮依々齊未了、

彦山 肥前國西彼杵郡ノ南方ニアリ、長崎市
 ヨリ二十町餘ニシテ其山頂ニ達ス、
 (地名) 山頂に彦山祠あり、

多良嶽 (別稱太郎嶽、多羅山) 肥前國藤
 津・東彼杵・北高來ノ三郡ニ跨ル、藤津郡多良
 村大字多良ヨリ三里十八町ニシテ其山頂ニ達
 ス、標高三千二百四十二尺、
 (風景) 四岸の大村町より登嶽、黒木二村を經登り得、頂に
 缺損せる若火口あり、頂よりの四望は、規模或は温泉山麓の
 普賢嶽に譲ると雖も、大抵は異ならず、頂より少しく南に下れ
 ば金泉寺あり、(地誌)味登嶽、方七八里に横延し、温泉嶽と
 南北相望み、遠景海中の孤峰に似たり、其東面筑紫海に於て、
 傾斜頗緩なれども、四面大村灣に於て急下す、故に西より登
 れば三里、東より登れば五里と云ふ、

一宮嶽 肥前國北高來・東彼杵ノ二郡ニ跨ル、
 登路一里二十町、

杵島山 肥前國杵島・藤津ノ二郡ニ跨ル、杵島
 郡龍王村大字坂田ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ
 達ス、標高千二百二十九尺、

黒髮山 肥前國杵島・西松浦ノ二郡ニ跨ル、杵
 島郡住吉村大字宮野ヨリ二十五町ニシテ其山
 頂ニ達ス、標高二千百十五尺、

大河内山 肥前國杵島・西松浦ノ二郡ニ跨ル、
 杵島郡住吉村大字宮野ヨリ二十五町ニシテ其
 山頂ニ達ス、

國見嶽 (別稱西嶽) 肥前國西松浦・北松浦ノ
 二郡ニ跨ル、西松浦郡大山村大字山谷ヨリ三
 十町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百三
 十尺、
 (地誌) 松浦半島の中心にして數峰之に據る、甚高峻ならず

と雖、亦一方の嶺山とす、其東側は稍急峻なれども、其他は山谷斷續、凡三大谷を成す、

平戸島

安満嶽 (別稱安萬嶽) 肥前國北松浦郡平戸島ノ北西方ニアリ、中野村ヨリ一里七町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百九十七尺、

壹岐島

嶽嶺 (別稱嶽辻、志原嶽) 壹岐國壹岐郡ノ南方ニアリ、武生水村字庄屋所ヨリ十七町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高七百二尺、
本宮山 壹岐國壹岐郡ノ北方ニアリ、香椎村大字可須ヨリ一里一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四百九尺、

霧島火山帯

狗留孫嶽 日向國西諸縣郡ノ北方ニアリ、飯野村大字大河平ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百六十三尺、

國見嶺 日向國西諸縣郡肥後國球摩郡ニ跨ル、西諸縣郡加久藤村ヨリ一里餘ニシテ其山頂ニ達ス、

國見山 肥後國葦北・球摩ノ二郡ニ跨ル、葦北郡大野村字鼻廻ヨリ二里八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百二十一尺、

ス、標高二千四百二十五尺、

矢筈山 肥後國葦北郡薩摩國出水郡ニ跨ル、葦北郡水俣村大字湯出字招川内ヨリ一里十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百六十八尺、

冠嶽 (別稱薩摩山) 薩摩國日置・薩摩ノ二郡ニ跨ル、日置郡串木野村大字上名ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高(中嶽)二千五百五十二尺、

《名勝》 嶽上熊野神社ヲ奉祀す、正祭九月九日なり、用明天皇ノ御代に、勅命に依り蘇我の馬子創立せり、山は岩石より成り峻なり、《藝考》東嶽・中嶽・西嶽ト云、東嶽高五十余間、中嶽高二十間、西嶽(此山標高千六百九十九尺)高六十余間ナリ、西嶽ノ形状風折鳥帽子ニ似たり、土俗三嶽ヲ併せて冠嶽ト稱ス、一説ニ、孝元天皇ノ御世、秦徐福來り玉冠ヲ留メシ故ニ名ヲ得たりトイフ、《風俗》四嶽ノ頂上ニ熊野神あり、用明天皇の勅命を奉じて蘇我宿禰馬子創建したりと口碑にいへり、山中老木蟠峨として疲瘠閑く、幽靜の一淨區にして、

シ、峰ニ至リテ一町ハカリノ處水ノ根ヲ攀テ漸クニ上下ス、此處ニ紫色ノ礫圓大木繁茂シ、絶頂ニ大杉一本アリ、此枝ヲ攀登テ諸方ヲ望ムニ、此山東ノ谷ノ向ハ薩州ノ内フケ山ト云、球摩郡ハ人吉ノ城始メ郡中ノ山々五家ノ庄、白鳥嶽・鹿見島ノ城山小林庄内、大隅霧島嶽ハ巖然タリ、當郡ノ内野角山(西ノ方ニ當ル)丸石(午末ニ當ル)箭筈嶽(申ノ方)山川野山(申西ノ方)佐敷垂尾嶽(戌亥ノ方)笠山(田浦牧山亥子ノ方)アリ、又云、國見峰ハ熊本ヨリ二十三里、御城ヨリ午末ノ間ニ當ル、御城ハ見ヘズ、山頂ノ狐燐臺ニ上レハ、金峰山ハ子ノ方ニ見ヘ諸山嶽々タリ、

鏡山 肥後國球摩・葦北ノ二郡ニ跨ル、球摩郡神瀬村大字大瀬字澤見ヨリ一里十町餘ニシテ

其山頂ニ達ス、標高二千三百七十八尺、

大關嶽 肥後國葦北郡ノ南東方ニアリ、久木野村大字久木野ヨリ一里十六町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百七十六尺、

鬼嶽 肥後國葦北郡ノ南方ニアリ、水俣村大字湯出字頭石ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達

奇峰怪岩、散見疊出す、中嶽の四十町餘に一の石窟あり、潤き五間深き三間高き一丈許なり、これを大岩戸と稱す、窟の一隅に蘇我燻草といふ一燈の燻草あり、絶えず繁茂せり、又東嶽の四二町許に仙の岩あり、高さ十二三丈、西北は削成せるが如き絶壁にして、飛鳥にあらざれば攀る事能はず、東南の方小丘に續きたる所に一條の島運あり、辛ふして登る事を得、岩の絶頂は平坦にして長さ二十間横入九間なり、中央に方三尺許深き一尺許の凹處あり、清水常に溜りて四時増減することなし、硯の水と俗に呼び、童子此水を硯池に滴らして書を習へば書道頓かに上達すと傳ふるが故に、わざ／＼竹筒を持ち行きて酌む子供もあり、此外鐘乳岩にて一條を成したるものあり、材木嶽と稱す、總て此山の風致幽閑にして怪奇なりと雖、攀登に不便なるが爲に、雅人の筈を曳く者多からざるは惜むべし、事の序てを以て此山に遊ばんとする人あらば、國道筋なる串木野大原にて車馬を乗り捨てたるべし、これより東行二里強にして達すべし、

文明戊戌孟夏十有一日、隨太守遊冠嶽、僧桂庵、徐福會從海外來、初知日域是蓬萊、仙園花木春常在、祝得邦君萬壽益、
仙葩花飛絳霄樓、滿筵佳士喜清遊、主人有德境愈顯、一嶽高擎冠九州、
從一神人來脫冠、仙工景象透天照、層岩萬丈絕岩水、雨不

深深旱不乾、
金峰山 薩摩國日置郡ノ南方ニアリ、田布施村大字尾下ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九十二尺、

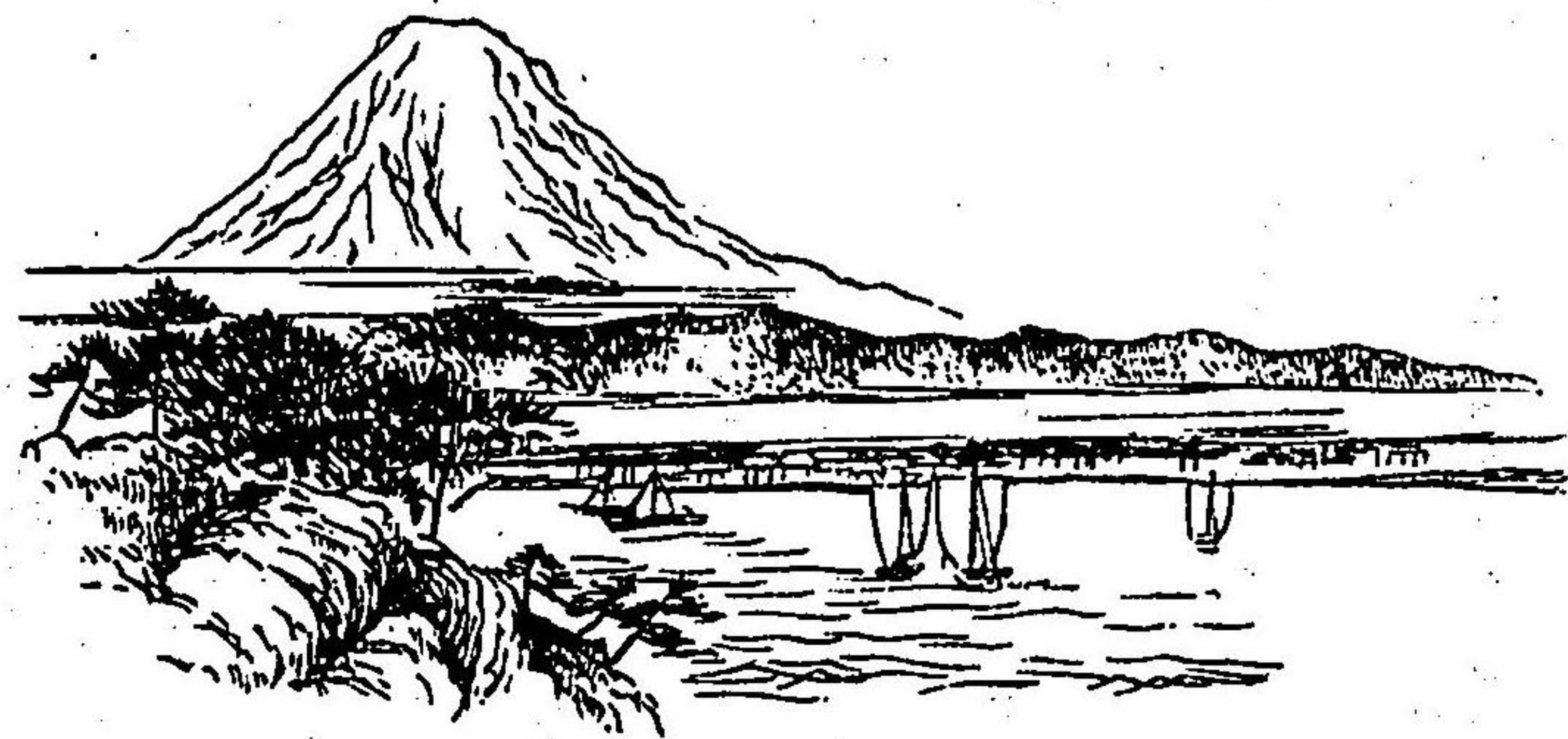
〔備考〕 絶頂三峰ヲ分ツ、本嶽東嶽北嶽ト呼フ、三峰峭突ニシテ、東北ノ兩嶽ハ本嶽ニ比スレバ稍低ク、其形狀山ノ字ニ似タリ、登路危急ニシテ三里ニ比スト云フ、本嶽ノ絶頂ニ藏王權現ヲ鎮座アルカ故ニ、一名ヲ本社嶽トモ云ヘリ、山中ニ此嶽ノ神使役シ給ヘル神馬住リトテ、山中ニ馬蹄ノ跡ヲ見ルコトアリ、又此絶頂ニ時トシテ鶴鳴ヲ聞ク事アリトゾ、往年金峰山ノ西麓ニ牧馬園アリテ、馬道ノ前日畜式ニテ牧司當社ニ詣テ神馬格殿アルベキ由奏セシトゾ、

母嶽 薩摩國川邊・楫宿ノ二郡ニ跨ル、川邊郡知覽村字郡ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

野間嶽 (別稱竹島古名笠沙碕) 薩摩國川邊郡ノ北西方ニアリ、西加世田村大字片浦ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百五十

〔名勝〕 野間嶽の中腹にあり、瓊々軒尊、木花開耶姫、彦火出見命を合祀す、一半島狀をなし三面海を繞らす、神代祀に遂登長屋之竹島とあれば、古へは竹島と云ひしならん、而して山脚は三面海に浸され野間岬となり波濤荒し、海上より之れを望めば、延々たる薩摩の連山遠く南下し、中部嶽島にて凸起し、末端開嶽再び元起し、其餘脈盡くる所野間嶽聳立し、風光甚だ佳に園壺を見るが如し、〔地辭〕其高頂を大嶽と云ひ、之に亞ぐを小嶽と云ふ、竹島は嶽島の嶽にして、長二里半横一里、其極端の高嶺角斗出凡二十町、之を野間の岬と呼ぶ、

開聞嶽 (別稱枚聞嶽、海門嶽、薩摩富士、筑紫富士、小富士、金疊山、蓮花山、長王山、空穂島) 薩摩國楫宿郡ノ南方ニアリ、額娃村大字十町ナル枚聞神社ヨリ一里八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四十九尺、〔風景〕 開門海角より豁然と突立し、秀絶なる富士山をなす、頂よりは琉球洋の群島を雙眸に収め、雄大真に絶壁、〔摘譯〕 鹿兒島市ヨリ十五里七町ニアリ、十三里山川村迄人力車ヲ通



嶽 間 開

ズ、海上波靜カナル時ハ、船ニ乘シテ山川ニ至ルナ可トス、
 (備考) 牧開神社ヨリ四ノ方六七町許山中ニ窟アリ、(此所ヲ
 俗ニ木花開耶麻生ノ跡ナリト云フ) 此所ヨリ絶頂マテ一里
 一町二十間餘、嶽ノ根ノ周圍三里十六町餘、三代實録ニ開開
 神山トアリ、俗ニ空穂島社傳ニ貞觀十六年、山上大キニ燃テ
 虛洞トナレリ、故ニ名ツク、往古ノ國ニハ絶頂尖レリ、炎上
 ノ時焚崩レテ圓クナリシトイフ、鴨若島(古事記ニ出タル彦
 火々出見命ノ沖ツ島カモツク島云々、トヨミマセルカモツク
 島ナリト云フ、妄説ナルヨシ) マタ筑紫富士・薩摩富士・小宮
 士等ノ名アリ、又金燈山、蓮花山・長王山・海門山等ノ名ハ、
 皆近世ノ人等方私ニ名付シナリ、(絶頂ニ石祠アリテ伊弉諾
 尊・伊弉册尊・大日靈貴・瓊々杵尊・木花開耶麻命・彦火々出見
 尊・豐玉姬命・瓊不合尊・玉依姬命ヲ祭レリ、後世ノ建立ニテ祭
 神社傳ニ依レルナルヘシ、例祭十月三日ナリ、ソモ、此嶽
 一方ハ若海ニ根サシ、一方ハ平地ヨリ屹立シテ、更ニ層岡複
 峯ノ相接スルナク、四面遠近ヨリ望メト、其形狀異ナル事ナ
 シ、古來稱シテ筑紫富士ト云フ、其名ニ耻レトナク、實ニ
 黒山奇峰ナリ、此嶽ニ登ルニ登路二筋アリ、其一ツハ嶽ノ西
 麓瀧浦ヨリ通ズ、即チ前ニイヘル窟ノ路ナリ、其一ツハ東麓
 川尻浦ヨリ通ズ、兩路共ニ七分目以下ハ茅艸ノミニテ其路稍
 寛緩ナリ、七分目以上ニ至リ急峻ニシテ數町ノ間雜樹叢生ス、
 是ヲ過レハ茅艸深クシテ人ノ長ニ勝レリ、西路八分目許ノ處

ノ岩間ヨリ清泉湧出ズ、水勢四季壯ンナリ、八分目以上氣候
 甚クシテ炎天トイヘトモ冬ノ如シ、絶頂ハ方七町許アリテ寬
 平ナリ、絶頂ニモ水泉アリテ四時増減ナシ、土人神泉ト稱ス、
 嶽上ニ細樹布生ストイヘトモ、烈風ノ爲ニ長大ナル事ヲ得ス、
 サテ西南ニ目ヲ馳スレハ、大洋數十里ノ中間ニ種子・益救及
 ヒ硫黄・黑燐・硫島等ノ諸島假山ノ如ク、往來ノ遠帆胡蝶ニ似
 タリ、東北チ順ミレバ平陸曠遠ニシテ郡邑指點スヘシ、近ク
 ハ池田湖明鏡ノ如ク、遠クハ鹿兒島ノ真海胡蘆ノ形ヲ成セリ、
 高隈・櫻島等ノ諸峰其外ノ衆山トイヘトモ皆俯視ニ屬ス、四望
 ノ奇景塔末ノ寫シ得ヘキニ非サルナリ、凡南島・琉球等ヨリ
 薩摩ニ歸リ來ル者ハ、海中ヨリ開開山ヲ見初メツル時ハ、船
 中必ス酒ヲ酌テ遙ニ開開ヲ祭ルヲ例トス、(此ハ當社ヲ俗説ニ
 神代龍宮ノ古跡ナリトイヘルヲ信シテサレ習ヒアリト見ヘタ
 リ)
 さつま湯波の上なるうづぼ島 近衛信輔
 これや筑紫の富士といふらん 兒玉 壽
 題海門山 僧 海 盤
 天南一嶽白雲封、風雨往來每淡濃、神氣凝然終不變、長傳
 筑紫小芙蓉、
 上松峰山望海門嶽 僧 海 盤
 松峰山上梵王臺、櫻島風烟入勝來、曳鏡更登高處望、海門
 遙接霧中開、

飯盛嶽 日向國西諸縣郡大隅國始良郡ニ跨

ル、西諸縣郡加久藤村大字西長江浦ヨリ一里
 三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百九
 十三尺、

(提要) 山形四面一ノ如シ、

白鳥山 (霧島山ノ支峰) 日向國西諸縣郡ノ南

西方アリ、飯野村大字末永ヨリ二里十八町ニ
 シテ其山頂ニ達ス、標高四千四百九十八尺、

西霧島山 (別稱西嶽、韓國嶽) 日向國西諸

縣郡大隅國始良郡ニ跨ル、西諸縣郡飯野村大
 字末永ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五
 千六百十尺、

東霧島山 (別稱東嶽、矛峰、オタケ、古名

高千穂峰) 日向國西諸縣・北諸縣ノ二郡大

隅國始良郡ニ跨ル、西諸縣郡高原本村大字浦牟



村川荒口 村島霧イ

田字祓川ヨリ一里十六町餘、始其郡東巖山村
大宇田口ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高
五千九百九十四尺、

〔風景〕日向國四階縣・北階縣二郡より大隅國西階縣・桑原二
郡の間に跨る一大火山帯たり、山麓の峰頂は大概尖圓錐形
を呈出し、所謂錐頂を現はせども、東端の高千穂峰は極めて鋭
尖なり、四方の嶺嶽も亦た尖頂を呈出し、一瞥火山たるの
象あり、高千穂峰即ち東霧島山、海拔一六五七米突、韓國嶽
即ち西霧島山、海拔一六七七米突、霧島山麓の最高點、噴煙土
大なる活火山あり、數個の活火山あり、數個の火山湖あり、數
個の硫氣噴孔あり、數個の温泉、白鳥・硫黃谷・硫霧・明礬・榮
ノ尾等あり、要するに后土の大活力を認識し、以て君か胸宇
を宏快し、以て君が意氣を豪爽ならしめんと欲せば、須らく
此山に登臨して大奇を深らん哉、霧島市若くは宮崎町(日向)
より登り得、試みに霧島市よりの途を取らんか、市より汽船
に搭じて霧島灣を北航し、風光明輝なる間を渡過して灣の北
端加治木に上陸し、夫れより火山岩の化成せる奇巒奔放なる
景象の間を經、宮内八幡社の蒼翠なる樹陰に憩ひ、漸く桂
坂嶺を越ゆるや、人は宛然大雷園の中に入り、頗前に霧島の
諸嶽長揖し來り、高千穂の噴煙道として天を衝き、韓國嶽
の絶頂蒼蒼を摩するを看、左に薩摩の連山・櫻島山・開聞嶽奔

馬の如く南走し去る、加治木より馬上半日間にして霧島温泉
に達す、温泉に浴し了り、石階を登りて霧島神社に詣て、社
側に憩ひて南方霧島灣の好風景を眺望し、且つ此所(海拔凡
四百五十五米突)より漸く高千穂峰に登る、高千穂峰即ち東
霧島山に登らんとせば、霧島神社より道路を左折し、森林の
間を直歩すること四十分、海拔凡六百八十米突の所に到りて
森林を去るや、絶頂は目前に迫り來り、徑路却て漸く峻峻な
らざ、絶頂の四側を過ぎ幾回か曲折して火山岩灰を踏み、遂
に火口の西北側に達す、口の「直徑」凡四百五十五米突、周
二千米突、深サ凡九十米突、口の四側「御鉢」より硫氣と水蒸
氣とを噴出し、其響轟々起りて天空を覆ひ、眞個に跌宕雄渾
を極む、火口より愈々登り、遂に絶頂に達するや、眼界壯宏、
霧島・都城・宮崎の市街所在の平野・櫻島山・開聞嶽を俯瞰す、
頂に所謂神代の靈物「天ノ瓊矛」立つ、黃銅の鑄造物にして、高
サ二尺四寸八分、最上部の幅五寸六分、左右圍むに火山岩石
を以てし、上部と東部の二面のみ開く、「瓊矛」の最下部より
高サ一尺七寸の所に人物の鼻二個射出す、一は東に面し、一
は西に面す、即ち一身二面の姿にして耳目鼻口井然とし、
眞に奇物たり、霧島神社より絶頂まで二里半と稱す、三時間
にして輦ち登り得、韓國嶽即ち西霧島山に登らんとせば、高
千穂嶽を下りて榮ノ尾温泉場に到り、登ること一時間にして
火口に達す、周回凡三千米突、深サ凡二十六米突、口内空池

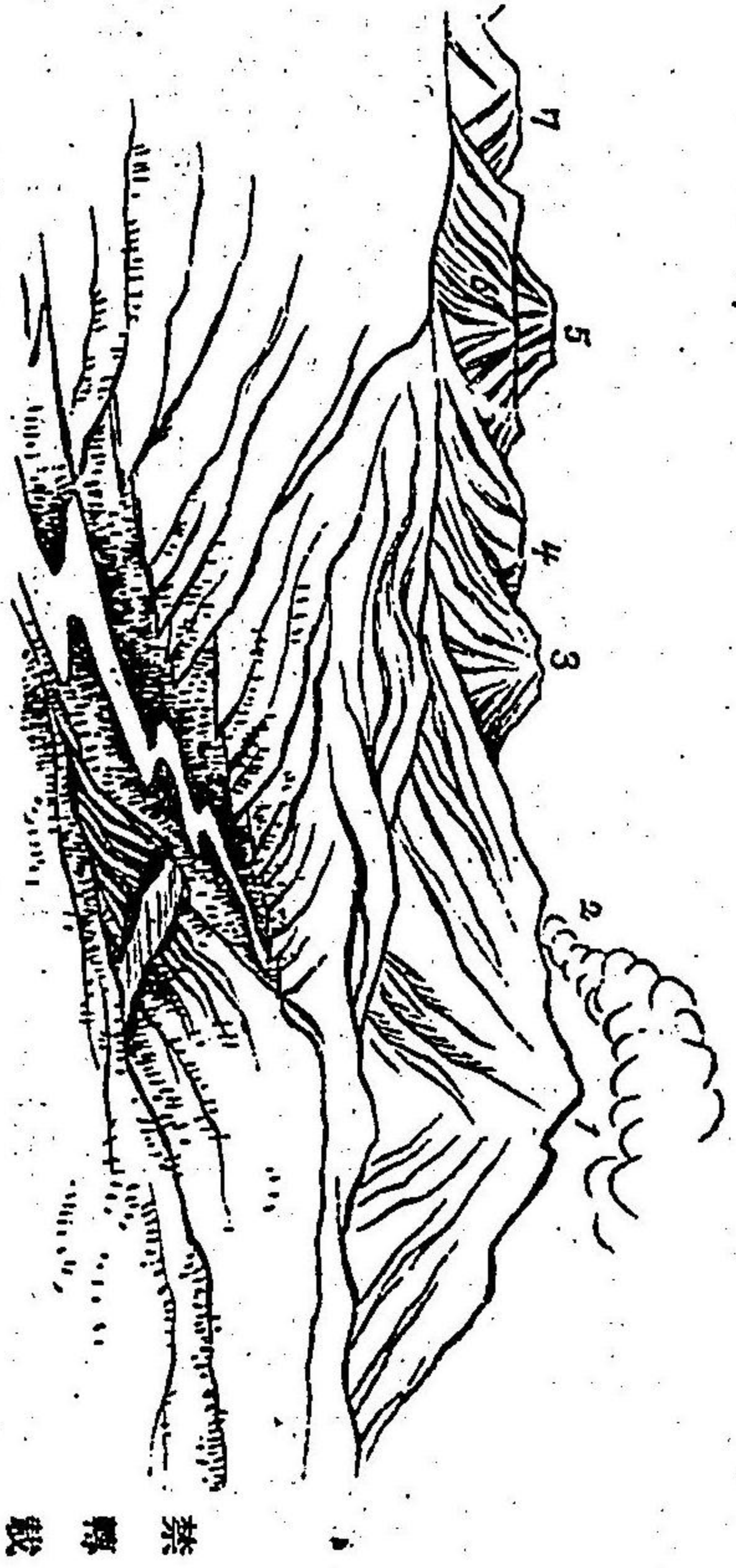
にして火力全く火力全く熄滅し些も噴煙を認めず、夫れより
懸征・瀧木の間に過ぎり絶頂に達して四望せんか、東に富士山
狀の夷守嶽・丸岡嶽迫り來り、二嶽の麓に大烟池・空池・枇杷
池の三火口湖あり、東南に矢嶽・龍王嶽・新燃嶽・中嶽を看、三
角形なる高千穂の峰尖其上に挺立し、噴煙天を衝くを認む、眼
を南に轉せんか、脚下に大浪池の火口湖あり、水面一碧琉璃の
如く、湖畔檜樹蒼蒼、愈々湖面の碧を添ふ、池の南に燒地嶽・硫
霧嶽あり、北には鉾立山・飯盛嶽・飯盛各々孤登し、其間ビヤク
チ池・白鳥池・不動池(周回凡二千五百米突)の三火口湖を觀る、
榮ノ尾より絶頂まで二時間半、(摘要)東霧島山ハ地方ニテお
たげト云フ、宮ヨリ火口迄二時間半ヲ要ス、(備考)高千穂峰、
一名ヲ霧島山トイフ、一山ノ中ニ東西二峰アリテ、東ノ方ナ
ルヲ東嶽又ハ矛峰トイヒ、西ナルヲ韓國嶽又ハ四嶽(若野嶽・
霧嶽等ノ名アリ)トイフ、此東西ノ峰一里許リ隔リ相對シテ、
衆峰ノ中ニ殊ニ高ク秀タルハ二上峰ト云リ、北窓環眺(橋春
原著書)ニ日向國高千穂トイフハ、彼國ニテク所アリ、一ツハ
霧島チイフ、又一ツハ高千穂トイフ山アリテ豊後ヨリ日向ハ
越ル道ナリ、余考フルニ神代ヨリ云フ所ノ高千穂(即ち遺々杵
尊天降ノ地)ハ今ノ霧島山ナリ、諸書ニ多ク霧島山ニハアラ
ストイヘドモ、是ハ彼ノ地ニ至ラズシテ臆斷セル故ナリ、昔
ヨリ日向國高千穂ニ上峰ト稱スルハ、其山ニ峰アルニ因テ名
付タル事明カナリ、今ノ霧島山東西二峰アリテ相對ス、九州

第一ノ高山ニテ、他山ノ比スベキニアラズ、今ノ高千穂トイ
フ山ハ衆山ノ中ニアリテ秀タルニハアラズ、殊ニ二峰アルニ
ハアラズ、彼ノ地へ至リ見ルハ、高千穂ノ霧島ナル事言サ
マズシテ知ルベシ、先ツ高千穂ノ絶頂ニ登ルニハ、先ツ國
府郡濱市(霧島ヨリ海上八里)ヨリ巖山郷桂坂トイフヲ登リテ
霧島神社迄五里十八町、夫ヨリ東嶽ノ絶頂迄三里、合セテ八
里十八町ナリ、山足ノ周回凡ソ四十餘里ナリ、(庄内)都城三
俣・小林・飯野・會山・師・財部・加久藤・眞幸・高原・吉松・栗野等
ノ諸郡ニ係リタリ)又此路ヨリ東方國府郷ノ麓ヨリ一路アリ、
關ノ坂トイフヲ登リテ又坂アリ胸副坂トイフ、此アタリノ總
名ニテ、坂ヲ登ル事半里許リ甚々急峻ナリ、登リ果レハ四方
荒野ニテ、此地書紀ノ一書ニ磐穴胸副國(ソシ、ノムナソヒ
クニ)トアルニ疑ヒナシ、サテ霧島神社ヨリ八町許リ登リテ花
立石ト云フアリ、其形チ花ヲ挿頭タルニ似タレハナリ、此ノ
山半腹ヨリ以下ハ四方深山幽谷ニシテ、其ヨリ以上ハ更ニ草
木ナク、只燒石ノ中ニ眞碧ノミ生茂レリ、花立石ヨリ又登ル
事三十町餘ニシテ矛峰ト韓國嶽トノ間タル背戸嶽ト云ニ至
ル、兩峰ノ間ニテ凹ナレハ然云ヘルナリ、是ヨリ尙登ル事十
町餘ニシテ勸請堂トイフニ至ル、往古霧島神社此所ニ鎮座ア
リシ故ニ、續後記ニ半神トハ祀セルナリ、今東西ノ峰ノ間ニ
巖山郷田口村ヨリ小林郷ニ越ル道アリテ、其處ヲ瀨多尾トイ
ヘドモ、其ハ後ノ事ナリ、サテ矛峰ト火常峰トノ間ニ別當瀨

(474)

戸尾寺ノ勝アリテ、不動ノ石像一基今ニ原野ニ殘レリ、此所ノ岩間ヨリ清水ノ滴ルヲ御手洗ト唱ヘ、參詣ノ徒是ニテ身ヲ清ム、此ノ邊映山紅多シ、此處ヨリ登路殊ニ急峻ナリ、數町登リテ火常峰ノ下ニ至ル、此峰今ハ千仞ノ谷ト成リテ俗ニ眞鉢トイフ、此邊スベテ砂礫燐焦シ、谷ノ底常ニ烟氣沸湧シテ砂礫飛ヒ或ハ鳴動ス、眞鉢ノ間リ凡ソ半里ナルヘシ、此峰燃サリシ前ハ牙峰ト立チ並ヒケンサマ察セラレタリ、サテ眞鉢

ノ邊ニ一線ノ路アリテ其闊サ六尺許ナレト、中高ク左右低クシテ値ニ足ヲ容ルヘシ、此ノ處馬ノ脊ニ似タレハ俗ニ馬脊越トイヒ、又眞鉢廻トモイヘリ、左右千仞ノ谷ニテ燐焦レタル砂礫ノ上ヲ踏ミ行ク故ニ、歩ニ隨ヒ砂礫左右ヘ崩レ墜ル音聒鳴ノ如シ、此間八町許リナリ、爰ニ至リテ職懐恐怖セサルハナシ、風烈シキ時ハ匍匐シテ行キ、新井白石露島記ノ文中ニ、烈燄中起聲如震雷、觸壁崖石、石勢欲飛、衆皆心悸欲去、道



圖ノ望一山島霧方北リヨ山通



圖ノ望一山島霧北西リヨ峰穂千高

- | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|---|------|----|-----|---|-----|------|---|
| 池頂大 | 6 | 鉄國尊 | 5 | 鉢蓋新 | 4 | 線 | 中 | 3 | 鉢 | 御 | 2 | 峰穂千高 | 1 |
| 珠玉龍 | 12 | 鉄守夷 | 11 | 山岡丸 | 10 | 線 | 坂 | 9 | 鉄野栗 | 8 | 鉄島白 | 7 | |
| | | | | | | | 湯ノ懸霜 | 14 | 線 | 矢 | 13 | | |

懸井口、築圍一様、而又外傾、下處無際、目視而兩脚不伸、殊不可止、匍匐而行、攀緣而下、去井稍遠、顧視其險、始發窮途之嘆、ト記シタルハ、能ク此所ノサマヲ摸シ得タリ、辛クシテ此處ヲ過レハ地形稍低シ、此處火常峰トテ峰トノ境ナリ、是ヨリ又登ル事十町餘ニシテ牙峰ノ絶頂ニ至ル、櫛々石ヲ踏行クニエニ、一步ヲ進ムハ十歩跡ニ復ルノ勞アリ、嶺ハ稍平カニシテ廣サ四方一丈許リ也、往古ヨリノ習ヒニテ委脂

ノ徒各一石ヲ携ヘ登リテ絶頂ニ安ス、其ノ石積リテ一丘ヲナセリ、牙ハ其中央ニ樹テリ、此アタリ燐焦多シ、サレト彼ノ映山紅トイフ深紅色ナレハ、數度ノ炎上ニ燒テタマヘシ殘ルモ、委脂ノ徒根コシツクシテ、今山中ニ多カルハ常ノ燐焦ナリ、(爰埃隨筆ニ今東武ニテモテハヤスキリシマト云フ燐焦ハ、寛文年間、藤堂和泉守露島山ヨリ取り寄セテ秘藏シ、後々多ク取寄セテ染井ノ下タ屋敷ニ植タリシナ、染井ノ里ノ

(475)

植樹屋伊兵衛トイヒシ者接木ニシ又挿木ニセシヨリ、今東武澤山ニ成リヌ、霧島ヶ嶽ニアリシ花故ニキリシト呼リ云々、又京都四條映山紅寺ノ境内皆キリシマニシテ、季春ノ比ハ土地ノ實賤群集シテ花ノ下ニ慰ヒテ遊遊セリトアリ、今霧島ニハカヘリテ種ナリ)サテ絶頂ヨリ四望スレハ、封境ノ内外雙陣ニ臨シ、四海ノ大洋腹ノ内ニ壘カ如シ、此山ノ四方八而薩摩・大隅・日向ノ地云フモ更ニテ、西北肥後・豊後ノ高山モ只目下ニアリ、其ノ外遠近ノ群山連峰皆此山ニ臣從セルカ如シ、霧島ノ冥海ハ湖水ノ如クニテ櫻島ハ假山ニ似タリ、此ノ山國內ノ名山ナルノミナラズ、掛窓ヅモカシコキ天孫降臨ノ靈地ニシテ、實ニ四海第一ノ名山ナリ、又此ノ山神奇靈異特ニ著カ故ニ、登臨ノ徒期セズシテ清淨敬慎ノ思ヲ生ス、若シ神明ヲ恐レヌ禁戒ヲ犯ス時ハ、忽チ山鳴リ谷動キ、怪風陰雨起リ、白晝闇夜ト成リ、或ハ幽霧ニ迷ヒ、或ハ毒蛇猛獸ノ跡ヲ破ル者、古今少カラズ、往年或ル人富士山ニ登リ、俯シテ東西ニ日輪ノ出沒スルヲ見ル、實ニ天下ノ雄觀ナリトイヘトモ、高千穂ノ嶽ニ在リテ忽チ邪僻驕慢ノ心消盡シ、期セスシテ敬畏恐懼ノ心生スルニ至ルニハ及ザルナリト云ヘリ、又山中ニ仙境アリテ、薩摩國市來郡伊作田村ノ百姓善五郎トイフ者屢至レル事、八田知紀方著シタル幽都紀聞ニ詳ナリ、凡ソ此山ニ登遊セント欲フ徒ハ、春秋ノ二季ヲヨシトス、サレハ春ハ霞深クシテ遠望スルニ善カラサレハ、秋ヲ第一トス、嚴寒密

霧ノ候ハ、陰風動ク衣ヲ捲キ膚ニ薄シ、青天白日トイヘトモ、忽チ雲霧四合シテ咫尺モ辨ヘカタク事少カラズ、サテ下リニ臨ミテハ足モ踏留カタクシテ、登臨ニ比スレハ其勞半ニ過ス、又嶽頂ノ不峰ヨリ一層高クシテ、中嶽ヨリ以上ハ更ニ草木ナク、只白石堆土類垂テ、遠望スレハ積雪ノ如シ、此嶽特ニ登路險難ナレハ、絶頂ニ登ル者稀ナリ、半腹ニ大波ノ池アリテ、東西三百間、南北二百間、其ノ色紺青ノ如クニシテ深サ量ルヘカラス、土俗傳稱シテ神龍蟠居ストイフ、此池ニ至ル者喚喧チナシ、或ハ紅染ノ帨巾ヲ懸キ飄ヘスチ戒ム、モシ禁ヲ犯ス者アレハ、忽チ雲霧起リ風雨雷鳴暴疾ニ及フ、愕テ山下ニ下レハ白日青天ナル事多シト云フ、又山中處々ニ大小ノ池アリテ、其ノ數四十八アリ、左ニ舉ゲ、長池(縱五十間東西四十間南北)鉢池(南北百間東西八十間)鱒見池(縱橫各十五間)後庵池(縱橫各十五間)金剛界池(縱橫各百五十間)胎藏界池(縱百六十間橫十八間)琵琶池(縱五十間東西四十五間南北)大沼池(縱三百間東西二百間南北)弓弦菜池(廣荷田池(以上會於郡郷諸郷)雄池・雌池・龍山池・虛池・肌間池・御手洗池(以上高原郷)不動池・速見池・山神池・柳池(以上郡城郷)小畑池(小林郷)紫池・岩屋池・六觀音池・龍泉池(以上飯野郷)石原池・杓子池・淨原池・岩屋池(以上吉松郷)三月月池(栗野郷)澤田池(財部郷)米池(加久藤郷)澤見池(馬鞍田郷)ニテ、是ヲ霧島山中四十八池ト唱フ、弓弦菜池ヨリ以下ハ霧島ノ四方

ノ山足ナリ、又此山中ニ温泉餘多ナリ、(日案)四嶽ノ頂に登るときは薩・隅・日ノ三州を脚下に瞰み、一望萬里水天際涯なく種子・屋久の諸島又雙陣に入り、氣晴るるときは遠く嶺山の一角を望むことを得べけれ、又薩國山とも云ふ、くしふるの山に霞めるはるの雨 元 長 天つそちよりくだるとぞ見ん

宿霧島山 僧 海 堂
南溪探遊薩城邊、萬里春晴四望懸、更見驚羊千仞頂、焚烟不斷散青天、
急流巖石亂山重、古木千年神氣鎮、曉望天牙何處在、紫雲一帶擁危峰、
谷 口 藍 田

天の逆針 橋 南 溪
むかしあめつちいまだひらけざりし時、册諸二柱の御神、天の浮橋の上より霧のうみを詠め下し給ふ、小島の如くにかゆるものあり、二柱の御神、天のとほこを以て是をさぐり見たるに國なりければ、則此とこるに跡をたれ給ふ、是霧島山と名づくる由來にして、其針を逆しまに下し給ひしか、今に至り其まゝに此山の絶頂にたて有るを天の逆針といふ、誠ニ神代の遺物にして奇絶の品、又外に是を比すべきものなし、人々皆珍らしと尊びて拜せんことを希ふといへども、此霧島山格別の高山にして、殊に火も(風動き、

其外種々の神變不思議異珍多ク、登るもの不時に紛失する事毎度の事ゆへに薩州の人といへども恐れて、絶頂に至る者すくなし、予久敷この逆針の事聞居てゆかしと思ひ居つれば、鹿兒島逗留の時節志を起して登らんと思ふ、然るに山中に奇怪多しと聞けば、召連し僕などは凡庸の者なれば、もし恐れて紛失などせば悪かるべしと思案して、旅宿(集會の人の中にて振分しに、旅宿の近きあたりに年若き勇壯の男子ありてわれこそ其山へ同道すべしといひしかば、則打つて只二人霜月八日といふに、薩州鹿兒しまを立て日向國におもむく、薩隅日三州は、嚴寒のときといへども露霜を知らぬといふほどの暖國なれば、かゝる高山へも霜月に登らるゝ事なり、ことに此年は格別だんきの年にて、此ころやうく縮入一ツ着するくらの事なりしかば、少し時節もおくれしかどおもひ立ちしなり、扱海陸二日路をへて霧しま山に入り、數十町のほりて霧島の宮居の前に若く、二神垂跡の地なれば、宮居今にいたり殊に美しく、此近國にての大社なり、伏拜みて黃昏に及びぬれば、傍の山下坊といふ坊に宿す、この坊にて先達の案内者を背の間にやとひ、明朝夜の間より登山す、雜樹生ひしげり日かげだに洩らざる程の山を、しかとしたる道すじも見へざるに、具案内者のあとに従ひひたのばりに登る、その間奇樹異草、名もしらす目なれぬものはなばだ多し、これは南方暖

氣の山なれば、生くまの品類も多きなるべし、全林草木北國の山などは格別に種類多し、かくのごとき所を五十町のほりつくせば、それより上は樹木一本もなし、只芝の如き草のみ生ひたり、其ところにはたれば四方斷絶とうちはれ、薩摩、日の三州一忽の中にいりて、衆山は波濤の如く、大海は脊壘をきたるがごとし、其中に櫻しま山突然と秀て、盆石をおきたるがごとし、絶頂より白き煙り四時に立のぼりて香煙のごとし、景色無難筆につくしがたし、さて件の草ばかりの山をのぼる事又五十町、それより上は草もなく、只粟ほどのやけ石計なり、こゝに至つて登りますすゝ急峻なり、扱このあたりよりうへ段々の階をのぼりしがひ天地の氣しきや、變じ、不時に下の方より雨そそぎ來り、あるひは風よこさまに來る、又眺望のいとまなし、それより二十町ものぼりて馬の背越といふところにいたる、また御鉢めぐりともいふ、此ところはほら才平にゆくといへども、左右皆谷にて劍の刃の上をゆくごとく、足のふむところ横に馬のせなか程なれば、馬の背(こ)とはいふなり、足をこへば粟の如くなる礫石左右のたにへなたれ落る、其行ところの狭きをしるべし、さて左の方は萬仞の谷にて、底は雲にて眼及ばず、右の谷はふかき三四町あるひは五六町にて、谷にみちて猛火燃へあがる、此馬の背越にかゝりて後は、只何となく變動して、地軸只今くだけられて、此

山微塵に成るやうに覺ゆ、また歴きふもいわれぬ氣ふき來り、あるひは墨の如くなる雲うづまき來り、同行のものさへも一向にかくる事もあり、あるひは前後左右に異形の雲煙あらわれ、鬼神の如く佛神の如き事もあり、あるひは足下より虹たちのぼり、たて横にたなひきて縋りなせるか如くなる事もあり、又天地ともに金色になる事もあり、其外奇怪ふしきなかゝいふもおろかなり、靜に是を考ふるに、是皆谷一面の猛火によりて又陰氣もあつまり來り、火の上にも雨そそぎて雲霧覆ふが故に、水火相激して震動雷電し、又水火蒸騰によりて種々の形みゆるなり、又硫黄硝の氣あるうへ、それに水をそそぎたるゆへ、種々の匂ひもいづる事なり、又折々一陣の風ふき來る事あり、此ときは先達教しへて急にうつ臥に倒れふさしむ、匍匐にならされは風の爲に此身をとられて、猛火のうちに舞ひ落るなり、折ふしは風の爲に取らるゝものあるゆへに、此山にては紛失する人多しといふなり、予も殊に此かぜを恐れて、少しの風にも急にうつぶしになり地に取付て、風にはなたれざるやうにせり、しばしにてまた忽に風もやみ天はるゝこともあるなり、須臾變幻定りある事なし、此ところに取かゝりしより、さしも勇氣の若もの大に恐れ足震きて立事あたはず、われと先達と前後より介抱していろくんと馳しめ助し、しばしが程は引行しかど、後には目見へず顔色變せし

かば、いかんともしかたなくほとんどの難儀に及ひしに、先達いふやう、けふは山も格別にあらし、殊にかゝる人引具し行ん事、いかにも叶ふべからず、登山も是迄なり、これより下山すべしといへば、力及ばず本意なくそれより下りに向ふ、扱夫より纜に十町ばかりを下れば、天氣晴明にして風おむるに、四方の眺望初め如し、しばらく休息して焼飯なと食し、こゝを眺めしかば、若ものもしけき常の如くにして、さきにはいかにしまかばかりは恐ろしかりつるにや、と三人打わらふ程なり、われつらゝおもふに、かゝる事ありて妨げにもなるべからんかとて、凡庸の人か同道せざりしなり、然るに今若ものが爲に予までも絶頂をきわめずして是より下山せん事、生涯のいこくなるべし、何とぞして一人なりとも登りたきものなとおもひめぐらして、先達にこれより絶頂までは道程いかほど有ると問ふに、馬の背越の長さ八町、それを過て急にのぼるところ十町ばかりもやあらんといふ、それなれば纜の道なり、粉れ道やあるかと問に、兩方谷なれば紛るべき道なしと言ふ、さらばあまり残念なれば、予は獨歩して絶頂に登るべし、此ところ若ものを守り居てわれか下り來るをまちくれよ、これより下は案内なくては一步もすゝめがたければ、かへすゝも頼なりといひすてゝ、とむるをきかて足をばかりにのほりしに、件の馬の背こゝに至れば、天地たちまち變

じて初め如く、先達がおしへに任せ折々ばうつぶしになりて風をさげ、千辛萬苦して馬の背越八町が間走りぬけたるに、先達がいひし如く、それよりは眞直に登る所あり、此ところにいたれば、天地又常の如くにして奇怪なし、只いきを限りに登る程に、つゝに絶頂にいたれり、絶頂は尖りて纜の地面に天の逆針あり、是を見得しときうれしき何にかたとへん、逆針のありさま、全林は唐金の如くにかへたれども、風霜にさらせるものなれば、背く錆てしかとされがたし、長さ一丈餘ばかり、ふとさ大なる竹程にてさかさまに地中にたち、其石突の端の所に甕面に鬼面の如きものみゆ、是も雨霜にされたれば、鼻・目しかとは見へがたし、土中に入りたる先きの方は、何程深く入りたるやしるべからず、只絶頂に此針一本のみにて、外に堂宇等の如きもの一ツもなし、神代の舊物なりや、其程はしらすといへども、實に三百年五百年位の近きものとは見へず、天下の奇品なり、もし銘なども有るや、とくわしく見しかども見へず、しばらく此絶頂に徘徊するに、天氣晴明にして、四方目の及ぶ限りみへ渡り、其心地よき事今に忘れがたし、されどもかゝる所は久敷留るべきにあらずれば、いそぎ下りたるに、馬の背越にいたれば、又初め如く天地晦冥して怪異益はなはだし、ことごとく筆に盡すべきにあらず、殊に山上の有さまは人間に洩さざる山法なり、蓋なく馬の背越をこ

へてひた下りに下るに、遙の下に先達若ものかすかに見へて大豆のごとし、嬉しくていそぐほどに、下るとはなしにすべり落て、須臾の間に二人の前に着ぬ、恙なかりし事のみともに悦び、其夜くれ過る頃宮居の傍の坊にかへりぬ、元來急峻なる山なれば、百五十町の間なれども、下りには甚速にて暫時に下る事なり、今度の登山暴虎馮河の勇なりしかども、もし馬の脊より下り來ては、生涯のいこんなるべからんものを、よくも絶頂を極めたりぬ、宮居より左右に分れて四のみれ東の峰といふ有り、登る所は東の峰なり、東西只二峰のみなれば、登りかゝりてより絶頂に至るまで只一筋に登る事なり、他國の高山は多くは登る所もあり、又下る所もあるものなるに、此山のみ水筋にも従がはず、只登りにのぼるのみなり、ふじ杯の登りに似たりといふべし、山の高き事思ひやるべし、かく二峰東西に對し登へたる故に、昔より高千穂の二上嶽といふ、神書にいふ所の山是なり、別に近世の人高千穂の峰といふ山此國にあれども、甚の小山にして、神書にせる山にあらず、高千穂の峰といふは此霧島山なる事、種々の楮なる証據あり、此山に登るものはおのづから知るべし、白石先生をはじめ諸先賢、只今世に稱する所の高千穂を神代の舊跡といはれしは、身其地に遊ばざるゆへに眞跡をしらざるなり、二神垂跡の義天の逆鋒の嶽など、皆予深く考ふる所有りて一既あれども、

こと長ければ別にしるして此書に略す、四の峰も高きは東の峰におとらず雲間に變へぬれども、神跡にあらざるゆへに、世の人のぼる事なし、只此山の高くしかも廣く大なる事無量なり、麓のめぐり三十六里、山の中に大なる池五六十もあり中にも大波の池、紫の池などは、めぐり三里もありて湖水のごとしといふ、此山には蟬蛻多く住て池の邊最多く、樵者といへども池の邊には行事なし、もし池近くを通る時には無言にて通るとなり、人語のひびきを聞けば大蛇かならず出て人をむといふ、又野馬といふものありて、形馬の如く髪長くして地に引き、おそろしき姿の獸なれども人を害する事はなしと也、わが山にのぼりし時、初めに案内のもの此事をいひて、もし見給ふとも驚き給ふべからずといひし、予もし見ば珍らしかるべしと思ひしかども、折悪敷て出ざりき、其外種々の毒蛇、黒蛇、大蛇、大蝦蟇等夥しとなり、是は南國ゆへかゝる高山深谷なれども、尋封する事なく常に暖氣なるうへに、格別に廣くて人跡かよわざる幽僻のところ多きゆへに、萬物生しやすく、冬も登せずして、かゝるものども多しと見へたり、北國にも越中の立山などは、高く廣き事霧島山におとらざれども、四時聲封じて生類は住事なりがたきゆへ毒蛇猛獸ある事なし、只鳥獸草木の類種の多きは、天下此きり島山に勝るところはあらじとぞ覺ゆ、又山中に温泉の湧所も數十か所あり、

硫黄のいづる谷もあり、水筋は馬の脊越邊の谷底に日かけにかゝりて遙に鏡のごとく、或は月出の如くみゆるもの所々に有り、其大なる事思ひやるべし、しかれども絶嶽のところにて行かたく、殊には其邊神變ふしき多き邊なれば、砂一粒といへども山神のいかりに觸るとして、とる人なし、又黒尊とて千丈の黒岩をそよよりはへぬきたるあり、奇絶奇語に及ばず、其外いろ／＼の珍奇いひつくすへからず、此山中に一月も二月もありてみめぐらば、面白き事限りあるべからず、されども中々仙骨をえざれば叶ひがたき事なり、すべて天下の高山は、役の小角、禰尊などの開山多きに、此霧しまやまのみ佛者のいまだ手を付けざる所にして、只開山伊諾・伊非の二神とやいふべき、誠に珍敷き山なり、(長齋の霧島山記、重覆ノ嶽アレドモ、和漢文ノ對照モ趣味アラシカト、次ニ掲ゲヌ)

霧島山記(橋南溪東西遊記、山川物産之奇、榮如列眉其中霧島山尤偉麗、讀之不勝神往、因譯國字爲漢文、以充風遊、與同好者共焉) 安 積 良 齋

霧島山在日向州、高四十里、周圍三百六十里、相傳鴻荒之始、册諸二神、從天橋俯視、見海霧中有小島、乃以針探之、遂降臨、因以名焉、其針至今創立山頂、世稱之天劍針、誠神聖之靈蹟、遠古之遺器也、但峰嶺崇峻、岩谷深阻、多風火雷電之異、登者往々失所在、故能極其誠而觀所謂劍針

者少矣、南溪遊四州、抵霧島因欲登觀焉、而非有膽力者不可併、會一少年乞結伴、意氣甚可壯、乃以仲冬初八發、大抵日晴隔三州、溯南海、氣候溫煖、雖嚴冬不見冰霰、是歲最暖、惟御一綿衣、經水陸二日、始達山下、陟八里許、有廟甚宏麗、晚投祀史家、詰朝備饗道俱登、霜水摩天、陸霧登晦、惟踐導者之迹而進、直上十五里、巖然無草樹、四望空濶、三州諸山、環拱起伏如翠浪、遙見海水汪洋中、孤峰突起、巖然瑤鶴盤上一點嶽也、導者云、是薩之櫻島山、又登十五里、山益峻、燒石大如栗者、撒布路上、天忽冥冥、暴風揚沙、怪雨雲々、自谷底倒捲而上、不覺毛髮森豎、又登八九里、路稍夷、而左則絕崖萬仞、雲烟密布、亂不見其底、右亦淺谷數十丈、中間通人處、如行鳥翼上、曰馬脊越、稍進、燒石積步崩下、鑿々有聲、須臾猛火炎熾、發于谷中、雷電殷輦、山鳴谷應、腥臭之氣撲鼻、或云雲如澆雲、澎湃匝地、咫尺不辨、往來禽雀、倏聚倏散、作鬼神佛陀諸靈異之狀、或白虹一道、自脚底起、直上天半、或光怪閃爍、天地變爲金色、步武變幻、不可方物、蓋硫黃芒硝之氣、鬱積谷中、陽火自燃、陰氣應之、爆然震激、現種種怪異、特可畏者、橫風時來、勢如奔馬、稍不慎、則爲所捲去、頓爲火坑之鬼、所謂登者失所在、皆是物也、導者切加警誡、每風至、即全體俯地、既過復起行、如是者數次、心悸骨驚、屢入阿鼻獄、少年尤覺懼、五色無主、躡步不能前、導者曰、

此子靈櫻如是、不返返、福不可測矣、遂扶掖而下、僅三里許、天氣清朗如初、相與探囊中博飯啖之、少年色始定、南溪獨嘯々以不觀天鐘爲手態、因問從此至絕頂幾里、曰不過十里、南溪笑曰、是不難到、子與年少待之可也、投杖獨往、抵馬脊越、天色俄變、雲霓發作遊甚、備歷辛艱遂以達于嶽、果有物焉、質如精鐵、大如鉅竹、長丈餘、倒立地中、其斂斂若鬼面者、碧磷沈沈、古色可掬、雖未可必其爲太古遺器、而決非五百年來物也、嶽無堂宇、無草木、徘徊四顧、天朗日麗、碧溪萬里、凡數州山川城邑、攢簇杳杳、若覆雪、若聚米、神氣浩然、有羽駕凌雲之便、但巖境不可久駐、急覓來路而歸、過馬脊越數百步、遙見尊者與少年地坐偈語、長僅寸餘、如雷中所觀、既至、皆欣幸加手於額、相扶下山、大郡天下名山、刊木通路、自役小角釋泰澄始、故爲繙流所占據、梵唄之聲相屬、獨此山以諸冊二神、爲開山祖、眞天下之靈境也哉、山中多奇樹異草水精之屬、大池五十餘、池畔多蟾蜍、聞人語輒出噓之、雖樵夫畏而不敢過、多野馬、形極醜異、鬚長委地、多大蝦蟆大蜘蛛焉、

夷守嶽

(別稱離守嶽) 霧島山之支峰 日向國西詠縣郡ノ南西方ニアリ、小林村大字細野ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千

四百三十六尺、

(提要) 霧島ノ支脈ニシテ別ニ一嶽ヲ爲シ、東嶽ノ北少西凡十八町ニアリ、

白鹿嶽 大隅國嘯啖・始良ノ二郡ニ跨ル、嘯啖郡財部村大字南俣ヨリ二里一町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百九十三尺、

(名勝) 嶽頂より望めば、一望千里の觀あり、西南半腹に花平の陣趾あり、形ち瓢の如く四周斷崖を繞らす、慶長四年、庄内の亂、島津義龍の營趾たり、

高隈嶽 大隅國肝屬郡ノ北西方ニアリ、高隈村字高隈ヨリ凡三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千八十一尺、

(名勝) 國內の大山にして、連山矢筈狀をなし、最も高きものを大宛嶽と云ひ、次を權現嶽と云ふ、又其次を小宛嶽と云ふ、絶頂風常に烈しく樹木なし、毎年三月四日、男女嶽上に登るを例となし、之れを七嶽參詣と云ふ、山中深林幽谷にして、大樹巨木夜生せり、(纂考)七嶽トハ盆山・大宛嶽(絶頂ニ箭幹竹多シ、俗ニスミノ竹ト云フ、因テ大宛、小宛ノ名アリ)小宛嶽・妻嶽・權現嶽・中嶽及ヒ鹿屋郡近戸宮ヲ權フ、權現嶽中



嶽 島 櫻

嶽・近戸宮ヲ除テ外ハ、只樹木ヲ以テ神林トス、高隈ノ山中深林幽邃ニシテ、神異靈怪往々アリ、故ニ人民敬畏セザル者ナシ、

櫻 島

櫻島嶽 (別稱御嶽) 薩摩國兒島郡櫻島ノ中

央ニアリ、登路(式按スルニ、西櫻島村大字横山カ)凡二里、標高三千七百五十二尺、

(風俗) 櫻島嶽の中央にあり、東西二里二十四町、南北二里、周十里、霧島を離るゝ二十四町、高峰は南北に離列す、北に在るを北嶽と總稱し、南に在るを南嶽と總稱す、全島火山岩より組成し、土壤肥沃、人家山脚を環り、離落の側柑・橙・橘の枝條相接して、煙草の畦圃高低委差し、且つ巨大の蘿蔔を産す、(覽)島市より小艇を賃し、櫻島の南岸火山岩の懸崖峭絶雄拔なる處を廻航し、三時間にして東岸の黒神村に著す、村に温泉あり、又た村の東方海濱に沿ひ鍋山(海拔凡三百六十米突餘)なる一卑山あり、山頂に蓄火口あり、周圍凡三千里突、之れを望見するに奇絶、黒神村より亂竹雜樹鬱蒼の間なる徑路を登り、一蓄火口の底(海拔二〇五米突)に達す、周圍凡八百米突、此の蓄火口の南に一大新火口あり、俗に「燃

鉢」と呼ぶ、櫻島の所謂「南嶽」にして、周囲凡二千米突、深き凡百二十米突、四壁峭絶なる断崖を成し、遂に下るに由なし、火口の處々より硫煙を噴出す、然れども其の勢力甚だ猛烈ならず、更に北すれば一溪流の深谷を隔て、「北嶽」の連峰あり、中に一箇火口あり、嶽の最高點を海拔一二二〇米突となす、亦た島中の最高點たり、南嶽若くは北嶽の絶頂より四望せんか、四方眼下に蘆島の市街海灣に沿ひて起り、西南に秀絶なる富士山状の開闢嶽を眺め、東北に霧島の連山を仰ぎ、右に高千穂峰左に韃國嶽を仰ぐ、更に日向の群嶽を看、脚下に蘆島灣内の幾個小島嶼を散視す、其の奇巖なる筈すべからず、温泉は東岸の黒神村南岸の古里村・有村の三所に湧出す、(地辭)「土俗單に御嶽と云ふ、(纂考)此嶽若海ノ中ニ秀出セル故ニ、數十里ノ外ヨリ遠ク見ヘテ、其景色ノ秀拔無双ナルコト、群山ノ得テ比スヘキニ非ズ、誠ニ薩摩ノ名嶽ニテ、筑紫ノ芙蓉ト稱スベシ、嶽ノ頂上ニ峰アリ、南ナルチ南嶽トイヒ、北ナルチ北嶽トイフ、昔ハ此兩嶽ニ兩社アリ、(今ハ嶽下ニアリ)又絶頂ニ三ノ池アリ、南嶽ニアルチ白水ト名ツケ、北嶽ニアルチ御鉢ト名ツク、白水・御鉢ノ中央四ノ所ヲ兩中トイフ、此所池ニテ水常ニ滿溢アリテ海湖ニ應ス、又南嶽ノ嶽ニ一峰ヲ建ツ、初メ永正六年五月十五日、釋天祐(舊福寺十一世主)一峰ヲ建ツ、眞鍮ヲ以テ作ル、相傳フ文明中、此嶽炎上シテ炎火滅セズ、故ニ是ヲ建ツ鎮火ヲ祈リシトイフ、其後屢霜

對馬島

歷テ其鋒折レタリ、是ニ仍テ延享元年十月二十四日、國主綱實新造スルニ銅ヲ以テス、今ニ存スルモノ是ナリ、櫻島 櫻島 櫻山 櫻嶽 櫻山突出海灣間、一尋瑠璃瑛翠巖、鹿兒城中家幾萬、無恙不納紫原嶺、

三嶽 (別稱御嶽、仁田嶽) 對馬國上縣郡ノ北方ニアリ、佐護村字深山ヨリ凡三里四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百七尺、(提要) 本州第一ノ高山ナリ、凡三峰、東ヲ雌嶽、西ヲ太平、中ヲ雄嶽ト稱ス、

城嶽 對馬國下縣郡ノ中央ニアリ、黒瀬村ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高九百一尺、(地辭) 北望天低水雲間、一帆不渡夕陽間、欲尋神后征跡跡、又上峰懸了處山、

白嶽 (別稱加志嶽) 對馬國下縣郡ノ中央ニアリ、加志村ヨリ凡三里ニシテ其山頂ニ達ス、

標高千六百八十尺、

有明山 (別稱古名島根山、對馬嶺) 對馬國下縣郡ノ東方ニアリ、嚴原村ヨリ一里(佐須坂ヨリ二十二町餘)ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百二十八尺、

對馬の嶺はしたくもあらぬ數可平の 讀人 不知

翻にたなびく雲を見つしぬは

昨上有明山、詩未成、偶見平山于煥作次韻

草場 楓川

櫻嶽有迹路東西、唯慳佳人負伴携、瀧木蓋天穿不盡、層巒擇月望猶迷、凌巖倏忽三韓出、隔岸分明八縣低、漫想挾山超海去、乘風長嘯氣成霓、

矢射立山 (別稱矢立山) 對馬國下縣郡ノ南方ニアリ、久根田舎村ヨリ凡一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千百十九尺、

雄龍良山 對馬國下縣郡ノ南方ニアリ、登路(式按スルニ、豆酸村カ)一里、標高千八百二

十五尺、

雌龍良山 對馬國下縣郡ノ南方ニアリ、登路(式按スルニ、豆酸内院村カ)一里、標高千六百八十六尺、

(地辭) 又天道山と云ふ、双峰並起して、雌山・雄山と唱ふ、山中に延喜式多久頭神社あり、土俗悠紀宮と稱す、

臺灣

臺灣山系

雪山 (別稱蕃玉山、シルヴァア山) 臺北縣

臺東縣ニ跨ル、登路未詳、標高一萬二千二百九十九尺、

〔名勝〕 南勢山脈と北勢山脈との相交はる所に屹立し、高さ富嶽と伯仲の間あり、新高山に次ぎて本島第二位の高山にして、群山の祖たり、西洋人は之をシルビヤ山といふ、是れ近海を測量せる英國軍艦の名に因みて、かく名けたるものなりといふ、英人の測量によれば、高さ一萬三千尺ありといひ或は三千七百六十六米突なりともいふ、〔摘譯〕支那人ハ雪山トイフ、海拔一八〇〇尺、臺灣第二ノ高峰ニシテ又日本第二ノ高峰ナリ、北緯二十四度三十分ニ位ス、此山ニ攀踏スルニハ、新竹ヨリ登ルナ最モ可トスルナラン、長老トクニマツケ一氏ハ、淡水ヨリ登攀ヲ試ミントシ、熟蕃ノ酋長ヲ案内者トセシモ、酋長誤信深ク、鳥聲ヲ聽キ、神意ノ登山ヲ否トハルト稱シ、遂ニ中途ヨリ逃走セリ、氏ノ登攀爲メニ失敗ニ

了レリ、惜シム可シ(日精) 此山脈は多く白色の石灰石より成るが故に、遠く之を望むときは恰も白雪の積れるが如しといふ、

鳳凰山 (別稱ホンオンソア) 臺中縣ノ東方ニアリ、登路未詳、標高四千二百九十尺、

〔名勝〕 大水窟の東方に屹立する高山にして、新高山の前面にありて飛峰に秀つ、雲林探訪冊に曰く「鳳凰山は縣の東五十里に在り、脈を八通關山に發し鷓鴣嶺より延々として來る、山勢峻絶として天を挿み、其幾千丈なるを知らず、其形飛鳳の如く層巒翠を縦にし、奇峰林の如く立ち、雲樹參差幽壑淨植、霽に値ふ毎に、山光晴れ雲烟騰り、黛色天に參り、好鳥争ひ鳴き山花笑はんと欲す、前人鳳麓の飛烟を八景の一となす」とあり、

新高山 (別稱玉山、八通關山、モリソン山) 臺中縣臺東縣ニ跨ル、登路林圯埔ヨリス、

里數未詳、標高一萬三千六百七十九尺、

〔名勝〕 支那人は玉山又は八通關山と稱し、西洋人は之をモリソン山といふ、高さ一萬二千八百五十尺あり富士の山より高きこと四百八十尺、日本第一の高山なり、(專門家ノ百ニ據

臺灣 臺灣山系

レバ、此山未ダ富士山ヨリ高シト断定スル能ハザルモノニ似タリ、諸子晴ヲ登臨シテ以テ此未決ノ問題ヲ解決セヨ、我が領臺の當時、新領土に最大の高山あること、微聞に達しければ、皇上御喜悅斜ならず、特に勅して新高山と名づけさせ玉へり、山といふは多けれども勅によりて命名せられたるは類ひなきることにて、此山の名譽亦大なりといふべし、此山は實に本島第一の名山なるを以て古來人の口を極めて賞讃する所なり、臺灣府誌に「玉山在大武壠山後、邑治玉山之後障也、三峰並列、奇幻盤礴、終歲雪封、始於龍香葉、有時晴明乃得見、頃則雲霧復合矣、見時非風即雨甚驗」といひ、之を諸難入景の一となし玉山雪淨と題せり、同書に又清羅の令周禮璋が玉山を望むの詩を載せたり、曰く「浮嵐高捲日初生、一片清光照眼明、積雪不消三伏復、層冰常訝四時成、疑他匪練非吳市、遮莫蒼瀟向越城、大壘已收天地壘、山靈釋臥不須驚」と、又玉山と名くる所以を説明して「玉山在山之中、諸邑望之如太白、積雪盤然可愛、非有玉可採也」といへり、雲林探訪冊には「八通關山又玉山在縣治東一百餘里、三峰並立高插天外、峰頂隱約雲端奇幻莫測、山無大樹草木出土、輒爲寒霜凍枯、四時積雪、六月開行、終日皆履雪、地即彰誌所謂雪山也、前臺灣總領吳光亮由此修路、通後山卑南秀姑巒等處、山前有溫池、俗名燒湯、間有投以生卵、少頃即熟可食、此山四面皆雪、人跡罕到、山頂如白雪封殿、一遇晴霽雲爲日所散、光影異常、前人

以此玉嶽流霞、列於八景之一」とあり、されど近頃の登山者の言によれば四時常に雪を戴くとは誇大に過ぎ、時としては降雪を見ることがあり、又山上に樹木なしといふも虚構にて、實は頂上に至るまで老樹繁生せりといへり、次に西洋人の觀察せる所を示さん、博物學者ロールブルク曰く「嘗て木立茂れるマンチム山に上りて其四千尺の頂上より望みたるに、此連山波濤の如き中に盟主ともいふべき玉山即ちモリソン山は屹然として峙ち、全山體々たる白雪の裡に包まれたる状は遙かに臺灣府よりも望める所なれども、是に至りて之を觀るに及び、更に莊嚴言ふべからざるものあり、能く此全島第一の巨人の頭上に先登するものあらば、其痛快如何ならん」と因にいふ、西洋人の此山をモリソン山と呼ぶは、其初め臺南府に往來せる英國の一商船の艦長の名に取りて命したるなりと、此山に登るには林圯埔より彼の八通關越の山路を取るを便とす、八通關は殆んど此山の八合日程の處にあり、吳光亮が開路の當時、に關門を設け守兵を置きし所なれども、門も今は倒れて僅に其基礎を残すのみなりといふ、〔摘譯〕晴雨計推測ニヨリ一萬四千五百尺アル新高山ハ、實ニ人跡通ゼザル深林ト、生蕃ノ棲息セルト、熟蕃モ誤信深クシテ登山ニ反對スルヲ以テ、登攀セシモノ殊ニ少ナシ、臺灣ノ四方雲林ヲ經テ、最モ此山足ニ近キ舊支那人ノ住居セル林圯埔ニ至ル、夫レヨリ以上ハ二三ノ土蕃ノ村落アルノミニシテ、又徑路橋

梁ナキヲ以テ、乘馬スル能ハズ、全路徒歩セザル可カラズ、(本多博士ハ此所ヨリ上下十二日間ヲ費セリ)故ニ此所ニテ十二分ノ諸準備ヲ要ス、林垣地ニテ藪支那人ヲ履ヒ、初メ數日ハ、棕櫚樹・榕樹・こく樹・樟樹ヨリ成レル原人時代ノ深森ヲ過ク、深森ニハ、歐・藤及ビ無數ノ蔓草、樹トナリ、繁茂人ノ丈ヲ没ス、海拔六千尺以上ハ、高大ナル杉及ビ檜樹ニシテ、七千尺以上ハ松樹ナリ、九千五百尺ノ處ニ至リ、初メテ山頂ヲ仰望ス、夫レヨリ長草ヲ衝キ、深森ニ入り、或ハ森トナリ、或ハ草トナリ、交々通過シ、數個ノ峰頂ヲ越エテ、遂ニ山嶽ニ達ス、眺望壯宏、窪澤ノ全土ヲ下瞰シ、眼前無數ノ峰頂アリ、眞ニ一大げのらまノ如シ、此山ハ縱然途上數處ニ熱泉ヲ見ルモ、火山ニアラズ、粘土質ノ片岩及ビ石英ナリ、北側急峻ニシテ、南側急峻ナラズ、鹿・猪多ク棲息セリ、此山ハ殆ンド圓錐線ニ在リ、本多博士ノ登攀セル時ハ、十一月中旬ニシテ、深夜溫度氷點以下ナリシモ、雪ハ痕跡ヲモ發見セザリシト云フ、支那人ハ此山上始終積雪アリト云フ、コハ白色ノ石英岩巨板ノ如キモノ多ク、遠望雪ニ似タルヨリ、誤解セシナラン、其近傍ニ、高峰巔集隆起スルガ爲メニ、比較的少部分ノ外、望見スルヲ得ズ、(鳥居龍藏氏新高山登山日記ハ、同氏撮影ニ係ル寫眞圖給ト俱ニ、載セテ小田内・吉田兩氏共編「日本地理精説」ノ卷首ニアリ、其概略ニ曰ク、氏ハ最初ヨリ登攀セラル、目的ニアラザリシガ、高嶽山中ノ阿里山群ノ調査ヲ

終ラレ、ソレヨリ阿里山草地ヲ跋渉シ、濁水溪ニ出テ、ふぬん「蕃」調査ニ着手セラレントシテ、明治三十三年四月五日ヲ以テ「ちぶら」社(海拔九百六十米)ヲ出發セラレ、人跡絶ヘテナキ阿里山草地ヲ歩サレ、同六日午後三時頃、阿里山草地盡キテ、濁水溪方面トノ中間、海拔二千五百米ニ至ラレシ時、前面ニ此山ヲ雲間ガクレニ望マレシガ、忽チ登攀ノ好奇心ヲ起サレ、我前ニ何ゾ新高山アランノ一大決心ニテ、コノ山頂ヲ極メラレ、目的ノ濁水溪方面ニ下ラレタリ、此行ヤブクヤナ山ヨリ東方ニ向ツテ登攀セラレシニテ、日本人ノ未到ノ探險ナリシナリ、氏ノ一行ハ山中ニ露宿サレタルコト、實ニ五日ナリシ、其間飲料水ナク殆ンド渴死セラレントセリ、抑モ新高山ハ三峰ヨリナリ、其ノ峰最高峰ナリ、而シテ邦人ノ登攀セルモノハ、皆東埔申方面ニ通關ヨリ、左方ノ一峰ニ登リ、東埔社ニ引キ返ヘセシモノナリキ、氏ハ殊ニ其中峰ニ登ラレタリ、故ニ日本人ノ新高山ノ最高點ニ登攀セシ者ハ、實ニ氏ヲ以テ嚆矢トナス、氏ハ紀念トシテ五百米毎ニ一小國旗ヲ殘シ置カレタリ、又山頂ニテ水筒中ニ書面ヲ密封シテ殘シ置カレタリ、其末文ニ曰ク「他日登山せらるゝ方にして、此文字を開封せられしときは、左の郵便切手を貼用し、東京帝國大學理科大學人類教室まで此旨通知せられたし」氏ハ更ニ木標ヲ立テラレタリ、曰ク「我日本人人類學研究は新高山ノ山頂に及べり、吾人は尙ほ一層研究の高からんことを期す」

大屯火山群

大屯山 臺北縣ノ北方ニアリ、登路未詳、標

ト、此行氏ニヨリテ世ニ紹介セラレシモノ、四月十日海拔三千四百六十米ノ處ニ、殘雪八寸許アリシコト、其近傍ハ一小針葉樹林ナリシニト、夫レヨリ下路トナリ、竹林・針葉樹ノ間ヲ降リ、三千二百五十米ノ處ニ、冷清ナル一小溪流アリシヲ、三千七百米ノ處ニテ、鹿及ビ小鳥三羽ヲ見ラレシコト、夫レ以上ハ粘板岩(夫レ以下モ粘板岩ナリ)ノ崩壞殊ニ甚シク、登攀難ナルコト、三千八百米ノ處ニ絶壁アルヲ、絶頂即チ最高點ハ三千九百米アリシコト、絶頂ハ面積狭ク、長サ十間許、幅廣キ所ニテ二間ニシテ、殘雪アリ、植物ハ草苔ノ二三種アリテ、ばつたト蝶ノ飛ビ居レルトコト、眺望宏密東方ハ連山延長互ニ相接シ、滄東ノ璞石閣ニ流ル、溪水ノ上流ヲ見、北微四ニ濁水溪ノ上流、陳有溪ヲ望ミ、南方ニうません溪流ノ、遙ニ關山登ニ、四方ニ阿里山草地等ヲ瞰シ、臺灣諸溪流ノ上流ヲ望見シ得ルヲ、夫レヨリ八通關ニ下タルニハ絶難ナルヲ等ニシテ、此日記ハ全文菊列二十八頁アリ、就テ詳細ヲ看ル可シ

異國にやまてふやまは海にあれど 鳥居龍藏
いともたうとき山はこの山

高三千四百四十九尺、

〔名勝〕此地方に於ける最大の高山にして其高さ三千四百五十尺、火山性ノ山嶽にして絶頂に舊火坑あり、山ノ周圍に温泉の湧出するもの多し、(臺灣)絶頂に火口ありて、降雨には湖水となる、火口の深は五百尺許直徑千尺許あり、數十年前まで硫黄を噴けり、之より東南に燒山(山朝山或は三髯山の別名)あり、其高四千四百尺ありて、數多の火口を有し、其絶頂に登れば、北端の海よりシルウィア山に至る間を望むべき高峰なりといふ、

日本山嶽志 本編終

日本山嶽志補遺

北上山系

五葉山 (主編十四頁参照)

〔小島氏増補〕 岩手縣氣仙郡ニ高聳セル高山ナリ、山麓關谷村ヨリ上ル、或ハ樹陰ヲ縫ヒ、或ハ溪水ヲ渉リ、大鳥居ヨリ左ニ折レ、登山口トナル、麓ヨリ熊征地ヲ掩ヘリ、細徑ニシテ且ツ峻道ヲ登リ、北方ニたけかんばノ密林ヲ見、(燧石)ニ天狗ノ餅ツキ岩一等ヲ見テ行ケバ、益々峻阪トナリ、長床ト呼ヘル夜籠リ堂ニ到ル、已ニシテ勾欄ヲ、緩ヤカニ、二丁ニシテ田ノ神ノ祠アリ、側ヲ清水アリ、近傍瀧池多ク、管ノ一種ヲ生ズ、登山ノ道客、神前ノ鎌ニテ之ヲ刈リ、稻ニ擬シテ小竿ニ掛ク、豊稔ヲ祈ルモノ多シ、コレヨリ路ハ坦平トナリ熊征茂リ、石楠花多シ、又二丁計行ケバ、五葉神社アリ、四邊石ヲ積ミ、土ヲ重テ風ヲ防ギ、中央數段ニ石ヲ積ミ、上ニ石道ノ小宮ヲ安置ス、(コレヨリ上右佳村ニ出テ、上閉伊郡ノ早池峰山ニ登ル路アリ、早池峰山ノ亦ハ、主編ヲ参照スベシ) 隣郡近國ノ高山、コ、ニテ悉ク俯瞰シ得、是ヨリ假松ヲ

補遺 北上山系

截リ拓キテ、新ニ作リタル路ヲ拾ヒ、山頂ノ三角測量標アルトコロニ到レバ、傍ニ小金アリ、木皮ヲ綴リテ壁トナシ、熊征ニテ屋ヲ葺キ、別ニ花崗岩ニテ石柱ヲ作り、一等三角點ノ文字ヲ刻ミテ、地上ニ立ツ、上ニ木材ヲ組ミテ造レル梯アリ之ニ登リテ四方ヲ望メバ、遙カ東北ニ十二神山屹立シ、北方ニ六角牛山アリ、海拔六千六百尺ノ早池峰山アリ、陸中ノ岩手山、羽後ノ島海山ヲ併觀シ、東南ニ大洋ヲ下瞰シ、眺望壯大キキハム。(鳥羽源藏氏ノ紀行ニ據ル)

高判形山

陸前國本吉郡ノ北方ニアリ。鹿折村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山

古生層ヨリ成ル。標高千八百九十四尺。

君ヶ鼻山

陸前國本吉郡、陸中國東磐井郡ニ跨ガル。本吉郡新月村ヨリ三十二町ニシテ

其山頂ニ達ス。全山閃綠玢岩ヨリ成ル。標高千八百五十八尺。

鍋越山 陸前國本吉郡、陸中國東磐井郡ニ跨
ガル。本吉郡新月村ヨリ三十町ニシテ其山頂
ニ達ス。全山閃綠玢岩ヨリ成ルモノ、如シ。
標高凡千六百尺。

物見山 陸前國本吉郡ノ北西方ニアリ。松岩
村ヨリ三十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山閃
綠玢岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。

龜山 陸前國本吉郡、氣仙沼灣中ナル、大島
ノ北方ニアリ。大島村ヨリ三十町ニシテ其山
頂ニ達ス。全山中世層ヨリ成ル。標高八百五
十八尺。

牡鹿半島

七森 陸前國本吉郡ノ中央ニアリ。歌津村ヨ
リ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山中世層ヨリ
成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

紅葉山 陸前國本吉郡ノ中央ニアリ。歌津村

ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山中
世層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千百尺。

保呂波山 陸前國本吉郡ノ中央ニアリ。志
津川村字本吉ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山中世層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡
千五百七十尺。

翁倉山 陸前國本吉・桃生ノ二郡ニ跨ガル。本
吉郡横山村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全
山中世層ヨリ成ル。標高二千百十二尺。

大峰山 陸前國本吉・桃生ノ二郡ニ跨ガル。本
吉郡麻崎村ヨリ二里七町ニシテ其山頂ニ達ス
全山中世層ヨリ成ル。標高凡千五百八十尺。

大土山 陸前國本吉郡ノ南西方ニアリ。麻崎
村ヨリ一里十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山
中生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

茶臼山 陸前國本吉郡ノ南西方ニアリ。麻崎

村ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山中
世層ヨリ成ル。標高八百十二尺。

奥羽火山帶

斗南半島

荒澤山 陸奥國下北郡ノ北方ニアリ。佐井村
大字佐井ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス
全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千
四百九尺。

縫道石山 陸奥國下北郡ノ北西方ニアリ。
佐井村大字長後ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス

全山火山岩ヨリ成ル。標高二千百八十一尺。
朝比奈嶽 陸奥國下北郡ノ中央ニアリ。大
畑村大字大畑ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ
達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高二千六百十
尺。

津輕半島

増川嶽 陸奥國東津輕・北津輕ノ二郡ニ跨ガ
ル。東津輕郡三厩村大字増川ヨリ二里十八町
ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。
標高二千三百八十九尺。

大倉山 陸奥國北津輕・東津輕ノ二郡ニ跨ガ
ル。北津輕郡金木村大字金木ヨリ五里ニシテ其
山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ
標高凡二千二百五十九尺。

梵珠平山 陸奥國北津輕・南津輕ノ二郡ニ
跨ガル。北津輕郡七和村大字前田野目ヨリ二
里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨ
リ成ル。標高凡千五百八尺。

岩手火山群

櫛ヶ峰 陸奥國南津輕・上北ノ二郡ニ跨ガル。

南津津輕淺瀨石村大字淺瀨石ヨリ五里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千九百六十五尺。

十和田山 (別稱登和田山、十輪多山、十

灣田山) 陸奥國上北・南津輕ノ二郡、陸中國鹿角郡ニ跨カル。上北郡法興澤村大字奥瀨ヨリ九里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百七十一尺。

中嶽 陸中國鹿角郡、陸奥國三戸郡ニ跨ガル鹿角郡柴平村大字柴内字畑地ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

清水嶺 羽後國北秋田郡、陸中國鹿角郡ニ跨ガル。北秋田郡長木村大字雪澤ヨリ四里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。

山伏嶽 羽後國雄勝郡ノ東方ニアリ。皆瀨村大字島等ヨリ五里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

牛毛山 羽後國雄勝郡ノ東方ニアリ。皆瀨村大字島等ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

五ツケ嶺 羽後國雄勝郡ノ東方ニアリ。皆瀨村大字島等ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。

悪路石嶽 陸前國栗原郡ノ北西方ニアリ。文字村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。

戸澤大森 陸前國栗原郡ノ北西方ニアリ。高凡四千尺。

文字村ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

大土森 陸前國栗原郡ノ北西方ニアリ。文字村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百尺。

須金嶽 陸前國玉造・栗原ノ二郡、羽後國雄勝郡ニ跨ガル。玉造郡鬼首村ヨリ一里十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡四千尺。

荒雄嶽 陸前國玉造郡ノ北西方ニアリ。鬼首村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高三千三百十七尺。

泥湯嶽 羽後國雄勝郡ノ南東方ニアリ。秋之宮村大字役内ヨリ六里三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標

補遺 奥羽火山帯

高凡四千尺。

川原毛山 羽後國雄勝郡ノ南東方ニアリ。秋之宮村大字役内ヨリ三里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成リ、今噴煙スルモノ、如シ。標高凡三千尺。

杉嶺 羽後國雄勝郡、羽前國最上郡ニ跨ガル雄勝郡院内町ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高千五百一十一尺。

禿ヶ嶽 陸前國玉造郡、羽前國最上郡ニ跨ガル。玉造郡鬼首村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高四千三百三尺。

花淵山 陸前國玉造郡ノ北西方ニアリ、温泉村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡三千三百尺。

水上山 陸前國玉造郡ノ北西方ニアリ。温泉

村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成モセノ、如シ。標高凡千尺。

吹越山 陸前國加美郡、羽前國北村山郡ニ跨ガル。加美郡小野田村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高二千七百六尺。

黒森山 羽前國最上郡ノ南東方ニアリ。金山村大字有屋ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高二千六百九十三尺。風倉山 陸前國加美郡ノ北西方ニアリ。小野田村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

國見嶺 陸前國加美郡、羽前國北村山郡ニ跨ガル。加美郡宮崎村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層及ビ火山岩ヨリ成ル。標高千六百五十七尺。

鳥海火山帶

岩木火山群

岩木山 (主編二十八頁参照)

〔小島氏増補〕 津輕地方ニ奇風アリ、倭武多祭ト「お山詣」ト是ナリ、倭武多祭ハ今漸ク衰フ、獨リ「お山詣」ノミ、益々盛ナリ、お山ハ則チ岩木山神山チイフ。神社ノ下居宮ハ、弘前市ノ四三里、百澤村ニ鎮座ス、國幣小社ナリ、下居宮ヨリ五十五町餘ニシテ、岩木山頂ノ本社ニ達ス、麓ノ宮村大國主神社、大山祇神社祀ル、社殿宏壯ニシテ輪奐ノ美アリ、翁樹長幹、森々トシテ猗猗暗ク「奥ノ日光」ノ稱アリ、水亦清冽、堂宇ハ今ヤ、荒廢スト雖、昔弘前藩主藏原信政、貞享三年ヨリ元禄七年ニ至リ、十八萬兩ノ巨帑ヲ抛テ再建シタルモノ、山上ノ本祠ハ年々新材ヲ以テ修繕スト雖、風雪ノタメ自ラ巨大ナル能ハズ、毎年陰曆六月初日、山上ニコノ小祠ヲ

補遺 鳥海火山帶

建ツ、里俗「お盆チ上ケル」トイフ。岩木山ハ陸奥ノ一名山、甚ダ高カラスト雖急峻、土地ノ人ハ半途ニシテ下山スルモノチ「クダヘ」ト稱シテ、耻辱トナス、本州ノ北端青森縣ニ入り、群峰ヲ抜イテ孤登スルコト、宛ラ平野ニ在ルガ如クナルナリ、津輕富士ノ稱呼空シカラザルヲ知ルベシ。王俗男子十五歳ニ達スルチ俟テ、初メ登山セシメ、父母亦頻ニ之ヲ鼓舞スルノ風アリ、概シテ十五歳ヨリ二十歳以下ヲ初登リトス、登賽ノ期ハ陰曆八月初日ヨリ同十五日ニ到ル、一七日ヨリ淨水ニ浴シテ、潔淨シ、戒ヲ守ルコト甚ダ嚴、多クハ前月ノ末日チ以テ百澤村ニ到達シ、其夜山嶽ニ登リテ八月初日ノ日出チ拜ス、風俗頗ル奇異ナリ、婦人ハ登山チ許サレズ、下居宮ニノミ詣テ、歸ルチ常例トス。登賽者ハ、下居宮ニテ祈禱シ、社側ノ淵ニ身ヲ潔メテ登山ノ路ニ就ク、宮居ヨリ登ルコト十町許「鼻擦リ」ノ險ニ達ス、峻絶シテ鼻擦チ摩スルガ故ニ、名ク、一里餘ニシテ一大巨石アリ「礎石」ト稱シテ、登賽者之ヲ觀物視シ、手露チ奉納スルモノ多シ、コレヨリ秋草離々トシテ百花亂咲セル郊原ヲ横絶シテ、「燒留リ」ニ達ス、山木跡チコ、ニ絶チテ、四望廣潤、一小丘ノ眼チ遮ルモノナシ、國中双峰ノ下ニ展鋪ス、コレヨリ山路多少ニシテ、齋谷ニ下リ、藤苔厚々ノ流水チ文ルコトコロ、白雲徂徠シ幽禽啼啼カズ、寂寥トシテ仙臺ニ入ル、既ニシテ巖石兀々トシテ山中ノ最難所、頗爾溪「ボートコロマシ」ニ達ス、一方

ハ嶮巖壁立シ、一方ハ齋谷深サ千仞、近來鐵鎖チ懸ケテ登攀ニ便ニス、其傍ニ清冽ナル水チ生スルトコロチ、錫杖清水トイフ、三伏ノ夏ト雖、涸ル、コトナシ、猶登ルコト二丁餘ニシテ、漸ク溪澗チ出テ、路ヤ、平坦、路傍ニ種々昔代ト稱スル清水アリ、周圍二町餘、深サ四尺、清水玻璃ノ如ク湛フ、一掬スレバ齒牙チ氷ラントス、ソレヨリ一ノ坂ニノ坂三ノ坂チ踏エテ、山嶽ニ達ス、コノ坂ハ峻嶮ニシテ、頂上ヨリ危石ノ頭墜スルコトアリ、最モ注意チ要ス。岩木山ハ自然ノ三峰ニ峻レ、中峰ト右峰トノ間ニ、「鳥ノ海」ト稱スル一大火坑址アリ、坑中ハ累々タル熔岩ヲ以テ填充サル、坑上ニ一大石チ挿ム「片倉石」トイフ、高サ幾十丈、四五里ヨリ遠望スルチ得、想フニ中峰・右峰ト分離シタルトキ、殘留シタル片石ナラム、山嶽ヨリ二華表チ過キリテ、木祠ニ達ス、木祠ハ五尺四方ノ一小祠ニシテ、内ニ一尺五寸位ノ銅製神鉢チ安置ス登賽者狂歡、祠屋チ敲キ、棒ケ來リシ神酒チ神鉢ノ冠ニ注ギ神餅チ摩撫シテ、謂ヘラク、神明嘉納アリト、神酒ト共ニ家ニ齎ラシ歸ル、山嶽ノ廣潤ハ、五町四方内外、小祠ノ外、祈禱札授與所、及登賽者休憩所アリ、空氣寒冷、盛夏綿衣チ重スルモ、猶冷氣チ感ズベシ。眼チ放テハ、四周ニ千山萬嶽ノ雜踏セルモノチ見ズ、只八甲田・白神ニ山チ伯仲ノ間ニ望ムベク、南部地方ハ八月港、並ニ其遠近ノ山河チ踏エテ、遙ニ陸前石巻・金華山チ、雲烟ノ間ニ望ム、青森灣頭ノ泊船、函館港

ノ市街ハ、平波ト高低シ、津輕ノ聚落ハ、碁子ヲ散シタル如ク
鳥海山、酒田港、八郎潟、亦夷期ノ日ニ望ミ得ベシ、登山ハ六
時間ヲ要セドモ、下山ハ僅ニ二時間ヲ出テズ、カクテ下居
宮ニ遊シ、禮拜シテ歸ル。山中ノ五葉松ハ「雷除ケ」ノ靈符
ト稱シテ、求メ歸ルモノ多シ。(雨澤山人ノ紀行ニ據ル)

泊嶽

陸奥國西津輕・中津輕ノ二郡、羽後國山
本郡ニ跨ガル。西津輕郡赤石村大字一ツ森ヨ
リ十里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩
ヨリ成ル。標高凡四千尺。

八森嶽

羽後國山本郡ノ北方ニアリ。八森村
ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山
岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

粕毛嶽

羽後國山本郡ノ北方ニアリ。粕毛村
ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山
岩ヨリ成レルモノ、如シ。標高凡二千尺。

尾太山

陸奥國中津輕郡ノ南方ニアリ。西目

屋村大字居森平ヨリ二里十八町ニシテ其山頂
ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。
標高凡三千四百六十七尺。

森吉火山群

太平山

〔主編三十一頁参照〕

太平山前嶽

羽後國南秋田郡ノ南西方ニアリ
太平村大字八田ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス
全山第三紀層ヨリ成ル。標高凡二千尺。

太平山後嶽

羽後國南秋田・北秋田・河邊ノ三
郡ニ跨ガル。南秋田郡太平村大字山谷ヨリ三
里ニシテ其山頂ニ達ス。花崗岩及ビ第三紀層
ヨリ成リ、山頂ハ全ク第三紀層ヨリ成ル。標
高三千四百五十二尺。

モヤ山

羽後國山本郡ノ中央ニアリ。富根村
大字富根ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山

第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

寶藏山

羽後國南秋田郡ノ南西方ニアリ。登
路太平村大字八田ヨリス、里數未詳。全山第
三紀層及ビ輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。
標高凡千尺。

岩谷山

羽後國河邊郡ノ北東方ニアリ。岩見
三内村大字三内ヨリ一里二十町ニシテ其山頂
ニ達ス。全山石英組面岩ヨリ成ル。標高千四
百六十二尺。

男鹿島

眞山

羽後國南秋田郡、男鹿島ノ西方ニアリ。
北礪村大字眞山ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ
達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高二千三
百七十六尺。

鳥海火山群

補遺 鳥海火山群

高尾山

羽後國河邊・由利ノ二郡ニ跨ガル。河
邊郡戸米川村大字女米木ヨリ一里五町ニシテ
其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標
高千二百四十一尺。

神宮寺嶽

羽後國仙北郡ノ南西方ニアリ。神
宮寺村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝
石安山岩ヨリ成ル。標高千八十二尺。

鷲座山(別稱足倉山、鷹座高倉)

羽後國
雄勝・平鹿・由利ノ三郡ニ跨ガル。登路未詳。
全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千
尺。

〔名勝〕 續紀に寶龜十一年遣二千兵、經略鷲座と云へるは即
ち此山なり、古へは白爪の鷲常に栖みたりと云ひ、今も猶ほ
鷲の鳴く聲あり、古へより國歌多し、一二を録せんに萬葉集
「身をあけになしてはの鷲をのみ捉るてふことのためし
やはある」親を捕る鷲をつらさに心あらば鷹や知るらむ鳥の
おもひ子、山上より四は鳥海山及び袖ノ浦を望み、北は御袋

ノ浦・雄鹿ノ浦山・琴ノ海等を瞰下し、恰も諸國の如く、人を
して眺め飽まさらしむ、山上塔森(一名鳥合森)と稱す、地は
古へ此處に遊群集して、塔となしたるを以て此名ありとぞ。

七高山 羽後國雄勝郡ノ北西方ニアリ。登路
未詳。全山第三紀層及ビ火山岩ヨリ成ルモノ
、如シ。標高凡千五百尺。

〔名勝〕 山中に多く福壽草を産す、佐藤信淵の六部耕種法に
丈七尺八尺の福壽草七高山の谷に生せりと見えたり、頂上に
七高山神社あり、天平寶字年間創立にして、稻倉魂命を祭
り、社格は村社なり、古へは高寺城主、小野寺甲斐守道近の
鎮守なりしが、高寺落城の後、佐竹氏封を移し社領三石を寄
附したりと云ふ、毎年舊曆三月十七日・七月十日を以て祭典を
行ふ、

八鹽山 羽後國雄勝・由利ノ二郡ニ跨ガル。雄
勝郡田代村大字輕井澤ヨリ一里十四町ニシテ
其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標
高二千八百六十四尺。

東安山 羽後國雄勝・由利ノ二郡ニ跨ガル。院

内町大字院内銀山ヨリ一里十八町ニシテ其山
頂ニ達ス。全山粒狀安山岩ヨリ成ル。標高凡
二千五百尺。

鳥海山 〔主編三十四頁参照〕

〔小鳥氏増補〕 主ナル登山道ハ、吹浦口及ビ腰岡口ノ二條ア
リ、吹浦口ハ主編ニ見エタレバ、コ、ニハ腰岡口ヲ詳記シ、
吹浦口ヲ簡單ニ復記スルコト、セリ。酒田町ヨリ北行スル
コト四里半ニシテ腰岡(ワラビガチカ)村ニ達ス、鳥海山頂
口ノ正門ニシテ、村ハ丘陵臺地ノ上ニ在リ、石段數百級ヲ登
リ終レバ、中央ニ出羽一ノ宮大物忌神社ヲ祀リ、社境ノ左右
ハ皆宿坊ニシテ、登山者ノ投宿ニ便ニス、然レトモ宿舎ノ構
造、徒ニ宏大ナルノミニテ、障壁器具總テ粗陋アリ、且ツ夏
日ハ下山者ト登山者ト、絡纏シテ、鐘鼓ノ聲、喧嘩チキハムト
イフ。腰岡ヨリ鳥海山頂マテ七里ト稱ス、村ヲ出テ小丘ニ上
レバ、眼隨テ遮ルモノナク、不二形ヲ成セル一大消火山タル
鳥海ハ、裾野ヲ遠ク引イテ、當面ニ儼然屹立ス、カクテ起伏
涯ナキ曠野ヲ過クルコト一里餘、漸ク裾野ノ境ニ入ル、森林
ハナケレド、往々牛馬ヲ放飼セルヲ見ル、腰岡ヨリ約二里、
〔駒返シ〕ニ到ル、茅舎アリテ湯茶ヲ瀾ク、駒返シハ巴ニ山
城ニ入り、前ニハ日光川・月光川ノ兩溪、深ク地ヲ穿テテ流レ、

對岸ニハ熔岩ノ流下セシ跡、喉ラカニ、層ヲ成シテアラハレ
其下ニ集塊岩、ソノ上ニ火山灰累積ス、是ヨリ勾配ハ急ニ、
金峰山トイヘル小陸起テ繞リテ登レバ、凡ソ一里半ニシテ著
王子(ハシラウジ)トイフ小祠アリ、小祠ヨリ右へ八町許下
リ、林間ノ岩角ヲ穿テ、三三三間ノ荒繩ヲ垂レタルニ纏リテ
下ルヤ、白瀧・赤瀧(緩分ニ富メル赤褐色ノ水)ノ名勝アリ、
インレモ小堀布ノミ、再ビ祠前ニ戻リ、七曲リノ急阪チ、岩
角ヲ踏シテ上ル、巨樹多ク、路ハ熔岩流ノ上ニ通ズ、漸次左
へ折レ、直前山頂ニ向フ、凡ソ一里餘ノ間、風森日光湯元ニ
彷彿タリ、みづなら多シ、林間ヲ穿テテ、八町阪ニ至ル、阪
下ニ小舎アリ、舍邊盛夏猶殘雪ヲ見ル、是ヨリ樹木ハ短矮ト
ナリ、阪チ上リ終レバ、湖大ノ濕地アリ、雪水草間ヲ流レテ
無數ノ小溪洞トナリ、幽花珍草多ク、高山植物研究家ヲ悦バ
シムベシ、之ヲ御田(ヲタ)ノ原ト稱ス、所謂高山道有ノ御
花島ナルモノナリ。〔河原宿ヲ出テ、再ビ昇阪トナルヤ、著名ナ
ル大露路・小露路トナリ、一里餘ハ殘雪ノ上ヲ踏マザル可ラズ
雪ヲ破リテ高山植物ノ開花亦多シ、露路ヲ終レバ、頂上巴ニ
近ク、愈ヨ第一峰ニ上レバ、當山ノ奇草「鳥海ふすま」現ハ
レテ、最高帶ヲ示ス、「鳥海ふすま」ハ、頂上礫礫ノトコロニ
夥シク生茂シテ、平地ニ「ばこべら」ヲ見ルヨリ繁シ、鳥海
山ノ最高處ハ、一ノ重複火山ヲナス、西北ニ向ヒテ開展シタ
ル馬蹄形ノ外輪山ト、新山ト稱スル新火口丘ヨリ成ル、腰岡

ヨリ登レバ、先ツ外輪ノ一峰ニ達シ、是ヨリ輪崖ヲ沿ウテ統
リ、三角測量臺ニ達シ、一タビ狭キ火口窪ニ下リ、火口丘ニ
上ルナリ、火口丘則新山ノ中腹ニ本社アリ、大物忌神社ヲ安
置シ、傍ニ板葺ノ小舎アリ、宿泊ニ便ニス、頂上ヨリハ山海
數十里、塵シテ双峰中ニ收ムベシ、高峻ノ度ハ、日光白根山
ト匹敵スレドモ、植物ハ遙ニ其以上ノ高帶ヲ代表セリ。是ヨ
リ吹浦ニ下ラント欲セバ、外輪山ノ開放セル方向ニ從ヒテ、
西北ヲ指シ、再ビ大露路・小露路ノ殘雪ヲ踏ムベシ、但シ同名
異地、腰岡ノモノニ比スレバ、一層深厚ナリ、斜降半里餘ニ
シテ、路ハ左折、外輪山ノ巔崖ヲ攀テ、再ビ輪外ニ出ヅ、此
ノ險路ヲ「七五三懸」シメカケ」ト唱へ、草木鬱茂シ、露瀾
穢ノ類多シ、「七五三懸」ヲ終レバ、再ビ緩慢且茫濶ナル傾斜
路トナリ、溜池ヲ所々ニ屯ロシ、短草錦ヲ布キ、第二ノ御田
ノ原ヲ作ス、少シク溪ニ下リ、再ビ上レバ「鳥ノ海」トイフ
火口ノ湖畔ニ出ヅ、湖邊ハ礫礫ナリ、近傍ニ小舎アリ、頂
ヨリ二里、コ、ヨリ吹浦マテハ七里、外輪ノ傾斜ヲ走リ下ル、
傾斜ハ緩急相交ハリ、平地ニ降リタルカト思ヘバ、更ニ其下
ニ平地アリテ、數百歩ノ降阪ヲスルコト屢ナリ、且ツコノ路
禿裸シテ樹木奇岩ニ乏シク、殊ニ最終二三里、何等見ルベキ
モノナシ、巴ニシテ吹浦ニ着ス。(寺崎留吉氏ノ紀行ニ據ル)

阿武隈山系

副靈山 (別稱古靈山) 岩代國伊達郡、磐城

國相馬・伊具ノ二郡ニ跨ガル。伊達郡石戸村

ヨリ一里十町、相馬郡玉野村ヨリ二十町ニシ

テ其山頂ニ達ス。全山玄武岩ヨリ成ル。標高

凡二千二百尺。主編三十八頁靈山ノ條副靈山

参照

國見山 磐城國相馬・伊具ノ二郡ニ跨ガル。

相馬郡山上村ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達

ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡

千九百尺。

虎捕山 (別稱山神山) 磐城國相馬郡ノ北西

方ニアリ。大須村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ

達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高

凡二千六百尺。

無垢路岐山 (別稱木工籠木山) 磐城國相

馬郡、岩代國伊達郡ニ跨ガル。相馬郡石橋村

ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩

ヨリ成ル。標高凡二千六百尺。

花塚山 (別稱月山) 磐城國相馬郡、岩代國

伊達・安達ノ二郡ニ跨ガル。相馬郡飯會村ヨリ

一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩

ヨリ成ル。標高凡二千七百尺。

矢竹山 (別稱矢嶽山) 磐城國相馬郡ノ西方

ニアリ。飯會村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達

ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高凡二千四百

尺。

北明神山 磐城國相馬郡ノ中央ニアリ。新館

村ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片

麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千四百

尺。

〔名勝〕 山中郡の北方に變え草野・深谷等の諸邑山麓にあり、
福島縣線路其山南に通じ、大原・柳葉尤も險峻と稱し、其山脈
東走して、ツ、キ山に亘れり、

羽山 岩代國安達郡ノ東方ニアリ。戸澤村ヨ

リ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩

ヨリ成ル。標高三千六百八十八尺。

木幡山 岩代國安達・伊達ノ二郡ニ跨ガル。安

達郡木幡村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全

山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千二

百尺。

硯石山 磐城國相馬郡、岩代國安達郡ニ跨ガ

ル。相馬郡飯會村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ

達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高

凡二千七百尺。

高家老山 磐城國相馬郡、岩代國安達郡ニ跨

ガル。相馬郡飯會村ヨリ三十町ニシテ其山頂

ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標

高凡二千七百尺。

笠冠山 磐城國相馬・雙葉ノ二郡ニ跨ガル。相

馬郡金房村ヨリ二里九町ニシテ其山頂ニ達ス

全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千六

百尺。

和田山 磐城國相馬郡ノ南西方ニアリ。石神

村ヨリ二里六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片

麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千四百尺。

五代山 磐城國相馬郡ノ南西方ニアリ。石神

村ヨリ二里五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片

麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。

西森山 磐城國相馬郡ノ南西方ニアリ。石神

村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片

麻岩ヨリ成ル。標高凡千五百七十尺。

東森山 磐城國相馬郡ノ南西方ニアリ。石神村ヨリ一里一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山中世層ヨリ成ル。標高二千三百十七尺。

カゲイ森山 磐城國相馬・雙葉ノ二郡ニ跨ガル。相馬郡金房村ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千七百尺。

國見山 磐城國相馬郡ノ南方ニアリ。石神村ヨリ一里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高凡千八百尺。

八丈石山 磐城國相馬郡ノ南方ニアリ。金房村ヨリ一里二十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高凡千尺。

日山 (別稱小天王嶽、天王山) 磐城國雙葉・田村ノ二郡、岩代國安達郡ニ跨ガル。雙葉

郡津島村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高三千五百四十八尺。

大山 磐城國雙葉・田村ノ二郡ニ跨ガル。雙葉郡葛尾村ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

五十人山 磐城國雙葉・田村ノ二郡ニ跨ガル。雙葉郡葛尾村ヨリ十八町ニシテ山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高二千八百十八尺。

鎌倉嶽 磐城國田村郡ノ北東方ニアリ。山根村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高二千九百七十三尺。

檜山 磐城國田村・雙葉ノ二郡ニ跨ガル。田村郡山根村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高三千八百十二尺。

鷹鳥谷山 磐城國雙葉・田村ノ二郡ニ跨ガル。雙葉郡川内村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高凡二千百尺。

切鳥屋山 磐城國石城・雙葉ノ二郡ニ跨ガル。石城郡上小川村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高二千六百四十尺。

二ツ矢山 磐城國石城郡ノ北方ニアリ。川前村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高二千四百三十二尺。

酒造山 磐城國雙葉・石城ノ二郡ニ跨ガル。雙葉郡大久村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成リモノ、如シ。標高凡千七百尺。

五社山 磐城國雙葉郡ノ南方ニアリ。川内村ヨリ一里、廣野村ヨリ一里十八町ニシテ其山

頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高二千二百三十七尺。(或ハ川内・廣野ノ二村各五社山名ドツクル山アルカ、未詳)

二ツ森山 磐城國雙葉・石城ノ二郡ニ跨ガル。雙葉郡大久村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高千七百五十二尺。

日影山 磐城國田村郡ノ南方ニアリ。飯豊村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高凡二千五百尺。

黒石山 磐城國田村郡ノ中央ニアリ。七郷村ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千七百尺。

片曾根山 磐城國田村郡ノ中央ニアリ。山根村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高二千三百尺。

蓬田嶽 磐城國石川・石城ノ二郡ニ跨ガル。石

川郡蓬田村ヨリ三里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高三千七十九尺。

水石山 磐城國石城郡ノ北方ニアリ。赤井村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山閃綠岩ヨリ成ル。標高凡二千五百尺。

三株山 磐城國東白川・石城ノ二郡ニ跨ガル。東白川郡宮本村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高二千七百六十二尺。

荷路夫山 磐城國石城・東白川ノ二郡ニ跨ガル。石城郡荷路夫村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英閃綠岩ヨリ成ル。標高凡二千尺。

土嶽 常陸國多賀郡ノ西方ニアリ。高岡村大字中戸川ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡千百十尺。

大嶽山 常陸國久慈・多賀ノ二郡ニ跨ガル。久慈郡中里村大字入四間ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五百十尺。

神峰山 (別稱占山) 常陸國多賀・久慈ノ二郡ニ跨ガル。多賀郡日立村大字宮田ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高千九百六十尺。(主編四十三頁參照)

〔小島氏増補〕 常陸國多賀郡、日立村大字、宮田字神峰ニ在リ、故三名ツク、助川驛ヲ距ルコト二里餘ニシテ、山麓ニ達ス、郡中ノ高嶽ニシテ、四維狀ヲ成セリ、登路峻峻、高嶺山ト相對シ、東ハ磐城ノ岬ヨリ、銚子ニ及ビ、西ニ信州邊間、野州日光、近クハ筑波・加波・菴津ノ山ヲ見、脚下ニ合瀨(アヒセ)宮田・助川ノ村落ヲ踏ミ、眺望絶佳ナリ、山頂ニ老杉アリ、水戸義公ノ手植スルトコロト稱ス、流民之ヲ航路ノ目標トシテ、占山ノ別稱ヲ呈シ、崇拜ス、山腹ノ杉ノ窠大権院ハ霜葉ヲ以テ名アリ。〔新常〕頂ニ小祠アリ、神峰權現ヲ安置ス

鍋足山 常陸國久慈郡ノ北東方ニアリ。小里村大字小中ヨリ二十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高千七百三尺。

〔新常〕 大中村ノ宿末ヨリ左ハ羊腸タル嶮嶮ノ路ヲ二十五町ノホリテ、漸ニシテ屏風ヲ立タル如キ、岩石ノ間チハヒノホリ、山ノ頂ニ至ル、鍋足ト號スルハ、山頂三ツニソバ立、一方ノ高所ヨリ又一方ノ高キ所マテ二三斗ツ、モ間アリ、五六里ヨリ見ルニ、鍋足ヲセテ、足ノ三所ハ高ク、中クホミテ見ユル故、山城トスト云、頂ハ皆大石ニテ、少ニテモ土ノアル所ナク、岩ヒバ許リ生ジケルナリ、一人トシテ安座スベキ所ナシ、三方ハ切岸ニテ、ノボリノ道斗足カ、リアリ、石ノカドノニカミ居テ眺望ス、兩金砂・武弓山・小生瀨月居男體ニ立割・入四間・高嶺等ヨク見ユル、ハルカニ筑波・日光東ハ海上ニ目ニ見ユル、雨ノトキハ水タマル所ナク、石ノ間々ヨリ流レ落ツル、白絲ヲ亂セシメトク、四十八ヶ所アリ、依テ四十八瀨ト云、下山ニハ道アリテ二十三町下リ落ツ、カナ深ヘヤウノ下リ小中へ出ル、

國見山 常陸國久慈郡ノ南東方ニアリ。譽田

村大字下大門ヨリ二十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山御荷鉾層及ビ橄欖岩ヨリ成ル。標高凡六百五十四尺。

〔新常〕 在久慈郡大田郡四六七里、山不甚高、其以國見爲名者、斯山以南數百里間、無一山、故登斯南望、則久慈川以南、河内郡以北、盡在目前故也、水戸領地運誌云、昔奥州勢此山ニ登リ、宿陣ノ時、高山ナリトイヘドモ、古郷ヲ望見ルニ、ミヘスト云シ事アリテ、國見山ト名付シヨシ、又奥州勢此山ニ陣取セシモノ、皆附レ、再ビ國見ヲ見ザリシ故、名付タリト云、里俗ノ説ノ如クナレバ、國見ズ山ト名付シナ、後ニ國見山ト改シモノナラシカ、

月居山 常陸國久慈郡ノ北方ニアリ。袋田村大字袋田ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ル。標高凡八百九十尺。

〔新常〕 袋田小生瀨村界ニアリ、地蔵觀音堂ハ袋田村地内瀨ノ南方山ツキ、岩山岩松多シ、小生瀨ヨリ平易ナリ、袋田ヨリハ峻坂十五六町ノキル、此道ハ天下野邊並小里郡ヨリ大子馬頭下野國ニ至ル、東瀨魚荷ノ道ナリ、

武生山 (別稱武弓山) 常陸國久慈郡ノ中央ニアリ。高倉村大字下高倉ヨリ二十七町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山石ヨリ成ル。標高凡九百尺。

〔新説〕 高倉ヨリ十九町、イッパナ遊現アリ、鳥居仁王門、鐘樓、拜殿本社、窟ノ地蔵アリ、明和辛卯ノ年神託アリテ、地ヲ掘ルコトニ尺許、寶劍ト稱スルモノヲ得タリ、假殿ヲ造リ納メテ、石ノ如キモノニテ長一尺二三寸、サキ丸ク鏝柄ノ如キ形アリ、「古ハ武生ト書テ、後世武弓ト改メシナラン、奥國岩城飯野八幡宮文書ニ、伊賀式部三郎盛光軍忠事、建武三年七月二十二日、馳奏常陸武生城、トアル古戰場ノ地ナリ、

筑波山脈

井殿山 常陸國東茨城・西茨城ノ二郡ニ跨ガリ。東茨城郡伊勢畑村大字下伊勢畑ヨリ二十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山小佛古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五百七十尺。

加賀田山

常陸國西茨城郡ノ南方ニアリ。西山村大字上加賀田ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生古層ヨリ成ル。標高凡千八百八十八尺。

愛宕山

常陸國西茨城郡ノ南方ニアリ。岩間村大字泉ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生古層ヨリ成ル。標高七百九十二尺。

〔新説〕 古ハ風穴山ト號ス、周圍二里餘、登路凡五、全山松杉鬱茂、幽邃ノ地タリ、前ハ霞湖ニ面シ、風景頗佳ナリ、頂上愛宕・飯綱ノ二洞アリ、古老云、飯綱ハモト筑針神社ニシテ原郷名ノ起ル所ナリト、愛宕ハ世人多ク之ヲ崇敬シ、參詣常ニ絶ヘズト云フ、

關東山系

秩父山塊

御荷峰山 (主編五十五頁參照) 東御荷峰山 上野國多野郡ノ中央ニアリ。三

波川村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高四千二百七十尺。西御荷峰山 上野國多野郡ノ中央ニアリ。日野村大字上日野ヨリ二里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡三千五百六十尺。

稻倉山

上野國北甘樂郡ノ南方ニアリ。秋畑村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡五千尺。

高見倉山

武藏國秩父郡ノ中央ニアリ。兩神村大字小森ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

毘沙門嶽

武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。三田

川村大字三山ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層及ビ石灰岩ヨリ成ル。標高三千三百二十三尺。

鷲嶽山

武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。三田川村大字飯田ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

城山

武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。倉尾村大字日尾ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡一千尺。

嶽山

武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。倉尾村大字日尾ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千三百尺。

三ツ山

武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。上吉田

村大字太田部ヨリ三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

城山 武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。日野澤村大字上日野澤ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百三十尺。

城峰山 武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。上吉田村大字石間ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡九百尺。

女嶽 武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。金澤村ヨリ十八町ニテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡七百三十尺。

男嶽 武藏國秩父郡ノ北方ニアリ。金澤村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡七百三十尺。

層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百五十尺。

寶登山 武藏國秩父郡ノ北東方ニアリ。國神村大字金崎ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ル。標高凡八百尺。

陳見山 武藏國秩父・兒玉ノ二郡ニ跨カル。秩父郡樋口村大字矢那瀬ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五百尺。

馬背山 武藏國秩父・兒玉ノ二郡ニ跨カル。秩父郡樋口村大字野上下郷ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千八百尺。

甲武信嶽 〔主編五十六頁甲信武嶽ト誤記セリ。茲ニ複製シテ其疎漏ヲ謝ス〕

金峰山 〔主編五十七頁參照〕

〔小島氏増補〕 甲斐宮本村(御嶽ノ絶頂昇仙峽ノ上)ヨリ登ルチ最モ安易トナス。村ヨリ金櫻神社ノ右ニ折レ、火山岩層ヲ踏ミ、小羅野ヲ行クコト二三町、左ニ方リテ机形ニ登ヘタル黒富士山ヲ見、根ツ子坂ニ上ル。短クシテ峻ナラス。甲府平原ヲ隔テ、不ニチ仰ギ、北ニ金峰山壁ノ不規則ニ長列スルチ見ル。已ニシテ黒平(クエベラ)村ニ至ル。上黒平・下黒平ノ稱アリ。村舍十餘戸。炭焼岩取採リ。水晶採掘等ヲ業トス。宮本村ヨリ金峰山マテ、七里ト稱セラルド、實ハ四里十四町、是ニ至リテ一里ヲ終ル。已ニシテ上黒平ノ一本松ニ到ルチ、北ニ溪水アリ、精進川トイフ、上流ナル千丈ク瀧ヨリ發源シテ、荒川ニ合ス。村ノ鎮守神、黒戸奈(クワツナ)權現社ヲ左ニ祀ミテ、一町許往ケバ、愈ヨ山道トナリ、佛阪チ上ル。山徑ニ入ルト深クシテ、路二分ス。其左ハ水晶ノ礦道ニシテ、右ハ則チ金峰山道ナリ。橋峠トナリテ、翁樹ノ梢ヨリ松蘿(サルノチカセ)ヲ垂ルコト長シ、上ルコト三十町、掌大ノ坦平地アリ、國見石是ナリ。北西ニ藥師嶽、四ニ白峰、正南ニ富士チ仰ギ得。附近ハ熊笹茂リ、落葉松亦甚々多シ、コレヨリ鹿松峠ヲ越ユルニ、寒流ヲ渉ルコト二回、碎石英・被水晶ヲ踏コテ、水晶峠チ上下シ、林際ヲ捨ヒテ、左ノ麓ヘ下リ、山中ヲ串通スル御室川ヲ渉リテ、室堂ニ到ル。左右ニ室アリ、洞サ各十餘人ヲ容ルベシ。金峰山ノ峻刻峻兀ハ、是ヨリ始マル。室堂ヨリ絶頂マテ五十町ト稱ス、悉ク落

々タル花園ノ塊石ニシテ、寸土チ着ケズ、ソノ急ナルトコロニハ、鐵鎖チ繋ケ、御鞍石・御手洗石等ノ名ヲ得タルモノアリ。就中片手廻シノ岩ノ如キハ、急峻チキハム、途ニ石標ヲ建テ何丁目ヲ刻ス、而シテ巨石権岩、愈ヨ倚疊シテ、厦屋ノ大サアルモノ、累々疊起シ、樅・梅・道松・落葉松・石楠、槎枒拳曲ス。覽ニ徑中チ拔足シテ、殿玉權現社前ニ至リ、又登リテ絶頂ニ至ルチ、土俗ノ呼バレル五丈石、高サ二十五間、横十八間、花園岩ノ巖盤幾十折ス。金峰山ノ最高點ハ是ナリ、五丈石ノ下ナル岩ノ上、鐘ミテ方五尺、深サ三寸ノ雨溜チ作ル、山中不潤ノ池ナリト、頂上ノ大觀ハ、宏壯無比。

大洞山 武藏國秩父郡、甲斐國北都留郡ニ跨

ガル。秩父郡大瀧村大字大瀧ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高六千七百三十二尺。

大日向山 武藏國秩父郡ノ南西方ニアリ。大瀧村大字大瀧ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千百尺。

有間山 武藏國秩父郡ノ南方ニアリ。名栗村

大字下名栗ヨリ三里二十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千九百五十六尺。

多峰主山 武藏國入間郡ノ南西方ニアリ。飯

能町大字飯能ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

高篠山 武藏國秩父郡ノ東方ニアリ。高篠村

大字山田ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

釜伏山 武藏國秩父郡ノ東方ニアリ。三澤村

ヨリ一里十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡九百六十尺。

長林山 武藏秩父郡ノ東方ニアリ。三澤村ヨ

リ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千八十尺。

蓑山 武藏國秩父郡ノ東方ニアリ。三澤村ヨ

リ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡九百五十四尺。

都幾山 武藏國比企郡ノ西方ニアリ。大河村

大字上古寺ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山笠山層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千二百尺。

天目山 〔主編六十六頁参照〕

〔小島氏増補〕初鹿野〔ハツカノ〕停車場ニ下リ、諏訪神社神木ノ前ヨリ軌道〔レール〕ノ踏切ヲ越ユ、崖上ノ村落ニ出テ、暫クシテ三日川ノ西岸ニ出ヅ、コノ川ハ、深ク天目山ノ溪洞ヨリ發スルモノ、河身露々タル危岩ヲ時々、行クコト二十町許ニシテ、田野ノ里ニ達ス、木橋アリ、田野橋ト名ヅク橋ヲ渡リテ左ノ岐路ニ入ルヲ、天目山道トナス、道ノ右方、

御嶽山 〔主編六十七頁参照〕

丘山ニ半ハ崩レタル石積アリ、之ヲ登リツクストコロニ、二重草葺ノ山門立テリ、景徳院駐是レナリ、院ハ今燒亡シタレド、武田勝頼以下ノ碑ヲ山門ノ右手ノ山腹ニ存ス、勝頼ノ碑ハ、天目山特産ノ花崗岩高サ八尺ニシテ壯麗ナリ、天目山岐路ニ入りテヨリハ、道愈ヨ狭ク、且ツ峻急ニ屈折チキハム眞快温泉ニ到ル、三日川ノ溪谷ニ臨ミテ、幽邃ナリ、初鹿野ヨリコトニ至ルマデ、二十六町、更ニ登ルコト數丁、巨岩ノ傍ヲヨリ、「瀧門ノ瀧」ヲ瞰ル、小ニシテ首ヲ足ラズ、瀧ノ上方、山路急ニ曲カリテ、山角ニ一大石ノ瓦出路ヲ懸スルアリ、天目山中ノ險道ニシテ、今ハ岩隙ニ方四尺許ノ空洞アリ傳ヘ言フ、勝頼ノ臣、土屋惣藏昌恒、コノ岩角ニ據リ、織田氏ノ追兵ヲ斬ルコト算ナク、流水タメニ赤シ、故ニ石ニ「片手斬リ」ノ名アリ、川ニ三日血〔ミカザ〕川ノ稱アリト、岩角ヨリ前ムコト一丁餘、三日血川ノ淵ニ下レバ、三四百坪ノ斜面地アリ、中央ニ花崗岩突起シ、傍ニ方七尺許ナル、武田菱紋形ヲ印セル自然石アリ、勝頼ガ夫人ト稱子トチ刺シテ、屍置セルトコロ、又上ルコト三十町許ニシテ、人會十五六月ト一寺ヲ見ル、寺ハ即チ是レ天目山栖雲寺ニシテ、木賊ノ窟ノ址ナリ、康程今猶武田氏ノ遺物ヲ藏スト、初鹿野ヨリ栖雲寺マテ一里二十町餘、是ヨリ天目山ノ絶頂諏訪ノ峰ニ登リ、四方ノ絶頂ヲ縱マニシ得。

高尾山 〔主編六十九頁参照〕

〔小島氏増補〕青梅ヨリ多摩川ノ右岸ヲ溯ルコト約二里半〔日向和田停車場ヨリスレバ約二里〕ソノ間途中棧道アル柚木梅花ヲ以テ名アル吉野村ヲ過ギ、左側萬年屋トイヘル旅舎前ヨリ、磧ニ下リ、川ヲ渡舟シテ山麓ニ到ル、(數年前マデハ、コトニ萬年橋アリ、長サ十五間、兩崖ヨリ板ヲ排列シテ、無柱ノ橋ヲ作ス、奇巧ヲ以テ名アリシガ、今燒失セリ)山麓一ノ島居(今島居ヲ存セズ)ヨリ、頂上マデ峻坂五十六町ト稱スレドモ、實ハ一里ニ充タズ、毎年三月一日ヨリ、五月三十一日ニ至ルマデ、三ヶ月間ヲ信徒ノ登山時季トナス、頂ニ御嶽神社アリ、坂盡クルトコロ、三田村字御嶽山ニシテ、三十二戸ノ御師アリ、登山客ヲ宿セシムトイフ、本社ノ左側ヨリ下レバ、七代ノ瀧アリ、瀧ヲ左ニシテ又上レバ、天狗岩アリテ、天狗ノ銅像ヲ安置ス、コレヨリ又綾尾瀧ニ到ルベシ、ヤ、戻リテ坂ヲ上リ、奥ノ院ニ詣ツ、奥ノ院ハ三角形ナナル峻峰ノ尖頭ニ立チ、大嶽山ノ巖々トシテ兀立スルヲ仰ギ、幽邃入贅ヲ絶ツ、武州ノ一名山ナリ。

〔小島氏増補〕淺川停車場ニ下リ、字小名路〔コナジ〕ヲ過ギテ、山麓ノ高尾橋ヲ渡リ、登山道トナル、一町毎ニ何丁目ト記シタル石標アリ、本道ノ兩側ハ、杉樹叢々、十一丁目ニテ琵琶瀧及ヒ蛇瀧ヨリノ登道ト合ス、(琵琶瀧ハ、本道ヲ降ル

コト十町餘ニ在リ、ソレヨリ左折シ、峻崖ヲ下レバ、七八町ニシテ蛇湖ニ到ル、モシ高尾橋ヨリ直ニ琵琶湖ニ到リ、湖ノ前ナル二軒茶屋ヨリ、裏道ヲ上レバ、五六町程近シ、數町ニシテ普通、頂トイフトコロニ達ス、則チ藤王院ノ在ルトコロニシテ、浅川村ヨリ登リ三十町ト稱ス、ソノ道ノ左右ハ、杉苗寄進ノ木標ヲ以テ充ツ、院ノ側ヲ、急ナル石段ヲ登レバ、飯綱善神社アリ、彫刻ノ綺麗ヲ極ム、院ヲ過ギテ左ニ折ルレバ、路二分ス、左ハ富士道ト稱シ、甲州街道ニ下ル、右ニ登レバ、絶頂ニ出ヅベシ、即チ少シク登レバ、路又二岐ス、右ハ小佛道ニシテ、左ハ絶頂ナリ、絶頂ニ出ツレバ、三角測量標アリ、秩父群山、相模ノ大山、及ヒ江ノ島、御嶽山ヨリ關東ノ大平原ニ及ボシ、相模川ノ雲畑渺茫ノ中ニ蜿蜒セルヲ瞰ル、ソノ雄大ナル、僅々六百餘米突ノ山嶽トハ思ハズ、絶頂ハ草山ニシテ、幾ンド木ヲ生ゼズ。

御坂山塊

御坂嶺 (主編七十三頁參照)

〔大平氏ノ「富士淺間登山紀行」ノ一節、即チ明治三十五年八月十日ノ條〕 藤野木ハ御坂峠ノ入口ニシテ、旅客足ヲ休ムルヲ常トス、乃チ界崖ニ右衛門方ニ於テ喫飯ス、但旅客汚穢料理頗ル粗末ナレドモ、古風アリテ面白シ、此峠縣道ナレドモ、固ヨリ腕車ノ道ズベクモアラズ、故ニ地ヲ踏ムヲ厭フモ

ノハ、馬背又ハ、頗ル古風ノ、突風ナル竹與ニ乘ムザルベカラズ、一里ノ賃金、馬ハ二十八錢、與ハ三十八錢トス、以テ其險難ヲ察スルニ足レリ、峠ハ藤野木ヨリ昇リ路一里半、降リ路一里ト稱ス、昇路ノ半腹ニ泉アリ、清冷多ク比テ見ズ、此ヨリ急峻トナル、絶頂約五千尺、茶屋アリ、甘酒ヲ製ケ、下敷スレバ、河口湖ハ眼下ニアリテ、一碧鏡ノ如ク、富士其南ニ盤エテ、雄姿倒ニ水面ニ映ズルハ、富士見三絶景ノ一位スル所以ナリ、此日頂上疾風雨ヲ吹き、咫尺辨セザリシハ頗ル遺憾ニ感ス、唯僅ニ雲霧斷絶ノ一刹那、湖面ヲ見得シノミ、降路ハ昇路ヨリモ、急ニ益々大蛇曲ノ道トナル、路身砂岩、崖中ニ玢岩、輝綠岩ノ噴起錯雜セルアリ、行路甚ダ困難ナレドモ、亦興味少シトセズ、岩石標本ヲ採集スルニハ、降リ坂即チ南側ヲ可トス、相傳フ、古昔日本武尊東夷ヲ平ゲ、足柄ヨリ此峠ヲ經テ、甲斐ニ入り給フ、御坂ノ名此レヨリ起ルト。予將ニ此峠ニ登ラントセシトキ、四駟馬十數ノ後方ヨリ來ルアリ、即チ荷物ヲ托シ、馬丁ト相伍シテ降ル、馬丁一人ニシテ、三四馬ヲ監督ス、道ノ一側ハ、直チニ數十丈ノ斷崖トス、馬脚踏下踏ミ外ヅレントスルト數次、而カモ過失ハ殆ド之レナシト云フ。

雨ヶ嶽

雨ヶ嶽 駿河國富士郡、甲斐國西八代郡ニ跨ガル。富士郡上井出村大字根原ヨリ二十町ニ

シテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千八百四十六尺。

本間澤山 駿河國富士郡、甲斐國西八代郡ニ跨ガル。富士郡上井出村大字猪頭ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英閃綠岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千二百六十六尺。

丹澤山塊

角取山 駿河國駿東郡、甲斐國南都留郡ニ跨ガル。駿東郡北郷村大字大御神ヨリ三十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山御坂層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

畑尾山 駿河國駿東郡、甲斐國南都留郡ニ跨ガル。駿東郡北郷村大字大御神ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山御坂層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

大洞山 駿河國駿東郡、甲斐國南都留郡ニ跨ガル。駿東郡須走村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山御坂層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

山伏嶺 駿河國駿東郡、相模國足柄上郡ニ跨ガル。駿東郡六合村大字柳島ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山御坂層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

菰釣嶽 相模國足柄上郡、甲斐國南都留郡ニ跨ガル。足柄上郡世附村ヨリ三里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山御坂層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千六百尺。

三境ノ峰 (別稱。足柄上郡玄村ニテハ御本ノ平トイフ) 相模國愛甲・津久井・足柄上ノ三郡ニ跨ガル。愛甲郡宮ヶ瀬村大字馬場ヨ

リ四里ニシテ其山頂ニ達ス。全山御坂層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千六百七十九尺。藥師ヶ嶽 (別稱毘盧ヶ嶽) 相摸國津久井足柄上ノ二郡ニ跨ガル。津久井郡鳥屋村字宮前ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千九百七十四尺。檜ヶ嶽 相模國足柄上郡ノ東方ニアリ。寄村字落合澤ヨリ二里、字中山ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千七百八十九尺。

大山 (主編七十七頁參照)

〔小島氏增補〕 平塚停車場ニ下リテ登山スルヲ最モ便トス。山下ノ瀧車、藤澤ヲ過ギテ馬入川ニ達セムトスルトキ、車窓ノ右ニ方リテ、なほれん山、箱根ト對峙スルヲ見ルモノ、即チ大山ナリ。平塚ヨリ路ヲ中原下宿ニ取リ、豊田村、伊勢原町ヲ經テ箱根村ニ至ル、行程約三里、野徑坦平、左ニ

大磯ノ高麗山 (別稱平塚富士) ナリ、右ノ原野、當面ニ大山、天牛ニ屏立シ、左ニ丹澤山、ソノ右ニ煤谷山ナリ、超エテ不ニノ秀峯ヲ仰ギ得、平塚ヨリ箱根村マデ車、又ハ馬車ヲ通ズ。箱根村ハ、俗ニ明神ト呼ブ、比々多神社ヲ祀レルヲ以テナリ。明神前ヨリ、大山町ニ至ルマデ、二十餘丁ノ間、大山ノ谷間ニシテ、道路ノ左右悉ク人家ナリ、箱根村ト比隣シテ、子安村アルヲ以テ、此邊ヲ鶴稱シテ、子安トイフ、前記伊勢原ヨリ子安マデハ、近年路ヲ開修シテ、輒三間ノ坦道ヲ拓ケリ、子安村ニハ、子安地蔵アリ、遠近ニ著ナル、子安ヨリ大山町マデ、峻坂トナル、大山町ハ大山ノ脚ニ當ルトコロニ在リ、三百餘戸ノ中、九十戸ハ御師、又ハ登山客ノ宿舎ニシテ、登山客年々平均十五萬人、講社ノ數三千三百餘ト稱ス其盛大想フベシ。大祭ハ四月二十一日ヨリ三十日マデ、八月一日ヨリ同二十七日ノ兩度ナリ、峻坂夾ンデ、兩側商家櫛比シ、殊ニ挽物細工ヲ賣ケトコロ多シ。明神前ヨリ經頂マデ、八十町ト稱ス、町ヨリ登レバ右傍ニ瓦辨ノ瀑アリ、瓦辨ナルモノハ、コノ山ヲ拓キタル傳ナリトイフ、拜殿ニ到ル前ノ町外レヨリ、路二分ス、右チ男坂トイヒ、左チ女坂トイフ、男坂チ上リ、中途ヨリ右折スレバ、雷山ニ上ルベシ、道ニヒ段ノ瀧アリ、ソノ上流ヲ渡リテ、雷山ノ頂ニ出ヅ、谷底ニ孤立セル小丘ニシテ、秋ハ諸谷ノ霜葉ヲ俯瞰スルニ宜シトイフ又男坂ニ戻リ、石段チ上ル、男坂ノ石段二千三百三十段、或ハ

岩角ヲ傳フニト、九丁目ト十丁目トノ間ノ如キモノアリ、竟ニ大山ノ中腹ナル雨降神社ノ拜殿ニ達ス、明神前ヨリコ、マデ五十二町ナリ。(女坂ヲ登ルモ亦コ、ニ到リテ一途ニ合ス、路ニ當リテ大磐石ヲ裂キ、不動堂ヲ安置ス) 眺望宏闊、太平洋ヲ下瞰シ、江ノ島ノ青嶺ヲ看ル、コ、ヨリ左折シテ、二重瀧ヲ見ル、深チ斷チテ一橋アリ、一ノ瀧ハ上ニ在リテ小、二ノ瀧ハ下ニ在リテ大ナリ、拜殿ノ在ルトコロマデハ、四季登山スルモノヲ絶タスト雖モ、拜殿ヨリ經頂マデ、二十八町ノ間ハ、前記祭日間ヲ限リテ、登山ヲ許ス、經頂ノ神體ハ、岩石ナルヲ以テ、石尊大權現ノ稱アリ、所謂「石尊サマ」是レナリ、ソノ前宮サ「小天狗」トイヒ、奥宮サ「大天狗」トイフ、石尊祠ヲ繞リテ、道アリ、長サ三町、以テ四方ヲ俯瞰スルニ足ル、然レドモ樹木ニ妨ケラレ、眺望ハ甚ダ壯宏ナルニ至ラス。

鳥尾山 相摸國中郡ノ北西方ニアリ。北秦野村大字横野字旭向ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

春嶽山 相模國中郡ノ北方ニアリ。登路東秦野村大字菱毛字上川原ヨリス、里數未詳。全山

第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

房總半島

鬼泪山 (別稱鬼涙山) 上總國君津郡ノ南西方ニアリ。湊村大字櫻井ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層及ビ洪積層ヨリ成ル。標高凡千尺。

雞毛山 安房國安房郡ノ北東方ニアリ。天津町ヨリ一里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五百二十尺。

獨古山 安房國安房郡ノ北東方ニアリ。天津町ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八百四十尺。

露路山 安房國安房郡ノ北東方ニアリ。天津町ヨリ一里十七町ニシテ其山頂ニ達ス。全山

第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千一百十尺。

如意山 安房國安房郡ノ北東方ニアリ。天津町ヨリ一里十七町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千七百七尺。

寶土山 安房國安房郡ノ北東方ニアリ。天津町ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千二百二十五尺。

富士山 安房國安房郡ノ北東方ニアリ。天津町ヨリ一里二十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千二百二十五尺。

金剛山 安房國安房郡ノ北東方ニアリ。天津町ヨリ一里二十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千一百十尺。

那須火山帯

荒神山 陸前國加美郡、羽前國北村山郡ニ跨カル。加美郡小野田村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡四千六百二十尺。

〔風景〕荒神山は北に登ゆ、船嶽は荒神山の南に秀づ、共に火口あり、二山の北西に當リ一火山ありと、仙臺市より此等山嶽を西北に望むを得。

船嶽 陸前國加美・宮城ノ二郡、羽前國北村山郡ニ跨ガル。加美郡色麻村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

舟形山 〔式按スルニ、名勝地誌ニヨレバ、此山ハ前記船嶽ト同山ナルガ如シ、暫ク別記

シテ後考ヲ待ツ〕陸前國宮城郡ノ北西方ニアリ。大澤村ヨリ一里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

〔名勝〕船形山。郡の西南隅小野田村に峙ち黒川郡に跨る、一名船ヶ嶽と稱し、山勢頗る雄峻にして、雲霧常に峰巒を鎖せり、國中の中央の大山にして、遂に栗原郡の諸大嶽と相對せり、山脚は加美・黒川及び羽前國北村山郡に跨り、支脈蛇ヶ嶽・南寶森三峰山・北泉嶽に亘り、四境に羅列して羽州の境界を劃せり、此山古への噴火山にして、中腹以上矮松密生し、燒岩到る處に磊落たり、頂上池あり鏡の池といふ、往時の噴火口あり、直徑六十間、今は湖水となり水深深き測り知るべからず、湖畔に一祠あり、船形明神を祭る、往古 反正天皇の御宇勸請する所といふ、里人之を尊稱して御升瀆權現と名づく、又山中に勝境少からず、日天森・月天森・紫瀧・白瀧・屏風瀧・飛龍瀧等最も著名にして、就中胎内窟と稱する石門は高さ凡そ八尺、濶さ六尺、延長一丈二尺餘、天然の竅洞にして、神工の妙蹟くに堪へたり、石門より二十餘間、殿鎮に賴りて急阪を下りて、谿間を過ぐれば直に御所山なり、船形山の溪水四流一里、低處に直下し飛瀑となるものあり、岩角に抵觸して更に二條の瀑布に破る、右方丹紅のものを雌瀧と稱し頗

補遺 那須火山帯

る大なり、左方純白のものを雄瀧といふ稍や小なり、二瀧胎内窟より流出する澗水と相合し、爪字形をなす處、土人尊稱して寶前といふ、即ち御所神社を祭る所なり、御所山中奇觀亦乏しからず、七福神石・地藏石・賽ノ河原等の名あり、又流血溪〔アラチザハ〕と稱するあり、水色丹紅冠も鮮血の淋漓たるに似たり、尖頭三巖高く地を抜く處を三寶荒神飯石といひ、池水の白紅相半する處を水神無池といふ、中世佛家の名くる處なり。

蛇ヶ嶽 陸前國加美・黒川ノ二郡ニ跨ガル。加美郡色麻村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千七百尺。

寶森山 陸前國宮城郡ノ北西方ニアリ。大澤村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千百尺。

白髮山 陸前國宮城郡ノ北西方ニアリ。大澤村ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五十尺。

三峰山 陸前國黒川・宮城ノ二郡ニ跨ガル。黒川郡吉田村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高四千三百七十尺。

北泉嶽 陸前國黒川・宮城ノ二郡ニ跨ガル。黒川郡吉田村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。高標凡四千尺。

和津倉山 陸前國名取郡、羽前國北村山郡ニ跨ガル。名取郡秋保村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千三百尺。

面白山 羽前國東村山、北村山ノ二郡、陸前國名取郡ニ跨ガル。東村山郡山寺村大字山寺ヨリ一里二十町ニシテ其山頂〔南面白山カ〕ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高四千二百六十四尺。

北面白山 陸前國名取郡、羽前國東村山郡ニ跨ガル。名取郡秋保村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

南面白山 陸前國名取郡、羽前國東村山郡ニ跨ガル。名取郡秋保村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千六百尺。

水晶山 羽前國北村山・東村山ノ二郡ニ跨ガル。北村山郡山口村大字川原子ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡三千尺。

龍駒嶽 陸前國名取・柴田ノ二郡ニ跨ガル。名取郡秋保村ヨリ二里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

神嶽 陸前國名取郡ノ北西方ニアリ。秋保村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

大我妻嶽 陸前國名取郡ノ北西方ニアリ。秋保村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

小我妻嶽 陸前國名取郡ノ北西方ニアリ。秋保村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

東奥山 陸前國名取郡ノ北西方ニアリ。秋保村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

補遺 那須火山帯

リ一里二十町ニシテ其山頂〔南面白山カ〕ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高四千二百六十四尺。

北面白山 陸前國名取郡、羽前國東村山郡ニ跨ガル。名取郡秋保村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

南面白山 陸前國名取郡、羽前國東村山郡ニ跨ガル。名取郡秋保村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千六百尺。

水晶山 羽前國北村山・東村山ノ二郡ニ跨ガル。北村山郡山口村大字川原子ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡三千尺。

龍駒嶽 陸前國名取・柴田ノ二郡ニ跨ガル。名取郡秋保村ヨリ二里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

神嶽 陸前國名取郡ノ北西方ニアリ。秋保村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

大我妻嶽 陸前國名取郡ノ北西方ニアリ。秋保村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

小我妻嶽 陸前國名取郡ノ北西方ニアリ。秋保村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

東奥山 陸前國名取郡ノ北西方ニアリ。秋保村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

磐神山 〔主編八十五頁参照〕

日陽磐神山 陸前國名取郡ノ中央ニアリ。秋保村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

日陰磐神山 陸前國名取郡ノ中央ニアリ。秋保村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡九百尺。

太白山 (別稱烏兎ヶ峰、生出森) 陸前國名取郡ノ北方ニアリ。生出村ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高千三百三十尺。

藏王嶽 刈田郡宮村ヨリ四里ニシテ其山頂ニ

〔名勝〕 其峰高峻ならずと雖も、海上より之を遠望すべきが故に、流舟以て目標となす

達ス。「主編八十六頁参照」

〔小島氏増補〕白石停車場ヨリ西北六里三十町、背根温泉ヨリ登ル、或ハ大河原停車場ヨリ、遠刈田(トウカツタ)温泉ヲ經テ、背根ニ到リ、ソレヨリ登ルモ亦可ナリ、背根ヨリ山頂マテ、四三里ノ登道ナリ、コ、ニハ後者ノ登山記ヲ仰ス。大河原停車場下リ、金ヶ瀬ヲ離レ、宮ヨリ奥州街道ト分レテ右折シ、松川ヲ渡リ、山間ノ寒野ニ入り、遠刈田温泉ヲ過テ、蔵王嶽、背根山等、圍繞ノ底ニ在リテ、松川溪谷ヲ擁シ、淋瀝チキハム、是ヨリ經道ヲ經テ、背根温泉ニ到ルヤ、已ニ海面ヲ抜クコト三千三百尺、三面山ヲ繞ラシ、東ノ方ノミ展開シテ、陰前、磐城ノ二國五郡ヲ脚トシ、遠ニ宮城ノ沃野ヲ隔テ、松島ノ背嶽、牡鹿半島ヲ天外ニ望ム、是ヨリ直ニ急阪ヲ攀ツルヤ、二溪右ヨリ左ニ流ル、南ヲ清川トイヒ北ヲ濁川トイフ、即チ清川ニ沿フ、溪キハマルトコロ、「大瀧」〔オホタキ〕ヲ見ル、幅十餘間、直下百間、磐山ヲ崩セルガ如シ更ニ右徑ノ峻ヲ踏ミ、岫々〔カシ〕温泉道(急阪下リ、濁川ノ水系ニ入ル)ト分レ、竟ニ蔵王嶽ニ登ルヤ、結構ニテ眼界漸ク闊ク、背根ノ山、船岡山、白石川、或ハ阿武隈ノ大江マテ、脈絡分明ナリ、已ニシテ賽ノ河原ニ出ヅ、廣袤數里ニ亘リ、大小ノ石片重疊積ス、是ヨリ燧石ヲ踏ミ、一條ノ溪流「三途ノ川」ヲ見、緒黒ノ岩塊ヲ跳越シテ登ル、山嶽蔵王沼ニ出ヅ、周圍一里、略ハ圓形ヲ成シ、水色血ノ如ク、

摺鉢ニ先ツ、ソノ東面ハ五色山ノ斷崖ヲ達シ、西北南ノ三面ハ、噴火孔底ノ低地ヲ隔テ、馬ノ背、熊野嶽、刈田嶽ニ對ス、コノ中熊野嶽最モ尖銳シテ、山中ノ最高點ヲナス、蔵王權現ノ一小祠アリ、周圍ニ石ヲ積ムコト七八尺許、烈風ヲ防ケナリ、コノ山磐城ノ西北境ニアレドモ、陰前、羽前ノ三國ニ跨ガリ、頗ル雄大ノ風象アリ。〔登路ハ〕(一)東方遠刈田ヨリ岫々温泉ノ南ヲ過ギテ到ルモノ、即チ遠刈田温泉ヨリ、背根温泉ニ到ラザル前、道分ヨリ左ノ支道ヲ取リテ、蔵王山ニ向ヒ(本道ハ背根)蔵王川ヲ渡リテ、早川牧場ニ到リ、猪行キテ不動池ニ達スルヤ、幾何モナク路ハ二分ス、一ハ八丁ニシテ岫々温泉ニ到ル、他ノ一ヲ取リテ、蔵王嶽ニ向フ、一里ニシテ賽ノ河原ニ達ス、以下前文ニ同ジ、(二)遠刈田、背根温泉ヲ經テ岫々ノ北方ヲ通ズルモノ(前ニ舉ゲタル説文ハ則チノコノ途ナリ)(三)四方山形街道ヨリ、高湯ヲ經テ來ルモノ(四)山形寶澤(ホウザワ)ヲ過ギテ到ルモノ、(五)上山ヨリ上野ヲ經、俗ニ所謂「おすゞ」ヲ過ギテ到ルモノ等アレドモ東方ヨリスルモノ、最モ登攀ニ便ニ、(三)ノ高湯ヲ經テ到ルモノ、如キハ、高湯爆發火口内ヲ過ケルヲ以テ、岩塊磊々、凹凸甚ダシク、道路最モ峻険ナリトイフ。

横川嶽 磐城國刈田郡ノ北方ニアリ。七ヶ宿

村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩

ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千百尺。

大刈田嶽 磐城國刈田郡ノ北方ニアリ。宮

村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩

ヨリ成ル。標高凡二千六百四十尺。

番城山 磐城國刈田郡、羽前國南村山郡ニ跨

カル。刈田郡七ヶ宿村ヨリ二里ニシテ其山頂

ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高四千四百

八十五尺。

峠田嶽 磐城國刈田郡ノ北方ニアリ。七ヶ宿

村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩

ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千八百尺。

虚空藏山 (主編八十七頁参照)

〔小島氏増補〕米澤市ノ北方、十二里餘ニ峠田、郡山停車場ヨリ下リ、西北ノ方、宮内町ヲ經テ、金山、太郎、萩等ヲ經テ小瀧ニ登ス、コ、ヨリ爪先上リトナリ、一阪ヲ越ユレバ吉野川ノ上流トナリ、水勢奔激、石ヲ轉バズ、川ヲ涉リテ前メバ又急峻ノ一阪アリ、登レバ石宮アリ、周圍老杉々々、コレヨ

リ阪下リ、數町ニシテ山下ニ達シ、石ノ階段ヲ拾フコト數百間ニシテ、頂上ニ到ル、平衍ニシテ中央ニ虚空藏菩薩堂アリ、山名ノ起ル所以、老杉鬱鬱、雲霧暗シ、堂後杉疎ラニシテ、眺觀ニ可ナリ、コ、ヨリ山形市ヲ下瞰シ、日本三急流ノ一ナル最上川ノ溪谷ノ、屈折シテ團田ノ間ヲ流ル、ヲ望ム、コノ山實ニ五郡ニ跨ガリ、四時ノ登山客ヲ絶タズ。

深龜山 磐城國刈田郡ノ南方ニアリ。七ヶ宿

村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩

ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

壹岐山 磐城國刈田郡、岩代國伊達郡ニ跨ガ

ル。刈田郡七ヶ宿村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ

達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高凡千尺。

萬歲樂山 岩代國伊達郡、磐城國刈田郡ニ

跨ガル。伊達郡半田村ヨリ二里ニシテ其山頂

ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成リ。標高凡二

千八百尺。

厚樫山 (別稱阿都賀志山、國見嶺) 岩代

國伊達郡、磐城國刈田郡ニ跨ガル。伊達郡大木

戸村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ル。標高凡千三百尺。

杭甲山 岩城國伊達郡、羽前國南置賜郡ニ跨ガル。伊達郡茂庭村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩及ビ第三紀層ヨリ成ル。標高凡三千七百尺。

吾妻山 「主編八十八頁參照」

家形山 岩代國信夫・耶麻ノ二郡、羽前國南置賜郡ニ跨ガル。信夫郡庭坂村ヨリ四里十二町、南置賜郡山上村大字板谷ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高五千六百八十九尺。

一切經山 岩代國信夫郡ノ西方ニアリ。佐倉村ヨリ四里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山輝石安山岩ヨリ成ル。標高六千三百三十三尺。

〔大平氏ノ余ニ贈ラレタル紀行ノ一節、即チ明治三十七年八月十二日ノ條〕四時起床、六時出發、〔土湯温泉チ〕八時吾妻小富士ノ山腰ナル納豆坂ニ至ル、左側ニ有名ナル一杯清水アリ、寒冽一杯以上飲ムニ堪ヘザルヨリ命名セシナリト云、實ニ清冽ニシテ水量亦多シ、稍登レバ、數町歩ノ平地芝生ヲ見ルコト數々、仙水沼其他池沼多シ、梅・樺・白樺ノ森林之ヲ圍ムアリ、枯木ノ多キハ近時噴火ノ祟リナラン、小富士ノ左側ヲ廻レバ、直チニ一切經山ノ半腹ニ於ケル噴煙ヲ見、轟々ノ聲、鼓腹ヲ衝ク、十時現噴火口即チ硫黃谷ニ達ス、途中徑一問乃至二三間ノ凹穴、恰モ古井ノ如キモノ無數アリ、是レ近時噴煙セシ巨石ノ落下シテ陥成セルモノ、慘狀想フベシ、木山ハ間歇的噴氣ニシテ、其盛ナルトキハ聲梯ヲ凌駕ス、且硫氣甚シク、噴口硫黃附着シテ、花火筒ノ如キ狀ヲ呈シ、奇觀極マリ、試ミニ杖ヲ差出セバ、數分時ニシテ周圍硫黃ノ鍍附厚三分ニ及ブ、樹枝ヲ以テモ皆黄色ナル珊瑚樹ノ觀アリ、大噴孔三ヶ、小ナルモノ十數ナリ、十一時、一切經山ノ頂上ニ達ス、南ニハ小富士ノ頂上、摺鉢狀ノ噴煙口ノ美觀、其儘ニ存シ、北ニハ五色沼ノ大水溜アリテ、水色異彩ヲ呈シ、其他噴口、碧水ヲ溢フルアリ、赤水ヲ溢フルアリ、無色水アリ、濁レタルアリ、火山ノ歴史的標本ヲ觀シモノ、必ズ此山

ニ登ルベシ、木山又瀧ニ乏シカラズ、燕ノ瀧ノ如キハ、高三丈、巾敷間、瀧蓋ハ、方二十間餘、壯觀ナリ、五時土湯ニ歸宿ス、〔主編九十頁參照〕

吾妻小富士 (別稱矢筈山) 岩代國信夫郡ノ西方ニアリ。佐倉村ヨリ四里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高五千八百三十四尺。〔主編九十一頁參照〕

猫魔山 岩代國耶麻郡ノ東方ニアリ。大寺停車場ヨリ登リ得。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高四千七百二十二尺。

磐梯山 耶麻郡磐梯村ヨリ四里三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。〔主編九十二頁參照〕

〔大平氏ノ余ニ贈ラレタル紀行ノ一節、即チ明治三十七年八月九日ノ條〕四時起床、澄空微雲ヲ帶ビ、弦月山ニ落ントシテ其色黃碧、鶯鳥・杜鵑交々鳴キ、我等が登山ヲ祝スルガ如ク、爽快限リナシ、六時二十分、押立出發、七時二十五分、山腹ニアル頗ル粗末ナル拜殿ニ至ル、八時三十分「鬼ヶ原」ト稱

スル險處ニ至リ、十時五分、頂上ニ達ス、始終小僧・藤岡・空木・萩・結梗・女郎花・白百合・笹・樺等密生、殆ド身長ニ達シ、「鬼ヶ原」以上漸次巨岩ノ鬼窟タルヲ踏ム、頂上石楠・五葉松、地ニ蔓延シ、梅鉢草・岩梨多シ、而シテ會津地方ノ、自愧シテ日本中、高野ト木山トニ限ルト云ヘル、萬年草ハ、容易ニ之ヲ發見スルヲ得ズ、後他山ニ於テ非常ニ多ク之ヲ見シハ、其カ可笑シキ極ナリキ、頂上ニハ、塔モ人ヲ畏レザル松禪(大ニ美形銳聲)蝶・アキツ(蜻蛉)ヲ見ル。頂上南ニハ、猪苗代、北ニハ檜原、小ノ川・秋元諸湖ヲ瞰下シ、西ニハ、越後界ノ飯豐山、白雲ヲ戴ケル、頗ル美景ナリ、此日中ノ湯宿、翌日僅々破裂口底ヲ探ル豫定ナリシモ、佐藤君ノ都合ニ譲リ、直チニ破裂口底ヲ攀テ下リ、口底ヲ探ル、側壁急峻、約二千尺、危險極マル、口底噴孔ノ大ナルモノ八九、小ナルハ無數、熱泥性々足ヲ爛ラス候レアリ、赤色・褐色・暗色ノ熱泉涌出ス、所謂血ノ池也、白池等亦無數、偶々無色ノ池又ハ流川アルモ、就テ之ヲ嘗ムルニ、非常激甚ナル酸味・甘味・滋味ヲ含ミ、口ニスベカラズ、口底即チ河原ナルモノ、山頂ヨリ瞰下セバ、普通ノ噴ノ如ク見ユレド、足親シク之ヲ踏ムニ及テハ、屢大ノ巨岩而カモ破碎稜角アリテ、一上一下里餘ニ亘リ、膝脚疲レテ殆ド運アベカラズ、此日頂上巡檢ノ際、偶然鎌倉師範學生三名、會津中學生八名、郡山中學生四名ノ登山者ニ逢ヒ、衆ノ勢ヲ以テ夜ニ入り、漸ク水路ヲ辿リ、北麓川上温泉ニ投宿

鐵ヶ城 岩代國安達・信夫・耶麻ノ三郡ニ跨ガ
ル。安達郡嶽下村ヨリ三里二十町ニシテ其山
頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡
五千二百尺。

高井原山 岩代國安達郡ノ北西方ニアリ。
嶽下村ヨリ一里二十四町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標
高凡三千尺。

安出山 岩代國安達郡ノ北西方ニアリ。嶽下
村ヨリ二里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝
石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千百
尺。

和尙ヶ嶽 岩代國安達郡ノ北西方ニアリ。
嶽下村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝
石安山岩ヨリ成ル。標高五千九十一尺。

天狗角力取山 岩代國安達・耶麻ノ二郡ニ
跨ガル。安達郡嶽下村ヨリ三里五町ニシテ其
山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ル。標高四千
七百九十二尺。

川桁山 岩代國耶麻郡ノ南東方ニアリ。長瀬
村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山
片麻岩ヨリ成ル。標高四千五百七十七尺。

三森山 岩代國安積郡ノ南方ニアリ。多田野
村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山
輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千
七百尺。

李平山 岩代國安積郡ノ南西方ニアリ。赤津
村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三
紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千二百尺。

三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二百
尺。

餅箱山 岩代國安積郡ノ南西方ニアリ。福良
村ヨリ二里四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第
三紀層成ルモノ、如シ。標高凡三千百尺。

小籠森山 岩代國安積郡ノ南西方ニアリ。
福良村ヨリ二里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千
三百尺。

十八丁山 岩代國安積郡ノ南西方ニアリ。
赤津村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第
三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

安積布引山 (別稱會津布引山) トモイフ
カ) 岩代國安積・北會津・岩瀬ノ三郡ニ跨ガル。
安積郡赤津村ヨリ二里三町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山第三紀層ヨリ成ル。標高凡三千四百



小野嶽

尺。〔主編九十六頁布引山参照〕

小野嶽 岩代國南會津郡ノ北東方ニアリ。長

江村ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山英閃安山岩ヨリ成ル。標高四千七百三十

二尺。

船鼻山 岩代國南會津・大沼ノ二郡ニ跨ガル。

南會津郡檜澤村ヨリ一里二十八町ニシテ其山

頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高凡

三千三百尺。

保城嶺 岩代國南會津郡ノ中央ニアリ。笹岩

村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山英雲安

山岩ヨリ成ル。標高四千四百七十五尺。

鎌房山 岩代國南會津・岩瀬ノ二郡ニ跨ガル。

南會津郡旭田村ヨリ二里二十五町ニシテ其山

頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高四千

七十六尺。

小白森 岩代國南會津・岩瀬ノ二郡ニ跨ガル。

南會津郡旭田村ヨリ二里二十町ニシテ其山頂

ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高四千

九百五十尺。

大白森 岩代國岩瀬・南會津ノ二郡、磐城國西

白河郡ニ跨ガル。岩瀬郡湯本村ヨリ二里二十

五町、西白河郡西郷村ヨリ六里ニシテ其山頂

ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高五千

六百十尺。

高倉山 岩代國南會津郡ノ東方ニアリ。旭田

村ヨリ二十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝

石安山岩ヨリ成ル。標高三千八十九尺。

白河布引山 岩代國岩瀬郡ノ西方ニアリ。

湯本村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝

石安山岩ヨリ成ル。標高三千八十九尺。

八幡嶽 岩代國岩瀬郡ノ北方ニアリ。白方村

ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石粒狀

安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千七百

尺。

權太倉山 岩代國岩瀬郡ノ南方ニアリ。牧

本村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千

四百尺。

笠ヶ森山 岩代國岩瀬安積ノ二郡ニ跨ガル。

白方村ヨリ二里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山粒狀安山岩ヨリ成ル。標高凡二千七百尺。

茶臼嶽 〔主編百頁參照〕

〔小島氏增補〕 那須火山ハ、日本本土北翼ノ中央ヲ經走セル

那須大火山脈中ノ雄大山地ニシテ、ソノ區域ハ湖ケ、下野・岩

代・磐城ノ三ヶ國ニ亘レリ、那須火山ヲ分テ茶臼嶽・南月山・

三本館等ノ諸山トナス、コノ中茶臼嶽ハ、胃形ヲ成シテ、絶エ

ズ硫煙ヲ噴ケ、信州淺間山ガ、上毛ノ野ニ於ケルガ如ク、那

須野ヨリ仰グニ、瀟烈ノ氣人ニ迫ル、之ヲ以テ那須山ト言ハ

バ、則チ茶臼嶽ヲ指ス如クナルニ至レリ。登路ハ那須温泉、

湯本ヨリ發スルチ、最モ普通ニシテ容易ナリトス、黒磯停車

場(那須ノ名ニ欺カレテ、東那須野、モシクハ西那須野停車

場ヨリ下ル可カラズ)ヨリ、那珂川ヲ渡リ、左折シテ沓沓

ル那須野ニ入ル、路ハ湖ケ、ソノ間チ一直線ニ通ズ、一里半

ニシテ松子ニ至リ、コ、ヨリ十六町ニシテ、田代ニ至リ、又

二十町ニシテ、廣谷地(ヒロヤチ)ニ到ル、ソノ間、森林ト

原野ト、村舎トノミニシテ、直前茶臼嶽、及ビ高原火山群一

帯ヲ仰ギ、後顧スレバ八波山ノ一山、蜿蜒トシテ筑波、紫原

顔ヲ出ダスヲ見ルノミ、風物荒涼チキハム、廣谷地ヨリハ次

第二爪先上リトナリ、深林小溪ニ沿リ、二里ニシテ湯本ニ達ス

黒磯停車場ヨリコ、マア四里二十町、馬車ハ湯本ノ直下、急

勾配ノ前マテ通シ、車ハ湯本マテ通ズ(湯本元湯ノ西北二町

許ナル、溪澗ニ、著名ナル殺生石アリ、附近ニ硫化水素ヲ立

ツ。湯本ヨリ茶臼嶽ニ上ルニ、二道アリ。(一)ハ温泉旅舎ノ

背後ヲ流ル、一溪ヲ越エテ、路チ北ニ取リ、三十町許ニシテ

須那七湯ノ一ナル辨天温泉ヲ下瞰シ、又東十八町ニシテ北温

泉ヲ瞰、西ニ轉シテ行クコト十五町、牧場ヲ經テ大丸温泉ニ

出ヅ、是ヨリ登路漸ク急峻、火山通有ノ裾野ヲ勾配シタルトコ

ロチ、或ハ林間ヲ過ギリ、多クハ茫々トシテ關東平野ノ眺望

絶佳ナル原ヲ屈折シ、大丸温泉ヨリ一里餘ニシテ、三斗小倉

補遺 那須火山帶

温泉トノ岐路ニ至ルヤ、茶臼嶽ノ北面中腹ヲ過ケルヲ以テ、硫黄臭ヲ撲ツ、竟ニ茶臼嶽ニ到ル、(以下ノ記事ハ次項ヲ見ヨ)要スルニコノ路ハ、最モ容易ニシテ茶臼嶽頂マテ、山奥ニ乘リテ到ルモノアルヲ以テ見ルモ、ソノ山嶽トシテハ、最モ安樂ナルヲ知ルニ足ラム。(二)ハ等口茶臼嶽ノ裏山登イトモ稱スベキモノニシテ、前者ニ比スレバ路短クシテ峻険ヲ倍セリ、尊者ヲ湯本ニテ貸シ、温泉神社(那須奥一ノ氏神)ヨリ左折シテ登ルヤ、三角形ノ南月山、楕圓形ノ黒谷山ヲ仰ギ、同シク七湯ノ一ナル高嶺股ノ温泉ニ到ル、南面シテ那須野ヶ原ヨリ八溝山系、加波、筑波ヲ脚ニ展開スルヲ以テ、眺望七湯中第一ナリ、猶登レバ石標シテ「右大丸・辨天、左那須」トイフ、ソノ左ヲ取ルヤ、路急峻険風ヲ立テタル如ク、燧岩累累、熊征入ヲ汲ス、喘ギ上リテ「不動岩」ニ到ルヤ、那賀川・白川ハ銀蛇ノ如ク、那須村ハ峡谷ノ間ニ没シテ見エズ、猶上レバ南月山ヲ眼下ニシ、茶臼山ノ側面ヲ分明ニ見ル、石楠花・假松・岩高嶺等、扶疎狼藉、大石ソノ間ニ凸出ス、茶臼山ハ兜テ伏セタル如ク、ソノ筋目ヨリ雲ノ如キ白煙ヲ吐キ、石蒜々トシテ兜ノ傍ノ如シ、已ニシテ阿彌陀原トナルヤ、石地蔵ヲ安置ス、竟ニ茶臼山ニ達ス、山腹ノ洞穴、三日月形ニナレルヲ俗ニ「八間石ノオムロ」トイフ、深キコト五尺、硫黄ヲ燻ケ、又上レバ大岩アリ、岩下ニ噴火孔ニアリ、一チ男穴、一チ女穴トイフ、男穴ノ噴煙最モ猖獗ナリ、此二孔ハ、茶臼山頂、東西ノ

大石、大黒岩・まひす岩ノ間ニ在リ、ソノ他猶數孔アリ、硫黄ノタメ石皆黄染シ、熱湯ヲ噴キ、聲雷ノ如シ、ソノ猛烈淺間・阿蘇ニハ比ス可ラザラドモ、箱根大地獄ノ倫ニアラズ、茶臼嶽ヨリ峰頂ヲ仰ヒテ、直チニ朝日嶽ニ到ルベシ、三角測量標ハ、茶臼嶽ニアラズシテ、朝日嶽ニ立テリ、朝日嶽ノ在ルトコロハ、三木嶺火山ニシテ、信州八ヶ嶽ノ赤嶽ノ如ク、突尖角甚ダ多ク森列ス、茶臼ハ實ニコノ三木嶺火山ト、南月山トノ中間ニ聖座シ、南月山、東部ノ懸崖ニ接ス。因ニイフ、板室ト三斗小舎ノ、ヤ、遠キヲ除ケバ、他ハ悉ク隣次シテ、キハメテ廻ク、イブレモ登山道、モシクハ路傍ニ在ルヲ以テ、一瞥シテ可ナラム。

帝釋山塊

三倉山 岩代國南會津郡ノ東方ニアリ。旭田村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ル。標高六千百十五尺。

狷々森山

岩代國南會津郡ノ中央ニアリ。館岩村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第

三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千五百三十尺。

三ツ岩山 岩代國南會津郡ノ南西方ニアリ。大川村ヨリ三里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山小佛古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千七百尺。

烏帽子山 岩代國南會津郡ノ南西方ニアリ。大川村ヨリ一里二十八町ニシテ其山頂ニ達

ス。全山小佛古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千九百尺。

高倉山 岩代國南會津郡ノ南西方ニアリ。大川村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

日光火山群

赤蘆山 下野國上都賀・鹽谷ノ二郡ニ跨ガル。

女貌山頂ヨリ一里餘ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高七千五百五十七尺。

〔小島氏増補〕女貌山(別項記載)ノ東ニ峙テリ、即チ彼ノ山頂ヨリ峰頂ヒニテ、一里餘ヲ昇降スレバ、其頂ニ達スルヲ得ベシ、頂上ニハ只一ノ石寶殿アルノミ、又半腹以上ハ、奇石怪巖、凹凸起伏、互ニ相撲テリ、此山脈中ニ、錫杖・三笠・赤倉等ノ諸峰並立スレドモ、所謂禪頂行者スラ、登攀スルモノ甚ダ稀ニシテ、偶々獵師・探礦者ノ來ルコトアルノミナリトイフ、赤蘆ノ名ハ、山骨稜出シテ、諸褐色ヲ呈シタルガ故ニ命セラレタル如シ、天和三年ノ地震ニ崩壞セルトコロノ如キハ、殊ニ慘マシキ、赤色ヲ呈セリトイフ。此山標高七千五百五十七尺。

女貌山

〔主編百四頁参照〕

〔小島氏増補〕日光湖ノ尾(俗稱白糸ノ瀧ノ在ルトコロ)行者堂ヨリ、西北ニ方リ、三町許、阿彌陀ヶ峰ノ南、多寶山ノ麓「一ノ宿」ヨリ登ル、古來ニ荒山ノ絶頂ヲ、登攀セムトスルモノガ、日シテ以テ禪頂口ノ一ノ木戸トシタルトコロニテ是ヨリ北ニ向ヒテ登ルコト二十町許、殺生禁斷石ヲ立ツ、禁斷石ヨリ又上ル、熊笹多ク、當面ニ女貌山ヲ眺メ、右ニ稻荷

川ノ清溪ヲ隔テ、赤蘆山嶽ヲ仰ク、是ヨリ又二十町、征深ク路狭ク、見ケ墓ニ到ル、小塔ノ石上、地獄尊一軀ヲ安ンセリ、猶登ルコト十數町、四周ノ峻山、紫色ヲ帯ビ來ル、竟ニ八風トイフトコロニ至ルヤ、北ニ女鏡・赤蘆ノ峻嶺ヲ負ヒ、東南開路、日光今市ノ市街、臥雲ノ如ク脚底ニ在リ、筑波ノ双峰亦突起ス、コノ丘背ヲ傳ヒテ登リ、左ノ降リ道ヲ繞ケレバ絶大ナル赤褐色ノ断崖ニ、七條ノ大瀑布ヲ懸ク、稻荷川ノ水源ニテ、氷柱逆立スルガ如ク、所謂「七瀧」ナルモノ是レナリ漸ク女鏡山南ノ半腹、唐澤ニ到ル、「一ノ宿」ヨリ三里半ト稱ス、行者ノ宿坊一宇アリ、是ヨリ約半里ニシテ、女鏡山頂ニ達ス、コノ山男鉢山ノ東北ニ配シ、ソノ間大眞名子・小眞名子ヲ抱キテ、西ニ太郎山ヲ起シ、東ハ赤蘆山及ビ丸山ニ連ナリテ、上都賀郡ト鹽谷郡トノ境界ヲ劃セリ、絶頂雖ノ如ク尖リテ、急峻チキハム、巖頭ニ社殿アリ、俣松ハ権岩ノ上チ、狼藉倒伏ス。

専女山 下野國上都賀・鹽谷ノ二郡ニ跨ガル。女鏡山頂ヨリ登リ得。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡七千尺。

〔小島氏増補〕 前記女鏡山社頭ノ背後ヨリ直下スルヤ、一級ノ峰「クシノミ」ヲ下ル、行程僅ニ三町餘ト雖モ、峻嶮チキハメ、足指踏ムトコロ、僅ニ一尺、左右ハ瘴ギ落テテ、深ク

湖底ニ沈ム、巡峰中ノ最難所ナルヲ以テ、頂上ヨリ一條ノ鐵鎖ヲ垂下シ、不虞ニ備フ、峻路ツキテヤ、平坦トナルヤ、大傾斜ヲ横ギリ、石楠花ソノ他ノ矮木ヲ掻キ分ケテ、前メバ、高サニ丈許ノ巨石、尖銳シテ道ヲ閉ス、之ヲ専女山頂トナス正ニ女鏡山ノ西ニ列ナルモノニシテ、又鐵鎖一條ヲ架ケ、細リテ上レバ、峰頂ハ亂石縱横、脚ヲ踏ケガタク、或ハ石壁ヲ往キ或ハ岩角ヲ互リテ、當面ニ帝釋山ヲ望ム、願ミレバ女鏡山峻立シ、西ニ小眞名子・大眞名子・太郎山ノ諸峰ヲ望ム。

帝釋山 下野國上都賀・鹽谷ノ二郡ニ跨ガル。専女山頂ヨリ登リ得。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡七千尺。

〔小島氏増補〕 専女山ヨリ熊征ヲ推シ分ケ、十丁計ニシテ山麓ニ到ル、然レドモ麓地已ニ甚タ高キヲ以テ、山頂マデ、タトヒ峻チ登ルガ如ク急ナルモ、最モ近シ、コノ山、専女山ノ西ニ聳立シ、太郎山ト相對峙ス、矮樹ノ間ヨリ燒石落々タルトコロニ出ツレバ、奥ノ院ニ到ル、頂上尺餘ニ足ラヌ一宇ノ石寶殿アリ、佇立曠望スレバ津・越後ノ邊界、西北ニ連直シテ、波濤ヲ凹凸シ、栗山郷ノ山村ハ麓下ニ據マル。

小眞名子山 〔主編百五頁參照〕

〔小島氏増補〕 前記帝釋山ノ峻急ナル下山道ヲ降ルコト、一

里半ニシテ、半町四方計ナル、掌大ノ坵地、即チ馬立(ワマタテ)ニ達ス、日光町ヨリ栗山ニ赴ク通路ニ當リ、村民ハ荷物ノ運搬、及ビ駄馬ノ繼替ヲナスヲ以テ、コノ名アリ、馬立ヨリ登ルコト十八九町ニシテ、山嶽ニ達ス、頂上ニ地獄菩薩ヲ安置セル石堂一宇アリ、小眞名子大明神ノ名アリ、此山昇降トモニ急峻ナリ。

大眞名子山 〔主編百五頁參照〕

〔小島氏増補〕 前記小眞名子ヲ下リテ、山麓麓ノ葉ニ到ル、毎年八月、山開キノ日ヲ待ツテ、村民茶店ヲ出タスモノアリト雖モ、他ハ人ノ隻影ヲ見ズ、是ヨリ登ルコト一里、甚ダ峻チラズ、絶頂ニ御嶽山ノ社殿アリ、傍ノ石上ニ神人東帶ノ銅像ヲ安ズ、俗ニ日野權現トイフ、又山腹山麓ニモ、某々神ノ銅像アリ、下リ道トナリ、數十間ニシテ「千鳥返ヘシ」ノ嶮ニ到ルヤ、大眞名子表口、登山道ノ九合目ノトコロニ當リ、左右ノ山脚崩壞シテ、峭壁ノ一角ヲ屹立ス、千鳥モ越エル能ハスシテ、返レリト言ヒ傳ヘテ、コノ名アリトイフ、今鐵梯ヲ設ケテ僅ニ單行セシム、前後一町半、ソノ間四脚アリ、所謂日光巖山三嶮ノ一ナリトカ、千鳥返ヘシハ、約三町ノ間ニシテ、ソレヨリ十數町ノ間、石道崎嶇、已ニシテ險ニ臨ンデ、一大岩ノ突出セルヲ見ル、即チ三笠山ノ名アルモノニシテ、是ヨリ下ルヤ、白樺森立シ、漸ク山麓八海山神ノ碑アルトコ

ロニ達ス、男體・大眞名子、夾立ノ谷底ニシテ、猶行クコト五六町ニシテ、志津ノ行者堂ニ達ス、即チ男體山麓ニ在リテ、裏見ノ淵ヨリ湯水温泉ニ出ヅル間道ニ當ル、(表口ノ登山記事ヲ知ラムト欲セバ本文ヲ逆ニ讀ムベシ)大眞名子山ハ、御嶽講ノ行者、毎年登山ストイフ。

男體山 〔主編百六頁參照〕

〔小島氏増補〕 男體山ノ宗教的登山(禪頂)(センテウ)ハ、舊七月一日ヨリ七日マテノ間ニシテ、日光ノ本坊ヨリハ、ソノ以前ニ、僧侶モ上リ來リ繩索群シテ中宮祠ニ寓シ、當日午前一時ゴロヨリ登リ、味爽ニ絶頂ニ到リ、日出ニ拜スルナ例トス、ソノ喧嘩、深山ヲシテ市街ノ如クナラシムルホドニ盛ナリトイフ、中禪寺方面ヨリ登ルニ、四合目ゴロヨリ盤根錯綜、岩石奇突、勾欄頗ル峻急、五合目ニ行者小舎アリ、兩崖創立ノ間ニ立ツ、コレヨリ路愈ヨ峻急合目ヲ過ケレバ、奇梯ト鐵鏈トニ懸ラズンバ、上ル能ハズ、絶頂ヨリ下五六町ノトコロハ、已ニ岩樹・灌木ヲ絶チ、頂上レバ、周圍十町許ノ平地ニシテ、西隅ニ二荒神社ノ與社立チ、東ノ絶頂ニハ窟谷ヲ隔テ、三角測景標立テリ、絶頂ヨリハ、途ニ遠ク陸中ノ岩手山ヲ望ミ得トイフ。(田山花袋氏ノ「日光」ニ據ル)

太郎山 下野國上都賀・鹽谷ノ二郡ニ跨ガル。上都賀郡日光町ヨリ五里十八町ニシテ其山頂

ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高七千九百二十尺。

【小島氏増補】 大真子山ノ北ニ登ユ、標高七千九百餘尺、峰頂嶽然トシテ、高ク天ヲ摩ス、太郎ノ名ヲ辱シメズ、神橋ヨリ山麓マテ四里、山麓ヨリ頂マテ一里半ト稱ス、八九合目ヨリ下ハ、土石亂墜、ソノ幾千尺ナルカチ知ラズ、土俗太郎山ノ新羅ト呼ブ、難ノ中腹一枚石ノ斜面ナルアリ、之ヲ横絶シテ、一小徑ヲ通ズ、登山者股慄シテ之ヲ通過ス、女貌ノ劔ノ峰、大真子名ノ千鳥返ヘシ、太郎山ノ新羅、之ヲ併セテ日光山ノ三天巖所トイフ、山ノ九合目御花畑ノ北ニ、梵天石ナルモノアリ、高サ五六丈、ソノ他腰腹石・胎内滑・曼陀羅石・三木梵天等ノ怪岩危錯ス、絶頂ニハ、鐵鎖ニ纏ルコト懸面、巖岩ヲ攀テテ達ス、山嶽西ニ向ヒテ、太郎山神社ヲ祀ル、慈眼太郎【シゲンタロウ】明神ト號ス、四聖廟ル安瀾、南ハ男體ト讓ラズ、西ハ白根山ヲ抑ヘムト欲シ、北ニ岩代、越後ノ諸山雲畑中ニ隱顯出沒セルヲ望ム、山ノ下向道ニ唐銅造ノ華表一基アリ、ソノ南ニ在ル平地ヲ、御花畑トイフ、廣袤三町、白雲徂徠スル新羅、幾千尺ノ上ニ在ル小高原ニシテ、七八月ノ候、殊ニ高山植物ニ富ムヲ以テ、知ラル、コノ御花畑ノ南ノ丘上ニ、月山社殿アリテ、東向ス、太郎山ノ麓ヲ經テ、西ニ下ル河原ヲ、深澤【ミサヲ】トイフ、平時ハ、水溜レタレバ、石上ヲ歩シテ下ルヲ得ヘシ。

温泉ヲ巖 下野國上都賀・鹽谷ノ二郡、上野國利根郡ニ跨ガル。上都賀郡湯本ヨリ登リ得

全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高七千三百六十六尺。

【小島氏増補】 湯平【白根山何百頁參照】ノ西北五丁ニシテ山道トナリ、十町餘ノ登リニテ、其頂ニ達ス、コ、ニ小祠アリテ、中ニ藥師佛ヲ安置シアリトイフ、今石段ヲ疊ミテ、詣道ヲ造リ、石下及ビ中腹ニ、各一基ノ華表ヲ建立シ、社殿ヲ改築シテ、湯泉神社ト崇メ、又傍ニ一堂ヲ設ケテ、佛像ヲ之ニ遷シ、藥師堂ト稱セリ。

金精嶺 (別稱越嶺、木叢嶺) 下野國上都賀郡、上野國利根郡ニ跨ガル。上都賀郡湯本ヨリ一

里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山英斑凝灰岩ヨリ成ル。標高六千七百二尺。

【小島氏増補】 湯平ヨリ一里半、白根山ノ東北ニ當リ、上野國利根郡沼田ヘノ通路ナリ、別名ヲコカケ峠(樹峠、又ハ木叢峠ニ作ル)トイフ、峠ノ上ニ金精嶺現ト稱スル小祠アリ、標高六千八百六十四尺。【幸田露伴氏ノ小説對關樓】トイフ行留リノ山の中、見らるゝ通り、前は前白根、奥白根、霞の上

に頭を出してゐる始末、登山は夏さへ六ツかし、其嶺は横手の方は、魂精峠(コンセイタウケ)と俗に呼ぶ。木叢(コムラ)峠、此頂上は上野・下野、兩國の境界、山々折り果なりて當方(日光湯ノ湖)より越る六里の間に、暖湯飲むべき家もなし(中略)然し、名産の肉蓯蓉(ニクシヤウヤウ)も取つて醫藥にてもせんとの御思召ならば、時節悪し、云々(肉蓯蓉ハ、俗ニ「おにく」ト稱ス、木山ノモノ、最モ靈藥トシテ、珍重セラル、然レドモ、元來みやまはんのき等ノ根ニ寄生スル植物ニシテ、奇品ナレド、木山ノミニ生スルニアラズ、富士御嶽、駒ヶ嶽、ソノ他諸山ニ在リ。

白根山 標高八千二百五十尺。(主編百八頁參照)

【小島氏増補】 四籠湯本ヲ出立點トスベシ、(湯本ハ則チ中禪寺温泉、日光中宮祠ヨリ四北三里、神橋【ミハシ】ヨリ六里東西北ノ三面ハ、白根山・金精峠・温泉嶽、諸山ヲ以テ圍繞セラル、舊曆四月八日ヲ以テ浴盆ヲ開キ、同九月八日ヲ期シテ閉ジ、浴盆多シ)湯本温泉ノ所在地ヲ湯平【ユダヒラ】トイヒ、地坦平ニシテ、海拔千五百四十三米突、白根ハ、ソノ西北ニ方レル高嶽ニシテ、前白根・奥白根ノ二峰ニ岐ツ、前白根ヘハ、白根澤トイフトコロヨリ登ルヲ可トス、山嶽マテ凡三里、盛夏猶豊々タル白雲ヲ存ス、頂上ニ太郎神社ノ小祠アリ

補遺 那須火山帯

海拔二千二百八十餘米突、此邊矮樹拳曲シテ、荒蕪長ルベシ、後方チ順レバ温泉ノ標白ク颯リ、溪谷間ニ充チテ、浮游シ、前ニ奥白根ノ高峰我々天ヲ摩スルヲ望ム、ソノ間ニ一湖アリ、五色沼ト名ヅク、岩石水底ニ布キ、透明玻璃ノ如ク、色彩楚々榮々、奥白根ハ、前白根ノ西ニ屹立ス、全山皆石骨、絶頂ハ絶エテ樹木ヲ生セズ、登路一里許、東面ハ裂開シテ、特ニ異狀ヲ呈セリ、道キハメテ峻險、木石ノ攀援スベキナク、右曲左折、行路頗ル憚ム、辛クシテ登ルヤ、山嶽ハ平坦ニシテ、廣潤、且ツ群峰ヨリ高ク挺ンテタルヲ以テ、眺望豪壯、日光連山中ノ王ナルベシ、前白根ヨリ高キコト約三百米突、絶頂ニ小祠アリ、白根山神社(舊稱白根權現)ト號ス、小祠ハ唐銅ノ封被ニテ、永照ノ銘アリ、社ノ所在地ヨリ、東ニ危岩懸石峙チテ、別ニ一奇峰ヲ成ス、之ニ登レバ、天風浩々上平。下毛ノ大牛ヲ領スベシ、俗ニ白根山ハ男林山ノ與社ナリト言ヒ傳フ、東南ノヤ、平ナル地ニハ、八間餘バカリナル方形ノ深穴アリテ、常ニ水ヲ貯フ、習噴火孔ナリ、又北方ニ一大坑穴アリ、大サ數百間、深サ窺冥測ル可ラズ、岩縁ニ伏シテ穴底ヲ視ヘバ、雲霧旋渦シテ硫氣鼻ヲ撲チ、人ヲシテ涙ヲ墮ラシム、此山兩毛ノ國界ニ蜿蜒シ、東方ヨリ山嶽マテハ、下野、西方ノ八合目邊ニ當ルトコロヨリハ、上野ニ屬ス、上野方面ヨリ登ルトコロニハ、一社アリテ荒山權現ヲ祀リ、利根郡小川村民ヲ崇慶甚ク厚シトイフ、【日光山志】ニ曰ク、山の中腹は、

悉蒙翠を重れ、樞樞多く、樹陰の邊に名産と稱する白根人參、或は白根菜、白根蘭等、其餘の異草、珍木多く、藥品とするもの、黄蘗を初とし、枚舉しがたし、靈熱ゆゑ、容易に登臨することを許さずト、然レドモ植物ハ殊ニ前白根ニ豐饒ナリ、日光山嶽中、眞個無二ノ靈嶽。

笠品山

〔日光國幅笠嶽ニ作ルモノ蓋シ此山ナラン〕上野國利根郡ノ北東方ニアリ。登路片品村大字土出ヨリス、里數未詳。全山蛇紋岩ヨリ成ル。標高七千二百七尺。

迦葉山

上野國利根郡ノ中央ニアリ。池田村大字上發知ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高四千五百五十四尺。

〔名勝〕三峰山に隣り直立千二百尺、綠樹鬱々として繁茂し、頂きに登れば、馳望遠く、風色極めて佳なり、山腹に龍華院あり、仁壽三年の草創にして、上野大守一品葛原親王の開基、慈覺大師の開山なり、又山中に異鳥棲り、名ハ佛法僧と云ふ、其聲佛法僧と聞ゆるが故に、斯く名けしものなりとぞ。

庚申山

〔主編百九頁参照〕

〔小島氏増補〕足尾ヲ開放シテ、上州街道ヲ四行スルコト六町許、大字、中居トイヘルトコロヨリ上ル、登山ノ表口ニシテ丈餘ノ一大碑石立チ、碑面ニ庚申山ノ三大字ヲ鐫ル、又別ニ御別所(山麓ノ意)迄、從是行程百十四丁ト刻シタル石標アリ、則チコノ碑ノ在ルトコロヨリ右折シ、中居ノ一ノ碑表ヨリ、庚申山ノ麓マテ百十四町(三里六丁)ニ別ツ、ソノ一丁目毎ニ石標ヲ立テ、參詣者先導ノ便ニ供ス、皆東京講中ノ建設スルトコロナリ、四十九丁目ニ、銀山平(ギンザンガイラ)トイフニ出ヅ、足尾町ヨリコ、マテ二里、面積四五町、地勢ヤ、坦平、鎮山神社アリ、(毎年五月十一、十二ノ兩日、盛ナル祭典ヲ舉グトイフ)鎮夫輩ノ飯場長屋多シ、是ヨリ六十三丁目マテハ、庚申澤ノ溪流、濼々タルトコロニ滑ヒテ爪先上リトナリ、六十四丁目ヨリ、數十町ノ間、築礮タル山腹ノ峻嶒ヲ上下シ、八十五六町以上、山腹愈々峻峻、登リ一方ニテ、百十四丁目ナル山麓ニ達ス、社務所アリ、喫飯投宿、登山客ノ便ニ供ス、此坊ヲ出立點トシテ、山頂ノ所謂、與ノ院マテ一里餘アリ、山中ノ光景ハ、概チ主編ニ出テラレバ、復説ノ要ナケレド、更ニ大牒ヲ記スレバ、右社務所ノ傍ヨリ僅ニ登リタルトコロニ、百間幕ト名クル岩石アリ、又登レバ車(キノコ)石アリ、ソノ先ナル路傍ニ峙ルチ、櫛石トイヒ、ソレヨリ愈ヨ登ルニ隨ヒ、奇石怪岩鬼貌ヲ呈シ、ヤガテ

一ノ門ニ抵ルヤ、門ハ二柱石屹峙シ、頂ニ巨岩横リテ、自ラ門形ヲ成ス、コ、チ過ギテ、右ニ向ヘバ、高サ數丈ノ危石溪間ヨリ兀立ス、梵字石則チ是レ、更ニ前メバ不二見岩アリ、ソノ傍礫石、燧燭石ノ奇アリ、之ヲ四極トナシ、途チ東ニ轉ズレバ、胎内賣トナル、第一チ小胎内トイヒ、洞穴小ニシテ、區便モザレバ入ル能ハズ、ソノ次チ大胎内トイヒ、濶サ六尺許、直立シテ入ルベシ、是ヨリ上下十餘町ニシテ、奥ノ院ニ達シ、更ニ下リテ下向道ヲ五六町降レバ、東ノ茨トイフトコロニ出ヅ、左ハ男林山ヲ望ミ右ニ筑波ノ加波ヲ懸シ、遠ク房總ノ海ヲ瞰ル、コ、ヨリ熊笹ヲ推シ分ケ、直下二十八町ニシテ例ノ社務所ニ歸ヘリ得、山嶽飲料水ニ乏シキヲ以テ、豫シメ準備アルヲ要ス。所謂「山開キ」ハ、毎年舊曆四月八日ニ始マリテ、同九月九日ニ終ルヲ以テ、コノ間ニ登山スルヲ便トス、ソノ他ハ徑ヲ鎖シテ、登攀ヲ得セシメズ、日光ヨリ山頂マテハ、九里半ト稱ス、則チ日光町ヨリ大字細尾マテ一里二十九町、細尾ヨリ神子内(ミコウチ)マテ細尾峠(細尾峠ハ登ルコト一里餘ニシテ、嶺ニ達ス、海拔千二百三十米突、牛腹ト絶頂トニ、茶店アリ、下ルコト一里、栃木平ヲ得、又數町ニシテ神子内ニ下ルナリ、峠ハ八沙ノ瀧瀧ヲ以テ名アリ、冬日在々猿猴ノ群ヲ成シテ、出沒スルヲ見ルトイフ)ノ峻嶒ヲ踏ユテ、二里二十二町、神子内ヨリ足尾町マテ一里三十三町、總計六里十町ニシテ、足尾ヨリハ前記ノ如シ。

赤城山

勢多郡宮城村大字三夜澤ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。〔主編百十二頁参照〕

地蔵山 上野國勢多郡ノ北西方ニアリ。富士見村大字小暮ヨリ二里十八町(赤城湖畔ヨリ凡一里)ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高六千七十九尺。

黒檜山 上野國勢多郡ノ北西方ニアリ。登路宮城村大字三夜澤ヨリス、里數未詳。(赤城湖畔ヨリ凡三十町)全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高六千二百四十七尺。

〔小島氏増補〕赤城山ニ登ルニハ諸道アリト雖モ、ソノ主要ナルモノハ、(一)大間々停車場ヨリスルモノ(二)前橋停車場ヨリスルモノ(三)高崎停車場ヨリスルモノトアリ。(一)大間々停車場ヨリハ、西北五里三十町ニシテ達ス。(二)前橋停車場ヨリハ、大胡道・小暮道ノ二條アリ、各道七里弱トス。(大胡(オ、セ)道、前橋ヨリ大胡町マテ、二里ニシテ達ス。(車ヲ通ズ)即チ赤城ノ山麓ニシテ、コ、ヨリ導者ヲ賃シ

徒歩シテ傾斜緩漫ノ裾野ヲ行クコト一里許、三夜湯村ニ達ス、縣社赤城神社ヲ祀ル、コレヨリ路頓ニ急峻トナリ、約二時間ニシテ湖水(赤城沼、或ハ大沼トイフ、周回約一里、幅十五町)ニ着スベシ、コノ間急峻トイフト雖モ、薩摩下駄ニテモ、登山シ得ベシ。小暮道、前橋ヨリ下細井・上細井・時澤等ヲ經テ、小暮町ニ到ル約二里、(ハ、コ、マデハ腕車ヲ通ズ)小暮ヲ出テ、一ノ島居ヨリ白河ノ流ニ沿ヒ、漸ク山路ニ入ルヤ、是ヨリ赤城山麓麓輪マテ三里半ノ間、人家ヲ見ズ、ソノ間一條ノ草徑ニシテ、通行人モ、稀有ニ左右ハ皆小松原、箕輪ヨリ山急ニ迫リ、直條一里ニシテ、新坂ニ至リ、右折シテ赤城山ニ達ス、小暮ヨリコ、マテ馬ヲ備ヒ得、即チ高崎、或ハ伊香保方面ヨリスル澁川道ト、コ、ニテ合一スルトコロナリ、前橋ヨリノ、コノ小暮道ハ、概テ大道ニシテ、且ツ岐路ナキガ故ニ、最モ便利ナリ。赤城山トイヘルハ、大沼及ビ赤城神社等ノ在ル平地ヲ指スモノニシテ、普通コ、ヲ赤城山頂ト稱スレド、マコトノ絶頂ハ、コノ湖ヲ環リテ、聳立セル黒檜以下ノ、所謂赤城五峰ナリ、故ニ眞ノ赤城山ヲ究ムトスルモノハ、更ニ五峰ノ中ノ、イブレカニ登ラザル可ラズ、即チ次ニ詳記スルモノ是レ。(三)高崎停車場ヨリハ、高崎市、モシクハ伊香保ヨリ澁川ニ至リ(高崎ヨリ澁川マテ約五里半、伊香保ヨリ澁川マテ約一里半)澁川ヨリ利根川ヲ渡舟ニテ越エ(渡賃二錢ヲ徴ス)對岸ノ八崎村ニ着ス、澁川ヨリ十五町許

ナリ、八崎村ハ赤城登山路十餘口ノ中ノ一ナレド、登路至ツテ複雑セルヲ以テ、導者ヲコノ村ニテ賃スルヲ可トス、案内料、山頂赤城神社マテ時七十錢乃至一圓ナレド、姥子峠マテ可ナクム、賃金五十錢以内ナリ。八崎村ヲ離レ、十餘町ニシテ全ク人家ナシ、路ハ一條ノ草徑道ヲ通ズルノミニシテ、左右ハ小松ヲ森林トセル、裾野ナリ、勾配ハ緩漫ナレトモ、山頂マテ登リ一方ナリ、殊ニ飲料水ニ乏シク、個々谷底ニ水ヲ見ルモ、飲イテ酌メバ泥水トナリテ、口ニスベカラズ、故ニ夏日ノ登山ハ、豫シメ水ヲ準備スルカ、或ハ梨ヲ携帯スベシ、但シ山道往々しゆどめ、又ハ覆盆子多キ故、渴ヲ慰スルヲ得、路頓ニ急峻トナリ、左右皆深谷、四里計登リタルトコロニ(澁川ヲ基點トシテ)六地蔵アリ、平生ハ無人ナレドモ、四月十一日ノ赤城祭禮ニハ、茶店出ヅト、コノ邊焦砂結々、僅ニ石地蔵一基ヲ存ス、赤城山屏風ヲ立テタル如ク、鮮明ニ仰ガレ得ベシ、即チ最モ右ナルハ鍋割、隣レル元山ハ荒山、之ニ次ケル坊主山ハ地蔵山、最モ高ク聳立セルハ黒檜山ニシテ、相隣次セルヲ鈴ヶ峠トナス、已ニシテ漸ク姥子峠ノ頂ニ達ス。峠ヲ下リテ、前橋ヨリノ本道ニ合ス、此附近ヨリ水立トナル、水立ナメグリテ、牧牛場ノ側ヲ過ケレバ、湖水ヲ見ル、湖ヲ半バ巡リテ、大洞(ダイド)〔主編補遺〕項ニ大當トアルハ非ナリ)ノ唯一旅館猪谷ニ着キ得ベシ、名物トシテ、菜鹽・蕎麥、及ビ湖水ニ漁レル清魚ヲ膳ニ上セ得、澁川ヨリ五

里、神社ハ湖畔ニアリ、建テザマイト質樸ナレド、森然タル樹木ニ遮ラレテ、眺望可ナラズ、山頂ニ立ツニアラズ、湖ノ全幅ヲ下瞰スルヲ得ズ。赤城山中ノ最高點ナル、黒檜ヘ登ラント欲セバ、神社側ヨリ湖畔ニ沿ウテ行クコト三町餘、右ニ黒檜道ナル小石標立タルトコロヨリ右折シテ、三十町程傾斜峻急ノ山路ヲ登ルベシ、實ニ神社ノ東北ニ聳立シ、赤城山中ノ盟主ニシテ、又上毛三山中ノ最崇峻、三角測標ヲ立テ、蟲取すみれ、雪割草等ノ高山植物多ク乱咲ス。赤城五山中黒檜及ビ鈴ヶ峠ハ、湖畔ニ屹立スレド、地蔵嶽ハ神社ヨリ四南ニ聳ヘ、鍋割山及ビ荒山ハ神社ヨリ遙カニ隔タレリ、地蔵嶽ニハ、殆ンド路ナク、熊征ヲ分ケテ登ラザル可ラズ、コノ山ノ麓ハ雜木、中腹ハ草原ニシテ、山頂マテ約一里、一時間半ニシテ上下スベシ、山北ニ小湖(周回約半里)アリ、湖水流レテ、深々タル澁河トナリ、高サ十丈ノ不動滝ヲ作ル。地蔵山麓ヨリコノ小湖マテ、約五丁。赤城ノ高峰黒檜・鍋割、及ビソノ他ヨリ眺望ハ、脚下茫々タル關東平原ヲ下瞰シ、遠クハ會津連山ヨリ、筑波ニ至リ、近クハ妙峰・榛名・日光・淺間ノ諸峰ヨリ、遙ニ富士ニ長揖シ、利根川「之」字形ニ銀蛇ヲ蜿蜒ラス、天高地淵、氣宇頓ニ豪壯ヲ覺ユ。湖チ一周シテ、山上ノ諸勝境(登山ヲ別トシテ)ヲ巡覽スル路三里ト稱スレドモ、約半日ヲ費ナスベシ、所謂山上ノ諸勝境トハ、地蔵谷・湯ノ澤・梨木等ノ諸温泉ヲモ含ム、實ハ冷温泉水涌カシテ、浴用

ニ供スルモノニシテ、旅舎イグレ兩處ナレドモ、山中ノ幽寂、神代ノモノヲ静カニ味フヲ得。
榛名山 群馬郡室田村大字下室田ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編百十四頁參照)
ニツ嶽 上野國群馬郡ノ北西方ニアリ。伊香保町大字伊香保ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡四千二百九十尺。
相馬山 上野國群馬郡ノ北西方ニアリ。登路相馬村大字廣馬場ヨリス、里數未詳。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡四千八百尺。
富士山 (別稱榛名富士、伊香保不二、小富士) 上野國群馬郡ノ北西方ニアリ。室田村大字榛名山ヨリ九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高四千八百八尺。
 (小島氏增補) 伊香保温泉ヨリ登ルヲ、最モ近クシテ、最モ

便下ス、伊香保温泉へ、澁川ヨリ行クベシ、(高崎停車場ヨリ、宇小島井田・中里・柏木峰林・水澤等ヲ経テ、澁川ニ到ルベク、前橋停車場ヨリハ、北ノ方十二三町、宇細ク澤ヨリ、利根川ヲ渡リ、澁川ニ出ヅ、兩道共ニ馬車ノ便アリ)澁川ヨリ足指次第ニ仰ギ、從來ノ路概ネ、利根川平蕪ニ反シテ、森林路ヲ夾ミ、イサ、カ奇趣ヲ成スヲ見ル、凡ソ二時間弱ニシテ、伊香保町ニ達ス、町ハ標名山ノ半腹ニ在リ、西ハ湯澤ヲ隔テ、高根ノ山麓ヲ控ヘ、北ヨリ四ニ遠クハ三國ノ連峰、近クハ小野子ヲ持テ諸山ヲ見ル、東方ヨリ北ニ向ヒテ、所謂上毛平野ヲ展開シ、澁川前橋等ノ諸村落ヲ點綴シ、赤城日光ノ峻峰ト、我が標名山ト、紫塊森林、相映發スルヲ望ム、標名山ハ東腹ニ伊香保ヲ擁シ、南四ノ山側ニ、標名神社ヲ戴セ、己ハソノ中間ニ屹立シ、關東平原ニ君臨ス。普通標名山頂トイヘバ、標名神社ノ在ルトコロヲ以テ、擬スルガ如クナレド、標名山ノ最高點ハ、標名湖上ニ孤盤セル標名富士(或ハ伊香保不二、又小富士トイフ)ニシテ、ソノ他、コノ山ノ周圍ヲ包ムル、所謂外輪山トシテ、烏帽子嶽・雲梯山・現岩・掃部ヶ嶽・水室山・摺籠岩・相馬山・ニツ嶽・萩岩等ノ諸突起點アルガ故ニ。マコトニ標名登山ノ名實ヲ併得セムト欲セバ、以上ノ諸嶽中ニ就キテ、比較的ニ高キモノヲ踏破セザル可ラズ、先ヅ伊香保町ヲ發シ、湯ノ澤ノ左岸ニ湖ノコト約五丁、湯本道ヨリ右ニ折レ、風曲凡半里ニシテ西南ニ二ツ嶽・男嶽・女嶽

ノ分府アリ)高聳ス、途チ右ニ取リ、猶登ルコト半里ニシテ、瘦胸峰ニ出ヅ、前ニ廣淡タル平野ヲ展開シ、野花錦繡ヲ布ク即チ中央火口原ニ當リ、古稱榛原(ハクハラ)今伊香保平ノ名アリ、コノ原ヲ隔テ、秀美ナル標名不二ノ背面ヲ望ミ、東方ニ相馬ヶ嶽屹立ス、二ツ嶽ト共ニ寄生火山タリ、順勝スレバ赤城山、巨人ノ如ク踞シテ、遠ニ我ヲ驚クカ如シ、今ハ新道チコノ曠原ノ中ニ帯ノ如ク蔽リテ、前ムコト二十町計、左ニ摺籠岩ノ溪澗ヲ瞰、遠ク駿河ノ不二、近ク伊香保不二ト、雙原嶺ヲ對ス、又十餘町ニシテ、(伊香保沼ノ左岸ニ出ヅ、沼ハ古歌ニ「伊香保の沼のあやみ草、云々」ノ絶句アラシメタルトコロ、略ボ圓ニ近キ楕圓形ニシテ、東西四十一丁、南北十七丁、周圍三十五丁ト稱ス、北ニ沼尾川ノ火口瀨ヲ發ス、湖水面ノ高度、已ニ三千九百有餘尺、春夏ノ候、雲霧多ク、湖面ヲ往來變幻ス、湖畔ヨリ山中ノ最高點、標名不二コト登ルベシ、秀美ナル圓錐形ヲ呈シ、三十度内外ノ傾斜ヲ作シテ峻立ス、其頂上ハ東ニ向ヒテ缺ケタル馬蹄形ノ火口ヲナシ、殘壁北方ニ殊ニ高ク、陸軍參謀本部ノ一等三角測量臺ヲ立ツ、此馬蹄形ノ噴口内ヨリ、東部ノ火口ニ向ヒテ、熔岩流出ノ痕跡アリ、火口ハ今埋マリテ、平地トナリ、草ヲ生スレトモ、一木ヲ見ズ、不二ハ湖面ヨリ高キコト八百餘尺、山麓ノ沼汀ニ、俗稱一番(ヒトモッコ)山アリ、傳ヘイフ、往昔鬼神アリ、一夜ニシテ湖ト不二トナ作ル、工成ルニ垂ントシテ、味爽セルヲ

以テ、一簣ノ土ヲ覆ヘシテ去ル、ソノ土即チ此山ナリト妄誕ト雖モ、一種ノ山嶽神話トシテ保存スベキニ似タリ。湖ノ四北南ニハ、烏帽子・雲梯・現岩・掃部ヶ嶽・屹立ス、烏帽子・雲梯・現岩、皆形ノ似タルニヨツテ名ツケトイフ、腫テ湖畔ニ旋ケラシテ、左岸ノ小阪ヲ登レバ、伊香保・標名兩村界ヲ劃セル天神峰ニ出ヅ、標名神社ノ大華表アリ、峰ハ南ニ標名群山ヲ望ミ北ハ湖水ノ玻璃盤ニ雲眉ヲ鑑ス、風象涼爽、峰ヨリ緩漫ナル傾斜ヲ下ルコト十八丁、標名神社ニ至ル、神社ハ掃部ヶ嶽ニ祀ラル、到ル前ニ溪流ヲ隔テ、九折(ツマラ)岩ノ奇ヲ望ミ得、標名山ノ山村ハ、戸數二百餘、古雅ノ風頗ル愛スベシ、標名不二下山ノ途次ヲ以テ、一遊スルモ、甚ダ可ナリ。

金山 (別稱新田山上野國新田・山田ノ二郡)

ノ東方ニアリ。新田郡太田町大字太田ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。金山石英斑岩ヨリ成ル。標高凡千三百尺。
 (名勝) 太田町の北に在り、高さ百餘丈、二湖山老松蔚々として生ひ繁り蒼翠掬すべく風光太だ佳なり、此山は一名を新田山と稱し、古へよりの名所なり、頂上に古城跡あり、古へ小野塞の繩張せしとるにして、其後新田氏累代の居城となり、義貞に至り、大に此城を經始し、其功半途にして王事に就れ、大永二十四年其孫貞氏之を修築す、天正十八年小田原

の役、此城も遂に陥りて廢し、今も古井泉礎を存せり、此處は眼界洞達、南に方利根川の急流、恰も青蛇の走るが如く、白帆片々として其間を往來し、洵に活潑闊に似たり、又此山に躑躅花多く、夏日は恰も錦繡を晒すが如く、頗る美觀なり、秋には多く松葉を生じ、味び太だ旨なるを以て、其名世に高し、(山上新田神社あり、新田義貞ヲ祀ル、山下高山神社アリ高山正之ヲ祭ル)

淺間山 北佐久郡西長倉村大字追分ヨリ三里

十八町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編百十六頁參照)

(小島氏増補) 主篇ニ見エタル如ク、信濃・上野二國ニ跨ケルル大嶽ニシテ、日本山嶽築造史中、殊ニ重要ノ位置ヲ占ムル名山ナリ、山麓廣潤チキハムルヲ以テ、登山口ノ如キハ、嘗ニ二三マシテ止ム可ラズ、主要ナルモノ、ミニテモ、追分・沓掛・御代田・小諸等數口アリト雖モ、コ、ニハ其一ニテ詳記ス。(ニ)輕井澤道、淺間山ニ登ルニハ、勿論夏日ナラザル可ラスシテ、シカモ夜ノ深更チ以テ輕井澤驛ヲ發足スルナ更ニ可トス、其理由ハ茫々無涯ノ感アル稱野ヲ行クニ、樹影渺ナク、且ツ原盡クレバ、噴石焦沙ノ上チ歩セザル可ラザルヲ以テ、晝間ノ炎熱ヲ防クニ術ナケレバナリ。(輕井澤ヨリ導者ヲ貸シ、(約一四五十錢)沓掛驛ヲ過ギ、右折シテ東又北ニ向ヒ、

淺間ノ裾野ナル所留六里ケ原ヲ行ク、左方近ク深谷ヲ下瞰シ、谷ヲ隔テ蒼木ノ翠鬱ヲ見ル、輕石層ノ深サ、時二十數尺ニ達スル(天明三年大噴火ノ物)上ヲ拔足シテ、阪路ヲ上リ、小淺間山麓ニ出ヅ、コ、ニ到ルマデハ、新拓ノ草津温泉道ナレバ、車ヲ通シ得ルモノレヨリ草津道ヲ捨テ、左折シテ北行ス、落葉松以下ノ針葉樹林、簇々トシテ空ヲ露ス、林中ヲ穿行スルコト數町ニシテ、大淺間ノ山下ニ達ス、騎客モコ、ニ至リテ、馬ヲ下ラザル可ラザルヲ以テ、馬返ヘシテ名アリ、行クコト猶數丁、既窮マリテ急峻ノ山路トナル、傾斜甚ダシキハ六十度ニ達スルアリ、全道皆露岩セル沙土ト、浮石トヨリ成リ、疎鬆ニシテ足ヲ受ケザルヲ以テ、寸ヲ上リテ尺ヲ下ル感アリ、二三町ニシテ峻嶮ヤ、衰フト雖モ、難道悉モ減セズ、小淺間ハ指呼ノ間ニ迫ル、路右ニ迂曲シ山側ヲ巡リテ掌大ノ平地ニ出ヅ、四圍ノ山壁、火山灰砂ノ層狀ヲナスヲ見ル、コノ地ハ幾ント淺間山ノ絶頂ニシテ、之ヨリ小丘ヲ越ユレバ、噴火口トナル、小丘ハ細微ノ火山灰ヨリ成リ、安山岩ノ大塊ヲ布ク、丘ノ半腹ヨリ遠雷段々ノ大響ヲ耳ニス、已ニシテ丘上ニ達スレバ、硫磺泉ヲ衝ク、噴火口ハ東西ニ長ク南北ニ短ク、長楕圓形ヲ作り、東南ノ火口壁ト東北ノ火口壁ト、兩地點相對シテ、淺間山ノ最高點ヲ作ル、火口底ハ略ホ平坦ニシテ、赤熱ノ熔岩、淡蒼ノ瓦斯ヲ以テ充タス、本邦活火山中、必ズ登攀セザル可ラザルハ、肥後ノ阿蘇山ト、コノ

淺間山ノミナルベシ、山頂ノ眺望、宏潤、豪壯、一牛ハ日本山嶽地、一牛ハ日本平原地ヲ結束シテ、已レ之ガ媒介者タル感アリ、只タ露霧ノ變化酷クシキタメ、爽明ノ日ハ、至リテ稀ナリトス。輕井澤ヨリ、淺間火口マデ、直徑僅ニ二里ナレド、屈折シテ電光型ニ登ルガ故ニ、五里以上ニ及ブ、殊ニ馬返シヨリ頂上マデ、イカナル健脚家ト雖モ、三時間以上ヲ要ス、「馬返シ」マデ、馬ヲ備フモ、一頭ニ圓五十錢ヲ食ボララベシコノ山、殊ニ水ニ乏シキヲ以テ、登山者ハ、必ズ水ヲ準備セサル可ラズ。因ニイフ、馬返ヘシヨリ草津街道ニ出ヅレバ、「押シ出シ」ト稱スル、熔岩流ノ床狀ヲナセルモノヲ看ルヲ得ベシ、山路ヨリ下瞰スルコトヲ能クスト雖モ、視シク探ルノ興趣多キニ加カズ。(二)御代田道、停車場附近ノ旅館ニ就キテ導者ヲ賃シ、北越街道ノ小踏驛ト、丁字ニ通スル往還ヲ斜横シテ、雜木林ニ入ル、路岐スルコト頗ル多ク、或ハ沮洳ノ濕地ヲ涉リ、淺間ノ裾野ニ出テ、近ク前掛山ヲ仰ク、上ルコト一里半、唐松ノ御料林ニ入り、鮮ヤカニ前掛山ノ巔ヲ見ル石標アリ、草間ニ仆レテ「淺間山禪定道三十六町」ト刻ス、寬ニ雜木林ヲ突破シテ、石炭槽ノ如クナル煤石累累タルトコロニ出ヅ、是ヨリ路急峻ニシテ胸ヲ突キ、右ニ俗稱屏風岩、左ニ銀ヶ峰ヲ仰ク、銀ヶ峰トハ所謂前掛山ノ赤褐色熔岩層ナリ、竟ニ能征盡キ、假松帶亦疎ラトナル、此山中ニ水ヲ出ダストコロ、コノ附近ニ僅ニ一ヶ所アリ、前掛山ノ絶頂ニ立チ

緩斜ヤ、下リテ大噴口邊ニ立ツ岩ニハ夏日猶氷柱ヲ垂レ、尖リテ寒劍ノ如シ、火口ノ紀事ハ、前條ニ譲ル、要スルニ此道ハ、磁カナル導者ヲ選任セザルハ、安ズル能ハザルホドニ、混雜セリ。(大平氏ノ「富士淺間登山紀行」ノ一節、即チ明治三十五年八月二十二日ノ條)道分(輕井澤驛ト御田驛トノ間ニアリ、大平氏ハ六時三十分、道分ヲ出發セラレタリ)ヨリ緩斜ノ廣原唯草ノ生ヒ互ル中、僅カニ認メ得ベキ小運ヲ辿リ、行クコト一里餘、所謂道分原是ナリ、本山ハ現活火山ナレバ、世人恐レテ、登ル者稀ニシテ、道路ハ到底富士道ノ判然明然タルニ比スベクモアラズ、案内者ナクンバ、殆ド道ヲ失フベキ所少シトセズ、進ムニ從ヒ、漸ク松・落葉松ノ古木ヲ見ル、但到底富士深林ノ比ニアラズ、近年官林トシテ、落葉松ノ栽培漸次増殖シツ、アリ、林間縱横ニ幅數尺ノ芝地ヲ網ギ取リ、淺渠ノ如キ區劃ヲナセルモノ、是レ山火事ヲ防止スル爲メナリト、云ヘリ。七時二十分赤瀧(又血ノ瀧ト稱ス)ニ達ス、瀧高サ三丈、幅一丈許、水緒赤色ヲ呈ス、蓋シ淺間南麓ノ血ノ池ヨリ流下セルモノ、血ノ池ハ、鏡分ヲ含有スル浮石ノ分解ヨリ成ル、附近ノ人々ハ此水ヲ服用セバ、胃病ヲ治シ、此瀧ニ打タルレバ、腹痛ヲ治スルノ効アリトシテ、尊崇セリ、瀧ノ傍ニ、凡ハ八疊敷大ノ廢洞アリ、口狭クシテ奥廣ガレリ、予瀧水ヲ以テ顔ヲ洗ヒ、且ツ試ミニ之ヲ飲ミニシニ、甚シク酸澁味ヲ感セリ、案内者ハ、瀧ヲ出シ、此水ヲ

入レ、飲用ノ爲メ携帶セリ。赤瀧ノ前チ近ク横ギリ、崖壁ヲ登リ、十數町ニシテ、道ノ左右ニ所謂血ノ池二個アリ、相距ルコト數十間、池水赤瀧ヨリ更ニ深赤色ナリ、蓋シ赤瀧ハ、他ノ溪流混入スレバナリ、玆ニ奇ナルハ、左方ノ血ノ池ヲ距ルコト十間許ニシテ、背池ト稱スルアリ、甚シキ藍青色ヲ呈ス、是レ硫酸鐵ノ溶解セルモノナラン、三池皆徑凡ソ十五間餘、稍長圓形ヲナス、池ノ周ハ沮洳ノ草地タリ。血ノ池ヲ過ケレバ、運路漸ク急峻、山ノ隅角ヲ行クコト一里餘、落葉松ノ古木蜿蜒俯仰セルハ、臥龍ノ如ク、突兀トシテ梢頭ノ塵ケルハ、虎ノ嘯クニ似タリ、登ルニ從ヒ、樹幹愈矮縮、葉亦短ク、高僅ニ尺餘ナルモ、皮鱗岩塊ノ如ク、壽命數百年ノモノ多キガ如シ、實ニ樹體家ノ流涎措ク能ハザル所ナラン、此間往々地梨ノ實ヲ得、之ヲ喫スルニ、酸味甚ダシク、頗ル渴チ醫スルニ足ル、果實ノ大ナルモノハ、雞卵大ノ如ク、果皮綠色ニ縹褐色ヲ帶ブ、其幹株ハ、割合ニ小ニシテ、長二尺ニ過ケルモノ稀ナリ。左方近ク峙テラシ、石尊山トナス、綠衣ノ縹ビシ所、山骨稜々タルヲ見ル。本山半腹ニ至リシ頃、我等ニ先ツコト數町、五人ノ登山者アルヲ認メシガ、我等ハ程ナク之ニ追附ケリ、彼等四人ハ、高崎中學生ニシテ、一人ノ案内者ヲ從ヘシモノ、中二人ハ既ニ甚ダ疲勞シ、百歩ニ一休五十歩ニ一息、其狀甚ダ氣ノ毒ナリ、予清心丹、寶丹ヲ與ヘテ之ヲ慰藉シ、徐々同行ヲ勸メシニ、彼レ感謝シ、勇ヲ鼓シテ

登リシモ、一步ハ一步ヨリモ惱ミ、遂ニ復タ寸歩進ムコト能ハズ、俛臥シテ、友人ノ還リ來ルマテ、待ツノ聲悟チナセリ。淺間ノ山ハ、半腹以上殆ンド樹木チ見ズ、唯火山砂礫中、燒生茂草ノ散點セルアルノミ、愈登レバ砂礫愈小トナリ、嶮峻愈加ハル、殊ニ危險ナルハ、前者ノ歩行ニヨリテ、轉落セル岩塊ノ、加速動キ起スニアリ、故ニ行成ルベク密集シ、且ツ斜行進チナスヲ要ス、富士ノ登リ道ハ、概テ固定セル岩角チ踏ム所多クレドモ、淺間ノ砂礫塊々足掛リナク、尺進寸退ナラバ、猶可ナレドモ、時ニハ尺進尺退從テ時間ヲ費シ、且ツ疲勞チ免レズ、七八合以上ハ、道ノ形トテハナク、急峻益甚シク、山ヲ背ニシテ腰チ地ニ掛テ懸テコトスラ叶ハヌ程ナリ、途中往々巨石ノ占居スルチ見ル。是レ前掛山ノ岩崩崩塊墜落セシモノナリ。我等ハ前掛山ノ岩壁兩角チ目差シツ、進ム、腰根細美ナル火山砂アルチ見、直チニ用意ノ紙袋チ取出シ、之チ採取シ、右折シテ稍進メバ、傾斜漸ク緩トナリ、岩塊亦大チ加ヘ、火山灰之チ散ヒ、歩行大ニ易ク、十一時二十分、頂上ニ達ス、偶々數人ノ前方ヨリ來ルニ逢フ、一掛スレバ則、高崎中學校ノ教員三人、生徒二人、案内者一人チ從ヘ、沓掛道ヨリ登リシモノナリ、乃チ皆現火口チ距離コト十數間ノ處ニ於テ、灰上ニ箕座シ、休憩スルコト十數分、忽チ轟然タル地下ノ鳴動ト共ニ、黒烟噴口ヨリ上騰シ、數秒ニシテ、豆大ノ砂礫降り來リテ、笠殆ンド破レントシ、大豆大ノ

砂礫ハ、漸次小豆大トナリ、粟大トナリ、遂ニ細灰ノ密降トナレリ、此意外ナル劇烈ノ噴狀ニ逢ヒ、衆皆愕然慄然タリ、同座中、倉皇躍起逃ケ去ルアリ、他モ亦之ニ倣ヒ、三人五人走レリ、爾レリ、予ガ身邊ニ唯一人ノ予ガ案内者高橋アルノミ高橋曰ク、先生去留ノ決意如何ト、予曰ク、若シモ本山ノ破裂ナランニハ、駭ケルモ、飛アモ、及アベカラズ、身ハ早寸裂分碎、焦熱地獄ノ物ト成リ了ラン、然ルニ、今我ノ手足モ、首モ、依然タリ、且ツ本山ハ、始終噴勢ニ強弱アルチ間ケリ、餘リ恐ル、ニ足ラザラン、暫ク坐シテ、經過チ待タント、高橋亦甘諾セリ。蓋シ本山ハ、當時ニ於テモ、半腹ニ至レバ、轟々タル噴聲チ聞キ、濃烟幾條天チ衝テ升ル、故ニ氣弱キモノハ、既ニ膽チ奪ハル、疑心時鬼トコロカ、悚心活地獄ニ接ス、能ク探險スルモノ少シ、殊ニ硫氣瀰漫、咽喉チ刺戟シ、咳嗽チ發ス、後道分茶屋ノ語ル所ニヨレバ、彼ノ高時諸君ハ、一目散ニ道分マテ、逃ケ降りシモノト見エ、午後三時頃、茶屋ニ休ミ、命拾ヒセシトテ、恐ロシカリシ物語チナシ、直チニ歸郷セリト、當時ノ劇噴ハ、道分驛ニ於テ轟響チ聞キ、夥シキ黒烟チ認めタリト云ヘリ。此千歳一遇ノ劇噴コソ予ニ取リテハ、意外ノ仕合セナレ、本山ハ、平時噴勢ニ多少ノ強弱アリ、從テ濃烟モ亦多少アレド、噴氣常ニ立チ籠メテ、火口ニ近ヅクコト難ク、強イテ近ヅクアルモ、烟色ノ爲ニ、火口底チ窺ヒ視ルベカラズ、然ルニ、此劇噴數十分ノ後

ハ、珍ラシクモ靜穩トナリ、且ツ此日ハ、幸ニ風伯亦休息シ少量ナル烟ハ、前眞ニ立チ升リシチ以テ、火口縁チ左ヨリ一周シ、安全ノ處チ探ヒ、被灰チ拂ヒ、縁際岩角チ碎キ採リ、紀念物トナシ、火口底チ視得ル便宜ノ突角ニ箕座シ、火山活動ノ眞味チ探ルベク待チ掃ヒツリ、濃烟ハ益減少稀薄トナリ、尙餘ノ中微ニ其口底ナルカチ認め得ルガ如シ、乃チ雙眼鏡ヲ以テ之チ窺フニ、果シテ底部ナリ、之チ熱視スルニ、底ハ一窟富士火口底部ノ如ク、漸次口壁探照ノ爲メ塞ガリシモノ、如ク、底中更ニ數多ノ噴氣孔チ見ル、其大ナルモノ、西北隅ニ四孔孤列シ、南ニ一火孔アリ、各孔噴烟ノ色同シカラズ、西北隅ノ四孔中、最西ノモノハ、白色、次ハ黒色、次ハ暗褐色、次ハ黄褐色ニシテ、南ノ大孔ハ、暗黒色トス、各孔ノ噴勢、時ニ強弱アリ、或ハ同時ニ、或ハ異時ニ、噴烟シ、同一孔中ヨリノ烟色、亦時ニヨリ多少ノ變更アリ、噴霧セラレシ岩塊砂礫ノ墜下シテ、孔上ニ至ルヤ、復タ噴キ騰ケラレ、騰リテハ墜チ、墜チテハ騰リ、恰モ湧泉ノ沙石チ上下循環セシムル如ク、口壁ニ反響シテ、其音轟々然タリ、其壯觀烈狀、得テ名狀スベカラズ、五個大噴孔ノ他、小ナル噴孔ニ至リテハ、舉ゲテ數フベカラズ、或ハ底部ニ、或ハ側壁ニ、口縁ニ、時ニハ足下、不意ニ噴烟ニ遭ヒ、一驚チ喫スルコトナキニアラズ、忽然トシテ噴キ、忽然トシテ止ム火山ノ奇、火山ノ美、亦極マレリト謂フ可シ。口壁峻峭、削ルガ如ク或ハ在々欽竄チナスアリ、

假令噴烟セザルコト、富士ノ如クナラシムルモ、到底降り得ベカラズ、予試ミニ、徑尺ノ岩石チ投セシニ、加速動チ以テ墜下シ、其衝突スル所、脆壁ハ、粉碎シ、硬壁ニハ反響セラレ、猛勢フルニ物チク、尺徑ハ、忽チ寸徑トナリ、分徑トナリ、未ダ底部ニ達セズンテ、視角既ニ微小トナリ、認めムコト能ハズ、想フニ、富士火口ニ比スレバ、其深少クモ、五倍以上ナランカ。世人ノ多クガ、淺間ノ口底知ルベカラズトナシタル臆想モ、一朝予チシテ、之ガ解決ノ榮チ負ハシム、切ニ淺間ノ山竅ニ謝スル所ナリ。此日山上ハ晴天ナリシガ、下界ハ雲霧ノ鎖ス所トナリ、唯南方遙ニ、甲州境上ノ八ヶ嶽チ望ミ、又西北越後、越中ノ國界ニ於ケル高峰ノ、僅カニ白雲海上ニ其冠チ現ハスアルノミ、雲霧斷絶ノ門本山ノ麓ニ並列セル、青赤三池ノ異色、隱然眼底ニ映セシハ、頗ル美景ナリシ。予ハ火口底チ探照セシコト三時間許、其根氣強キニハ、案内者モ頗ル驚ケリ、彼ハ是マテ案内チナスコト、數十回ナリシモ、其視察ノ微密ナルコト、未ダ嘗テ予ガ如キモノナキチ述ベ、且ツ自リモ予ガ爲ニ、空前ノ知識チ得タリトテ、大ニ喜ベリ、四時噴火口チ辭シ、前掛山チ經、迂迴シテ半腹ニ降り、元ト登リシ道ニ復シ、再び赤瀧ニテ、名殘ノ顔チ洗ヒ、七時道分驛宿シ、案内者ニ慰勞ノ酒チ與ヘ、自宅ニ發信シ、十時就寝ス。〔中略〕本山チ昇降スルニハ、丈夫ナル草鞋(藁製)ナラバ、三足ニテ足レリ。本山ニハ、地方的怪談甚ダ多シ、然シ

中ニハ亦輕躡登山者ノ戒、戒トナスニ足ルモノナキニアラズ、昔時御嶽ノ者、蓋リニ本山ノ石ヲ持チ去リシニ、忽チ彼地ニ、暴風雨起リテ止マズ、本山神靈ニ謝祭シテ、漸ク平陸ニ歸スルヲ得タリト、又昔時自修行者アリ、日本ノ名山大嶽ヲ跋渉セシ身ナレバ、淺間登山ノ如キハ、朝飯前ノ仕事ニ足ラズト、高百ヲ放チテ登リシガ、不思議ナルカナ、忽然無間地獄ニ墮リテ、鬼神ニ入レリト、其他血ノ池、青池等ニ關スル、妄誕亦多シ。淺間山上ハ別ニ石室等ノ、宿泊ニ供スベキモノナシ、故ニ赤瀧ノ傍ニアル巖洞ニテ、暴風雨ヲ避ケ、頂上掛山ノ壁下、僅カニ露營ヲナスヲ得ベシ、赤瀧巖洞ハ、濕氣甚ダシク、レバ、宿泊ニハ不可ナリ。

籠ノ塔山 信濃國小縣郡、上野國吾妻郡ニ跨ガル。小縣郡福津村大字新張ヨリ三里五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高七千二百四十七尺。

烏帽子山 信濃國小縣郡、上野國吾妻郡ニ跨ガル。小縣郡和村ヨリ一里三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡七千二百尺。

湯丸山 信濃國小縣郡、上野國吾妻郡ニ跨ガル。福津村大字新張ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡六千三百尺。

妙義山 〔主編百二十四頁參照〕
白雲山 上野國北甘樂郡ノ北方ニアリ。妙義町大字妙義ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高三千八百四十五尺。

金洞山 (別稱中ノ嶽) 上野國北甘樂・碓氷ノ二郡ニ跨ガル。北甘樂郡妙義町大字妙義ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡三千九百六十尺。
金雞山 上野國北甘樂郡ノ北方ニアリ。妙義町大字妙義ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高二千九百四十尺。

〔小島氏増補〕 赤城・黒瀧・金雞・白雲・金洞、五山ヲ呼ンデ、上毛ノ五色山ト稱ス、コノ中金雞・白雲・金洞ノ三山ハ、則チ妙義山ノ全林ナリ、普通妙義山登リトイヘバ、金洞山ハ第四石門ヨリ順チ回ラシ、白雲山ハ「大」ノ字ニ至リテ止ムヲ常トスレド、マコトニ妙義山ヲ極メト欲セバ、猶前ムテ三山ノ絶頂ヲ踏破セザル可ラズ、左ニ巡次記スルモノ、即チ是レナリ。上州松井田ニテ。浪車ヲ下リ、町ヨリ左折シテ碓氷川ノ危梁ヲ渡レバ、前面ニ蓬萊三山ノ如ク危嶽スルモノ、即チ妙義山ニシテ、松井田ヨリ三十八町ニシテ、山ノ北麓、妙義町ニ達ス。三山ハ左ニアルチ金雞山トイヒ、中央ニアルチ金洞山、又ハ中ノ嶽トイフ、(實ハ金洞ノミニテモ又三峰ニ別レ、東本嶽・中ノ嶽・西本嶽等ノ名ヲ有スレドモ、コノ中間ノ到リ得ルトコロハ「中ノ嶽」ノミナルガ故ニ、「中ノ嶽」ハ金洞山總林ノ代表トシテ用ヒラル) 右ニ時テルチ白雲山トイフ、金雞山最モ低クシテ最モ險ニ、金洞山ハ石門ノ奇チ以テ、三山中最モ名アリ、白雲山ハ、最モ高クシテ、最モ幽邃ナリ、先ヅ(一)金雞山ノ登路ヲ記サム、松井田町ニテ尊者ヲ貫シ、細ト稚林ノ間ヲ風折シテ行ケバ、右ニ金洞山ヲ仰ギ、左ニ金雞ノ峰尖兀立スルヲ望ム、已ニシテ、金雞ノ山腰ニ出ヅ、菅原村ノ突端ニシテ、御嶽神社ヲ祀ル左スレバ、金洞山ニ到ルベク右スレバ、金雞ナリ、右ニ向ヒテ杉木立ノ路ヲ上レバ、二合目ニ出ヅ、コノ路ヲ拓キタル中澤崎吉トイフ、人ノ銅像立テリ、

山形ハ何枚折ノ屏風ヲ立テタル如ク、石ハ挺秀山ハ聳立シ、往々膝行セザレバ行ケ能ハザルトコロアリ、四合目ニコノ山ヲ創メタル僧某ノ石像ヲ安ズ、已ニシテヤ、平坦ナル地點ニ出ヅ、三笠山トイフ、不動尊ノ銅像アリコレヨリ、法螺立岩ヲ仰イテ、五合目ニ到リ、猶上リテ七八合目トナルヤ、乾瀧(ヒダキ)類摩リ等山中第一ノ絶嶽アリ、石梯骨ヲ露ハシテ、神廟セラル、如ク、眼下ノ岡嶺皆道リトシトス、絶頂ハ一筋ノ平地ヲ剩マス、眺望宏壯、南ハ秩父ノ山、南甘樂ノ北甘樂、諸郡ノ重峰ヲ見、西ニ船底ヲ天ニ向ケタル如キ荒船山一帶ノ紫翠ヲ望ミ、金洞山ノ鷗波ヲ殊ニ近ク見ル、下山ハ別路ヲ取り、片手岩ノ嶮ヲ下リ、山麓ノ大洞穴チ一瞥スルチ可トス、洞ニ入ル、長サ十七間五尺ニシテ、窮マリ、底ニ穴チ見ル、即チ梯シテ下レバ、コ、ニモ洞アリテ、前ヨリ路湖ク、長サ三十一間、池アリテ前ム可ラズ、洞ヲ出テ、不動行場ノ瀧ニ到リ、金雞登山ヲ完了ス。(二)金洞山前頂記スルトコロノ御嶽祠前チ、前路ヨリ向ツテ左ニ折レ、金雞ノ支峰、鉅頭岩ヲ眺メ、金洞ノ山麓ニ到ル、コノ山石門凡ソ十五、六ハ大、九ハ小、大ナルハ金洞ノ四石門ト、小ナルモノ、中ニハ、百合若射抜ノ岩チ、星穴ヲ算ス、四石門ハ到リ觀ルコトヲ得ベクレド、他ノ二ハ天鑿ルノ日、横川驛ヨリ遠望セラル、ノヨ、九ノ小石門ニ至リテハ、仙人明チ探ラムタメ隔戸チ半開シタルカ如ク、ソノ多クハ遠望ダモ容易ナラズ、長阪ヲ登リツ

クシテ武尊廟ノ入口ニ至リ、又石積チ上リテ「西山峽」ト稱スル臥牛狀ノ石ヲ跨ギ、旭岩及ビ霧ナリ岩ニ上レバ、葛籠岩、鞍掛岩、烏帽子岩、雙見岩等ヲ瞰ル。旭岩ハ古人ノ紀行ニイフトコロノ、所謂大日峰ナリ、是ヨリ十五石門ノ一ナル、八丈ク嶺ヲ觀風折シテ金洞山背ノ經頂ニ立チ得、鐵鎖ニ丈ヲ繫ケ、攢樹繁潤、峭壁ヲ擁シ頂ニ至レバ、掌大ノ地ナリ、山ツレハ勁風ニ風曲シ、淺間、碓氷、及ビ荒船群山、黒淵山等、高低起伏シ、低山ノ眺望トハ、思ハレズ、金洞山ノ絶頂チキムムルニアラズンバ、妙義山ヲ脱ク可ラズ。己ニシテ山ヲ下リ、社務所前ニ出テ、一阪チ上リテ左折シ、第一石門ヲ見ル、高サ九丈、巾七丈、門ニシテ山、山ニシテ石、大磐巖、小磐巖、鼓岩ノ三岩、附近ニ相掛シテ、人立ス、第二石門ノ側チ上ルコト一町ニシテ、第二石門アリ、高サハ第一ノ三分ノ一ニ過キサレド、上瀾ク下狹ク、嶮ハ彼ニ倍セリ、道ノ石門ヲ沿リ、「盤ノ横道ヒ石」ノ上チ下リ下リテ、暫クシテ第三石門ヲ觀ル、第一ニ比シテ高サ亦及ハサレド、瀾サハ過ギ、半輪形ニ截ラレテ、脚下ノ嶮壁百仞、乱峰飛バントス、少シク戻リテ、本路ニ出テ、右行スレバ、諸突岩簇々峭立シテ、一々名ヲ配スルニ堪ヘズ、是ヨリ第四石門ニ到レバ、横ノ瀾キコト、四石門中ノ隨一、附近ニ幅起セル嶮岩ハ管ニ十指ヲ並ビ立テタル如クニシテ止マズ、眺望亦絶佳右ニ金洞ノ絶頂チ仰ギ、左ハ天狗窟以下ノ攢峰ヲ見ル、「胎内瀾リ」ヨリ、二條ノ鐵鎖

ニスガリテ上リ、東山峽天狗臺・巖岩ヲ際行シ、「蟻ノ戸」タリ岩「ノ鼻」三竹メバ、動「ユルギ」岩ト、磐石隔テ、相對シ山コ、ニ懸メリテ、欽崖屏峙、山ノ奇コ、ニ至ツテ窮マル、竟ニ前路ヲ第一石門ニ戻リ、「管公現ノ水」チ一瞥シテ、一本道ヲ十町許、東華表ニ出テ、谷ヲ隔テ金羅ニ對シ、赤城、庚申、筑波ノ諸山ヲ仰ケ、小澤氏ノ葡萄園ヲ通過シテ、妙義町ニ返ルベシ。モシ妙義町ヨリ、發足スルトセバ、本文ヲ逆ニ讀ムベシ、即チ葡萄園、東華表ヨリ先ヅ第一石門ニ到リ、第四石門附近チキムメテ、又第一石門ニ戻リ、社務所前ヲ通過シテ、金洞ノ絶頂ニ登ルチ順トス。(三)白雲山。同シク妙義町チ起點トシテ、發足シ、妙義神社ノ權門ニ入り、社ニ詣テ、「七本杉」ヲ過ギ、賽尚崎キ阪道ヲ行キ、少シク平坦ナル欽巖ニ出テ、竹チ「大」字形ニ東ネテ林ニ蔽シ、ソノ竹ニ咒符、ソノ他ノ紙片ヲ挾メルチ以テ、遠望スレバ白雲ニテ、揮灑シタルガ如シ、眺望ヤ、可、高田、碓氷ノ二川、赤城、榛名ノ二山ヲ見、關東平原縦帯チ布ク、是ヨリ「天狗評定所」ト呼バレル平地ニ出テ、櫻田ヶ嶽ノ絶頂ト相對ス、大水龍レテ路チ排ビザルトコロヲ踏ミ、「鬼尻リ」ヨリ、右折シテ、經壁チ仰ギ、石積チ上リテ「奥ノ院」ニ詣テ院トハイヘド危愕ノ洞門ニシテ中ニ大黒天ノ石像ヲ安ズルノミ、別ニ屋舎アルニアラズ、是ヨリ「奥ノ院」側ニ屏立セル絶壁チ、草薺石塊ニ足ヲ托シテ懸猿シ、又胸チ突ク如キ急阪ヲ踐行シ、竟ニ絶頂ニ爬ヒ上

越後山系

月山火山群

燧嶽 羽前國最上・東田川ノ二郡ニ跨ガル。最上郡古口村大字古口町ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡三千尺。
羽黒山 「主編百二十七頁參照」

補遺 越後山系

ル、巖底竊冥ニシテ、視テ可ラズ、向崖ニ相馬ヶ嶽・鼓ヶ嶽ノ二峰、突兀眉睫チ壓シテ立ツ、淺間山堂々トシテ硫煙ヲ揚ゲ、白根山亦白チ裂キタル、如ク天外ニ懸エ、風物豪壯、妙義三山中ノ王トナス、ニ足ル。之ヲ要スルニ妙義山ハ火山集塊岩成ノ山ニシテ、岩石ノ奇巧ヲ極盡シ、殊ニ霜葉紅チナスヲ以テ、秋季ノ登山ハ、夏期ノ他ニ克リテ、殊ニ妙ナリ。主編二十六頁「立去那」里眉毛に秋の條案し」ノ句ニ一茶ト署名セルハ、蕪村ノ誤記ナリ。「大平氏ノ余ニ贈ラレタル紀行」一節、即チ明治三十七年八月十九日、氏ハ金雞・金洞ヲ極メ、二十日、白雲山ヲ探ラレタリ。妙義ハ實ニ火山岩ノ化物屋敷ナリ、強イテ評スレバ、巧奇ニ過ギテ、森殿チ欻クノ嫌アリ、

「小島氏増補」月山火山群中ニテ、羽黒山・月山・湯殿山ハ、「羽前三山」トシテ、早クヨリ世ニ知ラレ、奥羽・信濃・佐渡・越後、五ヶ國ノ總鎮守ト定メラレ、毎年七月十八日ヲ以テ例祭トシ、參詣道客、一年平均二十萬人ヲ下ラズトイフ。然レドモ嚴格ニ言ハバコノ三山ハ、殆ンド一ノ山トシテ見ルチ適當トス、即チ月山ナル一大消火山中ノ、淺間ノ一區域チ湯殿山ト稱シ、山麓ノ一丘陵チ羽黒山ト呼バレルモノニシテ、決シテ三山鼎立セルモノニアラズ、主編湯殿山捕譯ノ條ニ「此山ノ有無ニ就キテ議論アリ」ト言ヘルハ、マコトニソノタメナリ、然レドモ三山ノ名大ニ聞エ、殊ニ三山ニ登ルニハ、羽黒山ヨリ先ヅ初ムル例ナルガ故ニ、今コノ山ヨリ順チ追ヒテ、記サム。羽黒山ニ登ルニ二道アリ。(一)南道ハ山形・天童ヨリスルモノニシテ、山形ヨリ西北車道、十二里計ニシテ、四村山郡本道寺村、志津ニ到ルベシ、(ソノ間塞河江「サカエ」白岩踏村ヲ經)是ヨリ俗ニ御覽前ト稱スルトコロマデ、路甚々険ナルチ以テ、徒歩ニアラザレバ、能ハズ、「裝束場」ヨリ古草鞋山積スルトコロヲ踏ミテ、月光山チ右方ニ望ミ、大梵宇川ノ清流ニ沿ヒ、道ヲ四ニ取ルコト數時、東田川郡、湯殿山ノ神前ニ達ス、山麓ニ竹籬チ綴ケラシ、幣束燈光相映發ス、コ、ヨリ温泉出テ、湯殿山ノ名因ツテ起レル所以ナリ、鐵製ノ梯子下リテ瀨ニ出ヅレバ、所々ニ石像ヲ置ク、絶頂トオホシキトコロニ本社アリ、海拔僅ニ八百尺ノ小丘陵ナルチ以テ

山ノ如キ感起ケル。(二)北道ハ最上川沿岸ノ清川驛、或ハ
鶴ヶ岡或ハ酒田ヨリ狩野驛ヲ經テ、イヅレモ羽黒山北麓ノ手
向「タフケ」村ニ到リ、コ、ヨリ登ルヲ可トス。(本道ハ、表
口ニテ、前項所載ノ南道ハ表口ナリ。)手向驛ハ全ク月山道客
ノタメニ宿坊ヲ業トスル、屋舎、約千戸ニテ充タサル、村ノ
突端ヨリ出羽神社ノ大華表ヲ造リ、兩側皆老杉ノ道ヲ行キ、
御坂川ト稱スル小溪ヲ渉ル、是ヨリ長サ十六町ノ石段ヲ拾ヒ
テ上リ、出羽神社、羽黒山大權現ヲ祀ル。ニ到ル、即チ普通
羽黒山ト稱スル地點ナリ、莫ニ一棟ノ行者堂アリ、林中ニ孤
居シテ、道客祈禱ノ場ニ供セリ、コ、チ仙人澤ト稱ス。

月山 (主編百二十八頁参照)

〔小島氏増補〕月山ニ登ルニ七道アリ、(主編百二十七頁、羽
黒山ノ條、參照)羽黒山ヨリスルチ本道トナス、即チ前項記
スルトコロノ仙人澤ヲ少シク距離レバ「月晴シ蓋」(別載不二見
蓋)ニ達ス、月山ノ裾野ニシテ、月山ノ頂嶺ヲ仰キ、鶴ヶ岡、
加茂港、及ビ日本海ノ白浪岸ヲ打ツテ回ルトコロヲ下瞰ス、
是レヨリ傾斜緩慢ナル月山ノ中腹、一望汪洋、草花ノ原チ行
クニ、風物已ニ羽黒山ト一變シテ、樹木ヲ見ズ、雉々馬ヲ放
ツチ見ル、凡ソ二三里ノ間、鳥海山ノ威嚴アル秀峯ノ外ニ、
眼ヲ慰スルモノナク、只約一里毎ニ小舎アリテ、湯茶・麩類・
酒等ヲ賣ル、已ニシテ曠野盡キテ、山毛櫨ノ森林ニ入り、平
清水(ヒラシミツ)合清水(カウシミツ)狩鹿(カリカゴ)等

チ南下スルニハ、志津口・木道口・岩根澤口等アレド、志津口
チ取リテ、湯殿山ヲ巡ルチ可トス。

湯殿山 東田川郡東村大字大網ヨリ五里ニシ

テ其山頂ニ達ス。(主編百三十頁参照)
〔小島氏増補〕前項所載月山ヨリ志津道ヲ取リテ南下スルヤ
路急斜ニシテ時ニ峻険ヲ踰エ二里ニシテ裝束場ニ達シ、更ニ
下ルコト十八町ニシテ、湯殿山ニ到ル、山トイフト雖モ實ハ
溪谷ニシテ高熱ノ含鐵溫泉ヲ涌カス、附近所々鐵鑛ヲ沈澱シ、
石英華ヲ露ハス、泉前白帶ヲ神体ニ擬シテ安メズ、神官御符
或ハ給圖ヲ懸ケ、道客或ハ溫泉ヲ瓶ニ填メテ返ルモノアリ、
湯殿山ヨリ直下シテ、鶴岡街道ニ下リ得、補遺羽黒山ノ條
五五〇頁「二」チ參照セヨ。

飯豊山塊

藏王山 越後國北蒲原郡ノ北東方ニアリ。黒
川村字藏王ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山第三紀層及ビ花崗岩ヨリ成ルモノ、
如シ。標高凡千六百五十尺。

櫛形山 越後國北蒲原郡ノ北方ニアリ。中條

補遺 越後山系

チ經テ「御田ノ原」ト呼ベル、祖湖ノ草原ニ入ル土俗月讀命
ノ田植ヲ初メタルトコロト稱ス、小池多ク、食蟲植物もウセ
ン「げ充滿セルヲ見ル、俗ニ「毒池」ト稱シテ、近ツクヲ忌ム、
御田ノ原ハ、時ニ高低アリ、鏡ノ如キ小池點在シテ、高山性
ノ植物多ク、亂咲ス、御田ノ原チ出ヅレバ、山頂嶺ヲ壓シテ
手ニ探ラムバカリナレド、路甚ダ近カラズニ峰一峰、亦一峰
ト取次ニ登リテ、遂ニ絶頂ニ立ツテ得、海拔五千四百有餘尺、
一大火山ノ火口壁殘存シテ、今ニ至レルモノ、如クナレドモ
全ク崩壞シテ、其跡ヲ認メ難シ、手向村ヨリノ登道ハ、霧
野ヨリ四維ノ外邊ニ沿ウテ、火口壁跡ノ一部ニ達シタルナリ、
是ヨリ西北ニ向ヘル降路ハ、峻急ニシテ、火口内壁ニ沿ウテ
如キ感アリ。頂上ノ形ハ管笠ヲ伏セタル如ク、四圍ハ山足安
茫、曠野ニ連ナリ、西北ニ二形ノ鳥海山ト比肩シテ、微茫ノ
間ニ日本海ヲ瞰南ニハ羽前・岩代、境ノ朝日・喜雲・山・藏王
山、東ヨリ北ニハ、陸前ノ栗駒・越前ノ遠ク陸中ノ岩手山ト、
嶺頭ス、狹嶺ニ解釋シタル月山ノ境域ハ、東方立谷・澤川及
ビ鳥川ノ水源ナル、清川根ヲ以テ境トナシ、南方ハ湯殿山ニ
隣リ、西北方ハ姥ヶ嶽ヨリ金剛山ヲ經テ、兩岩山ニ至ル、白
双ヲ植エタル如キ「劍ヶ峰」又ハ「行者戻リ」皆山頂、或ハ
其附近ニ在リ、羽黒山ヨリ月山頂マテ、約六里、手向村ヨリ
ハ約九里、頂上神殿(岩塊ヲ周圍ニ積ミテ小木造祠ヲ安メズ)
籠リ堂(結構陋ナレド祠ヲ數百人ヲ容ル、ナ得)アリ。月山

町大字柴橋ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山第三紀層及ビ火山岩ヨリ成ル。標高
千九百一十一尺。

七ツ森 羽前國南置賜・西置賜ノ二郡ニ跨ガ

ル。南置賜郡中津川村大字岩倉ヨリ一里二十
町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル
モノ、如シ。標高凡千五百尺。

赤崩山 岩代國耶麻郡羽前國南置賜郡ニ跨ガ

ル。耶麻郡加納村ヨリ二里十町ニシテ其山頂
ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡二千百
五十尺。

赤安山 岩代國耶麻郡ノ北西方ニアリ。熱鹽

村ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩
ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千四百二十尺。

飯盛山 羽前國南置賜郡、岩代國耶麻郡ニ跨

ガル。南置賜郡中津川村大字廣川原ヨリ一里

三十町、耶麻郡熱鹽村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高六千六百七十七尺。

大荒山 羽前國南置賜郡岩代國耶麻郡ニ跨ガ。南置賜郡中津川村大字岩倉ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡千三百八十尺。

疣岩山 岩代國耶麻郡ノ北西方ニアリ。加納村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千四百三十尺。

守門火山群

東松嶽 岩代國河沼郡ノ中央ニアリ。東松村ヨリ三里四町ニシテ。其山頂ニ達ス。全山第二紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

鳥屋山 岩代國河沼郡ノ中央ニアリ。東松村ヨリ二十七町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百尺。

鋸山 越後國古志郡ノ南西方ニアリ。栖吉村大字栖吉ヨリ二十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高二千五百四十四尺。

金倉山 越後國古志郡ノ南西方ニアリ。六日市村字妙見ヨリ登リ得。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高二千二百十四尺。

〔此山形似テ以テ名ヅク、余カ庭前ヨリ眺望スルヲ得。〕此山ハ余カ庭前ヨリ、晴天曇天ノ別ナク、且暮仰望スルヲ得。レドモ、米ダ登攀ヲ試ミズ、今此ノ補遺ヲ經ラントスルニ當リ、許ナ大平氏ニ寄セテ記ヲ求ム、氏ハ直チニ踏攀セテ、六月二十五日、次ニ載スル所ノ登山文ヲ贈ラレタリ。妙見驛(古志郡長岡町ヨリ三里餘)ヨリ三國街道ヲ南ニ進ムコト五町餘ニシテ、二十村(古稱)谷ノ入口ナル、浦柄ニ達ス。此間ニ有名ナル妙見ノ白岩アリ、信濃川ノ右岸ニ岫ミ、白色ノ砂岩

斷崖數十丈藤蔓垂下、花時行人ヲシテ、思ハズ歩チ止メシム。此地信濃川ノ水面チ上ルコト五六丈ノ所ニ、動物化成岩層アリ、魚骨介殼ヲ含有ス、介殼ニハ、符貝、扇貝ノ如キ形セルカ如シ、附近ノ海底タリシヲ證スルニ足レリ。浦柄ハ、櫻嶺ノ麓ニアリ、戊辰ノ役官軍ノ陣將、時山養直ノ戦死セシ所、近ク右方ニ望ムベシ。浦柄ヨリ浦柄川ニ沿ヒ、爪先上リノ二十村谷チ東ニ進ミ、赤澤・中山・小栗山ニ至リ、小栗山月敷最多ク約六十アリ。小栗山ノ東端ニ、白山神社アリ、杉樹鬱鬱タリ、社ニ向テ右手ノ崖側チ下ルコト數歩ニシテ、靈泉アリ、清冷掬スベシ、黑魚(サンショノカシカ)(俗名せんぐわん虫)チ多ク産ス、鰻及芥ノ葉トシテ珍重ス。浦柄ヨリ白山社マテ一里トス。白山社ヨリハ路稍急チ加ヘ、人家亦絶エ、始メテ山ヲシキ感アリ、一步一步ニ、眼界漸ク廣シ、八合目邊ニ、幅二尺餘ノ溪流アリ、清冷飲ムベシ、又黑魚チ産ス。八合目ノ溪流チ過ケレバ山逕俄然急峻トナリ、富士ノ所謂胸突八町ニ比スベシ。此急逕チ登ルコト三町許ニシテ、稍平坦ナル處ニ達ス、此平坦ナル小凹地チ界トシ、南ニ二峰、北ニ二峰アリ、四峰ノ兩端頂上チ連繫スレバ、十町許アリ。四所ノ右即チ南方ニ、直ニ登ルモノ最急峻、四所チ抜ケコト約二百尺、頂上身長ノ熊笹・躑躅密生ス、此處ニ陸軍省ノ三角標アリ、本年ノ新設ニ係ル。四所ノ左方即チ北方ノ一峰チ超エ、四峰中ノ最北峰ニ至レバ、石祠アリ、附近芝草ニシテ、熊笹ハ尺許ニ過

ギズ。頂上ニテ展望セシカ、西ハ番神ケ鼻ヨリ觀音崎・彌彦マテ、一峰ノ中ニ入り、佐渡ノ青嶺、日本海上チ飾ル、西南ハ妙高・蓮華・苗場ヨリ、近クハ八海・御月(中ノ嶽ナラン)駒ノ三峰ハ、六月ノ末猶霞々タル白雲チ冠セリ、高潔心ヲ洗フニ足ル、眼チ脚下ニ注ガシカ、西南小千谷ノ旭橋ヨリ、浦ノ鐵橋・長生橋チ經、北方蒲原ノ平野チ瞰下スベシ。白山神社ヨリ頂上マテ約二十五町トス。最北峰頂ヨリ峰傳ヘニ、西北ニ下ルコト十數町ニシテ、「鬼ヶ穴」ト稱スル所アリ、穴ノ入口、徑約三間、深一間、火成岩ノ罅隙ニシテ、人工チ認メス。昔時鬼婆ガ住所トシテ著シ、附近ニ「血ノ池澤」、「天狗ノ休場」ト稱スル所アリ。「鬼ヶ穴」附近ハ、「斷崖絶壁數百尺、移步一タビ誤ラバ、身ハ是レ底モ見エザル幽谷ニ落チテ、忽チ異界ノ鬼トナラン、岩ハ表面黒褐色チ呈スレドモ、内部ハ稍赤褐色チ帯ベル、堅緻ナル花崗岩トス、岩面、岩羊齒密生ス、又概多ク、結實繁々タリ。木山ハ、甚ダ平凡ナルガ如キモ、其標高ニ比シテ、展望甚ダ遠大、殊ニ「鬼ヶ穴」附近チ探リテ、始メテ其價值チ知り得ベシ。

神倉山 岩代國南會津郡ノ西方ニアリ。伊北村ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。

清水山塊

大鳥帽子山

上野國利根郡、越後國南魚沼郡ニ跨ガル登路利根郡水上村大字藤原ヨリス里數未詳全山石英閃綠岩ヨリ成ルモノ、如シ標高凡五千尺。

朝日嶽

越後國南魚沼郡、上野國利根郡ニ跨ガル。南魚沼郡南旭村大字清水ヨリ凡四里ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英閃綠岩ヨリ成ル標高六千四百三十五尺。

飯士山

越後國南魚沼郡ノ南西方ニアリ。中之島村大字舞子ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山英閃安山岩及ビ其集塊岩ヨリ成ル。標高三千七百九尺。

千倉山

越後國南魚沼郡、上野國利根郡ニ跨ガル。南魚沼郡土樽村ヨリ凡四里ニシテ其山

頂ニ達ス。全山石英閃綠岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千尺。

白根火山群

三峰山

越後國南魚沼郡、信濃國下高井郡ニ跨ガル。南魚沼郡三國村大字淺貝ヨリ凡六里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英閃綠岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千尺。

白根山

〔主編百五十一頁參照〕

白根山

上野國吾妻郡、信濃國上高井郡ニ跨ガル。吾妻郡草津町大字草津ヨリ一里十八町上高井郡高井村大字牧ヨリ五里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高七千四百三十五尺。

元白根山

上野國吾妻郡ノ北西方ニアリ。嬬村大字前口ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。

全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高七千七十二尺。

〔小島氏増補〕日光ノ白根山ト區別スルタメ、草津白根ノ稱呼アリ、登山ノ大路、二〇(一)ハ信州輕井澤ヨリ淺間山ノ裾ヲ經テ、草津温泉ニ到ル此行程十一里、馬或ハ籠ヲ通ズ、(或ハ高崎又ハ前橋ニテ下車シ、澁川ヨリ中ノ條、原町、河原湯長野原ヲ經テ、草津温泉ニ到ルモ可、此行程十五里)草津ハ上毛西北ノ極端ニ在リ、吾妻郡ニ屬シ、信濃・上野ノ州界ヲ距ルコト三里許、地ハ傾斜狀ヲ成シ、四方丘陵ヲ透ケラシ、海拔已ニ四千五百尺ニ上ル、温泉ハ多量ノ硫酸ヲ含ミ、酸性甚ク強烈ナリ。草津ヨリ登山コト四二凡ソ三里半ニシテ、絶頂ニ達ス、(志武)シテ、嶺ノ半途ヨリ左ニ岐レテ登山絶頂ハ海拔六千五百尺、凹形ヲ成シ頂上ニ三個ノ火口アリ、相連シテ一大火口ヲ成ス、其中央ニ在ルモノヲ湯釜ト稱シ、最大ニシテ直径一千尺ニ達シ、熱湯呼沸シテ噴烟ヲ絶クズ。西ニアルヲ湯釜(カレカ)トイヒ、大サ前者ニ次ギ、東ニ在ルモノハ水釜ト呼ビ、最小ナリ、此火山ノ東南ニ接シテ、元白根山(海拔四千七百十九尺)聳立セリ、白根山上ノ眺望ハ、信州淺間山ト南北ニ對峙スルヲ以テ、信州・野ノ大山高嶽、及ビ市街村落ヲ指呼ノ間ニ收ムル、一仙域ナリ。(二)同シク信州上高井郡淺間山ヨリ上ル、路ハ急峻ニシテ北信ノ三山、飯綱・黒姫、月隠ヲ下シ、登山コト約一里山毛標ヤ標ノ木所々ニ屯シ、稀ニ清泉ノ進ルヲ見ル、已ニシテ湯河原温泉道ト路傍ニ記サ

補遺 越後山系

レタル標木ヲ過ぎ、急阪ニカ、レバ全山枯木ノ骸ヲ以テ充ツ、明治六年白根山、噴火ノ跡ナリト、峠ノ絶頂ニ、夏日ハ一茶店アリ、コ、ヨリ一里計下レバ、一條ノ川アリ水ハ硫黄ノタメ白濁ス、傍ニ標木アリ、左白根山道草津方面ヨリ左ナリト明記セリ、コ、ヨリ白根山頂上ニ仰ケニ、結岩怪岩、磊々トシテ、一木一草ヲ生セズ、即チコ、ヨリ右折シテ燒石結々タル間ヲ行キ、奥十八町ニシテ權現社、及ビ前文配スルトコロノ火坑アリ、今ハ山上七八軒ノ茅屋ヲ建テ、硫黄ヲ採ルトイフ、澁温泉ヨリ山頂マテ四里半、山頂ヨリ草津マテハ前文配載ノ如ク三里半、合計八里ノ道程トイフ。

四阿山

小縣郡長村ヨリ三里二町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編百五十四頁參照)

頂ニ達ス。

〔小島氏増補〕登路數條アリト雖モ、信州方面ヨリスルハ、多ク路ヲ管平(スカゲイフ)牧場ニ藉ル、長野ヲ出立點トスレバ、東行シテ一里許、犀千曲二大川ノ合流スルトコロヲ渡舟ニシテ過ぎ、向岸ノ牛島ニ達シ、桑畑栗園ノ間ヲ過ギテ鳥居嶺(主編、百五十五頁參照)ノ一連嶺ニ達ス、ソノ麓ニ一軒家アリコレヨリ峠ヲ踰ル、路峻嶮ニシテ趾頭天ニ向フ感アリ、漸ク絶頂ニ達スレバ四方一帶、曙光寺平チ俯瞰シ、犀川千曲ノ二川、蜿蜒銀絲ノ如ク、北向スルヲ覗ク、是ヨリ茫渺タル菅原ノ間ヲ行ク、即チ四阿山麓ノ管平標野ニシテ、應案

十里大嶽ノ脚下ニ延展セルヲ以テ、氣候多ク寒烈ナリ、近來水内、小縣二郡ノ村民移住シテ、一部落ヲ作レドモ、未ダ邑ヲ成スニ至ラズ、人ナシテ宛然北海道開墾地ニ在ルノ想アラシム。淺間山遠ク登エテ、烟ヲ吐クヲ見ル(コ、ヨリ、淺間山マデ九里計アリ)是ヨリ上ノ澤ヲ經テ、中ノ澤ニ至ル、四阿山ノ山道、是ヨリ漸ク始マル、暫クハ世原ニ没シ、岩屏峻登セルトコロヲ登ル、風恒ニ勁クシテ、雲霧多シ、一山ヲ踰ユレバ亦一山アリ、且ツ登リ且ツ踰ユ、山稜疊々傾立シテ、絶頂ヲ知ルニ苦シム、假令扶杖、盤風、松ツキテ地衣ノ頑石ニ點綴スルヲ見ル、漸ク絶頂ニ到レバ、石屑ヲ堆積シテ、防風堤ヲ作り、中ニ小祠ヲ安置ス、試ニ山頂ニ立テバ、刀ノ如キ烈風怒吼シテ岩石ヲ飛バサントスルコト多シ、件ノ小祠現存スルモノニツ、一ハ信州ニテ建テ、一ハ上州ニテ建ツ、信州峰、〔ヨチ〕上州峰〔ミチ〕ノ別稱アリ、左右ハ尖削ノ絶壁ニシテ、數千仞ノ深窟ヲ俯瞰スルニ、毛髮悚立スルヲ覺ユ、ハケ掛、科、淺間、戸隠、黒姫、妙高ノ四周山ハ柔ヨリ、飛騨山脈ノ鐵壁ヲ繞クラスヲ望ミ、豪壯無比、復路ノ飛フガ如ク迅ク、下山スルヲ得ルコト、猶淺間ノゴトシ。

彌彥火山群

菱ヶ嶽 越後國東頸城郡、信濃國下水内郡ニ

跨ガル。東頸城郡菱里村大字須川ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。今山輝石安山岩ヨリ成ル。標高三千三百四十尺。

關田山 越後國中頸城郡、信濃國下水内郡ニ跨ガル。中頸城郡根越村大字關田ヨリ二里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高四千七十六尺。

富士火山帶

妙高火山群

妙高山 「主編百六十三頁參照」
〔小島氏增補〕越後國中頸城郡、宇一本木(イツホノキ)新田ナル、赤倉温泉ヨリ登ルヲ最モ捷徑ニシテ且ツ安易ナリトス、赤倉ハ直江津鐵道線、田口停車場ヨリ西一里餘(一里二十四町)二人曳人力車ヲ通シ得。ニ在リ、行々妙高山、及ビ黒姫山ヲ仰ギ、妙高ノ裾野、緩傾斜ヲナセルトコロナリテ、赤倉ニ到ルヤ、海拔已ニ二千五百尺、北ニ直江津ノ海ヲ隔テ、

補遺 富士火山帶

佐波ヲ駁、右ニ米山一帯ヲ望ム、赤倉ヨリ絶頂マデ三里ト稱ス、赤倉ノ人家盡クルトコロ、廢園アリ、廢園ニ入りテ右折スルヤ、愈ヨ山道トナリ、妙高ノ三山面ニ當リテ秀立ス、中央ナル妙高トナシ、南ヲ赤倉山トイヒ、北ヲ神名山トイフ、赤倉温泉ハ、妙高山ノ中腹ナル地獄谷、及ビ赤倉山ニ發シテ、合注スルモノナリトイフ、愈ヨ上ルヤ、赤倉ノ南一溪ヲ隔テ、黒姫ノ岩洞滴シムトスルヲ望ミ、信ノ斑尾山、及ビ野尻湖ヲ眼下ニ瞰ル、行々路傍ニ湯ノ滾々トシテ湧クヲ見ル、六月飯ト稱スル急阪ヲ上ル、寒中猶汗スルヲ以テ此名アリトイフ、黒姫ノ小黒姫ハ、赤倉ノ山影ニカケレ、神名山亦見エズ、野尻湖中ノ琵琶島ヲ分明ニ見ル、已ニシテ原ノ温泉ヲ眼下ニシ、又ツばめ温泉ヲ神名山ノ半腹、山骨露出セル湯河原ノ溪間ニ瞰ル、右ニつばめ温泉ニ分岐スル路アリ、温泉ハ關山ヲ距ルコト西方二里半、僅ニ馬ヲ通ストイフ。幾干モナク火打山ヲ望ム、黒姫、飯綱ハ見エズシテ妙高ノ崎嶇ノ如キヲ仰ク、絶頂御堂ノ層棟少シク露ハル、赤倉ヨリコ、マテ一里、左ニ湯瀧落ち、行々屏風ノ如キ岩ヲ負ヒテ懸ニ臨ミ、竟ニ「地獄谷」トナル、硫黄泉ヲ衝、山骨燒ケ、礫獨缺ノ如ク崖ニ墜ル、石ツキテ能征トナルヤ、峽間北ト南ニ削ルガ如キ壁ヲ負ヒ、四ノ一角ノミ、越後平原ニ向ツテ傾ニ開ケ、上リ了レバ一笏ノ平地アリ、左ニ「天狗山」ノ小丘ヲ見ル、コノ地前山ノ最高點ナリ、亦笹ノ細徑ヲ上ルヤ、「光善寺ノ池」ト稱スル一泓

ノ水ヲ見ル、亦征道トナリテ急峻、左ニ「南地獄」ヲ下瞰シ、黒姫、飯綱ノ眉頭相啣ムヲ見ル、コノ邊ヨリ、遠クハ不二山、及ビ八ヶ嶽、近クハ信濃川ノ蜿蜒ヲ見ル、已ニシテ「笈捨」〔見摺〕ノ二大巖塊、路ニ當ルヤ、三條ノ鐵鎖ヲ繫ケ、文化年間、信人某ノ獻クトコロ、前面ニ燒山ヲ見ル巖ヲ繞クレバ征道、征道盤クレバ巖ノ如キ燒石トナリ、石角ヲ這ヒテ頂上ニ登ルヤ、燒山一帯ノ南走スルヲ見ル、絶頂ハ三山分岐シ、阿彌陀堂ハ最南ニ當ルトコロニ在リ、頂上ノ岩ハ、或ハ門ノ如ク立テ、屏風ノ如ク曲ケ、岩ヲ傳ヒテ中央ノ山ニ到ルヤ、最モ高クシテ三角測量臺立ツ、臺下凹窪ノ地、巖壁ノ如キ峙石ヲ周ラシ、石下穴アリ、深サ測ル可ラズ、北端ノ山、最モ低クシテ、ヤ、難ル、頂上ノ大觀ハ、主篇ニ詳ナリ、〔大平氏ノ余ニ贈ラレタル「妙高紀行」〕ノ一節、即チ明治三十六年八月十三日ノ條「十二時天狗平ノ木堂ニ達ス、堂ハ九尺二間ニシテ、數板壞亂ス、堂前ノ小高キ突出部ヲ天狗ノ牌ト稱ス、我等カ登リシ路ノ正面ニ當リ、降り道アリ、コレ赤倉山道ヲ經テ、赤倉ニ至ル道ナリ、此處ニテ中食ス。登ルコト數町ニシテ、約一段歩ノ小池アリ、蛇ノ目ト稱ス、苗場山ノ頂上ニアル、所謂苗草ト稱スルモノ、一面ニ生ヒ茂リ、其中央ヨリ目頭トモ見ルベキ方ニ稍近ヨリ、瞳孔形ヲナシテ、異色ノ水草生ズ、一見蛇ノ目ノ名ニ背カザルヲ知ルニ足ル、中ニ黒魚〔サンシヨウカツカ〕多ク産ス。〔中略〕二時四十分頂上ニ着ス、

貝摺岩以上ハ、恰モ富士ノ森林界ヲ辭シテ、天界ニ入りシ心地スルニ似タレド、唯規模ノ小ニシテ、四顧他山猶近キヲ覺ユルノミ、火山砂礫ハ暗褐色ニシテ、富士ノヨリ稜角ナク、且ツ鮮カナラズ、九合目以上トモ解スベキ邊ヨリ、頂上ヲ見上ケレバ、熔岩堆積直立恰モ富士ノ御味ヲ見ルガ如シ、頂上ノ南方ニ九尺四方大ノ阿彌陀堂アリ、東々北々向フ、一行荷ヲ卸ロシ、休憩喫飯ス、予ガ携帶セシ牛肉、及ビ杏ノ罐詰、ニ學生ノ雞卵・砂糖・食鹽、佐藤君ノ赤倉ヨリ購入セル、金柑ノ罐詰・菓子、剛力ノ負ヒシ御飯等ヲ開キ、各十分ニ腹ヲ肥セリ、此堂阿彌陀堂ト稱スレドモ、正面ニ鏡・幣束ヲ掲アルヲ見レバ、今ハ山神ヲ祀レルモノ、如シ、堂ノ北數歩ニシテ、高丈餘ノ巖洞内、靈泉アリテ滴下ス、下ニ花崗岩ノ長二尺、横一尺五寸、深尺餘ノモノヲ置キ、此滴水ヲ落テ、登山ノ渴ヲ醫スルニ足レリ、サレド短川志賀氏ノ「寒洞ニシテ一飲齒牙爲メニ冷トハ、少々寒メ過キタリ、頂上ノ中程ヨリ稍南ニ、陸軍省ノ三角標アリ、其北高サ數丈ノ岩洞内亦滴水アリ、船形銅盤、長二尺程ノモノヲ置キ之ヲ蓄テ、此他頂上處々滴水アリ、コレ内部ノ水蒸氣、火山岩ノ隙隙ヨリ昇リ來リ、外部ノ冷氣ニ觸レテ、凝縮水化セルモノナランカ。三角標ノ西南ニ當リ、巨岩屹立スルコト四五丈、日本石（ニツボンセキ）ト稱ス、本山ノ最高點ナリ、剛力ノ曰ク、登山者此石ノ頂上ニ登リ得ルモノ妙ク若シ登ルアルモ腰ヲ伸シテ直立スルモノ

甚ダ少シト、暗未ダ終ラザルニ、二學生ハ、忽チ振キ登リ、登ルヤ否ヤ、直立シケレバ、剛力ハ讚歎シ、佐藤君ハ萬歳ヲ連呼シ、吳天爲ニ動キ、幽谷之レニ應ズ、壯ナル哉、快ナル哉、富士・淺間ヲ極メシ、天壽山人、如何テカ拱手スベキ、予亦攀登、直立放陣、四顧スレバ、天風ハ衣髮ヲ飄ヘシ、我身超然羽化セシ如ク、聖靈ノ氣ハ、籠トシテ我心登仙セシ如シ、日本石上ハ斜面チナシ、廣約三四尺、予紀念ノ爲メ、其最高角ヲ碎キ取り、紀念名刺ヲ置キ、頂上ノ石モテ之ヲ覆ヘリ、本山予ガ爲メニ高サチ加フルコト、正ニ五寸。本山ハ海拔八千一百尺、越後第一ノ高山ニシテ、舊火山ニ屬シ、今ハ山中所々溫泉硫氣ノ噴出ヲ見ルノミ、頂上ハ中程ニ、少許ノ凹所アリ之チ界トシテ、南八町、北八町ト稱スレドモ、實ハソレヨリ稍短キガ如ク、幅ハ狭クシテ、廣キ所モ數町ニ過ギズ、頂上尺許ノ矮松ト、芝草ノ間、巨岩屹立散點シ、矮樹ニハ、山樑・山南天多ク、八海苗場ノ如ク、五葉松・母チ見ズ、山腹稀ニ五葉松・石楠チ生セリ。高山ノ通例トシテ、此日ハ頗ル快晴ナリシモ、雲霧去來シ、展望欠クル所アリ、唯南方近ク黒姫ノ雙峰ヲ望ミ、西々北燒山ノ溪間即チ嵯峨部ニ、積雪河ノ如キヲ見レバ、夏サハ心寒ク、日本海上ハ、杏トシテ瑠璃盤ノ如キヲ認メシノミ。日本石ノ傍ニ、三十坪程ノ嶺然タル窪ミアリ、木曾義仲駒整場ト稱ス、猶富士ノ頂上、聖德太子銅馬起ノ類カ、午後四時三十分、頂上ヲ辭シ、下山ノ途ニ

就キ、五時三十分、天狗平ニ歸リ、コ、ヨリ登リシ道ヲ取ラズシテ赤倉方面ニ下ル、川ヤラ道ヲ分カヌ路間、丈餘ノ熊笹蔽ヒカ、リテ、鬱々闊々、殆ド日光ヲ漏ラサ中ヲ極キ分ケ路ヲ分ケ、進リ行クコト十町許リ、稍平坦ノ地ニ達ス、佐藤君ハ此處ニテ休憩シ、我等三人ハ、荷物ヲ卸ロシ輕裝トナリ、剛力チ前ニ立テ、半駝足ヲ以テ、本山ト赤倉山ノ間ナル路間ニ沿ヒ、殆ド足掛リモナキ崩場ヲ攀テ登リ、迂リ降り、道ヒ波リ、六七町程ニシテ、硫氣熱泉噴出ノ處ニ達ス、時ニ六時十五分ナリキ、右ハ本山ノ崩レ肌甚ダ白ク、左ハ赤倉山ノ大崩肌、其色淡緑ナリ、瀑布數條アリ、硫氣所々ニ噴出シ、硫黃屑ノ露出ヲ見ル、黑湯ト稱スルハ、水色淡黒、流域ハ墨汁チ流セルガ如ク、底岩チ染メ、高熱ニシテ殆ド手ヲ觸ルベカラズ、十數間登リテ、白湯ト云フガアリ、濃キコト牛乳ノ如ク流域消遣家ノ下水ヲ見ル如シ、溫度ハ稍低シ、元ト此溫泉チ極ニテ、赤倉ニ引キシ山ナレド、今ハ兩崖崩壞ノ然メ、木橋破損埋没セリ、此處チ南地獄谷ト稱ス。急ギ引キ返シ、佐藤君ト共ニ結束スル程ニ、日ハ既ニ没シテ、霧路漸ク暗ク、熊笹ハ遠慮ナク茂リテ、前途心細シ、赤倉マテハ、山徑猶二里程アリテ、路頗ル惡ク、且ツコ、ロリ半里程前ニ、鹽分ノ峻坂難處アレバ、兎ニ角暗闇ニナラヌ中ニ、其難場ヲ通り越シタシト、剛力ノ注進ニサラバトテ、一行速度ヲ早メヌ、究

剛力ニ次イテ進ミ、佐藤君之ニ次ギ、予之ガ殿チナス、所謂難場ハ無事ニ越シタレド、夜色全ク暗ク、僅カニ星影ヲ借リ前後相呼應シテ進ム、坂又坂、藪又藪、川又川、崖又崖ハ幾度トナク繰り返サレヌ、闇黒ノ裡ニハ、雙眼モ片眼ト分タズ、眼アレドモ殆ド盲人ナリ、岩角ノ足ヲ踏ムハ稀ナレドモ、急坂滑カニシテ重身支ヘ難ク、手熊笹ヲ握リ、杖ニテ探リツ、歩ヲ移ストスレド、誤リテ迂リ轉ビシコト幾度ナルチ知ラズ、紀念ノ爲メニトテ躑セル、國二郎君ノ杖杖ハ、名ニ負フ生ケル虎トナリケン、千里笹藪ヲ越エヌ、殘念トハ云ヘド探ルニ由ナシ、此時東南國界ノ山々ニハ、怪雲油然トシテ現ハレ、電光閃チ破リ、既ニシテ遠雷ノ聲モ聞エ、凄キコト云ハシ方ナシ、幸驟雨ノ襲來ナカリシハ、山嶽ノ加護トヤセンカ。急路殆ド降り盡シ、赤倉チ距ル既ニ半里弱、剛力勸ムノルマ、崖側ノ泉チ探リ、一掬飲下、稍進メバ圓山ノ南ノ端盡キテ、赤倉溫泉場ノ燈火、隱見數點、一行之ニ勇ヲ鼓シ、歡呼草野ノ虫チ驚カシ、疾行赤倉ノ人ヲ避ケシメ、香雲館ニ歸若セシハ、正ニ九時三十分ナリキ。中略。赤倉ヨリ妙高山頂マテ約三里、志賀氏ノ風景論ニヨレバ、往復七時間ヲ要ストアリ、サレド我等ハ休憩又休憩、探險又探險、兵糧ハ剩餘アリ、進退谷マレバ野宿センナド氣候チ吐キツ、頗ル後レタリ、風景論ニハ、赤倉山運ヲ取ルコト可ナリトアレド、此運今ハ大ニ荒廢シ、且ツ始終笹藪ノ内ヲ潜行スベキ不快アリ、サレド

照夜山ノ北路ヲ取ラカ、腹ヲ深谷ニ陥ルノ恐アリ、往復道ヲ更ヘ赤倉山ノ奇ヲ探ランモノハ、我等ガ方針ヲ可ナリトス。

雨飾山 信濃國北安曇郡、越後國西頸城郡ニ跨ガル。北安曇郡北小谷村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高六千七百三十二尺。

乙妻山 上水内郡戸隠村ヨリ五里二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。「主編百六十六頁参照」

高妻山 上水内郡戸隠村ヨリ五里十町ニシテ其山頂ニ達ス。「主編百六十七頁参照」

戸隠山 上水内郡戸隠村ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高「五地藏嶽」六千八百五十七尺。「主編百六十八頁参照」

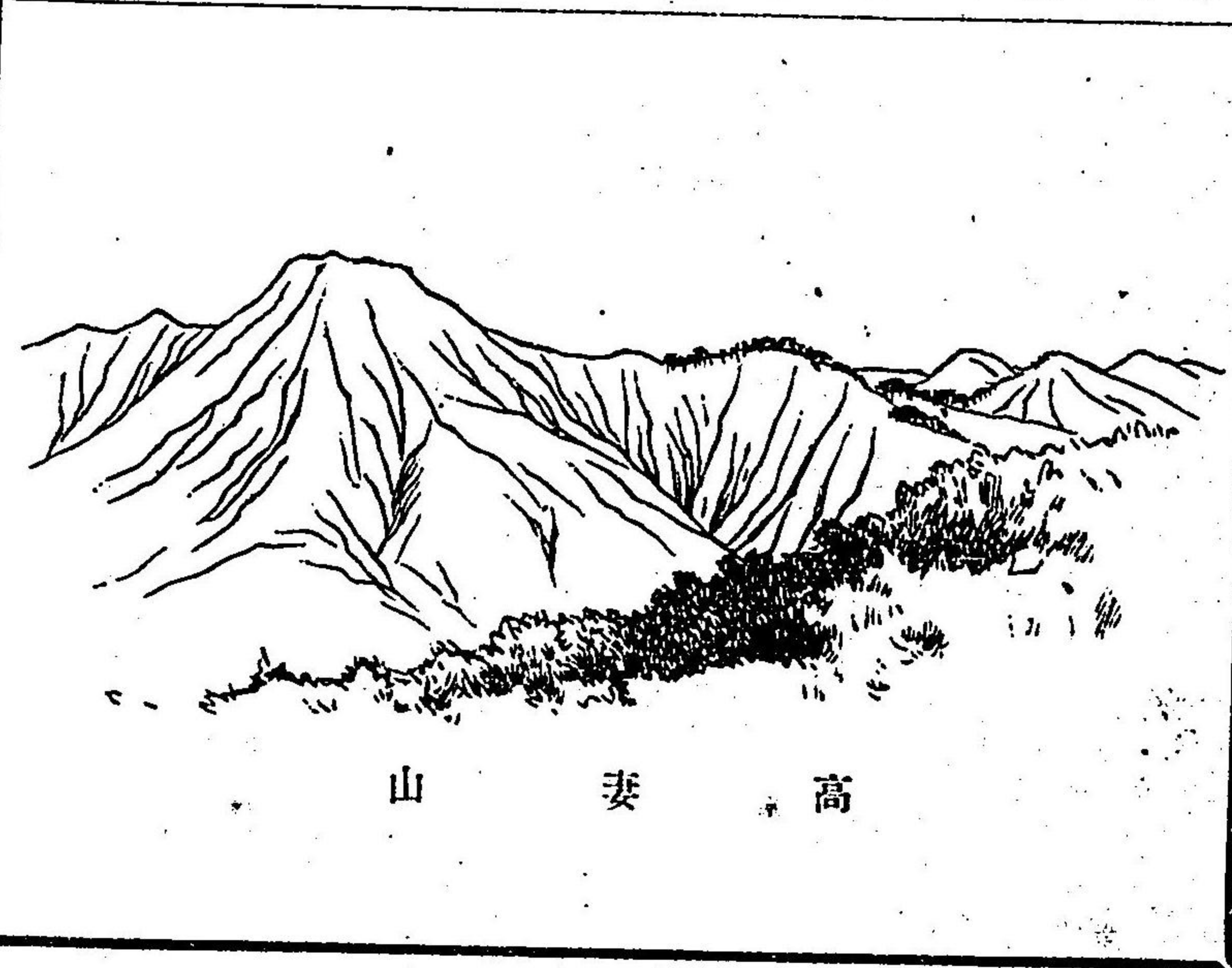
「小島氏増補」戸隠山附高妻山。長野市ヨリ路ヲ西北ニ取リ「大峰」ノ峻嶺ヲ踰テ、荒安村ニ到ル、飯綱ノ里宮ハコ、ニ在

リ、是ヨリ飯綱山ノ南麓ナル、飯綱原ニ到ル、起伏方二里ニ亘ル裾野ニシテ、湖ヲ涵スルモノ凡ベテ八、ソノ内ノ二ハ遊ニ當リ、たぬきも、もうせんぐさ等ノ、食蟲植物ヲ採リ得、原頭ニ高ク介立スル一大華表ハ、元石造ナリシテ、弘化ノ雲災ニ頽廢シタルニヨリ、今ノ木造ニ改メタルモノナリト、扁スルニ戸隠神社ノ四字ヲ以テス、所謂一ノ鳥居ナリ、是ヨリ中社(舊ハ中院ト稱シタリ)ニ到ル、間ニ石標アリ、毎丁ニ道程ヲ刻ス、北方飯綱ヲ望ミ四方戸隠ヲ仰ギ、東南ノ平野、小丘、逶迤起伏シテ眼界安瀾ナリ、五町下レバ「左寶光院右中院」ト記セル石標立テリ、右ニシテ中社ニ到ル、一ノ鳥居ヨリ中社マテ五十三町、長野市ヨリ中社マテ四里ナリ、中社ハ戸數百餘、路ノ兩側ハ概テ神官ノ居宅ニテ、登山客ヲ宿泊セシム、老杉森然天ヲ摩シ、炎熱ノ候鷹ト杜鵑ト交ハリ啼リ、海拔既ニ四千餘尺米穀ヲ生ゼザレドモ、蕎麥ノ好産地タリ、石標ナリテ中社ニ詣テ、規模宏壯、彫刻見レベシ、西南十數町ニ寶光社アリ、西北一里、手力雄尊ヲ祀ル(所謂奥ノ院)戸隠三社は是ナリ。「社前ヲ西(即左)ニ折レ、熊征ノ生エタル路ヲ行キ、釋長明火定所ノ孝子ノ碑等ヲ見テ、石橋ヲ渡ルヤ又華表アリ、朱ノ隨神門ヲ浴リテ、路ヲ狹メ老杉ノ間ヲ上リ奥ノ院ニ詣テ、輪奐宏壯巉岩ニ倚リテ建ツ、祠側ニ「天ノ岩戸」ナル巨石アリ、傍ニ九頭龍神社ヲ安ズ、中社ヨリコノマテ一里十丁、長野市ヨリ五里十丁ト稱ス、コノ二奇ヲ

ルコトハ、一ノ鳥居ヨリコノ奥ノ院マテ、下リ路一方ナルヲ以テ、俗ニ「戸隠」ト云フカカリニテ奥ノ院ハ上ル「ト謂ヘリ中社ヨリ奥ノ院マテハ、半ノ原頭ヲ經、半ノ杉林ヲ穿テ、宿飯綱ノ原ノ一部ナル觀テ脱セザレドモ、是ヨリ路ヲ西ノ方(左)社側ニ取リテ登山ス、戸隠前山トシテ知ラル、連嶺ノ西端ニ上ルモノニシテ、五十間長屋「百間長屋」ナル絶壁ニ到ル、山毛櫛亭立、岩石地表ヲ布キ、中社ハ途ニ眼下ニ落テ、野尻湖ハ鏡ヲ磨ク、百間長屋ハ「蟲取すみれ」ノ産地トシテ有名ナレド、懸崖ニ在ルヲ以テ、採リ易カラズ。「百間長屋ヨリ前メバ、路甚々峻、纒ニ鐵鎖ニ頼リテ行クコト、凡ソ五六個處既ニシテ一危岩ニ上ル、「蟻ノ戸渡リ」「劔ノ刃渡リ」ナルモノ、即チ是ニシテ、幅二尺許ノ山骨、兩崖逼削、狹・薄・險峻ナルニ人ヲ駭カス、右ハ斷崖ノ下、山毛櫛ノ森林ヲ俯瞰シ、左ハ千仞ノ絶壁ニ、白雲ノ綿ノ如ク挿曳スルヲ望ム、過キリテ登ルコト數町、一小祠アリ、普通言フトコロノ戸隠山絶頂ハ是ナレド、實ハ前山ノ西端ニ過ギズ、シカモコ、ヨリ北ニ、高妻乙妻ノ二山ヲ望ミ、南ニ戸隠ノ諸村落ヲ指點シ、西ニ鬼無里(キナサ)ノ荒村ヲ領シ、四圍ノ山嶽ハ、大蓮華・槍ヶ嶽・穗高・有明・乗鞍・御嶽ハ八ヶ嶽羣科・淺間、及ヒ不二ヲ看ル。是ヨリ東ニ進ミ、「九頭龍入り」「蝶ツナギ」「弘法護摩所」「大科澤」「オホシナツツ」「白澤」「塔ヶ谷」「風切岩」「燒ヶ澤」「表正禪」「裏正禪」等ノ難所ヲ經テ「一不動ノ平」ニ到ル。「別ニ

中社ヨリ奥ノ院マテ、百間長屋ニ到ラズシテ、直ニ裏山登リトナリ、コノニ記スルトコロノ「一不動ノ平」ニ達スル路アリ、即チ中社ヨリ直ニ越後道ヲ取リ、戸隠原ノ沮湖原地ヲ北ニ向ヒテ進ミ、右ニ怪無(クナシ)山ヲ望ミ、左ニ前山ノ連嶺ヲ仰キ、阪路ヲ上下スルヤ、中社ヨリ一里ニ近クシテ、右ニ念佛池ヲ見、越後道ト別レ、左折シテ鳥居川ヲ徒涉シ、根曲リ竹ノ叢生ヲ推シ分ケテ、山毛櫛ノ森林ニ入り、不動澤ノ下流、大洞澤「オホトウサワ」ニ合シ、是ヨリ澤ニ沿テ登ルヤ、路愈ヨ急ニ、愈ヨ狹ク、不動瀧及ビ帶岩ニ出テ、竟ニ「一不動ノ平」ニ到リ、前山ノ本道ト合ス。「一不動ノ平」ニハ、石ノ小祠ヲ安ンジ、昔ハ不動ヲ勤請シタルモノナレド、今ハ披戸祠ト改稱ストイフ、「一不動」次ヲ「二釋迦」トイフ、路左ハ傾斜緩淺ニシテ、針葉樹多ク、右ハ斷壁削ルガ如シ、所謂「釋迦クツレ」ハ即チ是ニシテ、「三文珠」「四寶賢」ヲ經、急阪ヲ上リテ「五地藏」ノ危峰ニ至ル、戸隠ノ前山(或ハ表山)ハ、コノニ至リテ盡ク、即チ東西ニ展開セル集塊岩ノ一大屏風ニシテ、極西端ハ「百間長屋」極東端ハコノ「五地藏」ナリ、ソノ間ノ延長三里ニ亘リ、鋸齒ノ如ク、凹凸錯綜ヲキハメ、昇降十餘回、「一不動ノ平」ノミヤ、鈍ニシテ、「五地藏」最モ尖銳ナリ、「五地藏」ノ高サ約六千尺以上、樹木稀少ニシテ、根曲リ竹簇ス、コノ峰ノ南端ノ一角ニ、守田寶丹翁ガ裏山登山者ノタメニ建タル小舎アリ、間口九尺、奥行二間、

數人ヲ宿泊セシムルニ足ル、(山頂至ツテ水乏シキヲ以テ、米ハ中社ニテ磨キタル後ニ持參スルヲ便トス、鍋・茶碗等ハ豫シメ導者ニ擔ハシメザル可ラズ)五地蔵ヲ發シテ、直前戸隱ノ奥山或ハ奥山ト稱スル高妻山ニ登リ得、高妻ハ實ニ戸隱山ノ最、峰ニシテ、前山ノ屏風狀ヲナセルニ反シテ、不二狀ノ圓錐形ヲ成シ、西北ニ低茨シテ、乙斐虛空藏ノ踏山トナル、五地蔵ヨリハ能登ノ密藏スル路ヲ往キ、峰ヲ傳ヒテ高妻ニ到ルモノニシテ、高山帶植物之ニ冠ス、山ノ絶頂ハ巨岩峨々トシテ峙チ、乙斐山ハ其西北ニ、五地蔵ヲ東南ニ俯視ス、眺望絶佳、四ハ越中ノ立山ヨリ、北嶺ケ嶽・白馬嶽・大蓮華・館ヶ嶽・黒嶽・明神ヶ嶽・乗鞍嶽ヨリ、西南ノ駒ヶ嶽・赤石嶽・ソノ東ハ富士ヲ始メ、秩父ノ諸峰、國師嶽・南ニ和田峠・立科・八ヶ嶽・淺間・四阿、東ニ白根・岩宮・苗場・黒姫等ニ至ルマテ、中央日本ノ大山高嶽、一時ニコ、ニ盡ク、戸隱奥山ノ絶頂ニ遊バズシテ、宇市ノ大觀ヲ、縱マニ語ル勿レ。(附記、モシ柏原停車場ヨリ戸隱ニ登ラムト欲セバ、黒姫山ノ南麓ニ沿テ、平垣ノ路ヲ、五里ニシテ中社ニ達シ、コ、ヨリ登ルコト前文ノ如クナスベシ、中社ハイカナル方面ヨリ登山ナルトモ、必ズコ、ヲ根據地トセザル可ラズ、柏原ヨリ中社ニ到ル間ノ道ハ前山ノ全部ヲ墜落トシテ雙陣ニ收メ得、但シ山麓ヨリハ到底奥山、即奥山ヲ仰ケ能ハズ、僅ニ晴爽ノ日ニ、高妻山ノ頂登チ前山連嶺ノ鑿窟間ニ、仰ギ得ルコトアルノミナリ。(大平氏



高妻山

ノ余ニ贈ラレタル紀行ノ一節、即チ明治三十七年八月二十六日ノ條)戸隱ハ信ノ名山峻嶺、男峯ノ秀麗ト、妙義ノ奇譎トヲ兼ネ加フルニ規模宏壯雄偉ヲ以テス、剩サハ地質變遷ノ證ト、諸多ノ奇草ノアルアリ、登山者ノ必ズ訪問スベキ所トス

黒姫山 上水内郡戸隠村ヨリ二里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編百七十頁參照)

《小島氏增補》 黒姫山ハ、飯綱、妙高二山ト、子午線ノ方向ニ並列セル、一火山ニシテ、信州北限ニ自峰屹立ス、柏原村ヨリ裾野ヲ横絶シテノ倉組ヲ過ギテ南麓藥研澤ヨリ登ル、コノ澤ノ溪流ハ、裾野ニ來リテ「湯ノ入川」トナル、冬季他ノ溪流結氷スルトモ、此水ノミハ然ルコトナシトイフ、蓋シ山林内部ノ高濕ヲ存スルニ因ルカ、是ヨリ山路急峻トナリ、飯綱靈仙寺ノ踏山ハ、近ク呼應ノ間ニ在リ、西ニハ危岩屹兀タル戸隱ノ峻嶺ヨリ、信・飛ノ連山、重疊シテ御嶽ニ至リ、左ニ淺間ノ硫煙ヲ觸ケルヲ見、西南ニ櫻科・八ヶ嶽ノ奇峰、遠ニ不二ヲ眺メ、脚下ニ柏原・古間(コマ)ノ諸村落ヲ瞰ル、竟ニ低松帶ニ入り、頂上ニ到ルヤ、一社祠アリ、コノ山、柏原附近ヨリ忽ムニ、一回窪丘ノ如シト雖モ、頂上ニ到レバ、火口内更ニ火口丘ヲ生シ、所謂二重火山ヲ成スヲ知ル、頂上ハ明ラカニ噴火孔ヲ存シ、東壁最モ高シ、普通黒姫山トイフハ、之ヲ指サ

補遺 富士火山帶

ス、少シク低クナリテ、西南ニ展風嶽峙チ、火口ノ西部、別ニ小黒姫ノ小圓錐山ヲ突出ス、一旦火口底ニ下リ更ニ之ヨリ登ルナレド、樹林密ニシテ、登攀頗ル苦シム、小黒姫ノ東趾ニ、一小湖アリ、峰ノ大池ト稱シ、さんせうかじか魚ヲ産ス、頂上ノ社ヨリ、峰頂ヒニ一丁許下リ、西南ニ面シタルコロニ、俗稱「天狗ノ夢販」ト稱スル奇植物アリ、山頂附近ニハ、飯綱こめつがこけし、樺等簇生セルモ、コ、ノミハ安山岩ノ大石小石磊々トシテ、ソノ間ニ黄赤色ノ粘土ヲ以テ填メラレ、コノ奇植物ヲノミ生シテ、他ノモノヲ着ケズトイフ、登山家ハ就イテ一探スベシ。

飯綱山 上水内郡芋井村大字富田ヨリ二里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編百七十頁參照)

《小島氏增補》 長野方面ヨリ、飯綱ヶ原ヲ經テ登ル路ハ、七八年以來、登山者久シク絶エタルヲ以テ、山路ニ藪ヤ根曲リ竹、蕨生シ、行歩頗ル憚ムヲ以テ、戸隱山中ヨリ登ルチ、最モ容易ノ道トナス。(即チ戸隱山ノ中社「チウシヤ」ヨリ、登社傍ヲ過ギ、富士見山ヲ右ニ見テ、勿亂急ナル、裾野ヲ上リ、茅宮ニ出ヅ、今ハ宮ヲ存セズ、是ヨリ急峻ナル登山道トナリ、飯綱山稜中ノ支峰、瑠璃山・怪無(ケナシ)山等ヲ眼下ニ瞰、行々越中・越後・飛騨・信濃ニ境セル高山大嶽及ビ

黒姫山 上水内郡戸隠村ヨリ二里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編百七十頁參照)

ノ余ニ贈ラレタル紀行ノ一節、即チ明治三十七年八月二十六日ノ條)戸隱ハ信ノ名山峻嶺、男峯ノ秀麗ト、妙義ノ奇譎トヲ兼ネ加フルニ規模宏壯雄偉ヲ以テス、剩サハ地質變遷ノ證ト、諸多ノ奇草ノアルアリ、登山者ノ必ズ訪問スベキ所トス

補遺 富士火山帶

ス、少シク低クナリテ、西南ニ展風嶽峙チ、火口ノ西部、別ニ小黒姫ノ小圓錐山ヲ突出ス、一旦火口底ニ下リ更ニ之ヨリ登ルナレド、樹林密ニシテ、登攀頗ル苦シム、小黒姫ノ東趾ニ、一小湖アリ、峰ノ大池ト稱シ、さんせうかじか魚ヲ産ス、頂上ノ社ヨリ、峰頂ヒニ一丁許下リ、西南ニ面シタルコロニ、俗稱「天狗ノ夢販」ト稱スル奇植物アリ、山頂附近ニハ、飯綱こめつがこけし、樺等簇生セルモ、コ、ノミハ安山岩ノ大石小石磊々トシテ、ソノ間ニ黄赤色ノ粘土ヲ以テ填メラレ、コノ奇植物ヲノミ生シテ、他ノモノヲ着ケズトイフ、登山家ハ就イテ一探スベシ。

飯綱山 上水内郡芋井村大字富田ヨリ二里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編百七十頁參照)

《小島氏增補》 長野方面ヨリ、飯綱ヶ原ヲ經テ登ル路ハ、七八年以來、登山者久シク絶エタルヲ以テ、山路ニ藪ヤ根曲リ竹、蕨生シ、行歩頗ル憚ムヲ以テ、戸隱山中ヨリ登ルチ、最モ容易ノ道トナス。(即チ戸隱山ノ中社「チウシヤ」ヨリ、登社傍ヲ過ギ、富士見山ヲ右ニ見テ、勿亂急ナル、裾野ヲ上リ、茅宮ニ出ヅ、今ハ宮ヲ存セズ、是ヨリ急峻ナル登山道トナリ、飯綱山稜中ノ支峰、瑠璃山・怪無(ケナシ)山等ヲ眼下ニ瞰、行々越中・越後・飛騨・信濃ニ境セル高山大嶽及ビ

甲信二國ニ一巖ヲ割セル山巖ヨリ不二山ヲ仰キ、茅宮ヨリ一里餘ノ上リニシテ、絶頂ニ達ス、山頂ヨリ少シク下ルトコロニ、淨水池ニ、俗ニ「飯綱ノ井戸」トイフ、柄杓ヲ置イテ登山客ノ飲ムニ任ス、甘潤音ハム方ナシ、絶頂ハ是ヨリ直ニ到達シ得、三十三夜塔立テ、大堂アリ、六間ニ四間ノ大サニテ、十餘人チ一時ニ宿泊セシムルヲ得、今幾ント荒廢セリ、山頂ヨリ黒姫山上ノ小黒姫、小黒姫チ超エテ妙高時チ、微妙ノ山色ヲ濃淡試ス、山頂ノ眺望雄壯ナルハ、戸隠山ト同シ、峻嶒彼ニ及バズト雖モ、地勢南西ニ開ケタルヲ以テ、川中島一體ノ冲積地チ下瞰シ得ルノ曠瀾ハ、却ツテ彼ニ加フ。

立科山 「主編百七十五頁參照」

〔小島氏増補〕 諏訪ヨリ望ムニ、完美ナル圓錐形チ成セルヲ以テ、諏訪富士ノ別稱アレド、實ハ圓錐形上、更ニ小圓錐丘チ戴ケル複火山ナリ、コノ小圓錐丘ハ、熔岩ノ舊火山頂上ニ噴出堆起セルモノナリ、即チ諏訪富士ナルモノニシテ、傾斜急峻、山頂ニ近キトコロニテ、三十二度、少シク下リテ二十八度チ示シ、頂上ハ圓形チナシテ、稍チ廣ク、周圍凡ソ二百七十間、ソノ中央ニ火口址アリ、肌狀チ成シテ甚チ淺ク、深サ僅ニ百尺ニ充タズ、全山塊狀ノ熔岩ヨリ成リ、頂部ハ巨岩累累タラド、一般ニ森林鬱茂シ、眺望絶佳トイフニ至ラズ、山頂ヨリ東側チ少シク下レバ、稍チ平坦ナル山背アリ「頭巾山」ト稱セラル、コレヨリ以下、更ニ又急斜ス、コノ山ノ裾

野亦キハメテ廣大ニシテ、八ヶ嶽野ニ結ビ淺間山ノ裾野トハ、千曲川ヲ隔テ相接ス、立科ト淺間トハ、東信濃ノ風景ヲ代表セル二名山ナリ、立科ノ登路ハ、北佐久郡ノ協和村ヨリ登リ、絶頂ニ出テ、裏山チ下リテ、南佐久郡ノ畑ニ出ヅルチ便トス。

八ヶ嶽 諏訪郡本郷村字落合ヨリ二里十六町ニシテ其山頂達ス。「主編百七十七頁參照」

〔小島氏増補〕 古來ハ山麓附近ノ村民ガ、禮拜的登山スルチ除イテ、幾ンド絶無ナリシガ、近來高山植物採集ノ好地トシテ知ラレ、八ヶ嶽ノ名俄ニ一部ノ人士間ニ囁サル、ニ至リ、登山者亦年々多キチ加フルガ如シ、コノ山信・甲二國ニ跨ガリ、海拔一萬尺ニ迫リ（主編百七十七頁參照）八ヶ嶽火山巖ノ風主トナリ、山勢雄大ニシテ宏闊ノ裾野チ展アルチ以テ、登山路ハ甚チ多キガ如クナレド、比較的容易トレハ、信濃ヨリスルニ道、甲斐ヨリスルニ道ナルベシ、殊ニ信濃方面ヨリスルモノチ以テ、最モ安樂トナス。左ニ先ツ甲斐方面ノ二道ヨリ始メ、後ニ信濃方面ニ及ボサント欲ス。「一」甲斐大泉村（北巨摩郡）字谷戸「ヤト」ヨリ登ル、山麓ニ一大泉アリ、淨水不斷ニ溢流シ、冷甘ニシテ一掬スレバ、齒牙寒戦ス、ソノ水流レテ前田川・泉川チ作ス、山路艱峻、至ツテ狭ク、僅ニ一人チ通ズ、漸ク里稱燕岩ニ達ス、岩ハ怪岩危石チ以テ疊ミ、

岩巖ノ甚多ク、燕群ノ上下ニ飛翔スルヲ見ル、己ニシテ三ノ室ニ到ル、少量ノ水チ附近ニ存ス、猶登レバ所謂御花畑ヲ見ル、即チ八ヶ嶽八峰中ノ編笠嶽ニ達シタルナリ、己ニシテ假松・石楠花ノ間チ過ギリ、権現嶽ニ到レバ、巨岩層層ノ如キモノ屹立ス、一祠アリ、扁シテ權現宮ト稱ス、脚下ハ削レル如キ絶壁ニシテ、四望スレバ釜無川・大武川・小武川、細索ノ如ク地チ縋シ、不二高ク雲表ニ披キ、氷山ノ水海チ破リテ出テタル如ク、大泉・小泉・立湯・小淵澤・篠尾・道分等ノ諸村落、裾野ノ縁路中ニ包マル、權現嶽ヨリ直チニ山中第一ノ高點赤嶽ニ到リ得、コノ山大泉村ヨリ高キコト、正七千九百尺（里數ハ主編百七十八頁ニ記セリ）村民ハ毎年舊曆八月十二日チ祭日トナシ、登賽スルモノ多シ。「谷戸ノ外ニ、猶コノ方面ヨリノ登路數條アルガ如クナレド、イヅレモ正道ニアラズ、本文ノ筆者ハ山頂ヨリ路チ誤マシ、溪澗ニ沿ヒテ谷戸チ距ルコト四ノ方ニ里許ノ無人家ノ裾野ニ下リタルコトアリ、ソノ路ハ險惡無比ナリキ」(二)甲斐國、國界「コクカイ村名」ヨリ登ル、コノ路ハ、新道ニシテ知ルモノ幾ンド稀ナリ、參謀本部二十萬分一圖ニコノ村名ナシ）本文ノ筆者ハ、甲斐金峰山チ西山梨郡（昇仙峽）ヨリ上リ、裏山越エニ、北巨摩郡小尾ニ下リ、標山峠チ踰エテ、信州平澤ニ到リ大門川ニ沿ワテ開ケル新道チ北行シ、川ニ架ケタル大門橋チ渡リテ、コノ新村ヨリ登山チ果シタリ、即チ橋チ渡リテ、向岸ニ到レバ、又

甲斐國北巨摩郡トナリ、信甲ノ境界標チコ、ニ建ツ、八ヶ嶽裾野ノ一部ニ、新ニ殖民セルモノニシテ、人口僅ニ六戸、三十六年）悉ク旅舎チ業トスルガ如ク、荒廢タル高原地ニシテ東北ニ淺間、西南ニ甲斐ノ白峰チ座ラニシテ看ル、コ、ニテ導者チ貸シ、西ト北ト間ニ向ヒテ、裾野チ行クナリ、馬路ト淵水ト縱横シテ、路殆ンド辨ズ可ラズ、一タビ森林ニ入り「をみ平」(「ダイラ」) (淡海平?) ヨリ、大門ノ河原チ横キリ、樵夫兼登山者常用ノ小舎チ東ニ視テ、八ヶ嶽ノ最高峰、土俗謂フトコロノ「赤嶽」(「ズ」) チ目ガケ、一直線ニ峻路チ登ル、翁木森々、樺・梅・白樺等甚チ多シ、上ルコト愈々高クシテ、權現嶽チ、南ニ、赤嶽チ西北ニ仰グ、海ノ口ノ牧場ノ如キハ、眼下ニ在リ、愈々上リテ、石造藥師像チ置ケルトコロアリ、次イテ安山岩ノ大塊ニ、石造天狗チ安ズル地ニ出ツルヤ、赤嶽、額ヨリ生ヘ出テタル如ク近シ、竟ニ假松帶トナリ、或ハ熔岩チ踏ミ、赤嶽ノ小舎チ目ガケテ上リツク、要スルニコノ路ハ、未ダ所謂路チ成サズ、樹木ノ妨礙キハメテ、多キチ以テ、困難名狀ス可ラズ、然レドモ、草木ハ亦キハメテ豊饒ナリ。「(三)信濃國諏訪郡淺間山ヨリ登ル、即チ湖畔ノ上諏訪町ヨリ北折シ、霧ガ峰火山チ仰ギナカラ、北大鹽村ニ出テ(ソノ間ニ北大鹽峠アリ、之チ踰ユレバ甚チ近クレトモ、路ヤ、覆雜セリ、踰エズシテ本道チ行カバ、迂遠ナレド、路分明ナリ、晴天ニハ峠ニテ不二チ仰キ得テ淨湯川等チ經

テ、笹原ニ到ル、笹原ハ諏訪郡ノ最北部ニシテ、是マデハ平
坦ノ沃野ナレド、以北ニハ人家ヲ見ズ、笹原ヲ出テ八ヶ嶽ノ
裾野ニ到リ、花ノ海ニ没シナカラ、前メバ、原盡キテ松林ト
ナリ、足指次第ニ仰グ、コノ森林ヨリ半里ニシテ、路左右ニ
岐ル、即チソノ右ヲ取リテ上ル、八ヶ嶽ノ半腹ニ當リ、樅ノ大
木甚ダ多シ、猶二里許ニシテ深々タル溪流ノ音ヲ耳ニスルト
コロ、道ハ漸ク緩ヤカニ、齋淵ニ向ヒ、樹木疎ニシテ「從是
澁温泉ハ九丁」ノ標ヲ見、温泉場ニ達ス、湯ハ酸味強クシテ、
清冽ナレド、温度低クレバ沸カシテ浴用ニ供ス、上諏訪ヨリ
コ、マテ約八里、コノ澁温泉ヨリ山頂マデ二里ニシテ澁スベ
シ」(コノ他諏訪郡立湯ヨリ、三里ニシテ山頂ニ達スル路ア
リ)(四)信濃國南佐久郡、本澤(ホシサ)温泉ヨリ登ル、コノ
路ハ四道中、最も容易ニシテ、比較的短距離ナルガ如シ、殊
ニ東京ヨリ信越鐵道ニ身ヲ托スルモノハ、此道ニ由ラザル可
ラズ、即チ御代田ニテ汽車ヲ下リ、岩村田マデ馬車ニテ到リ、
亦乘リ換ヘテ、白田ニ着キ、コ、ニテ又新馬車ニ四ハレ、始終
千曲ノ奔流ニ沿ヒ、「馬流(マナカ)シ」ニテ導者ヲ貸シ、千曲ノ
左岸ニ沿ウテ上ルヤ、里餘ニシテ名池ニ達シ、コ、ニテ甲州
玉崎街道ト分レ、右折シテ阪道ヲ上リ、半里許ニシテ松原村
ニ達ス、八ヶ嶽ノ麓ニシテ大小二湖アリ、松原湖ノ名ヲ以テ、
汎ク世ニ知ラル、一ハ圓形、一ハ四角形ヲ作シ、其間相距ルコ
ト僅ニ三町ニシテ、小川アリ、兩湖疏通ス、湖岸ニ小村落點

々タリ(湖ヲ離ル、コト一里餘ニシテ、豐里牧場ニ達シ、幾何
モナクシテ諏訪郡澁温泉ニ出テ、八ヶ嶽登山道アリ、前條參
照)本澤温泉ノ行路ハ、小湖畔ニ通ルヲ以テ、大湖ハ若ルヲ得
ズ、松原ヨリ半里ニシテ稻子ニ着ク、是ヨリ傾斜緩淡、裾野ハ
漸ク山路ニ入ラントス、甲斐(金峰山)ノ巨嶽ヲ仰グ、地ハ火山岩
層累々タリ、俗稱賽ノ河原ヨリ馬返シニ到レバ、山路頓ニ急
峻、竟ニ本澤温泉ニ達ス、借舎一戸アリ、湧カシテ用ユルコト、
亦澁温泉ト同シ、コノ地高距已ニ七千尺ニ達ス。本澤ヲ發シ
テ、夏澤畔ニ登リ、八ヶ嶽嶺中ノ一ナル、箕冠嶽ノ頂上ニ
達スルマデ、僅ニ三十町(箕冠ハ古ハ硫黃嶽、音ヒタルモノ
ニ同シ)箕冠ハ絶頂ヲ削リテ、縦斷面ヲ露ハシ、一碧毛髮摩ツ、
赤嶽前ニ峙サ、阿彌陀佛以下ノ列嶽ヲ見ル、箕冠ヲ下レバ、路
ヤ、平坦、所謂橫嶽ニシテ、是ヨリ最高點赤嶽マデ約三里ノ
間、路ハ外輪壁ノ一部、尖削シテ針ノ如ク、之ヲ上下スルニ、
或ハ駭行スルトコロアリ、竟ニ赤嶽ノ絶頂ニ到ルヤ、三角測
量標立チ、傍ニ小洞アリ、ヤ、下リタルトコロニ、登山者宿
泊用ノ無人小舎アリ、若シ夫レ山頂ノ大觀ニ至リテハ、不二
山、兩湖ヶ嶽ヨリ、白峰、赤石、御嶽、乘鞍、槍ヶ嶽、等々西南間
ニ收メ、東ニハ蓼科山・金峰山・國司ヶ嶽北ニ澁間等ヲ見、眼
下ノ諏訪湖・松原湖ハ、尺寸大ノ、明鏡ヲ磨ク、實ニ大觀中ノ大
觀ナリ。(コノ條(四)ハ主トシテ河田默氏ノ紀行ニ據ル)(五)
信濃國南佐久郡、板橋村ヨリ登ル、既文未詳。(因ニイフ、主

富士火山群

富士山 (主編百七十九頁參照)

〔此山ハ、主編既ニ之ヲ盡セリ、猶ホ詳細ヲ知ラント欲セバ、
野中丞氏著、富士案内(春陽堂發行、實價四十錢)小島島水
氏著、不二山(如山堂發行、定價四十錢)ヲ熟讀スベシ、余ハ
今、大平氏ノ(富士淺間登山紀行)ノ一節、明治三十五年八月
十四日ノ條、即チ内院ノ記事ヲ掲ゲテ、此山ヲ結了ス。午後剛
力ヲ歸シ、單身噴坑底即チ内院、所謂御内院ヲ探ラントス、
然レドモ山上ハ、氣象ノ變化頗ル不測ナルヲ聞キ居レバ、先
ヅ中ノ、泉霧ノ遊、ニ係レル、測候所ニ至リ、之ヲ所員ニ質
シ、ニ、本日中ハ萬々異變ナカルベク、明日モ多分變象ナカ
ラント答フ、即チ淺間神社奥宮ニ至リ、宮司ノ許可ヲ受ク、
蓋シ内院ニ降ルハ、管ニ危險ノ憂アルノミナラズ、古來内院
ハ大神ノ鎮マシマス所トシテ尊崇シ、猥リニ入ルヲ許サズ、
故ニ宮司ハ、其身分體力等ヲ質シ、然ル後降口ヲ示スコト、セ
リ、サレド遙テ形ナドハ更ニ無シ、予ハ午後二時降リニ向

ヒ、同三十分最下底ニ達シ、觀察ニ時ヲ費シ、コト二十分餘、
坑壁概ホ峭絶、唯三島嶽方面ニ於テ降ルベキ所アルノミ、本
年ハ例年ニ比スレバ、氣候寒冷ナリシ爲メ、坑坑ノ北壁、
雪ヲ見ザルノミニシテ、他三壁ハ、多ク積雪ヲ見ル、所謂
富士ノ萬年雪是ナリ、殊ニ西南壁ニ、最も多ク雪ヲ見ル、
之ヲ大瀧ト稱ス、其狀雪モテ瀧ヲ作リシガ如ク見ユレバナリ、
雪面凝結滑ニシテ、雪ナキニ比スレバ、頗ル危険ナリト云ヘ
リ、(六月白雲蒸、人皆苦炎熱、誰登芙蓉峰、能登千秋雪、(梁
田線)予ハ時ヲ惜ミ早急ナルハ、奇禍ヲ招クノ基ナルヲ思
ヒ、僞々トシテ昇降セリ、坑底ハ即チ火山砂礫ノ墳墓セルモ
ノ、直徑三四十間許ノ平坦部アリ、霽水流レテ潤澤チナス、
而モ遂ニ其溜溜ヲ見ズ、巨岩ノ屹立セルモノ數個、予紀念ノ
爲メ坑底中央部ニアル、巨岩ノ上ニ名刺ヲ置キ、更ニ岩石ヲ
以テ之ヲ蔽ヒ、其飛散ヲ防グリ、坑底ノ岩石、甚奇異、顆粒
狀燦々アリ、結晶白華ノ附著セル燦々アリ、溶岩孔中、細長
ナル六角結晶ノ集合セルアリ、造化ノ活劇美妙端倪スベカラ
ズ、數片ヲ採集ス。噴坑上縁、徑凡六百米突、周圍二十町、
深サ凡八十間餘トス。三時四十分、奥宮ニ還ル、宮司内院參
拜ノ證ヲ交附ス、是レ内院參拜ノ後、附與スルモノナレバ、
此證即チ噴坑底探險了ノ證トナスベシ、參拜證交附料二十
錢以上トス、坑底ヲ探ルモノ、登山者干中、僅ニ一二弱ナリ
ト云ヘリ。

補遺 富士火山山帶

補遺 富士火山山帶

補遺 富士火山山帶

伊豆火山群

一 國山 駿河國駿東郡相模國足柄上・足柄下ノ二郡ニ跨ル。駿東郡富士岡村大字神山ヨリ一里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

長尾山 駿河國駿東郡、相模國足柄上郡ニ跨

ガル。駿東郡足柄村大字桑木ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二百尺。

猪鼻ヶ嶽 「主編百九十四頁參照」

〔小島氏増補〕箱根仙石原村ノ北ニ聳立ス、村ノ出端ヨリ桑畑間ノ細徑一條ヲ經ヒ、土俗謂フコトコロノこん路ニ入り、兩畔ヨリ雄木櫻輪セル間ノ、窪路ヲ經テ、所謂こんノ路ノ頂上ナル草山ニ上ル、是ヨリ足柄山ヘモ、金時山ヘモ登リ得、マアハ一尺幅ノ道アレド、是ヨリハ急峻ナル登下ナリ、取テ上下スルコト三度ニシテ、絶頂ニ到ル、入口ニ石燈籠ニ基アリ、小石祠ヲ中央ニ安置シ、周圍ニ小木祠五ヲ見レド、概

ネ朽廢セリ、一標一本、天曆十年阪田公時出生地ト大書シ、測量石ニ、一千二百十三米突ト刻ス、山ハ相模ノ仙石原・矢倉澤・駿河ノ桑木三村ニ跨ガリテ、ソノ境界線ヲ成ス、山上ニ公時踏破リ石アリ、方二間餘、高一丈餘、又山麓ニ彼ガ願落セリト傳フル石アリ、縦九尺許、横二間ニ及ブ、頂上ノ眺望ハ明神ヶ嶽・足柄山・仙石原・冠ヶ嶽・蘆ノ湖等ヲ双眸ニ入ル、類ル絶佳、仙石原村ヨリ絶頂マデ一里。〕
駿河方面ヘノ下路ハ、前ニ倍シテ急峻、箱根外輪山ニハ、珍ラシキホドノ密集セル森林ヲ脱シ、華表ヲ滑リテ、草山トナル、華表ノ外ニテ、髪ノ如キ細路二分ス、右ハ御殿場ニ通ジ、左ハ足柄山ニ向フ、左ニ隨ヘバ又細路二岐シ、右ハ關木村ニ到リ、左ハ足柄山ノ舊道ニ合ス、コノ道又箱根外輪山ノ一ニシテ、駿相ノ境ヲリ、内ニ箱根山中、外ニ不二及ビ裾野ノ安大泉ヲ瞰、太夫佳ナリ。仙石原ヨリ此山ヘノ登山路ハ、近ケレド荒廢シテ辨シ易カラズ、御殿場方面ヨリハ、遠クシテ且ツ峻ナレド、路ハ明ラカニ通ジテ、山腹以上ハ迷フトコロナシ。

乙女嶺 (正名御尉嶺、今訛リテ乙女嶺ト唱ヘラル相模國足柄下郡、駿河國駿東郡ニ跨

ガル。足柄下郡仙石原村ヨリ駿東郡御殿場村ヘノ通路ナリ。全山輝石安山岩及ビ玄武岩ヨ

リ成ル。標高凡三千尺。

〔小島氏増補〕箱根山ヨリ駿河國駿東郡、御殿場ニ通ズル山道ニシテ、猪鼻ヶ嶽(金時山)ノ東峰、少シク低夷シテ窪口ヲ開ケルトコロ、即チコノ山ナリ、御殿場マデ一里二十町、コノ山仙石原ヨリ四方二里ニ屹立ス、仙石原ヨリ一里半トコロヨリ、登山道トナリ、ソノ路風折シテ電光型ヲナシ、角度亦急峻、絶頂鞍形ノ平坦地ニハ、孤立小舎アリテ、夏日ハ上下ノ旅人ニ流者、乾菜ヲ懸ケ、富士ノ大嶽ヲ最モ近ク、正面ニ觀、杳茫無涯ノ裾野ヲ眼下ニ展開シ、甲斐ノ峻嶺、天外ニ蜿蜒セルチ仰クテ以テ、世ニ「乙女峰ノ不二」ト稱シ、嘖々嘖傳ス、コノ山亦箱根外輪山連嶺ノ一ナルヲ以テ、仙石原ヨリ登レバ、道程短クレド、急傾斜ヲナシ、御殿場方面ヨリ上レバ、長クレト緩漫ナリ、山裾ハ不二ノ裾野ト接續シ、御殿場ヲ抱クヲ以テ、眺望ノ雄大明湖、天下ノ絶景タルニ負カズ。

明神ヶ嶽 足柄上郡南足柄村大字狩野字窪

ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編百九十四頁參照)

〔小島氏増補〕主編ニ出テタル、足柄下郡宮城野村ヨリ山頂ニ達スル路ハ、寧ロ深山越エト稱スルモノニシテ、表山ハ足柄上郡關木村、字道了山ヨリ登ルモノナルヲ以テ、茲ニ之ヲ補記スベシ、關木村ハ小田原ヨリ北四里(井細田・府川・塚原、

補遺 富士山火山帯

諸村落ヲ經)松田停車場ヨリ二里八町(酒匂川ヲ渡ル)ニシテ到リ、足柄街道ヲ左折シテ、狹路ニ入り、通稱道了山ノ麓ニ到リ、ソレヨリ最乗寺(所謂道了さまヲ祀ル)山門マデ、峻阪二十八町ヲ上ル、老杉森々、路ヲ狹クシテ雲霧暗シ、寺ノ境内安瀾、本堂・南山堂・觀音堂・道了菩薩殿、及ビ大天狗小天狗ヲ祀ルトコロアリ、世ニ「小田原ノ道了」ト稱シ、毎年一月・五月・九月ノ二十八・二十九兩日ヲ以テ祭ルトナシ、縹紫群葩シテ、股眼ヲ極ム、杉道盡クルトコロノ寺内ヨリ左ニ折レ(道了山麓ニテ導者ヲ雇フナ可トス)水ナキ淺濘ヲ越エ、翠林ヲ滑リテ、又左ニ折レ、竟ニ林ヲ破リテ、草山トナルヤ、明神ヶ嶽ノ頂、撫スルガ如ク近シ、風折シテ山頂ニ達スルヤ、相模灘眼下ニ展ヒ、伊豆大島(三原山ノ噴煙)利島大室山(伊豆富士)下瞰シ、殊ニ箱根山、中央火口丘ナル二子山駒ヶ嶽・神山・冠ヶ嶽・遠ニ高ク不二山、及ビ我ニ列ナレル明星ヶ嶽ヨリ、乙女峰・仙石ノ巖原・大地獄ノ硫煙等ヲ分明ニ見、眺望絶佳、况ンヤ秋ハ滿山皆野花ヲ衣ルアリ、且ツコノ山、箱根外輪山ノ一峰ナルヲ以テ、箱根山連嶺ノ一東シテ、模倣圖ヲ見ルガ如キ感アリ、山ハ關本方面ヘ緩傾斜シ、宮城野方面ヘ削壁ヲ成シテ、急勾配スルヲ以テ、關本ヨリ登リ、宮城野ヘ下ルヲ以テ、最モ可ナリトス、コノ山ヨリ峰傳ヒニ、明星ヶ嶽モシクバ、乙女峰・金時山方面ヘ緩クテ得、ソノ間、右スレバ常ニ不二山及ビソノ裾野ヲ當面ニ見、左スレバ伊豆ノ山

海、相模ノ平原ヲ下瞰ス。

三床山 相模國足柄下郡ノ東方ニアリ。登路湯本村大字須雲川ヨリス、里數未詳。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千三百三十二尺。

丸山 伊豆國田方郡ノ北方ニアリ。國南村大字桑原ヨリ二里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千四百九十尺。

三國山 駿河國駿東郡、伊豆國田方郡、相模國足柄下郡ニ跨ガル。駿東郡泉村大字茶畑ヨリ一里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高二千五百尺。

山伏山 伊豆國田方郡、駿河國駿東郡ニ跨ガル。田方郡北上村大字佐野ヨリ一里二十町ニ

シテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百三十二尺。

五神山 駿河國駿東郡、伊豆國田方郡ニ跨ガル。駿東郡泉村大字茶畑ヨリ三十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五百尺。

上山 伊豆國田方郡ノ北東方ニアリ。熱海村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

巢雲山 伊豆國田方郡ノ東方ニアリ。宇佐美村大字宇佐美ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高二千三百二十七尺。

小川澤山 伊豆國田方郡ノ東方ニアリ。中大見村大字徳永ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達

ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高二千十三尺。

遠笠野山 (別稱洞笠山) 伊豆國田方郡ノ南東方ニアリ。對馬村大字池ヨリ一里三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高三千六百四十三尺。

大川山 伊豆國賀茂郡ノ北東方ニアリ。城東村大字大川ヨリ二里四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千六百四十二尺。

鴻ノ澤山 伊豆國賀茂郡ノ北東方ニアリ。城東村大字白田ヨリ一里二十四町ニシテ、其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千三百九十八尺。

奥原山 伊豆國賀茂・田方ノ二郡ニ跨ガル。賀

補遺 富士火山帯

茂郡上河津村大字梨本ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千七百七十六尺。

三方ヶ嶽 伊豆國田方・賀茂ノ二郡ニ跨ガル。田方郡上狩野村大字湯ヶ島ヨリ二里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡三千五百二十三尺。

本嶽 伊豆國賀茂郡ノ南方ニアリ。中川村大字池代ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高三千六百六十八尺。

根古山 伊豆國賀茂・田方ノ二郡ニ跨ガル。賀茂郡仁科村大字大澤里ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二百二十五尺。

大久須山 伊豆國賀茂郡ノ北西方ニアリ。宇

久須村大字宇久須ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千九百八十尺。

大島

三原山 [主編二百七頁參照]

〔小島氏增補〕 登山口ハ數條アリ、就中新島(ニイシマ)村ヨリスルモノナ、神立登(カンダチノボリ)トイヒ、傾斜甚クシク急劇ナラザルガ故ニ、此道ヲ取ルチ可トス、則チ伊豆ノ伊東ヨリ、便船ヲ求メテ渡ルベシ、新島村ニ着ケバ、村中客舎ノ設ケアリテ、甚ダシキ不便ナシ、山ノ谷底ニハ、往々山骨ヲ成セル熔岩ノ露出アルモ、地ノ表面ハ、石礫噴灰ニテ覆ハレ、行歩頗ル憚ム、半腹以下ハ、山櫻・榛ノ木多シ、松・杉ハ渺ナシ、殊ニ春ハ滿山皆櫻花ノ觀アリ、オソク日本第一ノ美觀ナラトイフ、漸ク上ルニ鹽ヒ、樹木矮小トナリ、八九合目ニ到レバ、僅ニみやまばんノ木ノ假寐ヲ見ルノミ、登リ盡クセバ、外輪山ノ崖頭(三原鏡端)「カミミタ」ト稱スルトコロノ附近ニ出テ、火口原ヲ隔テ、中央火口丘ト相對ス、外輪山ハ則チ三原山最初ノ火口壁ニシテ、内面ハ火口原ニ向ヒテ急斜シ、所々ニ絶壁ヲ成ス、ソノ最高點ハ南方ニアル、

〔三原白石〕「ミハラシライシ」トイフ岩壁是レナリ、左右ニ延ヒテ屏風ノ如ク、殆ンド同一高度ヲ以テ長ク連亘セリ、ソノ狀脣圓ニシテ、南ノ北方ノ一部ヲ缺キ、恰モ馬蹄形ナリ、ソノ直徑凡ソ二十町餘アリ、所謂三原山ハ舊火口ノ中心ニ噴起シ、各種ノ噴出物堆積シテ、火口原ヨリ更ニ高キコト凡ソ三百餘尺、山腹ハ甚ダシキ傾斜ヲ成シ、内部ハ懸崖直立シテ、一大噴火口ヲ抱ク、噴火孔ハ正圓形ナリ、直徑凡ソ八町ニ及ブ、火口或ハ火口丘ノ側面ヨリハ、今猶盛ニ水蒸氣・硫化水素・亞硫酸瓦斯ヲ噴出シ、マ、鳴動ヲ伴フ、鳴動後ニ、殊ニ噴出物多量ナルヲ覺ユ、遠望スルトコロノ大島三原山ノ噴烟トハ、是レナリ。山頂ニ立テテ天風ニ高懸センカ、山甚ダ高カクズト雖モ、四周若海ニ洗ハル、孤島ノ尖點ナルモ以テ、一望萬里、南ニハ鷗渡根・利島・新島、及ビ三宅御嶽ノ諸島ヲ望ミ、北ニハ天城・箱根ノ連山蜿蜒・波瀾ヲ折ルチ仰テ、況ンヤ時ニ海上岩礁ノ如キ巨鯨ノ、潮ヲ吐クコト數十丈ナルヲ併セ見ルチヤ。三原山ヲ中心トシテ、南ニ三原白石(フタゴ)嶽平、(タケノタヒラ)北ニ愛宕ノ四奇生火山アリテ、殆ト一直線上ニ立テ、土人ガ「湯掛」(ユバ)ト呼ブ噴流洞ハ、山ノ中腹ニ在リ、傍ニ一屋ヲ造リ、浴客ニ便ニス、島中唯一ノ温泉ニシテ、金創ニ効アリトイフ。コノ山ニテ、火山彈・熔岩降灰等ヲ採集シ得、甲蟲・胡蝶ノ類、亦少カラズ、サレド東京附近ノモノト異ナラズ、植物ノ採集地トシテハ、價値少ナシ。

(浦部實松氏ノ紀行ニ據ル)

赤石山系

東俣山

駿河國安倍郡、信濃國下伊那郡、甲斐國南巨摩郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ十里二十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡一萬二百十二尺。

白峰山

[主編二百十六頁參照]

〔小島氏增補〕二道アリ。(一)甲府ヨリ西向シ、荒川ヲ渡リ、右野(アノ)村ノ百々(ド)ニ到ル。(甲府ヨリ四里北ハ重崎、南ハ五里ニシテ猷澤ニ達スル地點ニ在ルヲ以テ、ヤ、股眼ナリ、コ、ヨリ四方約二里ニシテ、蘆安村ニ達シ、御勅使川(ミタイカワ)ノ右岸ニ沿ケテ、蘆安村ノ小字ニ至リニ達シ、コ、ニ一泊、尊者ヲ貸シ、且登山ノ準備萬端ヲ整フベシ。是ヨリ早川ノ上流ニ溯リテ、奈良田峠(海拔約五千百尺)ヲ越エ金川(カナガワ)(土俗水口(ミナクチ)川)ノ河床ニ下リ、危峰ノ麓ヲ行ク、風凰山・地蔵ヶ嶽ノ南ニ、禪師ヶ嶽高懸スルヲ見ル、曾根平(土人しよれだひらトイフ)ニテ川ヲ離レ、山中ニ入ルヤ、海拔已ニ五千七百尺、甲府平原ヲ下瞰ス、是ヨリ杖立峠(絶頂(海拔七千二百尺)ニ上ルヤ、朽廢セル小木祠三

社ヲ安ンズ、一萬餘ノ白峰、天柱稜々トシテ天外ニ高キヲ仰ギ、御室・御切・燒山ノ諸峰、疎宕兀傲屹立セルヲ望ム、杖立峠ヨリ西北ニ向ヒテ下ルコト甚ダシク、半時間ニシテ霧煙キリヤケ)ノ小舎ニ達スレバ、一路北方ニ分岐シテ、風凰山ノ絶頂ニ到リ得、(里程三里、峻嶮ニシテ六七時間ヲ費ヤスベシ)杖立峠下ルコト約三千尺ニシテ、野呂川ノ左岸ニ立チ河中ノ大石ヲ傳ウテ行ク、ソノ大ナルモノハ高サ二十間ニシテ、六十度ノ角度ヲナセルモノアリ、川ノ瀾キトコロ「廣河原ノ小舎」アリ、就イテ野呂川ニ至ル。コノ小舎ノ東ニ方リテ白峰ノ尖頂ヲ仰テ、野呂川整マリテ西ニ折レ、(なかむば)大榎(オーカンバ)嶽ノ意カ)峽谷ノ左岸ニ出テ、竟ニ鈴木帶ノ山路トナリ、石楠花亂咲ノ中ニ出テ、絶頂北嶽ニ達スルマテ路トテハ幾ンド皆無ニシテ、險惡異常ニ絶セリ、然レドモ山頂ノ眺望絶佳、北ハ信・飛騨上ノ嶺列嶽ヨリ、正北ニ駒ヶ嶽北東ニ風凰山、ソノ東南ニ地蔵ヶ嶽、西北ニ千丈ヶ嶽等、奇峭秀拔、殆ンド日本無双ノ大觀ヲ展開スルヲ以テ、優ニ登山ノ辛苦ヲ償フヲ得。(二)信濃方面ヨリ南下スル人ハ、蘆甲斐ヶ原ニテ、尊者ヲ履ヒ、登ルベシ、即チ蘆ヶ原ヨリ小牧ニ出テ、大坊ヲ經テ、大武(オ、ム)川谷ヲ溯リ、(大武川ハ、尾白川ト共ニ、間ニ蘆ヶ原ヲ挾ミ、益無川ニ入ルナリ)半途ニシテ、支流赤雄川ニ沿ヒ、山中ニ入リ、土俗ノ稱呼尾なし山ヲ踰エテ下ルコト一里、前文記スルトコロノ大榎溪ニ到リ、

補遺 赤石山系

白峰ニ上ル、八合目ニ湖水アリ、周圍約十間四方トイフ、絶頂ノ大觀ハ、前文ヲ見ヨ。此山、人跡幾ンド到ラザル深山ナルヲ以テ、登山ノ成功ト否トハ、一ニ尋者其人ヲ獲ルト、然ラザルトニアリ、故ニ最モ其人選ニ注意スベシ。(参考書。太陽第十卷第三號)

虎杖山

駿河國安倍郡 甲斐國南巨摩郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ八里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡七千八百三十一尺。

茶臼山

駿河國安倍郡、甲斐國南巨摩郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ六里二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千二百七十尺。

荒川山

駿河國安倍郡、甲斐國南巨摩郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ四里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高不詳。

〔此山、白峰連山ノ荒川嶽ナルカ、若シ然ラバ一萬三百二十五尺ナリ、凡ソ甲信・駿ノ國境ハ、舊嶽峰集シテ、人跡ノ至ラザル所多ク、今日ニ在リテハ、到底正確ナル説明ヲ得ル能ハズ、其田代ヨリノ遠里程ノ同クヨリ見レバ、或ハ東嶽山ハ白峰山、虎杖山ハ荒嶽、茶臼山ハ農島山ト同山ニシテ甲斐國呼チ異ニセルモノナルヤモ、知ル可カラズ、暫ク山名ヲ列記シテ後考ヲ待ツ〕

大船山

駿河國安倍郡、甲斐國南巨摩郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ三里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千六百尺。

篠金山

駿河國安倍郡、甲斐國南巨摩郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字小河内ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千五百八十尺。

小澤山

駿河國安倍郡、甲斐國南巨摩郡ニ跨ガル。安倍郡大河内村大字有東木ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山御坂層及ビ粉岩

龍爪山

〔主編二百二十二頁參照〕

ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。
〔小島氏増補〕静岡市ノ西北ニ屹立シ、庵原郡ノ西南ニ在リテ又安倍郡ニ跨ガル、二峰ニ分岐シ、北ニ在ルヲ木峰トナシ、南ナルヲ文珠嶽ト稱ス、静岡ヨリ北ニ距ルコト、凡ソ三里。登山ニ二路アリ、静岡ヨリ「富士見」ヲ以テ有名ナル熊鷹橋ヲ城端(シロハタ)通リニ、直線ニ横内(ヨコウチ)町ヲ過ギ、背田ニ出ヅレバ、是ヨリ瀨名(セナ)路アリ、又中途ヨリ左折右曲シテ山麓ニ達ス、人力車ハ麓ノ村落、平山(ヒラヤマ)マテ通ズト雖モ、途中瀨名ニテ下ルヲ最モ便トス、瀨名ヨリハ猶一里餘ノ路ナリ。又他ノ一路ハ、静岡市ノ北隅、即チ龍爪山ノ餘派ナル、麻機(アサハタ)山、賤機(シヅハタ)山、兩山下チ迂回シテ、遂ニ麓ニ出ヅルモノニシテ、コノ外ニ江尻ヨリ四方一里餘ニシテ、山下ニ達スル路モアリ。登山ハ、新道ニ遊アリ、新道ハ今ヨリ、十餘年前、之ヲ開鑿シ、ヤ、迂スレドモ、行步ニ易シ、登山道者ハ、麓ノ垢離取場ニ至リテ、身軀ヲ淨拭シ、登路ニ就クヲ例トス、ソレヨリ次第ニ登リトナリ老杉古松、鬱茂日光ヲ洩ラサザル間行クヤ、路愈ヨ峻阪トナリ、曲折甚ダシ、今ニモ墜落セムトスル狀ヲナセル、懸崖ノ下チ行キ、或ハ溪流ヲ渉リテ行ケバ、勾配愈急、路益ス狹隘、石塊累々、岩骨露出シ、往々正路ヲ絶ツ、殊ニ「馬ノ背」ノ稱アル難處ハ、匍匐シテノミ登リ得、山上ニ登リ盡ク

補遺 赤石山系

セバ、平地アリ、拜殿ヲ安ンズ、社殿亦壯麗ナキハム、是ヨリ猶十數町ノ間、岩路ヲ仰ギ、登リテ「奥ノ院」ニ達スルヤ、山中飛泉ヲ懸ケ、老木槎枿、瀑布ハ或ハ數條ヨリ成リ、或ハ一線直奔シテ雲ヲ吐ク、山中ノ一奇觀ナリ、山ノ絶頂ハ多ク樹木ヲ見ザルガ故ニ、四時眺望ニ可伊豆半島、駿河灣ヲ遠カニ望ミ、一方ハ安倍嶽科(ソラシナ)ノ碧玉峰ニ對ス、脚下チ俯瞰スレバ、安倍川ハ布ヲ晒スカ如ク、有度流ヨリ海ニ入ルヲ見、久能山最モ近ク、呼ベハ響ヘムトス。山中ノ鐘堂ハ、種積神社ニシテ、祭神ハ大國主尊ヲ祭ル、俗ニ鐵砲ノ神トシテ、敬虔ヲ受ケ、毎年舊三月十七日ニ大祭ヲ行ヒ、鐵砲射撃ノ式アリ、標的ハ一番ヨリ十番ニ至リ、順次ニ之ヲ射落シ、式終レバ直ニ神輿ノ渡御アリ、此日ハ近郷ノ火術家、銃ヲ用ニシテ登山シ、山中ノ巨木ニ向ヒテ、各實彈射撃ニ技ヲ試ミ安余息災ヲ祈リテ、下山ス、之ヲ鐵砲祭トイフ。

文珠嶽

(龍爪山ノ一峰)駿河國安倍郡ノ南東方ニアリ。北賤機村大字牛妻ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩及ビ安山岩質集塊岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二百四十七尺。

惡場山

駿河國庵原郡、甲斐國南巨摩郡ニ跨

ガル。庵原郡兩河内村ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ、標高凡三千尺。

池代山 駿河國庵原郡ノ北方ニアリ。小島村大字穴原ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

朝比奈山 駿河 志太郡ノ東方ニアリ。朝比奈村大字新舟ヨリ二里三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ル。標高二千四百二十九尺。

千葉山 駿河國志太郡ノ西方ニアリ。大津村大字千葉山ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山三倉層ヨリ成ル。標高二千四百四十五尺。

西俣嶽 駿河國安倍郡、信濃國下伊那郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ十里三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡九千尺。

町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡一萬尺。

荒川嶽 信濃國上伊那郡、駿河國安倍郡ニ跨ガル。上伊那郡伊那里村大字浦ヨリ八里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡九千六百尺。

千牧嶽 駿河國安倍郡、信濃國下伊那郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ九里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千五百尺。

地藏嶽 駿河國安倍郡、信濃國下伊那郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ八里三十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千五百尺。

本谷山 信濃國下伊那郡ノ南東方ニアリ。上村ヨリ十三里二十四町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千四百八尺。

河内嶽 駿河國安倍郡、信濃國下伊那郡ニ跨ガル。安倍郡井川村大字田代ヨリ四里二十七町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡九千尺。

不動澤山 遠江國榛原・周智ノ二郡、信濃國下伊那郡ニ跨ガル。榛原郡上川根村大字千頭ヨリ八里十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千二百四十二尺。

門桁山 遠江國周智・榛原ノ二郡ニ跨ガル。周智郡奥山村大字奥領家ヨリ五里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千六百尺。

樺生山 遠江國周智郡ノ北東方ニアリ。奥山

村大字奥領家ヨリ六里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千六百尺。

黒法師嶽 〔主編二百二十五頁参照〕
奥黒法師嶽 遠江國榛原・周智ノ二郡ニ跨ガル。榛原郡川根村大字千頭ヨリ八里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ル。標高七千九百尺。

前黒法師嶽 遠江國榛原郡ノ北西方ニアリ。川根村大字千頭ヨリ七里六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ル。標高六千六百三十五尺。

馬背山 遠江國榛原郡ノ北西方ニアリ。川根村大字千頭ヨリ四里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生新層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千七百九尺。

(578)

三森山 遠江國周智郡ノ北方ニアリ。奥山村大字地頭方ヨリ五里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡四千尺。

常光山 遠江國周智郡ノ北方ニアリ。奥山村大字地頭方ヨリ二里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

勝坂山 遠江國周智・磐田ノ二郡ニ跨ガル。氣多村大字豊岡ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千九百三十一尺。

高塚山 遠江國周智郡ノ東方ニアリ。熊切村大字川上ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生古層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

龍馬山 遠江國周智郡ノ東方ニアリ。熊切村大字川上ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生古層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

大字川上ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生古層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

不動山 遠江國周智・榛原ノ二郡ニ跨ガル。周智郡熊切村大字田河内ヨリ一里二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山三安層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

高ニツ山 遠江國周智・榛原ノ二郡ニ跨ガル。周智郡三倉村ヨリ三里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山三倉層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百尺。

大代山 遠江國榛原郡ノ中央ニアリ。五和村大字大代ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山三倉層ヨリ成ル。標高二千八十六尺。

神妻山 遠江國磐田郡ノ北方ニアリ。龍川村大字大嶺ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山

(579)

結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百尺。

大智野山 遠江國磐田郡、三河國八名郡ニ跨ガル。磐田郡熊村大字熊ヨリ一里二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部及ビ第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百尺。

富卷山 (別稱富幕山) 遠江國引佐郡、三河國八名郡ニ跨ガル。引佐郡奥山村大字奥山ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部ヨリ成ル。標高千八百八十四尺。

紀伊山系

大臺原山 (主編二百二十三頁参照)

(小島氏増補) 二十年前ノ大臺ヶ原山ハ、深山幽谷、人跡到ラザルトコロトシテ、畏ラレタレド、土倉氏官林ヲ拂受ケテ伐木ニ従事セシヨリ以來、林道次第ニ開ケ、大臺ヶ原山ノ頂上ニハ、大臺教會ナルモノ起リテ、一大堂宇ヲ建立シ、現ニ

補遺 紀伊山系

山上嶽 (主編二百三十四頁参照)

(小島氏増補) 往昔ヨリ佛教徒ノ崇敬スル靈山ニシテ、日本ノばれたるいんトモイヒツベシ、別稱「大峰」トイフヲ以テ、俳句ニ「大峰入り」ノ咏サヘアルニ至レリ、コノ山大和吉野郡ノ中央ニ聖座シ、山頂雲表ニ兀立シテ、海面ヲ抽クコト六千二百餘尺、山頂ニ堂宇アリ、魔王權現ノ役行者ヲ祀ル堂ハ毎年五月八日ニ開扉シ、三十日ニ閉扉ス、九月末日ニ至レバ、俗

俗ニコノ下ニ、役行者ノ傳ヲ安メトイヒ傳フ、之ヲ過ケレバ、則チ本堂ニ遊シ得、堂宇壯麗、屋ヲ覆フニ青銅ヲ以テス、役行者ガ登山ニ用ヒタリト稱スル、鐵錫杖、及ビ鐵製ノ日和下駄アリ、進ムコト一丁ニシテ峻崖アリ、之ヲ登行道トイフ三面皆巨嶽ナリ、南面ニ湧出「マキア」岩、東北ニ面ニ「蟻ノ月渡リ」「飛石」「東照岩」「ロガシノソキイ」行者岩「屏風岩」等、皆山中峻絶ノトコロナリ、山上常ニ濃霧多クレド露レタルトキハ、眺望絶佳ナリ。是ヨリ下山ノ路ニ就キ、龍泉寺坊ニテハ、食ヲ獲ベク、山麓洞川村ニ至ルマデハ、行程三里、皆下リ坂ニシテ、荆棘深ク、殊ニ右ハ經靈飲前、溪流ノ吼ルチ聞ク、洞川村ハ、人口三百、戸數五十ニシテ、「葛」〔クダ〕チ距ルコト五里二十五丁、龍川寺ハ本村ニ在リ、是ヨリ「葛」マデ、道頗ル峻峻、嶺ニ上リ谷ニ下リ、僅ニ細徑ヲ通ズレドモ、一切車馬ヲ通セズ。

七霞山 紀伊國伊都郡ノ東方ニアリ。巖野村大字谷奥深ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千三百尺。

鉢覆山 紀伊國伊都郡ノ東方ニアリ。學文路村大字清水ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全

山秩父古生層下部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

筒香嶺 紀伊國伊都郡ノ東方ニアリ。富貴村字筒香ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百尺。

陣ヶ峰 紀伊國伊都郡、大和國吉野郡ニ跨ガレ。伊都郡高野村大字大瀧字境ヨリ金剛峰寺〔山上ニ在ルカ〕マデ一里十町、全山秩父古生層上部ヨリ成ル。標高三千六百五十三尺。

雨引山 紀伊國伊都郡ノ中央ニアリ。見好村大字山崎ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

三里嶺 紀伊國伊都郡ノ西方ニアリ。天野村大字志賀ヨリ一里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部ヨリ成ルモノ、如シ。標

高凡千三百尺。

矢倉嶽 紀伊國有田郡ノ北方ニアリ。岩倉村大字粟生ヨリ一里四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部及ビ白堊層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。

藤白嶺 紀伊國海草郡ノ南西方ニアリ。内海村大字藤白ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部及ビ蛇紋岩ヨリ成ル。標高凡八百十二尺。

年壽 紀伊國日高郡ノ東方ニアリ。龍神村大字廣井原ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山中生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

鷹尾山(別稱高尾山) 紀伊國西牟婁郡ノ北西方ニアリ。上秋津村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山中生層ヨリ成ル。標高二千十尺。

眞妻嶽 紀伊國日高郡ノ西方ニアリ。眞妻村

大字松原ヨリ三十三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山中生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

太尾嶺 紀伊國西牟婁郡ノ北方ニアリ。富里村大字下川下ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。

全山第三紀層ヨリ成ル。標高凡二千尺。嶽山 紀伊國西牟婁郡ノ北東方ニアリ。富里村大字下川上ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ル。標高二千八百八尺。

木曾山系

駒ヶ嶽 上伊那郡宮田村ヨリ三里十六町ニシテ其山頂ニ達ス。「主編二百四十九頁参照」

〔小島氏増補〕木曾街道上松(アケマツ)驛ヨリ上ルナ、最モ雄徑トナス、驛ノ東端一碑アリ、刻シテ曰ク「駒ヶ嶽登山路四

里二十町」ト、大勢表ヲ滑リ、南端ヨリ正東ニ向テ行クヤ、山麓ノ路ハ、荒廢シテ迷路ナキニアラザルハ、成ルベク導者ナ、上松ニテ貸スルヲ可トス、時ニ溪流ノ花崗沙ヲ突破シテ水島白ナルトコロヲ沙ルコトアリ、竟ニ山趾ナル樅ヲ毛樅ノ

奇木帯ニ入ル、ソノ鬱密ナルコト、木曾大森林ノ好標本ナルカヲ想ハシム、峻阪ハ、コノ密林中ニ通ズレドモ、路順レテ樹根石層狼藉、段階ヲ作り、傾斜六十度ニ及ブトコロアリ、且ツ全山、水ニ乏シキヲ以テ、礫シメ意ヲコ、ニ用ユルヲ要ス。竟ニ奇木帯ヲ突破シテ、低松帯ニ出ヅルヤ、眺望安瀾、コ、ナ「遠見場」(エンケンバ)ト稱ス、西方ニ御嶽屹立シ、木曾川ノ長江、逶迤屈曲シ、廢覺ノ床ヲ五千尺ノ脚下ニ敷ル、是ヨリ又石塊縱横、低松扶疎タル間チ、匍匐平身シテ、漸ク前嶽ニ到ルヤ、コノ山ノ開闢、神明行者ノ遺蹟アリ、右方ニ「寶劍ヶ嶽」(ヘンケンケ)ト稱ス、更ニ「玉ノ嶽」ト稱テ、木山ノ最高點、錫杖ヶ嶽立ツ、漸ク最高點ニ達スルヤ、三角測量標ト、一小祠アリ、傍ニ一間四方ノ小舎アリテ、登山者ノ宿泊ニ供ス、山上ノ眺望絶佳ナルコト、コノ山三十六峰八千ノ嶽ヲ有スト稱セラル、ヲ以テ推知スベシ、即チ御嶽ノ南ノ肩ヲ踏シテ、正西ニ加賀白山ヲ見ルベク、信・飛驒上ノ、所謂日本あるよすチ縦列ノマニ一瞥シ、北東ニ赤石山ノ壯麗ナル大塊ヲ瞻望シ、甲斐白峰、三重尖頭ノ中、二大塊ノ中間ニ、不二ノ靈嶽ヲ仰ク、東ノ直下ニ、天龍川汪洋トシテ流ル、宇内ノ

惠那嶽 「主編二百五十二頁参照」

〔小島氏増補〕中津川ヨリ登ル、例年六月ヲ以テ「山開キ」トス中津ノ南東ナル、平衍稻田ノ間ヲ行キ、二里ニシテ八幡祠ニ到ル、廟宇壯麗、老杉森嚴ノ趣ヲ添テ、猶往クコト半時、北方ニ轉ツ、しようがに谷ヲ溯リテ、惠那神社ニ達ス、海拔已ニ二千五百餘尺、是ヨリ樹木鬱葱タル峻坂ヲ登ルコト約一千五百尺、丈高キ斷崖(初夏白花ヲ開ク)多ク、矮林・熊笹・奇木長幹ノ間ニ狐藉トシテ、樹間木曾御嶽ノヤ、一圓錐體ヲ成セルヲ仰ク、峰ノ北方ニ出ツルヤ、溪流ノ厚々タル脚下ヨリ、臨ク、森林ヲ穿テ、地滑リノ痕ヲ昇リ、サセル困難ナク、山ノ南側ニ出テ、是ヨリ二時間ニシテ絶頂ニ達ス、傾斜ハ甚ダ急峻ナルニ至ラズ、頂上ハ北ト南ニ延縁シテ波狀ニ尖齒ヲ立テタル三峰ヨリ成リ、高サ各相若ク、然レドモ最北ノモノ、最高ニシテ、三角測量標ヲコ、ニ置キ、南峰ニハ一小祠ヲ建ツ、山頂ノ絶頂ハ、木曾駒ヶ嶽ニ類シ、正東ニ赤石山ノ峭嶮ヲ仰キ、ソノ南肩ヲ仰ミテ、富士山高嶺シ、岐阜平原、澁田脚下ニ延展ス、實ニ濃州第一ノ高山ニシテ、絶頂ノ嵩高、七千有尺、遠ク近江ノ淡湖、伊勢ノ海ヲ下瞰シ得ルニ至リテハ

本宮山 「主編二百五十七頁参照」

〔小島氏増補〕三河ノ國ハ、山甚ダ多カラズ、本宮山ノ如キハ國中南部ノ高山トシテ、屈指ナルモノ、寶飯郡ノ西北隅ニ在リテ、國幣小社砥鹿神社(大己貴命ヲ祀ル)ヲ安置スルヲ以テ本宮ノ名アリ。登路ハ、豊川町ヨリ道ヲ惠奈街道ニ取リ、樹木鬱葱ノ間ヲ往キテ、一小祠「一ノ宮」ニ達ス、砥鹿神社ノ前殿アリ、路ヲ左ニ取リテ、當面ニ本宮山ヲ仰キ、山麓ニ到ル茶店アリ、是ヨリ山頂マテ二里、峻阪ニシテ石徑行歩ニ憚ム絶頂ニ近キトコロニ、荒羽氣神社アリ、山頂ハ則チ砥鹿社ノ在ルトコロニシテ、結構壯大ナラズ、展望絶佳、氣宇ヲ宏闊ニス。

飛驒高原

犬ヶ嶽 越中國下新川郡、越後國西頸城郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高三千六百四十尺。

〔以下群山、越中・越後・信濃・飛驒ノ國境ヲ走レルモノハ、人跡到ラザルヲ以テ、其所在ヲタニ明知スルヲ得ズ況ヤ山容ヲ

十、此連山ハ甲斐・信濃・駿河境ニ蜿蜒セル赤石山系ト匹敵シテ、俱ニ人寰ニアラザルノ感アラシム、余ハ此地ヲ踏破シテ摸圖ヲ造リ、次圖ノ博覽會ニ出品セント切望スル者ナリ

下駒ヶ嶽

越中國下新川郡、越後國西頸城郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ三里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高三千六百四十三尺。

黒岩ヶ嶽

越中國下新川郡、越後國西頸城郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高六千八百八十八尺。

惠夫理嶽

(別稱アフリカ山)越中國下新川郡、越後國西頸城郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ル。標高凡五千尺。

赤男山

越中國下新川郡、越後國西頸城郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ五里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ル。標高五千五百三十一尺。

乗鞍ヶ嶽

(主編二百六十一頁ノ乗鞍嶽ト同山ナラン)越中國下新川郡、越後國西頸城郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡九千尺。

朝日嶽

越中國下新川郡ノ東方ニアリ。山崎村大字山崎ヨリ五里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡一尺。

上駒ヶ嶽

越中國下新川郡、越後國西頸城郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ六里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山玢岩ヨリ成

ル。標高八千八百八十七尺。

蓮華山

(主編二百六十頁参照)越後國西頸城郡、信濃國北安曇郡ニ跨ガル。越中國下新川郡山崎村大字山崎ヨリ七里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高一萬三十五尺。

小蘆華山

越後國西頸城、信濃國北安曇ノ二郡ニ跨ガル。越中國下新川郡山崎村大字山崎ヨリ七里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩及ビ花崗岩ヨリ成ル。標高八千九百七十九尺。

白馬嶽

北安曇郡北城村ヨリ二里十七町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編二百六十頁参照) 鎗ヶ嶽 下新川郡山崎村大字山崎ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス。(主編二百六十一頁参照) 不歸嶽 越中國下新川郡、信濃國北安曇郡ニ

錫杖ヶ嶽

越中國下新川郡、信濃國北安曇郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ八里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡九千尺。

上大ヶ嶽

越中國下新川郡、信濃國北安曇郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ八里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千六百尺。

赤鬼ヶ嶽

越中國下新川郡、信濃國北安曇郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ八里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡八千尺。

俄鬼ヶ嶽

越中國下新川郡、信濃國北安曇郡

ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ九里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡八千尺。

五六嶽 「主編二百七十五頁ノ五六嶽ハ、五六嶽ト南五六嶽トヲ混同セルモノ、如シ、即チ摘譯ノ説文ハ此五六嶽ノモノニシテ、信實ノ説文ハ南五六嶽ノモノナルニ似タリ、故ニ二山ヲ別記シテ其誤謬ヲ謝ス」信濃國北安曇郡越中國下新川郡ニ跨ガル。北安曇郡平村ヨリ三里十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千二百尺。

祖父嶽 信濃國北安曇郡、越中國下新川郡ニ跨ガル。北安曇郡平村ヨリ三里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千五百尺。

後立山 下新川郡山崎村大字山崎ヨリ十里ニシテ其山頂ニ達ス。「主編二百六十二頁参照」
梅山 越中國下新川郡、信濃國北安曇郡ニ跨ガル。下新川郡山崎村大字山崎ヨリ十一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡七千尺。

針木嶺 附立山越 「主編二百六十二頁参照」
〔小島氏増補〕明科「アカシナ」停車場ヨリ六里（長野停車場ヨリ九里半）ニシテ大町ニ達ス、（明科ヨリコ、マテ馬車、或ハ腕車ヲ通ズ）大町ヨリ當面ニ針木峠ノ天半ニ鐵幕ヲ張ルチ仰ク、大町ノ人戸ハ、屋根ヲ平タクシテ、石ヲ破セ、あるふす山下ノ小舎ニ似タリ、是ヨリ二里三十町ニシテ野口ニ到リ、コ、ニテ導者ヲ貸スルチ可トス、針木峠ヲ越エテ立山温泉（土俗立山下「リウザン」）温泉トイフ）ニ到ルマデ、宿泊用ノ小舎トテハ、黒部川畔ニ僅ニ一アルノミ、ソノ他ハ、牛小屋（オソラク石小舎ノ訛傳ナラセト稱スルトコロニ、夜露ヲ張ルニ適スル一個處アルノミ、峠ノ麓ニアリテ、海拔已ニ五千五百尺、頂マテ約一里アリ、野口ヨリ黒部マデハ、八里半ナレド、ソノ間ニ峠ヲ越エザル可ラザルチ以テ、初メノ

一日ハ、野口ヨリ十八町ニシテ白澤、白澤ヨリ二里十八町ニシテ丸石橋、（今橋ヲ存セズ）宿一里餘ニシテ針ノ木ノ麓ニ到リ、コ、ニ夜露ヲ張ルチ可トス、第二日ニハ、愈ヨ針ノ木ハ上ルベシ、頂上マテ僅ニ二里二十町ノ間、巖ト亂流トニテ、路全ク亡ク、日本全國中、最モ惡絶絶絶チキム、漸ク峠ニ上ルヤ、八ヶ嶽ト稱ケルノ間ニ、不二ノ仰キ、針ヶ嶽ノ半天ヲ刺スヲ望ム、頂ハ信濃ト越中ノ境界ヲ成ス。是ヨリ峠ヲカナタヘト越スニ、針葉樹多シ、峠ノ名ヲ得ル所以ナラムコノ邊ノ巖谷ナ、針ノ木澤ト稱ス、峠ヨリ二俣ニ下リ、黒部ニ至ルマテ約三里險流ヲ徒渉シテ、前記ノ小舎ニ宿泊スベシ勿論無人ノ廢屋ナリ、黒部ヨリ峻谷峠「メクイダニタツケ」ヲ越エ、又「セラ越エ」ノ峻道ニ到ルマテ三里餘、「セラ越エ」ハ海拔七千三百尺ノ高度ヲ有ス、嶮惡、針ノ木峠ト甲乙ナシ、絶頂ヨリハ神通川、及ビ日本海ノ荒蕩ヲ俯瞰ス、岩石兀々ノ間ヲ下リ、硫烟處々ニ颯々ル間ヲ過ギリテ、硫黄熱池ノ「孫池」ニ下至リ、竟ニ第三日目ニシテ立山温泉ニ達ス、湯木、或ハ立山温泉ノ別稱アリ、海拔四千二百尺、「セラ越エ」ヨリコ、ニ到ルマテ一里七丁、是ヨリ迂回シテ立山ニ上ル可、或ハだしわら谷ノ上流ニ沿ヒ、立山ノ深岩ナル全景ヲ双眸ニ收メテ立山ヲ下リ、上流「ガミダキ」ニ出テ、越中富山ニ直通ス、湯本ヨリ上流マテ約九里、上流ヨリ富山マテ約三里半。即チ大町ヨリ、針ノ木峠ヲ越エテ、越中富山ニ出テ、三

上ヶ嶽 越中國上野川郡、飛騨國吉城郡ニ跨ガル、上野川郡大山村大字有峰ヨリ五里ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ル。標高八千四百三十五尺。

浄土山 （立山ノ一峯）越中國中新川郡ノ南方ニアリ。立山村大字蘆崎寺ヨリ八里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡七千七百尺。
〔主編立山ノ條二百六十六頁参照〕

白兀 越中國下新川郡ノ南方ニアリ、中新川郡白萩村大字伊折ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡八千尺。

赤兀 越中國下新川郡ノ南方ニアリ、中新川郡白萩村大字伊折ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡七千二百尺。

瀧倉ヶ嶽 越中國下新川郡ノ南方ニアリ。片貝谷村大字平澤ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス

全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡八千二百五十尺。

船峠ヶ嶽 (主編二百七十頁、此山ヲ一小丘ノ布倉嶽ト混同セントセリ、故ニコ、ニ再記ス) 越中國中新川郡下新川ノ二郡ニ跨ガル。中新川郡白萩村大字伊折ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ

標高凡八千五百尺。

大日ヶ嶽 越中國中新川郡ノ東方ニアリ。白萩村大字伊折ヨリ九里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高八千八百六十七尺。

早乙女ヶ嶽 越中國中新川郡ノ中央ニアリ。白萩村大字千石ヨリ四里十八町ニシテ其山頂

ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡五千尺。

天狗平 越中國中新川郡ノ中央ニアリ。立山村大字蘆峠寺ヨリ八里ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

國見ヶ嶽 越中國中新川郡ノ中央ニアリ。立山村大字蘆峠寺ヨリ八里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

中嶽 越中國中新川郡ノ南方ニテリ、大山村大字有峰ヨリ五里ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千尺。

水晶山 越中國上新川郡ノ南方ニアリ、大山村大字有峰ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千七百

百尺。

寺地山 越中國上新川郡ノ南方ニアリ。大山村大字有峰ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六千七百尺。

赤牛嶽 越中國上新川郡ノ南方ニアリ。大山村大字有峰ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千尺。

鍋嶽 越中國上新川郡、飛騨國吉城郡ニ跨ガル。上新川郡大山村大字有峰ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千尺。

火打ヶ嶽 (此山主編二百七十頁ノ真砂ヶ嶽ト連ナリ俱ニ越中・信濃ニ跨ガルモノニ似ク) 越中國上新川郡大山村大字有峰ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千尺。

ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千尺。

補遺 飛騨高原

ノ、如シ。標高凡八千尺。

西笠山 越中國上新川郡ノ南方ニアリ。大山村大字水須ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千六百尺。

東笠山 越中國上新川郡ノ南方ニアリ。大山村大字水須ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

南五大嶽 信濃國南安曇郡ノ南方ニアリ。常盤村ヨリ五里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千二百尺。(主編二百七十五頁參照)

歙崎山 越中國東礪波・婦負ノ二郡ニ跨ガル。東礪波郡東山見村大字横住ヨリ一里二十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千尺。

ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八千尺。

標高凡二千三百尺。

蕎麥形山

越中國東礪波郡ノ南東方ニアリ。利賀村大字上瀨川・下瀨川ノ入會ナル日尾ノ谷ヨリ一里三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山片麻岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千五百尺。

大門山

加賀國石川郡、越中國東礪波郡ニ跨ガル。石川郡犀川村大字倉谷ヨリ二里三十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高五千二十六尺。

百山

加賀國石川郡ノ南東方ニアリ。犀川村大字倉谷ヨリ二里十三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千七百九十九尺。

高二郎山

加賀國石川郡ノ南東方ニアリ。犀川村大字倉谷ヨリ一里三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高四千九百六十尺。

鳥帽子山

加賀國石川郡ノ南東方ニアリ。河内村大字奥池ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千七百八十四尺。

舉原山

加賀國石川郡ノ南方ニアリ。犀川村大字見定ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二十一尺。

千丈平山

加賀國石川郡、越中國東礪波郡ニ跨ガル。石川郡吉野谷村大字中宮ヨリ三里十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高五千九百三十三尺。

白山

〔主編二百九十八頁参照〕
〔小島氏増補〕白山ニ登ルニ、加賀金澤市ヨリスルモノト、越

補遺 飛騨高原

頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高四千六百二十尺。
金山三峰 加賀國石川郡ノ南東方ニアリ。犀川村大字倉谷ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二百九十四尺。
赤摩不古山 加賀國石川郡、越中國東礪波郡ニ跨ガル。石川郡犀川村大字倉谷ヨリ三里四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高五千八十二尺。
奈良ヶ嶽 加賀國石川郡、越中國東礪波郡ニ跨ガル。石川郡犀川村大字二又ヨリ四里十三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高五千三百五十三尺。
奥三方山 加賀國石川郡ノ南東方ニアリ。河内村大字奥池ヨリ二里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高四千九百六十尺。
前ノ勝山町ヲ經ルモノト、二道アルコト、主篇ニ出ヅ、但シ主篇ニハ、金澤道ヲノミ詳記シテ、他ニ及バザリシヲ以テ、コ、ニハ、勝山方面ヲ追加ス、蓋シ白山ニ登ルニハ、飛騨射水川上峽ヨリモ、加賀手取川ノ水源ヨリモ、又越前日野川ヲ溯リ、一嶺ヲ横絶シテ、ソノ麓ニ出ヅルモノトナレド、關東ヨリ赴クモノトセバ、最後ニ舉グタル越前道ヲ以テ、最も便利トスレバナリ。越前福井ヨリ、日野川ニ沿ヒ、大野街道ヲ入里半行ケバ、勝山驛ニ到ル、勝山ヨリ日野川ヲ離レ、一山脈ヲ横ギリテ、手取川ノ流域ニ出ヅルニテ、コレニハ二途アリ一ハ谷峠トイフヲ踰エ、手取川沿道ノ牛首(ウシクビ)〔今ハ白峰村トイフ〕村ニ出テ、更ニ上リテ市瀬(イチノセ)温泉ニ達ス、ソノ里程十一里ニシテ、行路極メテ分明ナリ、他ノ一チ小原峠トイヒ、勝山ヨリ九里ニシテ、直ニ温泉ニ達シ得、然レドモ路ハヤ、送ヒ易シ、金澤ヨリ來ルモノモ、亦牛首ヲ經テ、市瀬ニ到ルナリ。市瀬温泉ハ、白山西面、唯一ノ登口ニシテ、全ク山麓ニ位セルナリ、温泉水質ハ、鹽性ニシテ、火山温泉ノ如ク、硫酸酸類ノ如キ、微候少シ、市瀬ヨリ最高峰、御前嶽ニ向ヒテ、發足セント欲セバ、六万部山ト稱スル小嶽ノ中腹ヲ渡リ、階子(ハシコ)阪ト稱スル急峻ノ坂ヲ攀ルザル可ラズ、コレニテ、忽チ百米突以上ナ上ル、コレヨリ兩側深谷ニ夾マレタル長峰ヲ、徐々昇降シ、略ホ一直線ニ東ニ向ヒテ登ル、槍ヶ宿・指尾(サシナ)雷ノ幡・雞冠(トサカ)岩・慶

ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高四千九百六十尺。

鳥帽子山

加賀國石川郡ノ南東方ニアリ。河内村大字奥池ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千七百八十四尺。

舉原山

加賀國石川郡ノ南方ニアリ。犀川村大字見定ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二十一尺。

千丈平山

加賀國石川郡、越中國東礪波郡ニ跨ガル。石川郡吉野谷村大字中宮ヨリ三里十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高五千九百三十三尺。

白山

〔主編二百九十八頁参照〕
〔小島氏増補〕白山ニ登ルニ、加賀金澤市ヨリスルモノト、越

補遺 飛騨高原

頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高四千六百二十尺。
金山三峰 加賀國石川郡ノ南東方ニアリ。犀川村大字倉谷ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二百九十四尺。
赤摩不古山 加賀國石川郡、越中國東礪波郡ニ跨ガル。石川郡犀川村大字倉谷ヨリ三里四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高五千八十二尺。
奈良ヶ嶽 加賀國石川郡、越中國東礪波郡ニ跨ガル。石川郡犀川村大字二又ヨリ四里十三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高五千三百五十三尺。
奥三方山 加賀國石川郡ノ南東方ニアリ。河内村大字奥池ヨリ二里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高四千九百六十尺。
前ノ勝山町ヲ經ルモノト、二道アルコト、主篇ニ出ヅ、但シ主篇ニハ、金澤道ヲノミ詳記シテ、他ニ及バザリシヲ以テ、コ、ニハ、勝山方面ヲ追加ス、蓋シ白山ニ登ルニハ、飛騨射水川上峽ヨリモ、加賀手取川ノ水源ヨリモ、又越前日野川ヲ溯リ、一嶺ヲ横絶シテ、ソノ麓ニ出ヅルモノトナレド、關東ヨリ赴クモノトセバ、最後ニ舉グタル越前道ヲ以テ、最も便利トスレバナリ。越前福井ヨリ、日野川ニ沿ヒ、大野街道ヲ入里半行ケバ、勝山驛ニ到ル、勝山ヨリ日野川ヲ離レ、一山脈ヲ横ギリテ、手取川ノ流域ニ出ヅルニテ、コレニハ二途アリ一ハ谷峠トイフヲ踰エ、手取川沿道ノ牛首(ウシクビ)〔今ハ白峰村トイフ〕村ニ出テ、更ニ上リテ市瀬(イチノセ)温泉ニ達ス、ソノ里程十一里ニシテ、行路極メテ分明ナリ、他ノ一チ小原峠トイヒ、勝山ヨリ九里ニシテ、直ニ温泉ニ達シ得、然レドモ路ハヤ、送ヒ易シ、金澤ヨリ來ルモノモ、亦牛首ヲ經テ、市瀬ニ到ルナリ。市瀬温泉ハ、白山西面、唯一ノ登口ニシテ、全ク山麓ニ位セルナリ、温泉水質ハ、鹽性ニシテ、火山温泉ノ如ク、硫酸酸類ノ如キ、微候少シ、市瀬ヨリ最高峰、御前嶽ニ向ヒテ、發足セント欲セバ、六万部山ト稱スル小嶽ノ中腹ヲ渡リ、階子(ハシコ)阪ト稱スル急峻ノ坂ヲ攀ルザル可ラズ、コレニテ、忽チ百米突以上ナ上ル、コレヨリ兩側深谷ニ夾マレタル長峰ヲ、徐々昇降シ、略ホ一直線ニ東ニ向ヒテ登ル、槍ヶ宿・指尾(サシナ)雷ノ幡・雞冠(トサカ)岩・慶

松室堂(ケイマツムロ)天女ノ御殿・別當坂・音生谷・仙人
 幅・京名子坂・殿之池・立巻・蛇塚・五色・須等ノ名區ヲ經テ、彌陀
 ク原ニ達ス、其間昇降起伏、幾十回ナルヲ知ラズ、往々ニシ
 テ馬背ヲ渡ルガ如キトコロアリ、巖角ヲ傳ハルトコロアリ、
 又時トシテハ瀧洞ノ平地アリ、水ヲ泛ベタル小池アリ、就中
 腰松ト呼ブトコロハ、掌大ノ平地ナレド、コ、ニ堂堂ノ小ナ
 ルアリ、或ハ宿泊用ニモ供セラル。彌陀ヶ原ハ、二千米突以
 上モ登リタルトコロニシテ、曠茫ナル草野ヲナシ、後峰ヲ控
 へ、前面ハ頓ニ削ラレテ、大ナル溪谷ヲ作シ、龍川・萬歳谷・
 甚之助谷、ナド名ヅクル小溪、驟湍シテ扇面ヲ披ケルニ似タ
 リ、龍川ノ下、落チテ不動潭トナリ、高サ百四丈ト號セラル
 眺望壯快、植物モ亦此邊ヨリ、急ニ變化スルヲ覺ユ。彌陀ヶ
 原ヨリ五葉阪ヲ昇レバ、第二ノ曠漠タル平野ニ出ヅ、之ヲ御
 前平ト稱ス、蓋シ御前嶽ハコ、ヲ羅野トシテ、更ニ高ク盤際
 ニ突入セルナリ、松柏帶既ニ盡キ、諸面皆偃松、ソノ間ニ楡
 櫻(ツガサクラ)岩高閣(ガンコウカク)及ヒ高山植物ナ數ク
 室堂ハコノ小仙境ニ在リ、戸壁隈ケラスニ、岩栴檀・白風露等
 ノ珍花ヲ以テス、室堂ヨリ背後ハ、略々圓錐不二形ヲナセル
 火山性ノ秀峰ニシテ、低松漸ク短ク、白山石楠花之ニ交ハル
 御前嶽ノ中腹ヲ、高天ヶ原ト稱ヘ、頂上ヲ劍ヶ峰本社トス、
 コ、ニ小祠ヲ建テ岩塊ヲ累ネテ扉壁トス、四時風動キテ以テ、
 著ルシク傾ケリ、天晴ルレバ、眺望宏壯チキハムルモ、日本

海ノ邊霧ニ妨ゲラル、日多シ、市瀬温泉ヨリ御前嶽ノ最高點
 マテ、四里ナリ。然レドモ、白山頂ト稱スベキハ、別山・御前
 嶽・大汝(オ、ナンシ)嶽ノ三尖點ニ岐タレ、御前嶽最高點ナ
 レド、御前嶽ヨリ歩テ北ニ移シテ、大汝嶽ニ赴クハ、一里以
 内ノ距離ナリ、ソノ間兩側ニ、屢バ水池ヲ望ム、千仞ヶ池・翠
 ヶ池・千歳谷ノ稱アリ、手取川ノ水源ヲナス、大汝嶽頂ハ劍ヶ
 峰ト異ナラス。御前嶽ノ室堂ヨリ、更ニ別山ノ室堂ニ到ラム
 ト欲セバ、三里ノ間、凡ソ馬背ノ如キ山稜ヲ傳ハラザル可ラ
 スソノ間、昇降十數回、塞ノ河原・御前坂・萬歳谷・龍久川・龍
 ケ馬場善如等・大屏風・小屏風・御舍利山、並ニ別山本社等ノ
 峰溪アリ、白山ニオソク固有ナル、南京小櫻ハ、即チ塞河
 原ニ開ケリ、別山ヨリ市瀬温泉ヘハ、三里、即チ御花畑・音
 生谷・井谷・龍坂・千坂等ヲ經テ、二里ニシテ溪谷ニ下リ、是
 ヨリ溪谷ニ沿ウコト、一里ニシテ、終ニ市瀬温泉ニ出ヅベシ。山
 頂、御前嶽ト別山ノ兩所ニハ、室堂アリ、米糠ヲ推フレバ
 宿泊ニ便ナリ、就中、御前室堂ノ方ハ、時ニ番人ノ守レルア
 リ、且ツ鍋釜ノ備ヘアリテ、準備ヤ、整ヘリ、市瀬ヨリ御前
 頂上マテ、往復スルニハ、早起シテ日没ニ至ルベク、別山・大
 汝兩峰ヲモ併セテ巡ケラムト欲セバ、山上ニテ一夜ヲ凌ケバ
 シ。(寺崎留吉氏ニ據ル)

鈴ヶ嶽 加賀國能美・江沼ノ二郡ニ跨ガル。能
 美郡大杉村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全

山角閃安山岩ヨリ成ル。標高四千百五十五尺。
 高倉嶽 加賀國能美郡ノ中央ニアリ。西尾村
 大字尾小屋ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全
 山第三紀層ヨリ成ル。如シ。標高凡三千
 五十尺。

動山 加賀國能美郡ノ中央ニアリ。西尾村大
 字西俣ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山第
 三紀層ヨリ成ル。標高凡三千尺。
 檜木嶽 (別稱二國嶽)越前國大野郡美濃國
 上郡郡ニ跨ガル。大野郡石徹白村ヨリ一里十
 町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。
 標高凡二千尺。

油坂嶽 越前國大野郡、美濃國上郡ニ跨ガル
 大野郡上穴馬村大字東市布ヨリ一里ニシテ其
 山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ル。標高二千
 六百十七尺。

荷暮嶽 越前國大野郡、美濃國武儀郡ニ跨ガ
 ル。大野郡上穴馬村大字荷暮ヨリ三里ニシテ
 其山頂ニ達ス。全山斑岩ヨリ成ル。標高三千
 八百四十八尺。

蠅帽子嶽 (別稱這法師嶽)越前國大野郡、
 美濃國揖斐郡ニ跨ガル。大野郡西谷村大字上
 秋生ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅
 層ヨリ成ル。標高三千二百二十一尺。
 一乘城山 越前國足羽・今立ノ二郡ニ跨ガル。
 足羽郡一乘谷村大字城戸ノ内ヨリ一里十四町
 ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ルモ
 ノ、如シ。標高凡二千尺。

土藏嶽 近江國伊香郡、美濃國揖斐郡ニ跨ガ
 ル。伊香郡杉野村ヨリ二里十八町ニシテ其山
 頂ニ達ス。全山斑岩ヨリ成ル。標高凡三千三
 百尺。

金糞山 近江國伊香・東淺井ノ二郡、美濃國揖斐郡ニ跨ガル。伊香郡杉野村ヨリ三里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山侏羅層ヨリ成ル。標高凡三千三百尺。

七尾山 近江國東淺井・坂田ノ二郡ニ跨ガル。東淺井郡七尾村ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高千九百一十一尺。

虎御前山 (別稱長尾山) 近江國東淺井郡ノ西方ニアリ。虎姫村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡三百尺。

新徳山 近江國東淺井郡、美濃國揖斐郡ニ跨

ガル。東淺井郡東草野村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

國見山 近江國東淺井郡、美濃國揖斐郡ニ跨ガル。東淺井郡東草野村ヨリ二里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡三千三百尺。

伊吹山 (主編三百十頁参照)

〔小島氏増補〕近江ノ坂田郡ト、美濃ノ揖斐郡ニ跨ケル、高山ニシテ、海拔四千五百有尺ノ大標頭ヲ、群峰ノ間ニ抽シ出タリ。登山路甚ク多ク、長岡停車場ヨリ、春照(シユンシヨウ)上野(ウヘノ)ヲ經テ、頂上マテ三里餘ヲ歩トシ、關ケ原ヨリスルハ、玉(タマ)藤川(フナカワ)上平寺(ジョウヘイジ)ノ三村ヲ經テ、頂マテ三里半トス、別ニ葦山登リト稱スル一遊アリ、即チ垂井停車場ヨリ、岩手(イワテ)村ヲ過ギ、天神峠ノ峻嶮ナル山路ヲ越ヘ、春日(カスカ)村字古屋(フルヤ)ヘ着シ、ソレヨリ頂上マテ、二里餘、總ヘテ五里半ノ道程ナリ。〔一〕先ツ表山路ヲ配セバ、長岡停車場ニテ下車シ、春照村ノ街ヲ經テ、伊吹村大字上野ニ着ス、山麓ナリ、

停車場ヨリ、マテ一里有餘、カケテ伊吹神社ノ在ルトコロヨリ、登山道トナル。路ハ一町餘ノ幅ニシテ、森林ニ挾マル、十町餘ニシテ、草原トナリ、伊吹山嶺ヲ仰グ、表山方面ハ、一林ニ樹木少ナク、奈良ノ春日山ヲ見ル如シ、中腹ナル嶺ノ中谷ニハ、羚羊多ク棲ムトイフ。コレヨリ路ハ左方ニ削成セル、數十間ノ巨岩ヲ控ヘ、草原ノ中ヲ行ク、頂上近クナルヤ道ハ斜ニ左ニ向ヒテ屈曲ハゲシク、常ニ草間ノ小徑ヲ行キ、竟ニ頂上ニ達スルヤ、大石小石、亂瓦シ、北端ニ高三尺、幅二尺餘ノ石室アリ、左右ニ石ヲ積ミテ作レル、燈籠五六基ヲ噴中ニ立ツ、石室中ニハ、綱勒菩薩ノ石像アリトイフ、山麓ヨリ山頂マテ二里餘ノ山路ナルモ、急峻ナルヲ以テ、登リハ四時間ヲ要ス。〔一〕葦山登リハ、垂井停車場ヨリ一里ニシテ、岩手村ニ達シ、古屋マテ二里半ノ間、山又山ノ急坂ヲ越ユ、コノ峠ハ、岩手ヲ出テ、ヨリ、川沿ヒニ細徑ヲ進ルモノニシテ、ソノ間ニ三ノ深キ木立アレド、愈ヨ上ルヤ、伊吹的ノ一面草山トナリ、殊ニ植物ニ富ム、總頂ニハ、熊笹叢生セリ、東南方面ヲ下瞰スレバ、濃・尾ノ大平原、展開ス、峠ヲ下リテ古屋村ニ着ス、山間ノ溪流ニ臨メルニ三十戸ノ寒村ニシテ、登山客ヲ宿スル茅舎アリ、已ニシテ笹又(サ、マタ)村ニ到ル、伊吹ノ山腹ニ在リ、戸數十七八、山中ノ瘴氣地ナリ、コレヨリ坂路頓ニ急峻、大樹ナクシテ小灌木繁茂セリ、十町餘ヲ上レバ、清泉アリ、テ、進ミテ路ヲ左ニ取り、一二丁路

ナキ峻坂ヲ分ク行キテ、漸ク絶頂ニ近カラムトスルヤ、〔伊吹三郎ノ廣〕アリ、俗ニ百間廊トイフ、三丁ホド進ミテ、ヤ、平坦ノ地ニ出テ、コレヨリ頂上マテ五町餘、灌木帯ヲ通過シ終レバ、即チ「御花畑」トイヘル草原ニシテ、ヤ、平坦、滿目百千花亂ス、コ、ナ絶頂トナス、眺望宏壯、琵琶湖・竹生島・水曾川、沖積層ノ大平原、歷落眼ニ入り、綱勒菩薩ノ石祠ハ、最高處ニ在リテ附近大石凸瓦タリ、コノ山古來ヨリ藥草ノ饒多ヲ以テ名アリ、早クヨリ、我邦ノ藥草學者ニ紹介セラレ探草家ハ、必ズ一探スベシ。

鈴鹿山塊

阿彌陀ヶ嶽 近江國阪田郡ノ南東方ニアリ。柏原村ヨリ一里九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千三百尺。

三國ヶ嶽 近江國阪田郡ノ南東方ニアリ。醒井村ヨリ一里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡

千三百尺。

アサミケ嶽 近江國阪田郡ノ南東方ニアリ
醒井村ヨリ三里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二
千三百尺。

臥龍山 近江國阪田郡ノ中央ニアリ。西黒田
村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父
古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百五十
尺。

鈴ヶ嶽 近江國犬上・愛知ノ二郡ニ跨ガル。犬
上郡大瀧村ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高三千四百
九十五尺。

八尾山 近江國犬上郡ノ南東方ニアリ。大瀧
村ヨリ一里七町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩
父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五

百尺。

龍王嶽 近江國蒲生郡ノ南東方ニアリ。東
櫻谷村ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山秩父古生層ヨリ成ル。標高二千九百八十七
尺。

白倉嶽 近江國甲賀・蒲生ノ二郡ニ跨ガル。甲
賀郡鮎河村ヨリ二里三十二町ニシテ其山頂ニ
達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、
如シ。標高凡二千三百尺。

金岩山 近江國甲賀郡ノ北東方ニアリ。鮎河
村ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標
高二千三百尺。

龍王ヶ平 近江國甲賀郡ノ北東方ニアリ。鮎
河村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標

高凡二千三百尺。

三子山 近江國甲賀郡、伊勢國鈴鹿郡ニ跨ガ
ル。甲賀郡山内村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ
達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ル。標高
凡二千三百尺。

狗尾ヶ嶽 近江國甲賀郡ノ南東方ニアリ。山
内村ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山
秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標高
凡千三百尺。

高畑山 (主編三百二十頁、日本地學辭書ニ據
リ、此山ヲ鈴鹿山ニ混同セリ、故ニ此ニ別記
ス) 近江國甲賀郡、伊勢國鈴鹿郡ニ跨ガル。甲
賀郡山内村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。
全山花崗岩ヨリ成ル。標高二千八百八尺。

鷲峰山塊

補遺 飛騨高原

甲賀山 近江國甲賀・蒲生ノ二郡ニ跨ガル。

甲賀郡岩根村ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高千五百一十一尺。
狛坂山 近江國栗太郡ノ南東方ニアリ。上田
上村ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山
花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千二百尺。

金勝山 近江國栗太郡ノ南東方ニアリ。上田
上村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花
崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

篠間ヶ嶽 近江國栗太郡ノ南方ニアリ。下田
上村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花
崗岩ヨリ成ル。標高千五百八十四尺。

鷲峰山 相樂郡東和東村大字原山ヨリ一里四
町ニシテ其山頂ニ達ス。(主編三百二十二頁參
照)

(小島氏増補) 京都ヨリ到ラント欲スレバ、先ツ奈良鐵道ニ搭

シ、宇治驛ニテ下車シ、平等院ノ前堤ヨリ、宇治川ノ右岸ヲ上流ニ向ヒテ、行クニ二里、田原郷ノ郷ノ口(コウノクチ)ニ到ル、此間入車ヲ通ズ、途中宇治川ノ急湍ニ臨ミテ佳景ナリ、郷ノ口ハ田原郷ノ咽喉ニシテ、人家集カリ、旅舎・飲食舖・山駕籠等アリ、是ヨリ東へ一里ニシテ、大導寺村ニ到ル、村ノ南端ナル路傍ニ、寶篋塔印立テリ、少納言入道信四ノ塚トイフ、是ヨリ鷲峰登山トナル。鷲峰山ハ一ニ元行者(モトゲカシヤ)ト稱フルトコロニテ、京都ノ東南、奈良ヨリハ東北ニ當レリ、山城國相樂郡、和束郷(ワツカガサ)ト稱ス。田原郷ニ輪轉セル高嶺ニシテ、表位ハ和束郷、原山村ニ屬シ、此田原ノ大導寺村ヨリハ、北面ヨリスル道ニテ、背山(ウラヤマ)道ナリ、山下ニ總門址・下乗石、延喜帝御供養塔アリ、山路右曲左折シ、隣ルニ三十町ニシテ、峠上ニ遊ス、山幽寂、杉・柏・松茂ノ中ニ、金胎寺ノ堂舎アリ(天武天皇白鳳四年、役ノ小角ノ開基ニシテ、金堂ハ百濟ヨリ舶來セル彌勒菩薩・不動明王・異沙門天ノ像ヲ安ズトイフ)堂後ノ深林ヲ穿ツコト數歩ニシテ、空鉢(クハチ)ノ嶽ニ上ル、全峯ノ絕頂ニシテ、眺望絶佳、近畿幾國ハ幾ンテ指顧ノ中ニ在リ。鷲峰ノ奇ハ、金胎寺ノ南方ヨリ始マル、之ヲ行場トイフ、コノ路ハ山麓ノ人家ニ就キテ、道者ヲ貸シ來ルチ可トス、寺ノ右傍ヨリ踏ニ沿ヒタル草徑ヲ下リ、谷ニ從フテ亦下ルコト十五町ニシテ、愈ヨ行場ニ入ル、連山展列シ、大橋森立、奇石怪岩ヲ躍ラシ、或

ハ佛像形ヲ作セルモノアリ、岩角ニ飛泉懸ルモノ多ク、殊ニ四條ノ四泉ハ、ソノ尤ナルモノニシテ、東岸ヨリ直下數丈ナルチ、千手瀑、ソノ南ナルチ兜卒瀑トイヒ、下ヨリ仰視スレバ、豪放ニシテ天上ヨリ瀉下スル如ク、瀉流トナリテ、巨石ニ注ギ、白翻四裂ス、山石ノ澗水湊合シテ、一斷崖ニ來リ、幅十五尺、高サ五十尺、常ニ大霧ヲ起セル、御尖ノ瀑トナル、其西ニ降三世瀑アリ、是ヨリ奇石ヲ巡覽セムト欲セバ、石徑ヲ登リテ、鐘掛岩ノ怪岩ヲ仰グベシ、上下二座、削成セル絶壁高サ十餘丈、登リ終リテ「蟻ノ戸渡」トイヘル細路ヲ行ケバ、四面ヤ、平潤ナルトコロニ、座禪石アリ、泰澄觀念ノ床トイヒ傳フ、ソノ他胎藏石ニハ、梵字ヲ鑿リ、岩ノ狹隘セルトコロニ、不動押切石アリ(伏拜ミ)ト稱スルトコロハ、深岩ヲ隔テ對峙ニアル不動ノ露像ヲ拜スルトコロ、登リ石ハ、突如トシテ抽キ出タル大岩、人祖石・金剛石・羅漢石ハ、佛祖ノ形像ヲ成ス、又懸崖ニ趾ヲ留メテ、危ク通スルトコロ、之ヲ行道石トイフ、下邊ニ平等石アリ、石ヲ踏ユレバ通路ヲ絶チ、往道絶ニ低キコト五尺許、一方ハ深岩ニ臨ミテ、眼ヲ眩ス、コノ危崖ヲ下リ、對岸ノ石ヲ抱ヘ、谷ニ轉ハムトスルチ文ユルモノヲ飛石トイフ、洞窟アリ、仙人窟ト稱ス、「東觀キ」ハ、山嶽ニ峙立セル大石、佛像ニ似タル巨石ヲ、如意輪石トナシ、大石壁ノ中部ニ、横サマニ結ルルチ、蛇腹トイフ、「四眼」モ亦巨岩、上ヨリ踏下チ觀ヘルモノ、遊華石ハ、恰モ華蓋ニ似タリ

胎内窟モ洞穴ニ屬ス。此山ハ天竺ノ靈鷲山ニ模シ、人工ヲ加ヘテ經營シタルモノナレバ、水石木峰ノ間ニ幾多ノ露佛石像・塔婆ヲ立テ、山嶽ニ名クルニ、伎樂・阿闍(アシカ)・迦樓・迦樓・迦樓・寶生嶽・阿彌陀嶽等ノ名アレド、心經殿、最モ群ニ卓拔ス、御光湯ノ邊ニ、上湯(カミノユ)、中湯(ナカノユ)下湯(シモノユ)トイフ地名アリ、往古温泉ノ涌出シタル遺跡ナリトイフ、赤山ノ北麓ニ、湯屋谷、東邊ニ湯舟ノ名ヲ存スレド、イヅレモ今ハ温泉ナシ。御光湯ヨリ下山セムト欲スレバ、僅ニ五丁ニシテ和束郷ノ原山ニ出ツベク、是ヨリ十八丁ニシテ和束ノ中部河原ト謂フニ下ル、コ、ニ旅舎等アリ、コ、ヨリ又二里ニシテ瓶原郷ニ出ヅ、木津川コ、ニ流ル、ソノ南ノ對岸ハ、即チ關西鐵道、加茂驛ノ在ルトコロナリ。(靜瀬ノ文ニ據ル)

釋迦嶽

山城國綴喜郡ノ東方ニアリ。宇治田原村大字奥山田ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千二百尺。

山吹山

山城國綴喜郡ノ中央ニアリ。井手村大字井手ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全

補遺 飛騨高原

山花崗岩ヨリ成ルモノ、如ノ。標高凡千三百尺。

高尾山

山城國綴喜郡ノ中央ニアリ。多賀村テリ一里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千四百五十尺。

萬燈籠山

山城國綴喜郡ノ中央ニアリ。多賀村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

三郷山

〔主編二百二十三頁、此山ト篠ヶ嶽トヲ混同セリ、故ニ此ニ別記ス〕近江國甲賀郡、伊賀國阿山郡ニ跨ガル。甲賀郡長野村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。篠ヶ嶽ハ、長野村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達シ得

伊賀山塊

那須ヶ嶽 近江國甲賀郡、伊勢國鈴鹿郡ニ跨
ガル。甲賀郡大原村ヨリ三十二町ニシテ其山
頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡二千
六百尺。

油日山 近江國國甲賀郡、伊賀國阿山郡ニ跨
ガル。伊賀郡油日村ヨリ一里二町ニシテ其山
頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高二千五
百一尺。

笠置山 (別稱鹿鷲山) 山城國相樂郡ノ南東
方ニアリ。笠置村大字笠置ヨリ十町餘(或云
十三町)ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ
成ル。標高千二百二十八尺。(此山登路十四町
以下ナルヲ以テ、主編ニ掲載セザリシモ、畿
内ノ一名山ナレバ、小島氏ノ増補ヲ得テ、コ

ニ記セリ

〔小島氏増補〕山城國相樂郡、木津川ノ上流ニアリ、關西鐵道
笠置驛ヨリ二町ニシテ、山麓笠置村ニ到リ、ソレヨリ登リ、八
町ニシテ達シ得、先ツ二町登レバ、二下ノ堂ニアリ、昔ハ佛像
ヲ安シセルトコロニシテ、今ハ登山者ノ休憩所トナル、此邊
ニ大手橋アリ、木津川ヲ下ニ瞰ル、「下ノ堂」ノ在ルトコロ
ハ、則チ一ノ木戸ニシテ、元弘ノ戰ニ、足利重範ノ賊兵ヲ走ラ
セシトコロ、猶上リテ「上ノ堂」休憩所ニ到レバ、二ノ木戸アリ
三ノ木戸ノ跡ニ、名切地蔵尊アリ、傍ノ石ナ名切石ト稱ス、已
ニシテ笠置寺ニ到ル(笠置山案内圖、及ビ獨案内ノ冊子ヲ覽
ク)猶進メバ、藥師・文殊・彌勒ノ三大石屏列ス、藥師石ノ高サ
四十尺、彌勒三十一尺、形體極端ノ如シ、文殊石ハ高サ二十二尺
幅十六尺、彌勒石ハ、高サ五十二尺、幅四十二尺、此三石ヲ笠
置寺ノ本尊ナリト稱ス、三石案ト佛像ヲ刻シタルモ、元弘ノ
兵變ニ罹リテ、銷磨セリトイフ、前ニ堂アリ、正月堂トイフ、
南郡ノ二月堂・三月堂ニ對シテ稱ストイフ、コ、ニ至リテ滿山
悉ク石ナリ、千手觀音ノ像ノ小角ノ苦行シタルトコロ、金剛界
石・胎藏界石ノ二石ハ、イヅレモ高サ四十尺ヨリ、四十八尺、幅
二十七尺ヨリ三十六尺アリトイフ、虚空藏石ニハ、佛像ヲ刻シ
アリ、弘法ノ作ト稱ス、胎内寶ハ、石ノ空門ニシテ、安政年間ノ
震災ノタメ、今ハ損セリ、コ、ヲ過キテ登レバ、四願安瀾・木津
川ヲ瞰ル、大鼓石ハ、路ノ中央ニ在リ、元弘ノ役ニ、陶山小

見山等ハ、賊兵ヲ導キタル間道ハ、コノ邊ナリトイフ、太鼓石
ヲ濬レバ、動(ユルギ)石アリ、又手鞠石トモイフ、下尖リテ
上太ク、重力作用ニテ、手ヲ以テ推セバ、動揺スルモ倒レズ、俗
ニ稱シテ本性坊ノ精靈、化シテコノ石ニナレトイフ、(本性
坊ハ元弘ノ役ニ、大石ヲ抛テ賊兵ヲ破リシ大力ノ僧ナリ)賊
兵ニ間道ヲ教ヘタルハ、飛鳥村トテ、山下ニアリ、此石ノ下ニ
鹿ヶ淵アリ、ヤ、近ク平等石アリ、平方面數十尺ニ及ブ、岩
盤ニ生セル松ヲ攀テ登レバ、眺望愈々壯宏、東北ニ伊賀上
野ノ諸山ヲ望ミ、西北ハ列峰ノ間ニ、比叡山ヲ望ム、石ノ崖
下ニ不動尊ノ石像アリ、「東ノ觀キ」トイフ、平等石ノ下ハ「蟻
ノ月渡リ」ト稱シ、屏列ノ石間ヲ踰越シテ行ク、對山ニ千手ガ
淵アリ、是ヨリ頂上ニ丸ノ趾ニ到ル、海拔一千三十有尺、行
宮址ハ今辨ズ可クザレドモ、此邊ノ石悉ク柱穴ヲ作ラザルハ
ナシ、中ニ笠置石アリ、大ナラズ、少シク離レテ貝吹石アリ、
山少シ卑クシテ、天狗ノ枯松アリ、又阿彌陀如來ヲ刻セル石
アリ、天文三年七月十五日ノ文字ヲ認ム、石階ヲ登レバ、今
謂フトコロノ行在所ニシテ、中央ニ 後醍醐天皇行在所之蹟
ト記セル木標ヲ建ツ、是ヨリ下山シテ、山麓笠置温泉場ニ到
リ得。式附記ス、此山ノ詩歌俳句多シ、殊ニ齋藤拙堂ノ遊記
ノ如キ著名ナルモノアリ、他日六ニ増補スルトコロアルベ
シ。

金剛山塊

甘南備山 山城國綴喜郡ノ西方ニアリ。田邊
村大字新ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡七百五
十尺。

高ヶ峰山 山城國綴喜郡ノ西方ニアリ。普賢
寺村大字水取ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス

全花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡九百尺。

嶽山 山城國綴喜郡ノ西方ニアリ。普賢寺村
大字水取ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

交野山 河内國北河内郡ノ東方ニアリ。交野
村大字倉治ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山花崗岩ヨリ成ル。標高千五百六十四尺。

金剛山 (主編三百二十九頁參照)

〔小島氏増補〕河内國南河内郡ノ東南境ヨリ、大和國南葛城宇智ノ二郡ニ跨ガレテ連嶽ナリ。〔一〕富田林停車場ヨリ六十町、山麓水分村マデ、路坦平ナリ、水分村ヨリ登ルニ、楠家ノ守護神水分神社アリ、式内建水分神社ト榜示ス、幾千級ノ石ヲ拾ウテ登レバ、左ニ一字ノ神祠アリ、菊水紋ノ幕ヲカク、社前ヨリ山道ニ入ル、山頂マデ七十五丁ト稱ス、四十五町ヨリ路次第ニ峻シク、藥研ノ底ノ如ク、鑿リ拓カル、眺望宏壯、チヌノ海ヨリ淡島、石川ノ長流、西山四十里ノ平野、大阪、ソノ他ノ田陸村落、皆眼下ニ在リ、遂ニ杉林ノ中ニ入レバ、山頂マデ二丁ナリ、頂上ニハ葛城神社ヲ安ズ、往古ハ轉法輪寺、最上乘院等輪奐ノ美ヲキハメタルモノアリト傳ラレド、今ハ一神主ノ小舎アルノミ。〔二〕山麓藤原村ヨリ登ル、村ニ「楠公誕生所」ト稱スルトコロアリ、約四里ニシテ千早村ニ到ル、千早川村ノ中央ヲ流ル、ゴ、ヨリ絶頂マデ二十五丁、八丁ニシテ千早城址アリ、村ノ半ヨリ土橋ヲ渡レバ、城跡道ノ標木アリ、山腹ヲ直線ニ削成シタル沙道ナリ、ソノ山ノ頂上ハ、千早城本丸ノ故墟ニシテ、上ニ小祠アリ、八幡公ヲ祀ル、又拜殿アリ、コ、ハ二ノ丸跡ニシテ、下レバ所謂大手ナリ、千早ノ城ハ三層ヨリ成リ、第一層本丸ハ最も狭ク、第二第三層ハ甚タ平坦ナレドモ、絶壁ヲ據ケラシ、古松ト落茅ト、路ヲ夾ム、祠ヨリ下レバ、路ヲ左ニ取り、三丁ニシテ寶塔形ノ五輪古墳アリ、楠正徳ノ墓ト傳フ、木橋ヲ渡ケラシ、石燈籠ニ基ヲ立ツ、是ヨ

リ金剛山頂マデ、二十五町ノ間、懸梯ヤ、雲濤ヤ、路ヲ塞ギテ行歩難ル儼ムベシ、山頂ニ到ル前、數丁ニ、楠公五所秘水ノ跡アリ、蒲葎茂生シテ、僅ニ方一尺餘ノ瀟瀟連ナリテ、ニツバカリ存スルヲ見ル、絶頂ニ社掌ノ小屋アルコト前述ノ如シコ、ニテ登山客ヲ宿ス。

和泉山塊

成高山 紀伊國伊都郡ノ北西方ニアリ。四郷村大字平ヨリ一里四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山和泉砂岩層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千六百尺。

經塚山 紀伊國伊都郡ノ北西方ニアリ。四郷村大字平ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山和泉砂岩層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千六百尺。

雄山 紀伊國海草郡ノ北東方ニアリ。山口村大字湯屋谷ヨリ十七町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山和泉砂岩層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四百五十二尺。

丹波高原

三國ヶ嶽 近江國高島郡、越前國敦賀郡、若狹國三方郡ニ跨ガル。高島郡西庄村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡二千六百尺。

峰山 近江國高島・伊香ノ二郡ニ跨ガル。高島郡海津村ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高二千七十二尺。

椽尾山 近江國伊香郡ノ北西方ニアリ。片岡村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千六百尺。

大岩山 近江國伊香郡ノ南方ニアリ。余呉村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千六百尺。

層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百尺。

山上山 近江國高島郡ノ北方ニアリ。川上村ヨリ二里三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

タカスノ嶽 近江國高島郡ノ北方ニアリ。川上村ヨリ一里三十三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

三國ヶ嶽 近江國高島郡、若狹國遠敷郡、丹波國北桑田郡ニ跨ガル。高島郡朽木村ヨリ凡二十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡五千尺。

八ヶ峰 丹波國北桑田郡、若狹國遠敷郡ニ跨ガル。北桑田郡知井村大字知見ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。

標高二千二百三十七尺。

頭巾山 丹波國何鹿郡、北桑田ノ二郡、若狹國遠

敷郡ニ跨ガル。何鹿郡奥上林村大字老富ヨリ

二里ニシテ其山頂ニ達ス。標高凡千五百尺。

長老嶽 丹波國北桑田・船井ノ二郡ニ跨ガル。

北桑田郡大野村大字三野ヨリ一里十八町、船

井郡上和知村大字上乙見ヨリ一里十町ニシテ

其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標

高凡三千六百十六尺。

三國嶽 丹波國何鹿郡、若狹國大飯郡、丹後國

加佐郡ニ跨ガル。何鹿郡奥上林村大字老富ヨ

リ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山閃綠岩ヨリ

成ル。標高凡千六百五十尺。

天狗畑山 丹波國何鹿郡ノ北東方ニアリ。奥

上林村大字故屋岡ヨリ二里十町ニシテ其山頂

ニ達ス。全山閃綠岩ヨリ成ルモノ、如シ。標

高凡千七百尺。

君尾山 丹波國何鹿郡、丹後國與謝郡ニ跨ガ

ル。式按ズルニ、何鹿郡ト與謝郡トノ間ニハ、

丹波國天田郡ト丹後國加佐郡トアリ、故ニ此

山、二郡ニ跨ガルノ理ナシ、然レドモ明治三

十六年調、京都府統計書ニ明記シアルヲ以テ

暫ク記シテ後考ヲ待ツ。何鹿郡中上林村大字

五津合ヨリ一里十五町、與謝郡與謝村大字與

謝ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山閃

綠岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

陳取山 丹後國加佐郡ノ南東方ニアリ。志樂

村常津ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山

秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡八百

尺。

烏ヶ嶽 丹波國天田郡、丹後國加佐郡ニ跨ガ

ル。天田郡庵我村大字猪崎ヨリ一里十町、加

佐郡河東村大字南山ヨリ十三町ニシテ其山頂

ニ達ス。全山閃綠岩ヨリ成ル。標高千四百六

十五尺。

三國ヶ嶽 近江國高島郡、山城國愛宕郡、丹

波國北桑田郡ニ跨ガル。高島郡朽木村ヨリ凡

二十七町、愛宕郡久多村ヨリ二里十町ニシテ

其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標

高凡三千三百三十五尺。

百里ヶ嶽 近江國高島郡ノ南西方ニアリ。朽

木村ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二

千三百尺。

經塚ヶ嶽 山城國愛宕郡ノ北方ニアリ。久多

村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山

秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百

八十尺。

補遺 丹波高原

堂滿ヶ嶽 近江國滋賀郡ノ北方ニアリ。木戸

村ヨリ二里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩

父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

蓬來山 近江國滋賀郡ノ北方ニアリ。木戸村

ヨリ一里十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花

崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

銀杏ヶ嶽 近江國滋賀郡ノ北方ニアリ。木戸

村ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花

崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

比良山 〔主編三百四十八頁參照〕

〔小島氏増補〕天津町ヨリ、六里ニシテ山麓木戸村ニ到ル、コノ村北其山後ニ登エ、琵琶湖、巖然前ニ開ケルヲ以テ、風光佳ナリ、是ヨリ上ルニ、森林深遠、奇岩奇峯ヲ點シ、老樹頗ル多ク、晝宿時シ、頂上マテ近キニ里ニ群ス、絶頂ヲ達ス、イフ、眺望絶佳、琵琶湖ハモトヨリ、北ハ賤ヶ嶽、彦根城、矢走ニ及ビ、三上山、竹生島、皆指スベク、伊吹ノ山ヨリノ北ニ方リテ、秋霧ノ候ハ、加賀白山ヲ見ルコトアリ、眞個ニ是レ近江第一ノ高峰、山ヲ京都方面ニ下ルコト十數町ニシテ、

池アリ、西四五町、水澄徹、清淨ナリ、清溪ニ沿ヒテ、阪ノ下村ニ下リ、九里ニシテ京都ニ到ルベシ。

白瀧山 近江國滋賀郡ノ北方ニアリ。葛川村ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千三百尺。

釋迦ヶ嶽 近江國滋賀郡ノ北方ニアリ。小松村ヨリ二十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千三百尺。

蛇谷ヶ峰 近江國高島郡ノ南方ニアリ。高島村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡三千尺。

阿彌陀山 近江國高島郡ノ南方ニアリ。安曇村ヨリ三十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡千六百尺。

比叡山 〔主編三百四十九頁参照〕

〔小島氏増補〕江州大津町ノ西北ニ突元トシテ、雲霄ヲ摩スル

大嶽ナリ、登路難條アリ。〔一〕大津ヨリスルモノハ市街ヲ過ギテ、行クコト二里許、穴太村ニ到ル。景行・成務・仲哀三帝ノ皇居タリシ高穴磯宮址ハ、ニ在リ、是ヨリ登リ路トナリ、岩角ヲ踏ミテ、大乗院ニ到ル、木標アリ、見眞大師ノ木像アリト、已ニシテ牛里許、延暦寺中堂ニ達ス、天台宗ニシテ延暦七年僧最澄ノ創建ニ係ル、絶巖ニ向ヒテ上ルヤ途ニ辨慶水アリ、峻険ノ路ヲ頂上ニ達スレバ、四明峰トイヒ、四忍巖帯ナキハム、京都市街・鴨川・琵琶湖、湖東ノ近江富士等、一々指スベシ。山上ニ旅店ナシ、夏季ニハ外人ノ、天幕生活ヲ營ムモノ多シ。〔二〕同シク大津ヨリスルモノニシテ、東海道鐵道馬場驛(大津)ニテ電車ヲ下リ、二里半ニシテ東麓阪本村ニ達ス、(下阪本・上阪本ニ別ツ、大津ヨリコ、マテ人車ヲ通ズ)村ヨリ十町餘、大宮深ニ到リ、又三町ニシテ日吉神社アリ、官幣大社ニシテ、白河帝ヲシテ不知意ヲ喚セシメタル山僧ガ、ヤ、モスレバ奉シタル日吉ノ神輿ハ、コ、ニアリ、毎年四月十四日祭祀ヲ行ヒ、京阪地方ヨリ來觀者多シ、山王祭是也。是ヨリ徒歩五十町ニシテ、絶巖ニ到ル、峻険崎嶇トシテ登リ易カラザレドモ、路傍老杉・古樹・蒼鬱トシテ溪流噴水アリ、風色黒美ナルハ、前記ノ如シ。〔三〕京都ヨリスル者ハ、高野川(今山科附近)ニテ、加茂川(二分ス)ノ東岸ニ沿ヒ、若狹街道ニ出テ、修學院村ヨリ東向シ、山腹ノ雲母阪ヲ上ル、峰頂ノ岩石、屹トシテ眉ヲ懸ス、登路狹隘、兩側ノ山壁ハ、花崗

岩ヲ以テ成ル、急峻ナリ、山端村、高野川、四山、一帯眼下ニ在リ、已ニシテ絶頂、四明ヶ嶽ニ上ル、頂ヨリ八丁ノ山阪ヲ上下シテ、延暦寺ニ到ルベシ、以下前ニ詳ナリ。之ヲ要スルニ、三道中、阪本村ヨリスルモノヲ以テ、參詣道トナシ、最も容易ナルモノトナス。

如意ヶ嶽 (別稱大字山)山城國愛宕・宇治ノ二郡、近江國滋賀郡ニ跨ガル。京都市上京區鹿ヶ谷町ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高千六百六十三尺。

〔名勝〕鹿ヶ谷ノ上方丹波嶽空に盤ゆる者か如意ヶ嶽と云ふ、近江の國に跨がる峻嶺にして俗に又大字山の稱あり、晴昔淨土寺の伽藍伽藍の時、其木尊自ら飛んで此山に留り、光明を發したりとの故事に依り、毎年七月十六日火を山腹に點じて光明に輝し來りしが、弘法大師始めて火を大字形に燒き、時の叢壁に供したり、然るに爾後久しく中絶し、足利義政の代に及び、再び相國寺の僧、横川和尚に命じて之を興さしめ、以て今日に連續す、故に點火の跡自ら赤緒となり、更に草木を生ぜず、遠くよりして之を望むも、明かに字形を見るを得べく、雲中の如きは、雲の大字山と稱し、京都市人の殊に賞觀する所となる、聞く此大字初遊の一點のみにて、實に五百五十餘尺の長きに亘り、毎年點火の際、之に要する所の薪

料、甚だ莫大なりと、壯觀以て祭す可きなり、

音羽山 山城國宇治郡ノ東方ニアリ。山科村大字小山ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ル。標高凡八百尺。

笠取山 山城國宇治郡ノ東方ニアリ。醍醐村大字醍醐ヨリ二十四町。笠取村大字西笠取ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ル。標高凡七百二十尺。

醍醐山 山城國宇治郡ノ東方ニアリ。醍醐村大字醍醐ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千八百尺。

〔名勝〕醍醐寺は深雲山と號す、醍醐村大字醍醐に在リ、延喜四年 醍醐天皇の勅願に基き創建せし所にして、開祖を聖賢尊師とす、伽藍は山上及び山麓に在りて、山上に在るを上醍醐と云ひ、山麓に在るを下醍醐と云ふ、下醍醐には山門・本堂五層塔・開山堂等あり、本堂は藥師佛を本尊とし、日天・月天を脇士とし、又四天王を安す、此堂 醍醐天皇の御遺恩に當り、

豊巨秀吉の建立せし所なりとぞ、開山堂は本堂の東に位し、弘法大師及び聖賢師の像を置き、五層塔は本堂の東南に聳え、二十一體の燐像を掲ぐ、是れ佛言に所謂觀相曼荼羅なる者なりと、而して上醍醐に登るには、麓より凡そ三十七町の阪路あり、一町毎に石標を立て、觀音堂・五大堂・如意輪堂・祖師堂・藥師堂等、逐次上方に建てり、又觀音堂の石塔の下に在る圓伽非は、開祖聖賢師始めて當山に登りし時、白髮の老翁忽然として出現し、以て醍醐味の清泉なりと稱譽せし者にして、寺號の起る所之に在りと云ふ、此山松・杉・若葉として自雲常に巖に起り、山氣陰々人の膚に迫る、甚臭燻くが如きの候と雖ども、亦人間に交あるを知らざるなり。

稻荷山 山城國紀伊・宇治ノ二郡ニ跨ガル。紀伊郡深草村大字稻荷ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ル。標高九百八十三尺。

〔名勝〕稻荷神社。東福寺の南凡そ十餘町、伏見街道の東側に在り、祭神は倉稻魂命・素戔鳴尊。大市比賣神にして官幣大社の一なり、社城稻荷山に據りて頗る廣潤、本社・若宮・拜殿・繪馬堂・御輿藏・寶庫・御供殿・樓門等、鱗次並べ、宏壯にして且つ華麗を盡くし、亭々たる喬杉之を圍んで翠紅相映じ、更に其麗美を添ふ、傳へ聞く往昔、元明天皇の御宇、和銅四年

二月午の日、倉稻魂命始めて此山に垂跡し、初めは今の社地の東凡そ十八九町を隔て、所謂三の峰に鎮座せしが、延喜八年藤原時平社殿を修造し、其後永享十年、三の峰より此に遷座したりと、例祭は毎歲五月七日を以て之を執行し、神輿五基穴見街道を北に進み、七條橋を渡りて九條村の御旅所に神幸あり、儀式嚴肅にして行裝亦甚だ華美なり、社の後山は俗に御山と唱へ、幾多の搦社・末社等、峰巒溪谷の間に在り、順次之に參拜するを御山廻りと稱し、路程凡そ一里餘、或は眺閣開闢の地あり、或は觀望深遠の處あり、賽入常に路に絶えず、社前の市街は稻荷御前町と云ひ、深草村に屬す、茶店軒を接して、四時客跡繁く、伏見人形を販賣する者は、概れ是れより北方に連れり、又東海鐵道の稻荷停車場は、本社の華表前に在りて、京都停車場を距ること一哩六十三鐵、毎日十數回列車の發着あり、賽入の之に藉つて便利を得る者、實に少からずと云ふ。

龍王ヶ嶽 山城國愛宕郡ノ西方ニアリ。鞍馬村大字鞍馬ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

鞍馬山 山城國愛宕郡ノ西方ニアリ。鞍馬村

大字鞍馬ヨリ十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡千八百尺。

〔名勝〕京都北方の名嶽にして、三條大橋を距ること凡そ三里路を鞍馬口に取り、市原を經るを以て順路とし、市原よりは野中二ノ瀬の二村を隔て鞍馬山下に達す、抑も此山を鞍馬と號するは、在昔白鳳十一年、天武天皇・大友皇子と戦ひ、敗績して此山麓に逃れ給ひし時、鞍馬を繋ぎ給へるに因ると、卒々たる老杉全山を掩ふて、望見猶ほ夏日の寒きを覺え、蟻々たる怪岩逕路を遮りて、樂踏幾面か昏倒せんとす、山上一寺あり、名けて松尾山鞍馬寺と云ふ、延暦十六年、大中大夫藤原伊勢人の草創する所にして、今の堂は明治四年の再建に係り、馬沙門天を本尊とす、堂前東に望めば比叡山の相輪燈、遠く望中に入り、幾多の峰巒脚下に起伏して、波濤の怒るが如し、眺望壯絶、人をして快哉を叫ばしむ、堂の左方より尙ほ山巔に攀つれば、行くこと十三四町にして御杉あり、老杉天に沖し、大さ殆んど六圍、繞らすに注連を以てす、傳へて天狗の棲處と云ふ、蕨經背遊石は上方の峰に立ち、不動堂は御杉の下方四五町に在り、不動堂より三四町の下は、所謂僧正谷にして、深樹の中の方九尺許の一祠を立て、甕王大僧正を祀る、祠前幾十塊の岩石累々にして縱横に俯仰し、人工を用ひて庭園を築成したるに似たり、此地は世人の夙に熟知する所

補遺 丹波高原

牛若の積古場にして、石面に刀痕の如き者數多あり、又滑石隠れ石・掘み石・足駄石・硯石・水入石等の名ある者、其中に錯亂せり、鞍馬より貴船に赴く者は、大抵此谷の北より右に下る路を取る、其路峻峻峻峻なりと雖ども、凡そ二十四五町を下れば、貴船神社に達するを得べし。

貴船山 山城國愛宕郡ノ西方ニアリ。鞍馬村大字鞍馬ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡二千尺。

〔名勝〕貴船神社。官幣中社にして水神阿蘇神を鎮す、古へより晴雨止雨の祈願する者、此神の應驗確著なるに如くなしとぞ、社殿ニヶ處に在り、名けて下の社・奥の社と云ひ、相距ること凡そ六七町、奥の社は殊に幽邃寂閑にして、檜・杉陰鬱し、凄冷の肌膚に迫る者あり、加之賽入甚だ稀少なるを以て、綠草覆まに境内に滋蔓し、更に一層の荒涼を添ふ、天の岩船は其四邊に在り、石を積んで船形を成せし者にして、高さ一間餘長さ二間許に亘る、御手洗川は本殿の東に沿つて南流する溪流にして、新後拾遺集に和泉式部の此川の聲を詠じたる和歌あり、又古へは奥の社の左方數町を隔て、龍玉が淵と稱し幅一尺高さ二丈許の飛泉ありしと雖ども、近頃此社に參拜したる人の談話に據れば、其淵既に涸れたるにや、之を求めたれども、終に發見せざりしと、暫く疑を存して茲に記す。

(610)

岩屋山

山城國愛宕郡ノ西方ニアリ。雲ヶ畑村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

〔名勝〕山谷村の北に秀峰あり岩屋山と號す、山腹に寺あり金峰寺と云ふ、京都より行程凡そ五里許、白雉元年、役小角始めて岩山の險峻を踏破し、留つて禪定を修すること數月、終に一寺を開きしが、其後又幾多の星霜を経て、淳和天皇の御宇天長六年に至り、弘法大師一日此山に登り、神童に邂逅して神託を蒙り、乃ち自ら不動尊を彫刻して一千座の護摩を修せり、今も尙ほ其不動尊を當寺の本尊とす、山中に飛龍瀧氷の院、龍潭洞、文字窟、役優婆塞、摩訶石、香水窟等の名蹟あり俗に云ふ、嵐嶺者岩山に參籠して、飛龍の瀧に浴すること毎日三回なる時は、其疾必ず癒ゆと、凡そ岩山は三峰より成り、之を龍洞・金光・輪塔と稱す、輪塔は左方の峰巒にして、金光其中央に聳え、靈洞又右方に峙つ、翠嶺縹緲、深樹蒼鬱、清溪其間を走りて、櫻花藉葉の時節の如きは、幽泉勝けて題す可らずと雖も、都市を距ること遠きを以て、治士旅客の之を訪ふ者稀に、其幽寂を世間傳ふるなし、亦惜むべきなり、牛松ヶ嶽 丹波國南桑田郡ノ北東方ニアリ。保津村ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

三三三

丹波國多紀郡ノ北西方ニアリ。岡野村ヨリ十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山中世層ヨリ成ル。標高千七百七十六尺。

天神山 丹波國氷上郡ノ東方ニアリ。鴨庄村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡二千尺。妙高山 丹波國氷上郡ノ東方ニアリ。鴨庄村ヨリ一里六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノノ如シ。標高凡千六百尺。夏粟山 丹波國多紀・氷上ノ二郡ニ跨ガル。多紀郡大山村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高千九百八十尺。黒頭山 丹波國多紀・氷上ノ二郡ニ跨ガル。多紀郡大山村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

(611)

千六百尺

讓葉權現山 丹波國氷上郡ノ南東方ニアリ。柏原町ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡三千尺。

清水山 丹波國氷上郡南ノ東方ニアリ。柏原町ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。愛宕山 丹波國氷上郡ノ北方ニアリ。幸世村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。石戸山 丹波國氷上郡ノ南方ニアリ。新井村ヨリ二里十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千六百尺。竹林山 丹波國氷上郡ノ南方ニアリ。久下村ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

岩屋山

丹波國氷上郡ノ南方ニアリ。小川村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

鴻ノ山 丹波國南桑田郡ノ南方ニアリ。西別院村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。湯谷ヶ嶽 丹波國南桑田郡ノ南方ニアリ。東別院村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。加茂背嶽 山城國乙訓郡ノ西方ニアリ。大原野村大宇小鹽ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千二百四十尺。彌十郎ヶ嶽 丹波國多紀郡ノ南東方ニアリ。日置村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山

補遺 丹波高原

秩父古生層ヨリ成ル。標高二千六百四十尺。
長尾山 攝津國川邊郡ノ西方ニアリ。西谷村ヨリ二里四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
巖根山 攝津國川邊郡ノ西方ニアリ。中谷ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
嶽山 攝津國川邊郡ノ西方ニアリ。中谷村ヨリ十八町ニツテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
雨森山 攝津國川邊郡ノ西方ニアリ。中谷村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
羽束山 (別稱香下山) 攝津國有馬・川邊ノ二郡ニ跨ガル。有馬郡三輪村ヨリ十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ル。標高

千八百十五尺。
 (名勝) 三輪村大字香下ノ上方に磐石、香下山は其俗稱なり、峰頭突屹高く峙ち、尖形削るが如し、和歌に香下を羽束の里と云ひ、此山と共に古來之を詠する者多し、又香下に古城跡あり、建武年間、赤松圓心、播州在陣の時、松山貴志、大原、藤野、青木、有馬等七士の據る所なり、山麓の香下寺は元と三田城鬼門擁護の祈願所にして、敏達天皇の御宇十二年、日羅道者の開基に係り、本尊の十一観音は其の作なりと傳ふ、因に云ふ香下に二株の奇樹あり、一は相生の松にして地を距ること六尺、兩枝分岐して左右に繁茂し翠色滴らんと欲す、一は連理の枝にして柏の大樹なり、根底一株にして中途より分れて二本となり、上に至て再び合し、枝葉頗る繁茂せり、亦奇となすべし。
西光寺山 丹波國多紀郡、播磨國多可・加東ノ二郡ニ跨ガル。多紀郡今田村ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ル。標高二千八百六十四尺。
古澤水山 播磨國加東縣ノ北東方ニアリ。鴨川村ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石

英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。
白ヶ嶽 丹波國多紀郡ノ南西方ニアリ。味間村ヨリ一里九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千三百尺。
高仙寺山 丹波國多紀・氷上ノ二郡ニ跨ガル。多紀郡味間村ヨリ二十五町、古市村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩及ビ中世層ヨリ成ル。標高二千五百八尺。
萬松山 丹波國氷上郡ノ南方ニアリ。上久下村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千六百尺。
門柳山 播磨國多可郡ノ南東方ニアリ。黒田庄村ヨリ一里二十三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。

甲山 (別稱兜山) 攝津國武庫郡ノ北東方ニアリ。甲東村ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高千十三尺。
 (名勝) 武庫山東面の中腹に在り、山形兜に似たるを以て其名を有す、山中に寺あり摩尼山神呪寺と云ふ、文武天皇の御宇役小角の草創せし所にして、其後天長五年、淳和天皇の皇妃其官女を伴ふて當山に遁れ、一字を建立し給へり、是れ即ち當時の興基なりと、宗旨は古義眞言に屬し、本尊の如意觀音は、協士の持國・增長二天と共に、淳和皇妃の命を奉じ、弘法大師の作る所なりと云ふ、本堂・觀音堂・大師堂・護摩堂等密避して相連り、辨天・船玉洞等は本堂の上方に立ち、方丈は右側の一隅に偏す、山間又數條の飛泉あり、一を九想流と云ひ本堂の東南三町許に懸る、一を大井流と云ひ本堂を北に距ること八町許、一を乾流と云ひ山の北面に在り、一を鳴流と云ひ西南に在り、是等皆山中の奇勝にして其他、辨天影向石、廣田神影向石、荒神石、白龍石等、近きは一町遠きは八町許の間に點在し、佛家の故事を傳ふる所なり。
丹生山 攝津國武庫郡ノ北西方ニアリ。山田村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英斑岩ヨリ成ル。標高千六百九十六尺。

摩耶山 武庫郡西灘村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。〔主編二百五十九頁参照〕

〔小島氏増補〕兵庫縣武庫郡ニ在リ、山頂ニ精舎アリ、切利天(スウリテン)シヤウ)寺ト號ス、中國及ビ九州ヨリ登山スル者ハ、山陽鐵道神戶驛ニ下車シ、二十町ニシテ砂山(イサザヤマ)ニ到ル、即チ布引瀧ノ在ルトコロナ、布引瀧ノ側ヨリ登ルコト十八町ニシテ、山門ニ達ス、又大阪・京都等、東ヨリ登ル者ハ、官有鐵道住吉驛ヨリ上野村ニ至リ、登山スルヲ可トス行程二里半ナリ、ソノ道ニ二道アリ、一チ本街道トイヒ、他ノ一チ袖谷道トイフ、袖谷道ノ方、ヤハ峻ナリ、二道トモニ風光佳ニシテ、本街道ノ途ニハ「七曲リ」ノ險アリ、赤松園心ノ據ツテ六波羅軍ヲ破リシトコロナリ、漸ク山腹ニ至ルコト山門ニ達ス、門内最モ峻シク、石階面ヲ據メテ起ル、七段百九十八級ナリ、昇レバ坊舎ニアリ、登山者宿泊ノ用ニ客殿ヲ貸ストイフ、本堂ヲ觀音堂トイフ、及夫人堂トイフアリ、釋尊ノ母摩耶夫人ヲ祀ル、梁ノ武帝ノ作ナリト傳フ、ソノ他開山堂・多寶塔・白山社・鐘樓等アリ、寺寶ニハ弘法大師ノ筆ニシテ「佛母摩耶山切利天寺」ト書セル古額アリ、又赤松園心寄附ノ太鼓ニテ成シ、一ハ本堂ノ隅ニ掛ケ、一ハ寶庫ニ藏ム、古額ハ本堂外ニアリ、南方ニ給馬堂アリ、堂内ヨリ俯シテ殿ルニ遠クハ阿波・淡路・紀伊ノ諸國懸落、地圖ヲ展ケタル如シ。コト山ハ六甲山脈中ノ一峻嶺ニシテ、郡ノ北端ニ聳ニ、老樹森

然山ヲ覆ヒ、遠ク大阪灣十餘里ノ海上ヨリ指點シ得ベシ。

鐵拐峰 攝津國武庫郡、播磨國明石郡ニ跨ガル。武庫郡須磨村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高七百七十九尺。

鉢伏山 攝津武庫郡ノ南西方ニアリ。須磨村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百五十尺。

高塚山 播磨國明石郡ノ東方ニアリ。伊川谷村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百五十尺。

丹後山塊

小金山 丹後國竹野・與謝ノ二郡ニ跨ガル。竹野郡深田村大字黒部ヨリ二十五町、與謝郡野間村大字須川ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス

凡二千二百七十尺。

蝙蝠山 丹後國與謝郡ノ北東方ニアリ。朝妻村大字新井ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高千二百尺。

仙石山 丹後國與謝郡ノ北東方ニアリ。養老村大字長江ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高千八百八十五尺。

高鉢山 丹後國與謝郡ノ中央ニアリ。府中村大字江尻ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千七百七十尺。

高尾山 丹後國中・竹野ノ二郡ニ跨ガル。中郡五十河村大字五十河ヨリ一里七町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡千二百五十尺。

全山花崗岩ヨリ成ル。標高千六百六十二尺。

金剛童子 丹後國與謝・竹野ノ二郡ニ跨ガル。與謝郡野間村大字須川ヨリ一里三町、竹野郡溝谷村大字溝谷ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千八百八十尺。

トウキンヶ嶽 丹後國竹野郡ノ南東方ニアリ。溝谷村大字等樂寺ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀古層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

ハトカ山 丹後國竹野郡ノ南東方ニアリ。溝谷村大字等樂寺ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀古層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

太鼓山 丹後國與謝郡ノ北方ニアリ。野間村大字須川ヨリ一里七町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山輝石安山岩及び第三紀層ヨリ成ル。標高凡二千二百七十尺。

蝙蝠山 丹後國與謝郡ノ北東方ニアリ。朝妻村大字新井ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高千二百尺。

仙石山 丹後國與謝郡ノ北東方ニアリ。養老村大字長江ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。

全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高千八百八十五尺。

高鉢山 丹後國與謝郡ノ中央ニアリ。府中村大字江尻ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千七百七十尺。

高尾山 丹後國中・竹野ノ二郡ニ跨ガル。中郡五十河村大字五十河ヨリ一里七町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡千二百五十尺。

久住ヶ山 丹後國中郡ノ北東方ニアリ。五十
河村大字久住ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡
千七百七十尺。

麻奈爲嶽 丹後國中郡ノ西方ニアリ。五箇村
大字久次ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百
尺。

權現山 丹後國竹野・中・熊野ノ三郡ニ跨ガ
ル。竹野郡郷村大字切畑ヨリ二十二町ニシテ
其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高千
六百三十尺。

大糸山 丹後國竹野郡ノ南西方ニアリ。郷村
大字切畑ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡六百尺。
城山 丹後國竹野郡ノ西方ニアリ。郷村大字新

庄ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三
紀層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五百二十尺。
金藏山 但馬國出石郡ノ東方ニアリ。資母村
ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩
ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

釜山 但馬國出石郡ノ東方ニアリ。資母村ヨ
リ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨ
リ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

江笠山 丹後國與謝郡、但馬國出石郡ニ跨ガ
ル。與謝郡與謝村大字與謝ヨリ一里二十三町
ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。
標高二千三百九十三尺。

與謝嶺 丹後國與謝郡ノ南西方ニアリ。與謝
村大字與謝ヨリ二十四町ニシテ其山頂ニ達
ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高千三百二十尺。
富岡山 丹波國天田郡、但馬國出石郡ニ跨ガ

ル。天田郡上夜久野村大字板生ヨリ二十町ニ
シテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標
高凡千八百尺。

鐵鉆山 丹波國天田郡、但馬國養父郡ニ跨ガ
ル。天田郡上夜久野村大字板生ヨリ二十五町
大字直見ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全
山第三紀層ヨリ成ル。標高二千二百七十尺。

床ノ尾山 但馬國出石・養父ノ二郡ニ跨ガ
ル。出石郡室埴村ヨリ一里十四町ニシテ其山
頂ニ達ス。全山花崗岩及ビ石英粗面岩ヨリ成
ル。標高二千七百四十九尺。

千丈ヶ嶽 加佐郡河守上村大字佛性寺ヨリ
一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。〔主編三百六
十二頁参照〕
〔小島氏増補〕丹後國加佐・與謝ノ二郡ニ跨ガリ、全山ノ面積
ハ、四里乃至五里ニ及ブ。登山ハ東ヨリスルモ、四ヨリ
スルモ、丹波ノ福知山ニ出テ、ソレヨリ五里、山麓ノ加佐郡

補遺 丹波高原

佛光寺村ニ達ス、(内三里半マテハ、人車ヲ通スルモ、他ハ山
與或ハ徒歩ナリ、然レドモ路ハ丹後ノ宮津街道ニ當レルヲ以
テ、甚ダシキ峻険ニアラズ) 此村ニ鬼茶屋アリ、酒類童子由
來記トイヘル、上下兩卷ノ小冊子ヲ販イテ、案内記ノ用ニ辨
セリ、又ヨ、ニテ導者ヲ賃シ得ベシ、山頂マテハ約五十町、
山ハ南北ニ亘リテ潤シ、山中ノ名所、八ヶ處、則チ石ニ鬼ノ
足形、頼光腰掛石、三神尊キノ二瀬川、官女ノ洗濯石、千丈
瀧、五入道ノ池、公時斧磨石、酒類童子ノ岩窟等ナリ、所謂
岩窟ハ、近年屢ハ缺損シテ、甚形ナ存セズ、頂上ヨリ四忽ス
ルニ、兩丹ノ町村ヨリ、日本海ヲ俯瞰シ、就中與謝加佐、谷
部落ニ萬石ノ稻田ナコエテ、諸山ノ展立セルヲ覽キ得、實ニ
丹波丹後中第一ノ峻山ナリ、樹木ハ總シテ稀疎、山嶽ニ到レ
バ、笹原ヲ見ルノミ、同山ノ北方ニ、鬼獄ノ孤廟アリ、階
ルモノ多シ、ナホ登山沿道ニ、元伊勢内外宮大神ノ繁跡、天
ノ岩戸ト俗稱スル岩窟アリ、登山ハ秋晩マテナ可トス、冬
季ニ入レバ、此地方殊ニ深雪ナルヲ以テ、跋涉スル能ハズ。
宇ノ尾ヶ嶽 丹後國加佐郡ノ西方ニアリ。岡
田中村大字西方寺ヨリ一里二十九町ニシテ其
山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、
如シ。標高凡六百二十七尺。

四國山系

(618)

津司嶽

阿波國美馬郡ノ東方ニアリ。一字村大字一宇山字管井瀬ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百二十尺。

八面山

阿波國美馬郡ノ東方ニアリ。一字村大字一宇山字河内ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百二十尺。

友落山

阿波國美馬郡ノ東方ニアリ。端山村大字東端山字平野ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百二十尺。

雄鳥嶺

(別稱大鳥嶺) 阿波國美馬郡ノ南方ニアリ。一字村大字一宇山字明谷ヨリ一里

二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ル。標高四千四百六尺。

黒笠山

阿波國美馬郡ノ中央ニアリ。一字村大字一宇山字明谷ヨリ一里二十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ル。標高五千九百四十三尺。

筑ヶ山

阿波國美馬郡ノ南方ニアリ。東祖谷山村字落合ヨリ一里二十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千四百尺。

寒峰

阿波國美馬郡ノ南西方ニアリ。東祖谷山村字大枝ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ル。標高五千七十五尺。

鏈渡山

(別稱鎗戸山) 阿波國那賀・海部ノ二郡ニ跨ガル。那賀郡澤谷村大字岩倉ヨリ五里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生

(619)

層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

高板森

土佐國香美郡ノ西方ニアリ。上非生村大字緒佐古ヨリ三里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千六百尺。

杖立山

土佐國長岡郡ノ北東方ニアリ。西豊永村大字庵谷ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部ヨリ成ル。標高三千七百六十二尺。

島ヶ峰

土佐國吾川郡ノ北東方ニアリ。上八川村ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

黒森山

土佐國吾川郡ノ中央ニアリ。横島村大字横島ヨリ一里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ル。標高三千六

百八十尺。

五在所山

(別稱御在所山) 土佐國吾川郡ノ中央ニアリ。明治村大字鎌井田ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上部ヨリ成ル。標高三千二百八十尺。

矢筈山

土佐國吾川・土佐ノ二郡ニ跨ガル。吾川郡富岡村大字安居ヨリ一里十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

庵澤山

伊豫國上浮穴郡、土佐國吾川郡ニ跨ガル。上浮穴郡柳川村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ル。標高三千九百二十七尺。

雨森山

土佐國吾川郡ノ西方ニアリ。池川村大字岩柄ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高

凡二千六百尺。

中津明神嶽 土佐國吾川郡、伊豫國上浮穴郡ニ跨ガル。吾川郡名野川村大字奥名野川ヨリ一里、上浮穴郡中津村ヨリ一里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層下部ヨリ成ル。標高四千八十九尺。

清嶽 土佐國吾川郡ノ西方ニアリ。名野川村大字橋ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層上中部ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

筒城山 伊豫國上浮穴・新居ノ二郡、土佐國吾川郡ニ跨ガル。上浮穴郡柳川村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山粒狀安山岩ヨリ成ル。標高凡四千二百四十尺。

伊豫富士山 伊豫國新居郡ノ南西方ニアリ。加茂村ヨリ三里二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。

ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千五百尺。

黑森山 伊豫國新居郡ノ中央ニアリ。大生院村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ル。標高四千七百二十九尺。

別子銅山 伊豫國新居・宇摩ノ二郡ニ跨ガル。新居郡角野村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ル。標高四千三百六十九尺。

天狗山 伊豫國宇摩郡ノ西方ニアリ。關川村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

上兜山 伊豫國宇摩・新居ノ二郡ニ跨ガル。宇摩郡關川村ヨリ三里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

一ツ立山 伊豫國宇摩郡ノ西方ニアリ。土居村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千五百尺。

赤星山 伊豫國宇摩郡ノ中央ニアリ。富郷村ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

豊岡山 伊豫國宇摩郡ノ中央ニアリ。豊岡村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百尺。

水ヶ峰 (別稱横峰) 伊豫國宇摩郡ノ中央ニアリ。金田村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千三百六十尺。

佐々連山 伊豫國宇摩郡ノ南方ニアリ。金砂村ヨリ五里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山

結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千尺。

石槌山 新居郡氷見村ヨリ六里、周桑郡石根村ヨリ七里十八町、上浮穴郡柳川村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。「主編三百七十一頁參照」

(小島氏増補) 四國第一ノ巔峰ニシテ、海拔六千四百餘尺、山頂ニ本社アリ、石槌神社ト稱ス。(昔ハ石槌權現トイヘリ) 祭例ハ六月二十五日ヨリ七月一日ニ至ル、此山ニ登ルニ、三道アリ、一ハ上浮穴(かみうきあな) 郡、大味川(チホミカワ) 村ヨリ登ル、一ハ新居(あらゐ) 郡ヨリ登リ、一ハ周桑郡ヨリ登ル、此道ハ常住(つねづみ) ニテ、前道ト合シ、是ヨリ絶頂マテハ一筋道ニシテ、新居・周桑二郡ノ境界線ヲ作ル、常住ヨリ五町許ハ、下り道ナリ、是ヨリ上ニ草ヲ生ゼズ、篠竹ノミヲ見ル、ソレヨリ上道、一ノ阪・表白阪・早鷹阪等ノ名アリ、峰傳ヒニ上ルコト、凡二里許ニシテ「夜明シ」ト稱スルトコロニ到ル、登山者ハコ、ニテ一夜ヲ過ゴシ、拂曉絶頂ニ上ルナリ、カクテ一ノ鎖トテ、鐵鎖ヲ繫ギタルニ纏リテ上ル、長サ十七尋アリ、十町ホド上リテ、二ノ鎖ニ至ル、長サ三十三尋、又三四丁ニシテ三ノ鎖ニ到ル、長サ十七尋アリ、コレヲ登ラントシテ、先ヅ仰ガバ、昇天ノ想アリ、絶頂ハ一面ノ岩壁ニシテ、沙埃ナク、壁六間、横三間餘、ヤ、平坦ナド、凹凸

アリ、岩角竝立ス、眺望絶佳、東ハ霞岐・備前ノ山、南ハ土佐ノ諸郡ヨリ、南海沓沓際涯ナク、西ハ九州豊後、又ハ蘇・備ノ山海ヲ双眸ニ收メ、天風浩浩、衣髮ヲ吹イテ、人ハ仙トナル如シ、東南ノ岩角ナリ、一町バカリ下レバ「水ノ瀧定」ト稱シ、岩上ニ水ノ涌クトコロアリ、コ、ヨリ少シク南方ニ「大観」トイヒテ、岩ノ兀尖セルアリ、コ、ニ至リテ草モ竹モ生ゼズ、矮樹風曲狼藉、六尺以上ノモノ幾ント稀ナリ、絶頂ハ新居周桑上浮穴三郡ノ境界ナリ、コノ山ニ參詣スル者、毎年幾萬人トイフ、就中備前・備中、及ビ豊後地方ノ人多ク、毎年舊曆五月ニ至レバ、白衣ヲ被レル備前ノ男子、長杖ヲ手ニシ織ヲ立テ、法螺貝ヲ吹キ、口々ニ「ナンマ、イ、ダハンブ、オヤマノギヨハ、ダイギヨシヤ」ト唱ヘ、三々五々隊ヲ成シテ行ク、多クハ一組三四十人ニ及ベリ、川ニ到レバ必ズ潔齋シ、山立前、二週間ハ水中ニ入りテ、浴ヲ潔リ、殺生ヲ嚴禁シ、五一定殺サズ、或ハ參詣ノ前日ダケ、海水ニテ潔齋スルモアリ、行中必ズ先達ナルモノアルコト、他ノ高山登リニ同シ、歸山ノチリハ、肉桂及ビ「トチメロコシ」等ヲ土産ニスルヲ常トス、賽銭ノ多キモ、全南海道中、叢岐金刀比羅宮ト匹スルニ足ルモノアリトイフ。此山往古ハ面河山トイヒ、古歌ニハ「伊豫ノ高根」ナル代表的名詞ヲ以テ知ラル、主篇ニ洩レタルル母グレバ、左ノ如シ。

みち遠き災興の高根をながめても 道念法師
行程知らぬ旅にもあるかな

忘れては不二かと思ふこれやこの 四行法師

伊興の高根の峰の白雲

面影に不二かうつして向ひ見る 讀人不知

伊興の高根の露のあけぼの

常住山 伊豫國新居・周桑ノ二郡ニ跨ガル。新居郡大保木村ヨリ一里十四町、周桑郡千足山村ヨリ二里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千尺。
伊豫ヶ峰 (別稱石木戸山) 伊豫國周桑・上浮穴ノ二郡ニ跨ガル。周桑郡千足山村ヨリ四里二十町、上浮穴郡柚川村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山粒狀安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡五千五百尺。
三ヶ森山 伊豫國周桑郡ノ東方ニアリ。千足山村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ル。標高四千七百五十九尺。
石墨山 伊豫國上浮穴・周桑・温泉ノ三郡ニ跨

ガル。上浮穴郡柚川村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千八百四十尺。

白尾山 伊豫國上浮穴郡ノ北方ニアリ。柚川村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百九十尺。

ツラジ、山 伊豫國上浮穴郡ノ北方ニアリ。明神村ヨリ二里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千九百八十尺。

善神山 伊豫國温泉・上浮穴ノ二郡ニ跨ガル。温泉郡三内村ヨリ二十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千七百三十尺。

北ヶ森 伊豫國上浮穴・伊豫ノ二郡ニ跨ガル。

上浮穴郡父二峯村ヨリ三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡三千二百五十尺。

三五辻山 伊豫國上浮穴郡ノ北西方ニアリ。田渡村ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千四百四十尺。

障子山 伊豫國伊豫郡ノ南東方ニアリ。南山崎村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山第三紀層ヨリ成ル。標高凡千三百五十尺。

牛岑山 伊豫國伊豫郡ノ南方ニアリ。上灘村ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高千三百四十尺。

壺神山 伊豫國喜多郡ノ北方ニアリ。粟津村ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡四千六百

(624)

尺。

觀能寺山

伊豫國喜多郡ノ北方ニアリ。三善村ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結品片岩ヨリ成ル。標高二千四百十二尺。

大川峰

伊豫國上浮穴郡ノ中央ニアリ。弘形村ヨリ一里二十一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡三千八百四十尺。

狼ヶ城山

伊豫國上浮穴郡ノ中央ニアリ。弘形村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千三百尺。

雨乞ノ森

伊豫國上浮穴郡ノ南方ニアリ。參川村ヨリ三里二十九町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡三千七百尺。

妙見ノ森

伊豫國上浮穴郡ノ南方ニアリ。參川村ヨリ三里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡三千八百五十尺。

霹立山

伊豫國上浮穴郡ノ南西方ニアリ。浮穴村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

高嶺山

伊豫國上浮穴郡ノ南西方ニアリ。浮穴村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル者ノ如シ。標高凡二千二百尺。

源氏駄場

伊豫國上浮穴郡ノ南西方ニアリ。浮穴村ヨリ二里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千六百尺。

白井小屋山

伊豫國上浮穴郡ノ南西方ニアリ。浮穴村ヨリ二里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標

高凡二千三百尺。

伊豆ヶ谷山

伊豫國上浮穴郡ノ南方ニアリ。柳谷村ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千八百十尺。

奥赤子山

伊豫國上浮穴郡ノ南方ニアリ。柳谷村ヨリ一里十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百八十尺。

唐岩嶺

伊豫國上浮穴郡、土佐國高岡郡ニ跨ガル。柳谷村ヨリ三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層及ビ石灰岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千八百四十尺。

鳥形山

(別稱鷄形山)土佐國高岡郡ノ北西方ニアリ。長者村大字泉ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層及ビ石灰岩

ヨリ成ル。標高四千九百四尺。

不入山

土佐國高岡郡ノ北西方ニアリ。東津野村大字船戸ヨリ一里十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層及ビ石灰岩ヨリ成ル。標高四千三百三十六尺。

虚空藏山

(別稱國藏山)土佐國高岡郡ノ北東方ニアリ。戸波村大字永野ヨリ三十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層及ビ石灰岩ヨリ成ル。標高二千六百六十二尺。

雨包山

伊豫國東宇和郡、土佐國高岡郡ニ跨ガル。東宇和郡遊子川村ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡四千尺。

法華津嶺

伊豫國東宇和・北宇和ノ二郡ニ跨ガル。東宇和郡宇和町ヨリ一里五町、北宇和郡立間村ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達

(625)

ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高千四百三十六尺。

大野山 伊豫國東宇和郡ノ北西方ニアリ。溪筋村ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高二千七百九十八尺。

二峠山 伊豫國東宇和郡ノ北西方ニアリ。溪筋村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

ハコノキ山 伊豫國東宇和郡ノ北西方ニアリ。溪筋村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

御在所山 伊豫國喜多・東宇和ノ二郡ニ跨ガ。喜多郡大谷村ヨリ一里十八町ニシテ其山

頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千百八十尺。

鞍掛峰 伊豫國西宇和郡ノ東方ニアリ。千丈村ヨリ一里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千二百尺。

久保山 伊豫國西宇和郡ノ北方ニアリ。千丈村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山結晶片岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千四百尺。

室戸半島

八郎山 阿波國海部郡ノ北東方ニアリ。赤河内村大字山河内ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千尺。

霧越山 阿波國海部郡ノ中央ニアリ。川上村

陸趾半島

火打ヶ森 土佐國高岡郡ノ南東方ニアリ。上ノ加江村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山白聖層ヨリ成ル。標高二千三尺。

佛ヶ森 土佐國幡多郡ノ北東方ニアリ。七郷村大字奥湊川ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山白聖層ヨリ成ル。標高二千二百七十尺。

滑床山 伊豫國北宇和郡ノ中央ニアリ。丸穂村ヨリ二里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山北崗岩ヨリ成ル。標高四千三百四十尺。

大谷山 伊豫國北宇和郡ノ中央ニアリ。丸穂村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山白聖層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千八十尺。

伊摩 (別稱今ノ山) 土佐國幡多郡ノ南方ニ

大字小川 ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千三百尺。

千本嶺 土佐國安藝郡ノ北東方ニアリ。野根村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千三百尺。

津賀嶺 土佐國安藝郡ノ南方ニアリ。奈卒利村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

烏帽子森 土佐國安藝郡ノ北西方ニアリ。東川村大字島ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山白聖層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。

アリ。三原村大字廣野ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山中世層ヨリ成ル。標高二千八百四十二尺。

屏風山 土佐國幡多郡三崎村大字三崎字龍串ノ海濱ニアリ。同郡宿毛ヲ距ルコト約ソ七里ナリ。

「小島氏増補」此屏風山ノ奇景タルヤ、鞍掛ノ松ヲ除ケバ、悉ク天然ノ奇巖怪石ヨリナルモノニシテ、今之ヲ列記スレバ、凡ソ左ノ四十餘景ナリトス。鞍掛ノ松、鞍掛ノ馬、瓢箪石、富士越ノ雁、鯨石、大砲小砲、玉石、蠶雲、女鉢山、鹿ノ落角、落水、石山ノ秋月、弘法大師ノ後姿、蛤石、三階松、碁盤石、矮狗石、大竹小竹根引竹、男鉢山、牡丹ニ獅子、雪中ノ梅、蛙ノ千匹連、見返ノ猿、大猿小猿、布引、陣屋ノ橋板扇ノ前、獨鈷石、黒鉛ノ梅、水瓶石、靴石、龍門ノ瀧、登龍兜石、手毬蹴鞠、座頭ノ蠶雲、夫婦狸、霜柱、面向不背山、五百羅漢、水船、千燈籠、遠棚、法螺貝、鬼ノ投豆、夢ノ浮橋、鞍掛ノ松ハ前述セルカ如ク、普通ノ松樹ニシテ、其名ノ因テ來ル所ヲ知ラズ、「鞍掛ノ馬」並ビニ「瓢箪石」ハ共ニ其形ヲナスル岩石ナリ、「富士越ノ雁」ハ富士山ニ似タル岩アリテ、之ニ雁ノ飛ビ懸リタルカ如ク附若セリ、「鯨石」ハ石ノ鯨

ニ似寄リタルニハアラテ、波ノ寄セ來リテ打掃ガル機ノ、恰モ鯨ノ潮水チ噴出スルカ如キ爲ナリ、「大砲小砲」モ其名ニ似タル岩石ヨリ成リテ、其銃口ニ相對セル彼岸ニハ、命中セルガ如キ「玉石」アリ、實ニ奇ト云フベシ、「蠶雲」ハ其狀蠶雲ニ似タルヨリ之ヲ名ツク、「女鉢山」ハ「男鉢山」ト相對シ、其形凹凸チナセリ、「鹿ノ落角」ハ其形狀眞ニ道レリ、傍ナル「石山ノ秋月」ハ圓形ノ孔穴ヨリ、穹空チ透カシ見ルニ依リ、宛モ月ニ異ラザルナリ、「落水」水ノ落ツルカ如ク、「弘法大師ノ後姿」ハ「蛤石」ニ「三階ノ松」等ハ皆其名ノ如シ、而シテ碁盤石ニハ四五ノ碁石ヲ盤上ニ散セタルニ似タリ、「矮狗石」ハ海中ヨリ突出セル岩頭ナレバ、潮汐ノ漲干ノ度ニ依リテハ、全ク其狀ヲ認ムルコト能ハザレドモ、其度ノ宜シキ時之ヲ見バ、矮狗ノ沖ニ向ヒテ游泳セルニ異ナラズ、其次ナル「大竹小竹根引竹」ハ此ノ奇景中首位ヲ占ムルモノニシテ、數十尺ノ竹幹ガ沖ニ向ツテ突出セルカ如ク影刻シタルニ似タリ、「牡丹ニ獅子」雪中ノ梅ニ千匹連「見返ノ猿」大猿小猿「布引」陣屋ノ橋板「扇ノ前」獨鈷石並ビニ「黒鉛ノ梅」「水瓶石」「靴石」等孰レモ其名ニ於ケルカ如シ、中ニモ雪中ノ梅ハ白雪チ戴ケル梅ニ酷似セシモ、近來ハ其狀ヲ認メ難クナレリ、然レドモ其黒鉛ノ梅ニ至リテハ、曠ノ如キ岩ノ側面ニ恰モ黒チ似テ梅チ露ケルカ如シ、「龍門ノ瀧」ハ碁石眞ノ瀧ニ異ナラズ、其水ノ落チテ岩ニ激シタル狀、或ハ飛沫ノ散ツテ岩ニ附若シタル機、頗ル眞ニ道レリ、加フルニ其下流ト

モ云フベキ所ニ當リ、鯨ノ登ルニ異ラザル「登龍」ノ石アリ、「兜石」手毬蹴鞠ニ座頭ノ蠶雲「夫婦狸」霜柱「面向不背山」等皆其狀態ヲ現セドモ、就中座頭ノ蠶雲ハ殊ニ著名ナルモノニシテ座頭ノ牛バ伏シテ睡レルカ如ク、其腹部ニハ巾着ヲサヘ提ゲタリ、之ニ就キテ一ノ話柄アリ、ソハ今ヲ去ルコト凡ソ四十年前、役頭西某ナルモノ、此奇景ヲ探リ、夢ノ浮橋チ渡ラントシテ、誤チテ之ヨリ墜落シ、觸破チ以テイタク負傷シタルヨリ大ニ怒リ、惜ムベシ遂ニ此座頭ヲ斬首ノ刑ニ處セリト云フ、故ニ今ハ其頭ヲ留メズ、「五百羅漢」ハ徑七寸許ナル孔口ヨリ中ヲ窺ヘバ、孔内甚ダ廣クシテ、無數ノ佛像ヲ安排セルニ異ナラズ、「水船」ハ雜破船ノ淺ニシテ、軸、船底並ビニ船尾チ殘セル船ノ如シ、「千燈籠」ハ平坦ニシテ廣濶ナル岩石ニシテ、其上ニ「遠棚」及ビ「法螺貝」ノ二石アリ、「鬼ノ投豆」ハ數多ノ豆大ノ小石ガ附若セルチ云フモノニシテ、其次ナル橋ノ如キモノナ、即チ「夢ノ浮橋」トハ云フナリ。右ノ奇石ハ凡ソ二十町許ノ間ニ散在シテ、屏風山ノ周圍チ圍繞セルモノナレバ、夢ノ浮橋チ渡ラズシテ山チ超ユレバ、直チニ首メノ鞍掛ノ松ニ出ヅルチ得ベシ、若シ夢ノ浮橋チ渡ル時ハ、櫻ノ涼ナル處ニ出ヅ、此涼邊ヨリ前面チ眺ムレバ、右ニ地廣港ヨリ出ヅル岬アリ、之ヲ辨天島ト稱シ、左ニ突出セルモノハ恰モ象ノ鼻ノ如シ、此二岬五ニ相接近シテ樽チナセリ、其峽間ヨリ遙カニ沖チ望メバ、際涯ナキ太平洋ハ白雲

補遺 四國山系

ニ連ナリ、行船點々、其景頗ル佳、而シテ此涼ニ在ル小石ハ微細ナルモノニ至ルマテ、悉ク一様ノもくチ有ス、又奇ナリト謂フベシ。珊瑚採取ノ季節ニ當リ天氣晴期ナルノ日、屏風山ノ絶頂ニ登リテ、遙ニ沖チ望メバ、凡ソ二里チ距テ、柳底ト稱スル漁場ニ於テ、珊瑚ノ採取ニ從事セル數百ノ漁船ヲ見ルコトナリ得ベシト云フ。每春此奇景ヲ見ントテ、此處ニ杖チ曳クモノ鮮ナカラズ、又此奇岩ハ弘法大師ノ作りシモノナリトノ傳説アルヨリ、四國運路ノ見物ニ來ルモノ、實ニ夥シ、若シ此奇勝ヲ探ラントスル人士ハ、其四ヨリスルト東ヨリスルトチ間ハズ、涼船ニ乘ジテ先ヅ宿毛ニ上陸シ、夫レヨリ陸路チ探ラザルベカラズ、而シテ龍串ニ到レバ、先ヅ案内者チ雇フチ要ス。(関川生ノ文ニ據ル)

讃岐山脈

笠ヶ峰 讃岐國大川郡ノ中央ニアリ。松尾村ヨリ十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高二千五百九十九尺。

屋島山 讃岐木田郡ノ北方ニアリ。濁元村大字西濁元ヨリ六町餘ニシテ其山頂「屋島寺」ニ

(630)

達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高九百五十尺。

〔小島氏増補〕讚岐高松市ノ東海岸ニ、突壁セル山ニシテ、高松市ヨリ三里ニシテ上リ得、山甚々高カラズト雖モ、屋蓋形ヲ成スガ故ニ、山ツテ名ツクトイフ、古代ハ海中ノ孤島ナリシモ、陸續シテ現在ノモノトナレトイフ、源平ノ古戰場ニシテ、東麓ニ佐藤信ノ墓アリ、山ハ老杉・古松ヲ以テ覆ハレ、北ニ瀬戸内海ヲ俯瞰シ、風光絶佳ナリ。

阿串峰 阿波國美馬郡ノ北東方ニアリ。江原村大字會江山字落合ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山和泉砂岩層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百二十尺。

女體山 阿波國美馬郡ノ北東方ニアリ。江原村大字會江山字冬畑ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山和泉砂岩層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千八百八十尺。

龍王山 阿波國美馬郡、讚岐國香川・綾歌ノ二郡ニ跨ガル。美馬郡郡里村大字郡里山字清田ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山和泉砂岩層ヨリ成ル。標高三千二百二十二尺。

飯ノ山 (別稱 噫悲山、力山、讚岐富士) 讚岐國綾歌郡ノ北西方ニアリ。坂元村大字西坂元ヨリ凡八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高千四百五十五尺。

〔小島氏増補〕海抜二千四百四十尺、平野ノ間ニ突起セル一孤峰ニシテ、近郡數里ノ地ヨリ望ミ得ベク、其山容富士ニ酷肖セルヲ以テ、讚岐富士ノ稱アリ、安山岩ヨリ成ル、讚岐鐵道坂出(サカイテ)驛ニ到レバ、南方ニ倒崩狀ヲ作シテ屹立セリコノ驛ヨリ登ルベシ、モシ仲多度郡、丸龜市ヨリ登ラント欲セバ、市ノ東ニ流ル、水清ク石苔碧キ土器(トキ)川(別名 枝(ハラヒ)川)ヲ渡リテ、綾歌郡ノ城ニ入り、ヤ、東南ニ向ヒ、約十四五町赴クバ、山麓ニ達ス、絶頂マテ二十町餘、皆松雲差翠瀟ラントシ、村民客ヲ遇スルコト亦懇切ナリ、夏日登山スルモノ、甚ダ多シ、古代飯依彦命ノ趾ヲ垂レタルトコロナリシガ、今ハ山上ニ樂師堂ヲ存スルノミ、西麓ニアリシ飯(イヒノ)神社ハ、中古火災ニ罹リテ灰燼トナレリ、讚岐にはこれをや富士といひの山

(631)

朝けの煙た、ぬ日もなし 四行
コノ歌ニ據レバ、鎌倉時代ニハ山頂ヨリ、硫煙ヲ騰ゲサタル活火山ナリシニアラザルカ、記シテ疑チ存ス。

大麻山 (主編三百八十三頁、地誌提要ニ據リ、此山ヲ象頭山ト混同セリ、此ニ別記ス) 讚岐國仲多度郡ノ西方ニアリ。麻野村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高凡千三百尺。

高繩半島

大月山 伊豫國温泉郡ノ北方ニアリ。河野村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千六百尺。

三方森山 伊豫國温泉・越智ノ二郡ニ跨ガル。温泉郡河野村ヨリ一里一町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千七百尺。

補遺 四國山系

奈良原山 (別稱 檜葉山) 伊豫國越智郡ノ南方ニアリ。鈍川村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡二千六百六十尺。

古權現峰 伊豫國越智郡ノ西方ニアリ。龍岡村ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

丸山峰 伊豫國越智郡ノ南方ニアリ。鈍川村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千二百九十尺。

三ヶ森山 伊豫國周桑郡ノ西方ニアリ。中川村ヨリ一里三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山和泉砂岩層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千五百尺。

福見山 伊豫國温泉郡ノ東方ニアリ。北吉井村ヨリ二里二十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全

山和泉砂岩層ヨリ成ル。標高凡二千八百尺。

河原樋山 伊豫國温泉郡ノ東方ニアリ。北吉

井村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山和泉

砂岩層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。

岩伽良山 伊豫國温泉郡ノ東方ニアリ。北吉

井村ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山

和泉砂岩層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五

百尺。

淡路島

朝霧山 淡路國津名郡ノ東方ニアリ。佐野村

ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花

崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。

小豆島

寒霞溪山 (主編三百八十七頁参照)

(小島氏増補)小豆島ニ在リ、島ハ讃岐ニ屬シ、讃岐・阿波備

前播磨ノ中間、淡路島ノ四部ニ在リテ、周圍三十里餘、全島
奇景ニ富ムト雖モ、島ノ南部ニアル神懸(今ハ寒霞溪ヲ以テ
知ラル)ヲ最トス。コトニ登ラント欲セバ、多クハ土庄町(ド
シヨウマチ)島ノ四部ニアリ、岡山・高松等ヨリ、日々漁船ノ
便數回アリ、高松ヨリハ海路六里)ヨリ下村マテ三里ノ行程
腕車ヲ走ラシ、同村ヨリ寒霞溪ニ上リ、「四望頂」(シバウケ
ウ)マテ送スレバ、前路ヲ返ヘルナ常トス、全山火山集塊岩
ヨリ成リ、奇石怪岩、及ビコレニ點綴セル楓葉ヲ以テ、東ノ妙
義山、四ノ耶馬溪ト並稱セラル、全山ヲ通天窓・紅雲亭・錦屏
風・老杉洞・蟻蝨岩・玉符峰・帖子石・層雲壇・荷葉嶽・帽子石・女
羅壁・四望眺ノ十二景ニ分チ、就中錦屏風・女羅壁・四望眺ヲ以
テ、最も多ク人目ニ觸ル、トコロトナス、山中ハ水ニ乏シト
雖モ、四望眺ヨリ四ニ向ヒテ、山嶽ヲ横ギリ、少シク下レバ
一里餘ニシテ蛙子池アリ、周圍三十丁、幽寂ナリ、道ハ池ノ
堤防ニ出ヅ、流水ニ沿ウテ下レバ、鏡子ノ流アリ、水ノ落チ
口一鉢ノ平面石ニシテ、數百人ヲ載セテ疾シトナサズ、又上
側面ノ平石ヨリ、瀧ノ直下ヲ瞰ルヲ得、水ハ上記平石ノ間ヲ
屈曲シテ、石ツクルトコロヨリ、瀧トナル、是ヨリ深ニ沿ウ
テ下レコト二十町餘ニシテ、大罾(オホメア)村、大字肥土(ヒ
ド)山ノ里ニ達ス、此里ヨリ行程一里餘、腕車ニテ土庄町ニ
歸ルヲ得。寒霞溪四望眺ヨリ、蛙子ノ池ニ達スルマテハ、馬
背ヲ行ク如キ狹路ニシテ、右ニ備前・播磨、左ニ阿波・讃岐ノ

諸山、海ヲ隔テ、層間ニ落チ、大海モ庭中ノ池ノ如キオモヒ
アリ、蛙子池ヨリ鏡子瀧ニ到ル間ハ、全ク懸崖ヲ絶チテ、仙境
ニ入ル如ク、鏡子瀧ヨリ肥土山ノ里ニ達スル間、溪ノ兩側ニ
茅屋疊々、屏風岩・鞍掛岩等アリ、肥土山ノ里ヨリ、土庄町ニ
出ツル路ハ、溪ヲ隔テ、山麓ノ松間、山嶽アリ、春ハ嵐ノ
風物ヲオモシム、コト他、コト島ニハ、太麻山・龍水寺・宮岡
山・洞雲山・觀音窟・基石ヶ嶽・不動窟等ノ奇勝アリ。

中國山系

ワウシヤク山 丹波國氷上郡ノ北西方ニア

リ。遠阪村ヨリ一里三十一町ニシテ其山頂ニ

達ス。全山閃綠岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高

凡千三百尺。

烏帽子山 丹波國氷上郡ノ西方ニアリ。遠阪

村ヨリ一里二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山閃

綠岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。

高妙峰 丹波國氷上郡ノ西方ニアリ。佐治村

ヨリ二十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石

安山岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
水山 丹波國氷上郡ノ西方ニアリ。葛野村ヨ
リ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古
生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
弘浪山 丹波國氷上郡ノ西方ニアリ。葛野村
ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父
古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
高見ヶ山 丹波國氷上郡ノ西方ニアリ。沼貫
村ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石
英班岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
白山權現 丹波國氷上郡ノ西方ニアリ。沼貫
村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英
班岩ヨリ成ル。標高凡二千尺。
石金山 丹波國氷上郡、播磨國多可郡ニ跨ガ
ル。氷上郡和田村ヨリ二十五町ニシテ其山
頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ルモノ、如

(634)

シ。標高凡二千尺。
仙ヶ峰 播磨國多可郡ノ北方ニアリ。杉原谷村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高三千百六十八尺。
大井戸峰 播磨國多可郡ノ北方ニアリ。松井庄村ヨリ三十二町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。
飯盛山 播磨國多可郡ノ北方ニアリ。松井庄村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。
鎌倉山 播磨國加西郡ノ北東方ニアリ。多加野村ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山

石英粗面岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡二千尺。
法華山 播磨國加西郡ノ西方ニアリ。富田村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千三百尺。
善防山 播磨國加西郡ノ西方ニアリ。下里村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡千五百尺。
段ヶ峰 但馬國朝來郡ノ南方ニアリ。生野町ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。
タルゲ峰 播磨國宍粟郡ノ北東方ニアリ。繁盛村ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。
尿原山 播磨國宍粟郡ノ北東方ニアリ。繁盛

(635)

村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。
七種山 (別稱名草山) 播磨國神崎・飾磨二郡ニ跨ガル。神崎郡福崎村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高二千二百十四尺。
雪彦山 播磨國飾磨・宍粟二郡ニ跨ガル。飾磨郡鹿谷村ヨリ一里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ル。標高二千百八十五尺。
書寫山 飾磨郡曾左村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。〔主編三百九十頁参照〕

ノ左右ニ、後醍醐帝御車寄セノ舊趾。王子社。女人堂。定願寺。熱門。(二王ノ像ヲ安ス)東嶽社。大日如來。石體護法石等アリ、浴堂橋ヲ渡リ、左ニ向ヘバ、本堂アリ、背後ニ老杉等々トシテ鬱茂ス、辨慶此寺ニ籠リテ業ヲ修メシコトアリト百ヒ傳ヘ、今猶辨慶ノ硯水池ナルモノヲ存ス、其他ノ堂宇ニハ、講堂・食堂・常行堂・眞言堂・不動堂・奥ノ院等アリ、境地ハ到ルトコロ老樹森立シテ、日光ヲ遮蔽ス。書寫山麓ヨリ、夢前川ニ浴ヒテ上ルコト一里餘、鹽田山ニ鹽田温泉アリ、炭酸質ノ冷泉ニシテ、來浴スルモノ多ク、粘リ流シ得。(野崎左文氏ノ文ニ據ル)
須留ヶ峰 但馬國養父郡ノ南方ニアリ。建屋町ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高三千六百四十尺。
阿舍利山 播磨國宍粟郡ノ北方ニアリ。三方村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ルモノ、如シ。標高凡三千尺。
瀨川山 但馬國美方郡ノ西方ニアリ。村岡町ヨリ一里十六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ル。標高三千三百五十六尺。